元総社蒼海遺跡群

総社甲稲荷塚大道西遺跡
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区重複状況

2　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡重複状況

3　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡重複状況

4　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、板東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在していたことが伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三大名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡は、前橋市の西部に位置し国府推定域のわずかに外側に位置します。国府に関連すると思われる堀立柱建物跡、道路状遺構、溝跡は検出されませんでしたが、主に竪穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりましては、ご協力いただきました市区画整理第二課、地元関係者、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成14年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。
　調　査　場　所　群馬県前橋市総社町総社地内
　発掘調査期間　平成13年 5月15日～平成13年 11月20日
　整理・報告書作成期間　平成13年 11月21日～平成14年 3月22日
　発掘・整理担当者　齊木一敏・近藤雅順（発掘調査係員）
4．本書の原稿執筆・編集は齊木・近藤が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
　石原義夫・岩木　操・岸フクエ・白石　晃・角田　愷・渡木秋子・中澤光江
　平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で管理されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋）と1/2,500前橋市現形図を使用した。
3．本遺跡の略称は、13A105・13A106・13A112である。
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　B…掘立柱建物跡　T…竪穴状遺構
　W…溝跡　D…土坑　P…柱穴　I…井戸跡　O…落ち込み
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
　遺構　全体図…1/200　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑
　柱穴・井戸跡…1/60　竈断面図…1/30
　遺物　土器・鉄製品…2/3・1/3・1/4　石器・石製品…2/3・1/3・1/4　瓦…1/6
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号○○は、締まり・粘性の順である。
8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
　遺構断面図　構築面…斜線
　遺物実測図　須恵器断面…黒塗　炭化物（スス付着など）…斑
　灰釉陶器断面…濃点　黒色処理…網
　灰釉陶器内面…あられ　漆…濃点
　銅製品…波

目　　次

序

Ⅰ 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2 歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

2 調査経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅳ 基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8・9

Ⅴ 遺構と遺物

1 総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

2 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

3 総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

4 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

Ⅵ 考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

図　　版

口絵 1　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区重複状況
2　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡重複状況

PL. 1　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区中央部全景　他
2　Ｈ－４～９号竪穴住居跡
3　Ｈ－９～13号竪穴住居跡
4　Ｈ－13・14号竪穴住居跡、中世畠跡　他
5　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡調査区全景　他
6　Ｈ－４～10号竪穴住居跡　他
7　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区
8　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡調査区全景　他
9　Ｈ－５～11号竪穴住居跡
10　Ｈ－13～18号竪穴住居跡
11　Ｈ－19～23号竪穴住居跡
12　Ｈ－24～29号竪穴住居跡、井戸跡　他
13　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区出土遺物
14　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡出土遺物
15　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区出土遺物・
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
16　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
17　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
18　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
19　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
20　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物

挿　　図

Fig. 1　位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区・
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡全体図、基本土層
5　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区・
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡全体図、基本土層
6　時期別の竪穴住居跡の主軸方向
7　時期別の竪穴住居跡の規模
8　時期別の竪穴住居跡の配置図
9　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区竪穴住居跡　他
10　Ｈ－４～７号竪穴住居跡
11　Ｈ－８・９号竪穴住居跡、Ｄ－９・10号土坑
12　Ｈ－10～12号竪穴住居跡
13　Ｈ－13・14号竪穴住居跡　他
14　Ｗ－１～３・５号溝跡
15　Ｄ－１～８・11号土坑、中世畠跡
16　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡竪穴住居跡　他
17　Ｈ－４～６・８号竪穴住居跡
18　Ｈ－７号竪穴住居跡
19　Ｈ－９・10号竪穴住居跡
20　Ｗ－２号溝跡、Ｄ－１～10号土坑　他
21　Ｄ－18～22・24～29号土坑　他
22　Ｐ－22～80・82～84号柱穴
23　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区竪穴住居跡　他
24　Ｈ－17号竪穴住居跡、Ｗ－８～11号溝跡
25　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡竪穴住居跡　他
26　Ｈ－５～７号竪穴住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構
27　Ｈ－８～11号竪穴住居跡、Ｄ－15・16号土坑
28　Ｈ－13号竪穴住居跡
29　Ｈ－14～16号竪穴住居跡
30　Ｈ－17～21号竪穴住居跡
31　Ｈ－22・23号竪穴住居跡
32　Ｈ－24～28号竪穴住居跡
33　Ｈ－29号竪穴住居跡、Ｗ－２号溝跡　他
34　Ｄ－11～23号土坑、Ｐ－１～21号柱穴
35　Ｐ－22～34号柱穴、Ｉ－１号井戸跡　他
36　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区出土遺物
37　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区・
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡出土遺物
38　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡出土遺物
39　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区・
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
40　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
41　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
42　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
43　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
44　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物
45　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡出土遺物

表

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧表
2　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区　竪穴住居跡一覧表
3　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区　竈跡一覧表
4　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区　土坑等計測表
5　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区　出土遺物観察表
6　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　竪穴住居跡一覧表
7　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　竈跡一覧表
8　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　溝跡計測表
9　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　土坑等計測表
10　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　出土遺物観察表
11　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区　竪穴住居跡一覧表
12　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区　竈跡一覧表
13　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　竈跡一覧表
14　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　竪穴住居跡一覧表
15　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　土坑等計測表
16　総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区・
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　出土遺物観察表
17　時期別の竪穴住居跡軒数
18　時期別の竪穴住居跡の比較

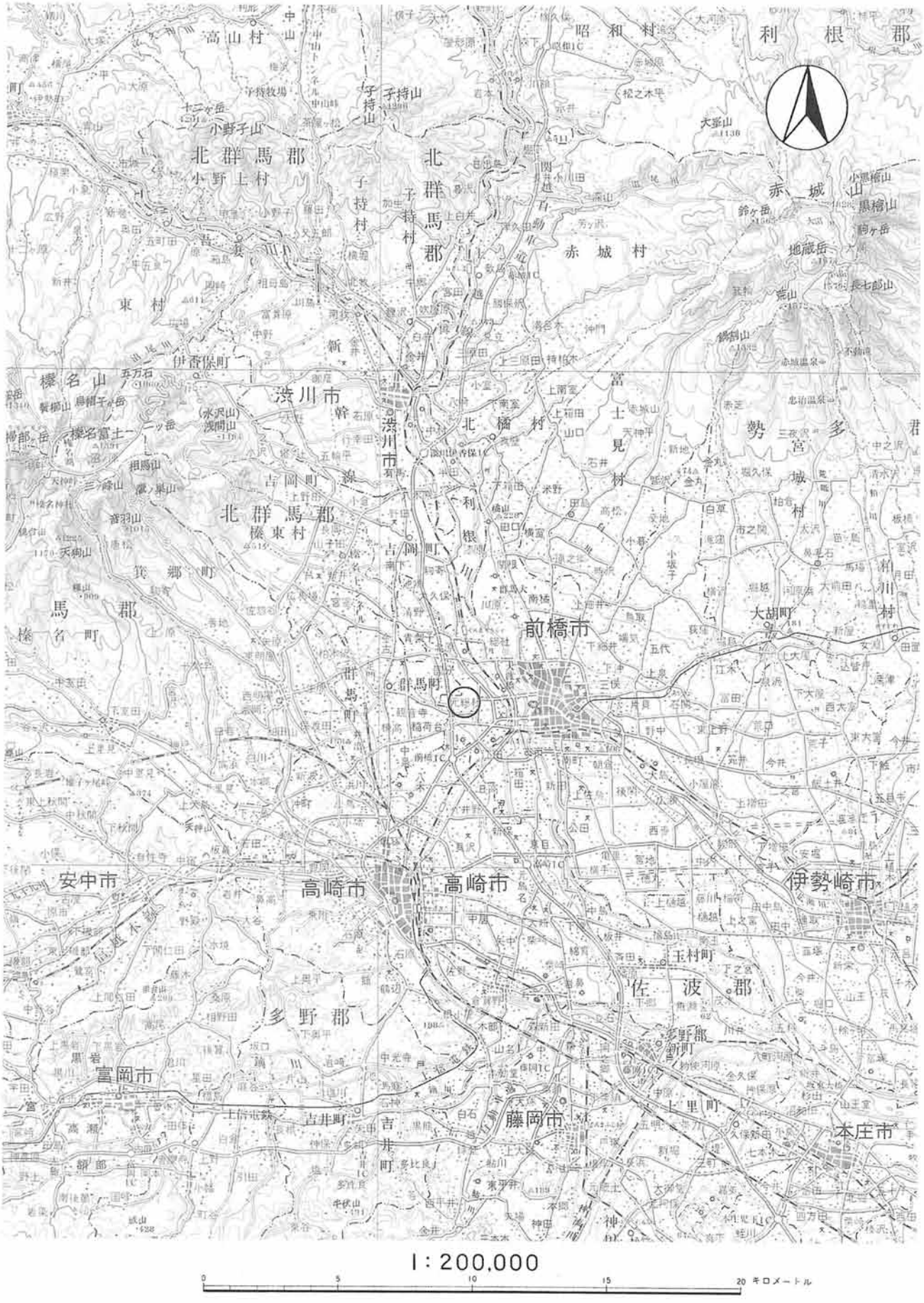


Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

平成13年４月11日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成13年４月26日、調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、５月15日に現地での発掘調査を開始するに至った。調査の途中、５月30日、調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治より調査面積拡大による調査計画の変更の申し出があり、前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で、平成13年７月18日、変更契約を締結した。なお、遺跡名称「総社甲稲荷塚大道西遺跡」「総社閑泉明神北Ⅱ遺跡」「総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡」の「甲稲荷塚大道西」「閑泉明神北」は旧地籍の小字名を採用し、「総社閑泉明神北Ⅱ」のローマ数字「Ⅱ」は平成11年度に実施した調査と区別するために、「総社甲稲荷塚大道西Ⅱ」のローマ数字「Ⅱ」は面積増加部分に付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）、そして南部の現利根川氾濫原の四つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３㎞の地点、前橋市総社町総社に所在する。南へ約0.7㎞の所に上野国総社神社があり、西へ約１㎞の所には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号や主要地方道前橋・安中・富岡線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。遺跡地周辺は古くから住宅地域となっていて、今なお畑地に新しい住宅が建築されている。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺は古代政治文化の中心地である推定上野国府域、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用しながら築かれたとされる蒼海城があり歴史的環境に優れている。

縄文時代の遺跡としては、産業道路東・西遺跡や前期・中期の集落跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(事業団)が筆頭に挙げられ、当地域の縄文文化を考える上で重要な資料といえる。その他に清里南部遺跡群、熊野谷遺跡、下東西遺跡(事業団)、北原遺跡(事業団)、大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ、元総社稲葉遺跡等があり、時期的には前期から後期に及んでいる。

弥生時代の調査例は少なく、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間遺跡(事業団)や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡(事業団)、正観寺遺跡(高崎市)、日高遺跡(事業団)等に散見するだけである。井野川、染谷川流域に比べ格段の差を生じるのは、この地域が高燥化した土地であることの地形的要因からくるものであろう。

古墳時代の遺跡としては、川原石を用いた積石塚である王山古墳（市指定史跡、６Ｃ中）や、本遺跡の北約２㎞の所に広がる総社古墳群がまず挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方部と後円部に石室を持つ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳（国指定史跡、６Ｃ末)、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳（国指定史跡、７Ｃ末)、蛇穴山古墳（国指定史跡、８Ｃ初）等がある。また、宝塔山古墳の南西500ｍには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡があり、塔心礎や石製鴟尾等の石造物群は宝塔山石棺や蛇穴山古墳石室と同系統の石造技術を駆使して加工されており、総社・元総社周辺では、仏教文化が古墳文化と併存しながら花開いた様子が窺える。その他集落跡は、元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ、草作遺跡、閑泉樋南遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡(事業団)、鳥羽遺跡(事業団)、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、屋敷・Ⅱ遺跡、弥勒・Ⅱ遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡等で検出されている。

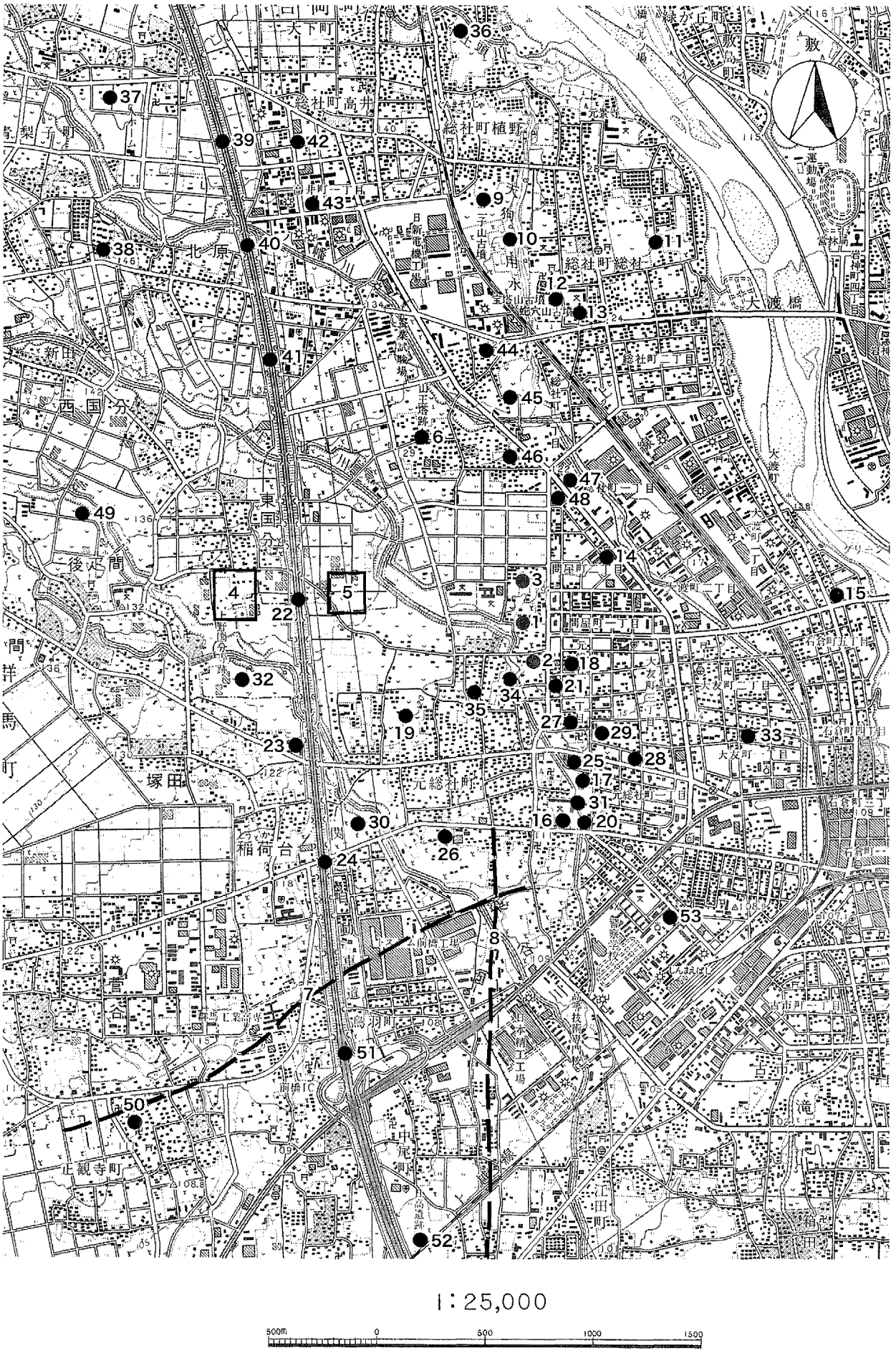
奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺等の建設と相まって、当地域は古代文化の政治的・文化的中心地としての様相を呈してくる。国府周辺の遺跡では、元総社小学校校庭遺跡、元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ、閑泉樋遺跡、草作遺跡、寺田遺跡、閑泉樋南遺跡、塚田村東遺跡(群馬町)、鳥羽遺跡(事業団)、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、天神・Ⅱ遺跡、屋敷・Ⅱ遺跡、堰越遺跡、堰越Ⅱ遺跡、弥勒・Ⅱ遺跡、上野国分寺参道遺跡、大友宅地添遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社宅地遺跡、元総社寺田遺跡(事業団)等があり、集落跡、掘立柱建物跡、溝跡や人形、墨書土器等が検出されている。さらに、本県における条里水田研究の発端となった日高遺跡(事業団)は本遺跡の南約2.5㎞に位置している。また、国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺の調査は、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになり、平成12年に２度目の寺域確認調査を行い、南東隅と南西隅の築垣を確認した。東山道（国府ルート）については昭和62年群馬町による確認調査が行われ、本遺跡約1.5㎞南地点に向かうＮ－64°－Ｅ方向の直線上に道路状遺構または関連遺構を検出している。日高道は、日高遺跡(事業団)で検出された約4.5ｍの道路状遺構を国府正面へ延長したものである。国分僧寺・尼寺周辺の遺跡では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(事業団)、鳥羽遺跡(事業団)、中尾遺跡(事業団)等で大規模な集落跡が検出されている。

中世には長尾氏により蒼海城が築かれ（1429)、後秋元氏の城下となったようである。現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものであり、蒼海城の縄張り自体も国府跡を利用したものである。

Tab.1　元総社蒼海遺跡群　周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時　代：主な遺構・出土遺物
1	総社甲稲荷塚大道西遺跡A区	2001	本遺跡
2	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	本遺跡
3	総社甲稲荷塚大道西遺跡B区 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	本遺跡
4	上野国分寺跡	1988	奈　良：金堂基壇、塔基壇
5	上野国分尼寺跡	(2000)	奈　良：南西隅・南東隅築垣
6	山王廃寺跡	(1979)	古　墳：塔心礎、根巻石
7	東山道	推　定	
8	日高道	推　定	
9	総社二子山古墳		古　墳：前方後円墳（６Ｃ末）
10	愛宕山古墳	1996	古　墳：円墳（７Ｃ初）
11	遠見山古墳		古　墳：前方後円墳
12	宝塔山古墳		古　墳：方墳（７Ｃ末）
13	蛇穴山古墳	1976	古　墳：方墳（８Ｃ初）
14	稲荷山古墳	1988	古　墳：円墳
15	王山古墳		古　墳：前方後円墳（６Ｃ中）
16	元総社小学校校庭遺跡	1962	平　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡
17	元総社明神遺跡　Ⅰ～ⅩⅢ	1982 ～ 1997	古　墳：住居跡、水田跡、堀跡、 奈良･平安：住居跡、溝跡、大形人形 中　世：住居跡、溝跡、天目茶碗
18	閑泉樋遺跡	1983	奈良･平安：溝跡（上幅6,5~7m、下幅3,24m、深さ2m）
19	草作遺跡	1985	古　墳：住居跡（７世紀） 平　安：住居跡（竈に瓦、南西隅に貯蔵穴） 中　世：井戸跡（蒼海城に伴う）
20	寺田遺跡	1986	平　安：溝跡（南北）、木製遺物（478点）
21	閑泉樋南遺跡	1986	古　墳：住居跡（鬼高期） 奈良･平安：溝跡（国分寺瓦破片）
22	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（事業団）	1986	縄　文：住居跡、配石遺構 弥　生：住居跡、方形周溝墓 古　墳：住居跡 中　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道状遺構
23	塚田村東遺跡（群馬町）	1986	平　安：住居跡
24	鳥羽遺跡（事業団）	1986	古　墳：住居跡、鍛冶場跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡）
25	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、溝跡、地下式土坑
26	天神遺跡	1987	奈良･平安：住居跡
	天神Ⅱ遺跡	1989	
27	屋敷遺跡	1987	古　墳：住居跡
	屋敷Ⅱ遺跡	1996	平　安：住居跡 中　世：堀跡、石敷遺構
28	堰越遺跡	1988	奈良･平安：住居跡、溝跡
29	堰越Ⅱ遺跡	1988	平　安：住居跡
30	弥勒遺跡	1990	古　墳：住居跡
	弥勒Ⅱ遺跡	1997	平　安：住居跡
31	元総社寺田遺跡（事業団）	1993	古　墳：水田跡、溝跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器
32	上野国分寺参道遺跡	1997	古　墳：住居跡 平　安：住居跡
33	大友宅地添遺跡	1998	平　安：水田跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時　代：主な遺構・出土遺物
34	総社閑泉明神北遺跡	1999	古　墳：畠跡、水田跡、溝 中　世：溝跡
35	元総社宅地遺跡 1～23トレンチ	2000	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中　世：溝跡 近　世：住居跡、（五輪塔の一部、椀類）
36	桜ヶ丘遺跡	市　史	弥　生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡	1985	平　安：住居跡
37	清里南部遺跡群 清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄　文：ピット 奈良･平安：住居跡、溝跡
38	熊野谷遺跡	1989	縄　文：住居跡 平　安：住居跡、溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1991	平　安：住居跡
39	下東西遺跡（事業団）	1987	縄　文：屋外埋甕 弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列
40	北原遺跡（事業団）	1986	縄　文：土坑、集石遺構 古　墳：水田跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡
41	国分境遺跡（事業団）	1990	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
	国分境Ⅱ・Ⅲ遺跡（群馬町）	1991 ・ 1993	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、畠跡、 中　世：土坑墓
42	中島遺跡	1980	奈良･平安：住居跡
43	柿木遺跡	1984	奈良･平安：住居跡、溝跡
	柿木Ⅱ遺跡	1988	
44	村東遺跡	1988	古　墳：住居跡、溝跡 奈良･平安：住居跡 中　世：堀跡
45	大屋敷遺跡 Ⅰ～Ⅴ	1993 ～ 1997	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
46	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良･平安：住居跡
47	産業道路東遺跡	市　史	縄　文：住居跡
48	産業道路西遺跡	市　史	縄　文：住居跡
49	後疋間遺跡　Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1986 ～ 1988	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
50	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979 ～ 1982	弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
51	中尾遺跡（事業団）	1983	奈良･平安：住居跡
52	日高遺跡（事業団）	1982	弥　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡 平　安：条里制水田跡
53	元総社稲葉遺跡	1995	縄　文：土坑 平　安：住居跡



1：25,000

500m 0 500 1000 1500

Fig.2　周辺遺跡図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、総社甲稲荷塚大道西遺跡が約465㎡、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡が約355㎡、総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡が約420㎡の合計約1,240㎡である。グリッドについては、4mピッチで西から東へX252、X253、X254・・・、北から南へY39、Y40、Y41・・・と番付し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX258・Y46の公共座標は次のとおりである。

第Ⅸ系　X＝+43816.000m　　Y＝−71168.000m
緯度36° 23′ 32″ .3436　　経度139° 02′ 23″ .6368
子午線収差角28′ 14″ .8　　増大率0.999962

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘り下げ・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳に記載を行い収納した。

2　調査経過

総社甲稲荷塚大道西遺跡A区の発掘調査は5月15日より開始した。調査区は住宅地の真ん中に位置し、大型重機が進入できないので、小型重機（バックフォー0.125㎥）2台で表土掘削を行った。まず、東側よりAs-B軽石を指標に掘り下げ遺構面を確認し、それと平行して鋤簾をかけ遺構確認を行った。その結果、住居跡14軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡5条、土坑11基、柱穴10基、中世の畠跡1ヶ所を検出した。5月18日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。住居跡の重複が著しく、また、竈の焼土がはっきりしないものが多く、掘り下げ・精査に苦労したが、6月25日、調査を終了した。

次に、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡の発掘調査を6月29日より開始した。重機（バックフォー0.4㎥）で表土掘削を行い、それと平行して鋤簾をかけ遺構確認を行った。その結果、住居跡10軒、溝跡2条、土坑29基、柱穴85基を検出した。7月2日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。東側で住居跡の重複が著しく、また、台風により遺構が水没したり、好天に恵まれると遺構面が硬くなってしまったり、人力で掘り下げる量が多かったりと困難があったが、9月4日ハイライダーによる全景写真撮影を行い、9月6日埋め戻し作業の完成を確認し、調査を終了した。

最後に、総社甲稲荷塚大道西遺跡B区と総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡の発掘調査を9月7日より開始した。重機（バックフォー0.4㎥）1台と10tクローラー1台で表土掘削を行い、それと平行して鋤簾をかけ遺構確認を行った。9月21日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。やはり、住居跡の重複が著しく、また、西側水田より浸水があったりと困難があった。10月23日には、中学生が職場体験学習に訪れ、平面図作成、遺物の点上げ、遺構の掘り下げ等を経験して帰校した。11月7日にハイライダーによる全景写真撮影を行い、11月8日より2面目の掘削を開始した。遺構精査の結果、住居跡32軒、竪穴状遺構2軒、溝跡7条、土坑23基、柱穴34基、井戸跡1基を検出した。11月20日埋め戻し作業を終え、現地調査をすべて終了した。

整理作業については、前橋市三俣町に所在する前橋市教育委員会文化財保護課整理作業室にて行った。2月15日には、中学生が職場体験学習に訪れ、発掘調査の説明を受けたり復元作業をしたりして帰校した。3月22日、遺物、図面、写真等の整理作業をすべて終了した。

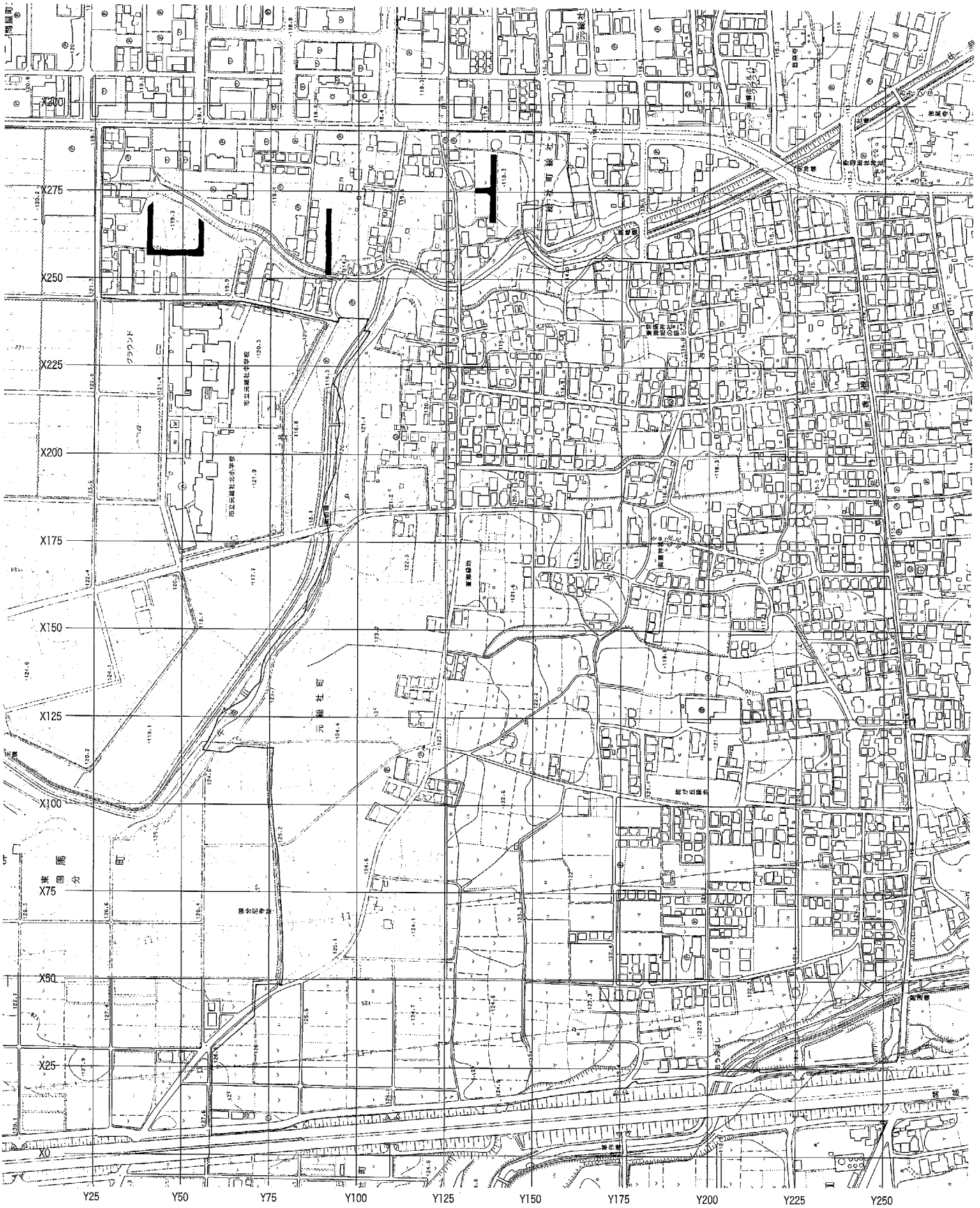
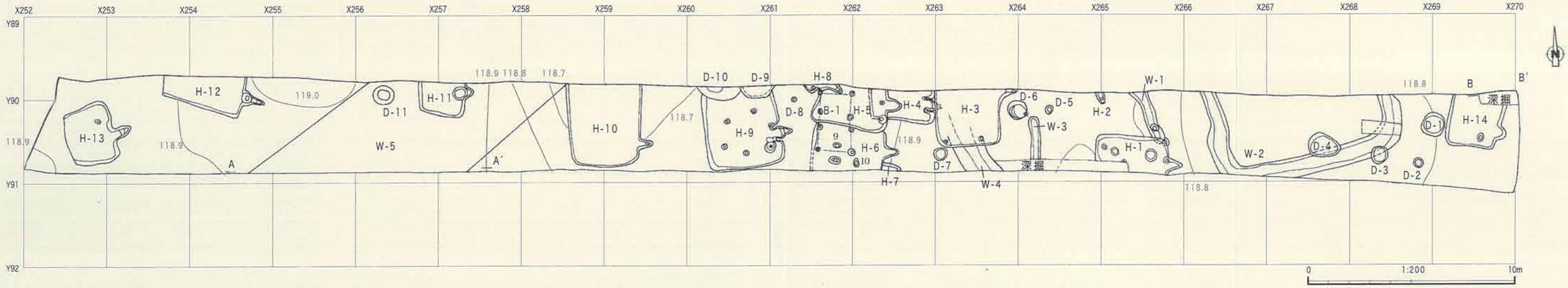


Fig.3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

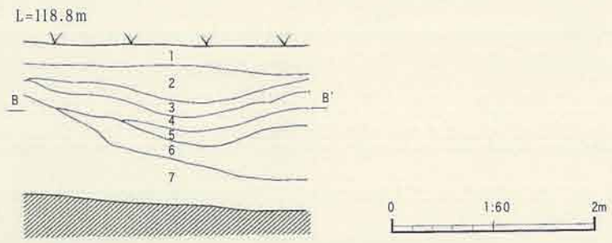


Ⅳ　基本層序

1　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、右のとおりである。

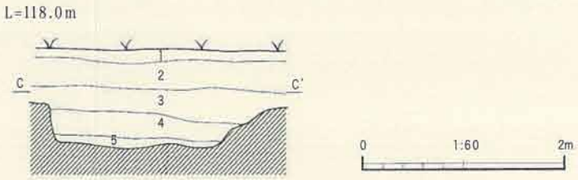
1	にぶい黄褐色粗砂層	(10YR5/3)	締まり○　粘性×　厚さ20cm前後 現耕作土。
2	褐灰色粗砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性△　厚さ35cm前後 As-B軽石をわずかに含む。
3	褐灰色粗砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性△　厚さ15cm前後 As-B軽石を2層より多く含む。
4	褐灰色粗砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性×　厚さ10cm前後 As-B軽石混土層。
5	褐灰色粗砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性△　厚さ15cm前後 As-B軽石を含む(4層より粒が大きい)。
6	褐灰色粗砂層	(10YR4/1)	締まり○　粘性△　厚さ15cm前後 As-B軽石をわずかに含む。
7	黒褐色シルト層	(10YR2/3)	締まり○　粘性○ 地山。



2　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、右のとおりである。

1	灰黄褐色粗砂層	(10YR4/2)	締まり×　粘性×　厚さ10cm前後 現耕作土
2	にぶい黄褐色粗砂層	(10YR4/3)	締まり○　粘性×　厚さ30cm前後 As-B軽石混土層。
3	黒褐色細砂層	(10YR3/2)	締まり×　粘性×　厚さ30cm前後
4	黄橙色細砂層	(10YR7/8)	締まり○　粘性×　厚さ20cm前後 ローム層
5	黄褐色細砂層	(10YR5/8)	締まり○　粘性○ ローム層



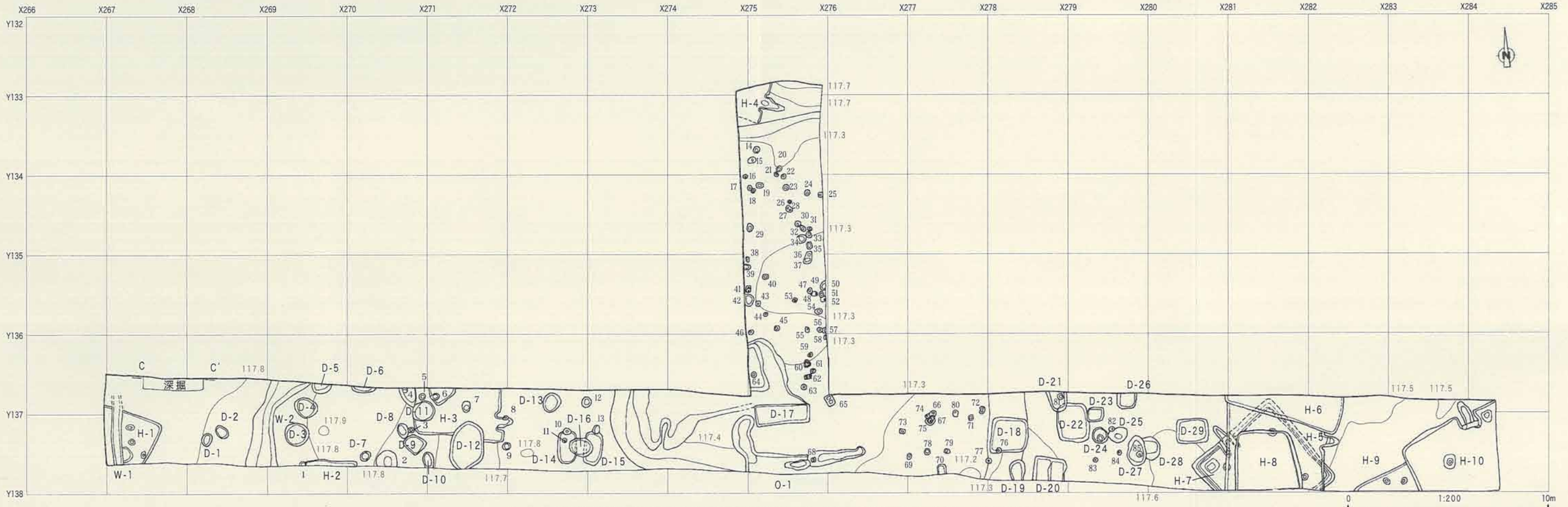


Fig.4　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡全体図・基本層序（※柱穴はP－を省略。数字だけの記入。）

3　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡

本遺跡地内の地層の堆積は、右のとおりである。

1　にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）　締まり○　粘性○　厚さ20cm前後
現耕作土
2　灰黄褐色細砂層（10YR4/2）　締まり○　粘性△　厚さ20cm前
As-B軽石混土層、
As-C軽石・Hr-FP軽石含む。
3　暗褐色細砂層（10YR3/3）　締まり○　粘性○　厚さ20cm前後
As-C軽石・Hr-FP軽石多く含む、
As-B軽石含む、
炭化物・焼土つぶ・ロームつぶ含む。
4　黒褐色細砂層（10YR3/2）　締まり○　粘性○　厚さ20cm前後
As-C軽石・Hr-FP軽石・As-B軽石含む、
炭化物・焼土つぶ・ロームつぶ含む。
5　灰黄褐色微砂層（10YR5/2）　締まり○　粘性◎　厚さ50cm前後
地山。
6　黒褐色微砂層（10YR3/1）　締まり○　粘性◎　厚さ40cm前後
地山。
7　灰黄褐色細砂層（10YR6/2）　締まり△　粘性◎
地山、砂利わずかに含む。
8　にぶい黄橙色微砂層（10YR6/4）　締まり○　粘性◎
地山、砂利わずかに含む。

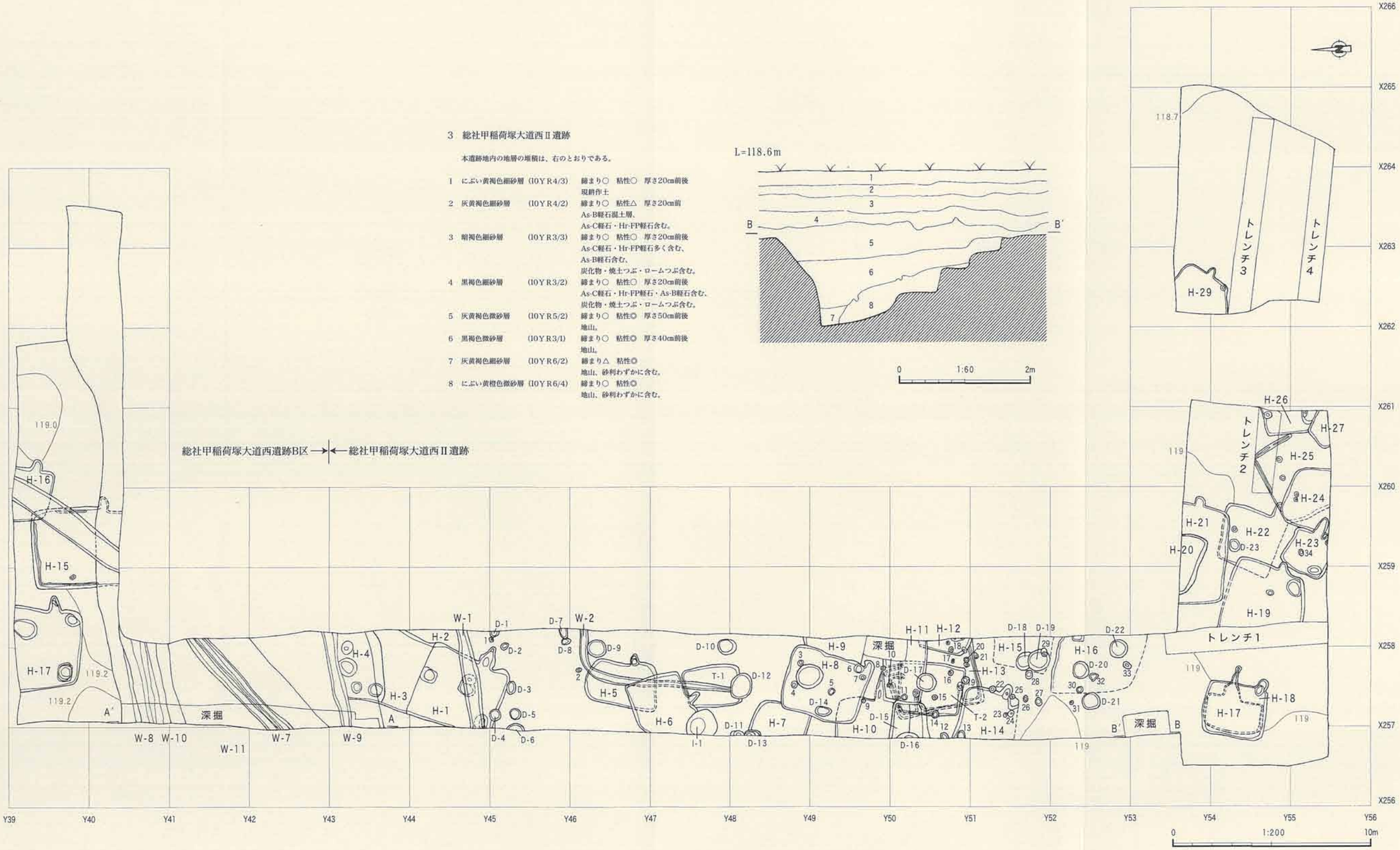


Fig.5　総社甲稲荷塚大道西遺跡B区・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡全体図・基本層序（※柱穴はP－を省略。数字だけの記入。）

V　遺構と遺物

1　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡 (Fig.9、PL.1)
位置　X264・265、Y90グリッド　主軸方向 (N－93°－E)　形状等　方形と推定される。東西3.59m、南北 (1.90) m、壁現高38cmを測る。　面積 (6.26) ㎡　床面　平坦な床面。P－1 (長軸×短軸×深さ、形状：25×22×16.5cm、円形) とP－2 (長軸×短軸×深さ、形状：39×35×12.5cm、円形) とP－3 (長軸×短軸×深さ、形状：(24) × (13) × (15.5) cm、(円形)) とP－4 (長軸×短軸×深さ、形状：58×55×15cm、円形) の4基を検出した。　竈　東壁より検出され、主軸方向がN－90°－Eであり、全長94cm、最大幅48cm、焚口部幅24cmを測る。　時期　埋土や出土遺物から10世紀末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数177点、土師器片101点、須恵器片70点、灰釉陶器片1点、瓦片1点、鉄製品片1点、石製品片3点が検出された。そのうち土器2点を図示した。

H－2号住居跡 (Fig.9)
位置　X264・265、Y89・90グリッド　主軸方向　不明　形状等　不明　面積 (0.12) ㎡　床面　不明　竈　南竈と推定される。主軸方向が (N－157°－E) であり、全長 (58) cm、最大幅 (32) cm、焚口部幅 (12) cmを測る。　時期　不明　出土遺物　総数0点　備考　竈先端部だけの検出である。

H－3号住居跡 (Fig.9、PL.1)
位置　X262・263、Y89・90グリッド　主軸方向 (N－87°－E)　形状等　方形と推定される。東西3.16m、南北 (2.84) m、壁現高40cmを測る。　面積 (8.55) ㎡　床面　平坦で堅緻な床面。灰が一面に広がっていた。P－1 (長軸×短軸×深さ、形状：18×17×5cm、円形) とP－2 (長軸×短軸×深さ、形状：28×23×19cm、円形) の2基を検出した。　竈　東壁より検出され、主軸方向が (N－94°－E) であり、全長 (85) cm、最大幅 (50) cm、焚口部幅 (20) cmを測る。　重複　H－4、W－4と重複しており、新旧関係はH－4→本遺構、W－4→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数522点、土師器片362点、須恵器片122点、灰釉陶器片18点、緑釉陶器片2点、陶磁器片1点、縄文土器片3点、瓦片3点、鉄製品片6点、銅製品片1点、石製品片5点が検出された。そのうち土器2点を図示した。

H－4号住居跡 (Fig.10、PL.1)
位置　X262・263、Y89・90グリッド　主軸方向 (N－90°－E)　形状等　方形と推定される。東西3.20m、南北 (1.76) m、壁現高35cmを測る。　面積 (4.58) ㎡　床面　ほぼ平坦で堅緻な床面。P－1 (長軸×短軸×深さ、形状：24×19×16.5cm、円形) の1基を検出した。　竈 (東壁南寄り) より検出され、主軸方位N－94°－Eであり、

全長95㎝、最大幅88㎝、焚口部幅40㎝を測る。　重複　H－3とH－5と重複しており、新旧関係は本遺構→H－3、本遺構→H－5の順である。　時期　埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。出土遺物　総数123点、土師器片100点、須恵器片15点、緑釉陶器片2点、縄文土器片2点、石製品片4点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.10、PL.2）
位置　X261・262、Y89・90グリッド　主軸方向（N－101°－E）　形状等　方形と推定される。東西3.67m、南北（2.23）m、壁現高23㎝を測る。　面積（6.73）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：41×38×14.5㎝、円形）の1基を検出した。　竈　東壁より検出され、主軸方位N－96°－Eであり、全長80㎝、最大幅62㎝、焚口部幅44㎝を測る。　重複　H－6とH－7と重複しており、新旧関係はH－7→H－6→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数328点、土師器片235点、須恵器片76点、灰釉陶器片3点、縄文土器片3点、瓦片7点、鉄製品片2点、石製品片2点が検出された。そのうち土器3点、石鏃1点、多孔石1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.10、PL.2）
位置　X261・262、Y90グリッド　主軸方向（N－97°－E）　形状等　方形と推定される。東西3.54m、南北（2.52）m、壁現高11㎝を測る。　面積（7.77）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：36×20×19㎝、楕円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：56×26×13㎝、楕円形）の2基を検出した。　竈　東壁より検出され、主軸方向がN－95°－Eであり、全長85㎝、最大幅66、焚口部幅37㎝を測る。　重複　H－5とH－7と重複しており、新旧関係はH－7→本遺構→H－5の順である。　時期　埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。　出土遺物　総数62点、土師器片22点、須恵器片39点、瓦片1点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.10、PL.2）
位置　X262、Y90グリッド　主軸方向　不明　形状等　不明　面積（0.29）㎡　床面　不明　竈　東壁より検出され、主軸方向が（N－93°－E）であり、全長（95）㎝、最大幅（38）㎝、焚口部幅（25）㎝を測る。　重複　H－6と重複し、新旧関係は本遺構→H－6の順である。　時期　重複関係から、11世紀初頭以前と考えられる。　出土遺物　総数26点、土師器片17点、須恵器片8点、鉄製品片1点が検出された。　備考　竈の一部分だけの検出である。

H－8号住居跡（Fig.11、PL.2）
位置　X261、Y89グリッド　主軸方向（N－122°－E）　形状等　不明。東西（0.74）m、南北(1.05）m、壁現高13㎝を測る。　面積（0.44）㎡　床面　不明。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：25×22×11.5㎝、円形）の1基を検出した。　竈（東壁南東隅寄り）より検出され、主軸方向が（N－121°－E）であり、全長（110）㎝、最大幅（54）㎝、焚口部幅（31）㎝を測る。　重複　H－5と重複し、新旧関係はH－5→本遺構の順である。　時期　重複関係から、11世紀初頭以降と考えられる。　出土遺物　総数0点　備考　一部の検出にとどまった。

H－９号住居跡（Fig.11、PL.2-3）
位置　X260・261、Y89・90グリッド　主軸方向（N－81°－E）　形状等　正方形と推定される。東西3.76m、南北（3.94）m、壁現高35cmを測る。　面積（13.82）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：26×25×28.5cm、円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：23×19×15.5cm、円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：24×20×22.5cm、円形）とP－4（長軸×短軸×深さ、形状：27×26×16.5cm、円形）とP－5（長軸×短軸×深さ、形状：48×46×30cm、円形、貯蔵穴）の５基を検出した。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向N－80°－Eであり、全長100cm、最大幅90cm、焚口部幅30cmを測る。　重複　D－９・10と重複し、新旧関係は本遺構→D－９・10の順である。　時期　埋土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数206点、土師器片164点、須恵器片30点、灰釉陶器片３点、陶磁器片１点、瓦片３点、鉄製品片３点、石製品片２点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.12、PL.3）
位置　X258・259、Y89・90グリッド　主軸方向（N－87°－E）　形状等　長方形と推定される。東西3.76m、南北（4.18）m、壁現高26cmを測る。　面積（13.81）㎡　床面　平坦な床面。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向がN－91°－Eであり、全長80cm、最大幅48cm、焚口部幅26cmを測る。　時期　出土遺物と住居跡の主軸方向から、10世紀末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数133点、土師器片87点、須恵器片33点、灰釉陶器片７点、縄文土器片１点、瓦片４点、鉄製品片１点が検出された。

H－11号住居跡（Fig.12、PL.3）
位置　X256・257、Y89・90グリッド　主軸方向（N－99°－E）　形状等　方形と推定される。東西2.40m、南北（1.85）m、壁現高23cmを測る。　面積（3.52）㎡　床面　溝跡の上に構築されており、川砂が床面であり、特に貼り床は見られなかった。　竈　東壁より検出され、主軸方向がN－85°－Eであり、全長99cm、最大幅53cm、焚口部幅32cmを測る。　重複　W－５と重複しており、新旧関係はW－５→本遺構の順である。　時期　埋土と出土遺物から11世紀代と考えられる。　出土遺物　総数128点、土師器片82点、須恵器片38点、灰釉陶器片１点、瓦片１点、鉄製品片２点、石製品片１点、土製品３点が検出された。そのうち土錘１点、土製勾玉１点を図示した。

H－12号住居跡（Fig.12、PL.3）
位置　X253・254、Y89・90グリッド　主軸方向（N－108°－E）　形状等　方形と推定される。東西4.20m、南北（2.13）m、壁現高19cmを測る。　面積（6.17）㎡　床面　平坦な床面。　竈　東壁より検出され、主軸方向N－107°－Eであり、全長126cm、最大幅71cm、焚口部幅45cmを測る。　時期　不明　出土遺物　総数０点

H－13号住居跡（Fig.13、PL.3-4）
位置　X252・253、Y90グリッド　主軸方向［N－74°－E］　形状等　少しゆがんだ正方形。東西［2.48］m、南北2.98m、壁現高24cmを測る。　面積［6.47］㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：33×18×17cm、楕円形）の１基を検出した。　竈　東壁に南寄りより検出され、主軸方向がN－69°－Eであり、全長94cm、最大幅66cm、焚口部幅38cmを測る。　時期　埋土や出土遺物から８世紀後半と

考えられる。　出土遺物　総数85点、土師器片63点、須恵器片19点、陶磁器片１点、縄文土器片１点、石製品片１点が検出された。そのうち土器３点を図示した。

H－14号住居跡（Fig.13、PL.4）
位置　X269、Y89・90グリッド　主軸方向（N－99°－E）　形状等　方形と推定される。東西2.80m、南北（3.05）m、壁現高26cmを測る。　面積（6.90）㎡　床面平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：38×28×13.5cm、楕円形）の1基を検出した。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向N－104°－Eであり、全長54cm、最大幅58cm、焚口部幅48cmを測る。　時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数146点、土師器片77点、須恵器片66点、灰釉陶器片１点、縄文土器片２点が検出された。そのうち土器２点を図示した。

（2）　掘立柱建物跡

B－１号掘立柱建物（Fig.13、PL.4）
位置　X261・262、Y89・90グリッド　形状　東西１間（1.78m）×南北３間（2.75m）の長方形で、長軸方向はN－５°－E、推定面積4.41㎡である。柱間寸法は東西1.78、南北0.85＋0.80＋1.10mである。　柱穴　P－１（長軸×短軸×深さ、形状：25×25×32cm、円形）とP－２（長軸×短軸×深さ、形状：25×21×21.5cm、円形、）とP－３（長軸×短軸×深さ、形状：32×28×19cm、円形）とP－４（長軸×短軸×深さ、形状：22×18×16cm、円形）とP－５（長軸×短軸×深さ、形状：30×28×25cm、円形）とP－６（長軸×短軸×深さ、形状：26×24×26cm、円形）とP－７（長軸×短軸×深さ、形状：38×38×21cm、円形）とP－８（長軸×短軸×深さ、形状：31×30×13cm、円形）の８基を検出した。　重複　H－５、H－６と重複し、新旧関係は本遺構→H－５、H－６の順である。　時期　重複関係から11世紀初頭以前と考えられる。　遺物　総数０点

（3）　溝　　跡

W－１号溝跡（Fig.14）
位置　X265、Y89・90グリッド　方位　北壁よりN－155°－Eの方向で南へ進み、途中消滅する。　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅65～50cm、下幅42～22cm、深さ33～22.5、長さ2.88mを測る。　出土遺物　総数０点　時期　埋土にHr-FP軽石がなく、AS-C軽石を含んでいることから、６世紀中葉以前には埋没していた溝跡と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.14、PL.4）
位置　X266～268、Y89・90グリッド　方位　北壁（西）よりN－16°－Wの方向で南へ4.1m進み、そこから東へN－104°－Wの方向で7.7m進み、そこから北へN－172°－Eの方向で2.2m進み北壁（東）にぶつかる。　形状等　断面はU字形を呈し、上幅110～67cm、下幅64～32cm、深さ51～29cm、長さ14.00mを測る。　出土遺物　総数1点、陶磁器片１点が検出された。　時期 埋土にHr-FP軽石が多く含まれていることか

ら、６世紀中葉以前の溝跡と考えられる。

W－３号溝跡（Fig.14）
位置　X264、Y90グリッド　方位　南壁よりN－174°－Eの方向で北へ進み、途中消滅する。　形状等　断面はU字形を呈し、上幅40～32㎝、下幅28～21㎝、深さ16.5～３㎝、長さ2.68mを測る。　出土遺物　総数22点、土師器片８点、須恵器片４点、陶磁器片４点、縄文土器片４点、瓦片２点が検出された。　時期　埋土にAS-B軽石が多量に含まれていることから、As-B降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

W－４号溝跡（Fig.9）
位置　X263、Y90グリッド　方位　南壁よりN－148°－Eの方向で北へ進み、H－３に切られている。　形状等　断面はU字形を呈し、上幅145～136㎝、下幅53～44㎝、深さ47～43㎝、長さ3.54mを測る。　出土遺物　総数０点　時期　埋土にAS-C軽石、Hr-FP軽石を含み、H－３に切られていることから、８世紀後半には埋没していた溝跡と考えられる。

W－５号溝跡（Fig.14）
位置　X254～258、Y89・90グリッド　方位　北壁よりN－49°－Eの方向で南西へ進み、南壁にぶつかる。　形状等　断面は（すり鉢状）を呈し、上幅650～620㎝、深さ（132）～（112）㎝、長さ3.28mを測る。　出土遺物　総数０点　時期　本遺構の上にH－11が乗っていることから、11世紀以前に埋没した溝跡と考えられる。

（４）　土　　坑・柱　　穴

Tab.４　総社甲稲荷大道西遺跡Ａ区　土坑等計測表を参照のこと。

（５）　畠　　跡

位置　X262～264、Y89・90グリッド　形状等　ほぼ南北方向に畝が走る。畝はほとんど削平されており、わずかに検出された。検出できた畝と畝の間隔は44～123㎝の値を示す。時期　土層から中世と考えられる。　出土遺物　総数18点、土師器片18点が検出された。

（７）　グリッド等出土遺物

総数547点、縄文土器14点、土師器片319片、須恵器片196点、灰釉陶器13点、陶磁器片３点、瓦片２点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

Tab.2　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（m^2）	主軸方向	竈	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高			位置	土師器	須恵器	その他
H－1	X264・265、Y90	3.57	(1.90)	0.38	(6.26)	(N－93°－E)	東壁		高台椀、坏	
H－2	X264・265、Y89・90	－	－	－	(0.12)	－	南壁			
H－3	X262・263、Y89・90	3.16	(2.84)	0.40	(8.55)	(N－87°－E)	東壁		甕、高台椀	
H－4	X262・263、Y89・90	3.20	(1.76)	0.35	(4.58)	(N－90°－E)	(東壁南寄り)	坏		
H－5	X261・262、Y89・90	3.67	(2.23)	0.23	(6.73)	(N－101°－E)	東壁		高台椀、カワラケ	臼玉、石鏃
H－6	X261・262、Y90	3.54	(2.52)	0.11	(7.77)	(N－97°－E)	東壁		カワラケ	
H－7	X262　、Y90	－	－	－	(0.29)	－	東壁			
H－8	X261　、Y89	(0.74)	(1.05)	0.13	(0.44)	(N－122°－E)	(東壁南東隅寄り)			
H－9	X260・261、Y89・90	3.76	(3.94)	0.35	(13.82)	(N－81°－E)	(東壁南寄り)	坏		
H－10	X258・259、Y89・90	3.76	(4.18)	0.26	(13.81)	(N－87°－E)	(東壁南寄り)			
H－11	X256・257、Y89・90	2.40	(1.85)	0.23	(3.52)	(N－99°－E)	東壁			土錘、土製勾玉
H－12	X253・254、Y89・90	4.20	(2.13)	0.19	(6.17)	(N－108°－E)	東壁			
H－13	X252・253、Y90	[2.48]	2.98	0.24	[6.47]	[N－74°－E]	東壁南寄り	坏	蓋	
H－14	X269　、Y89・90	2.80	(3.05)	0.26	(6.90)	(N－99°－E)	(東壁南寄り)		高台椀、羽釜	

Tab.3　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	備考(構築材等)
H－1	N－90°－E	94	48	24	
H－2	(N－157°－E)	(58)	(32)	(12)	
H－3	(N－94°－E)	(85)	(50)	(20)	
H－4	N－94°－E	95	88	40	
H－5	N－96°－E	80	62	44	支脚石（多孔石）
H－6	N－95°－E	85	66	37	
H－7	(N－93°－E)	(95)	(38)	(25)	
H－8	(N－121°－E)	(110)	(54)	(31)	
H－9	N－80°－E	100	90	30	天井石、両袖石
H－10	N－91°－E	80	48	26	
H－11	N－85°－E	99	53	32	
H－12	N－107°－E	126	71	45	
H－13	N－69°－E	94	66	38	
H－14	N－104°－E	54	58	48	

Tab.4　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区　土坑等計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な遺物
D－1	X268・269、Y90	112	106	34	円　形	40	須恵器カワラケ
D－2	X268　　、Y90	47	46	26	円　形	0	
D－3	X268　　、Y90	86	79	24	円　形	0	
D－4	X267　　、Y90	144	108	27	楕円形	14	
D－5	X264　　、Y90	38	34	10	円　形	0	
D－6	X263・264、Y90	94	87	56.5	円　形	5	
D－7	X262・263、Y90	66	62	19	円　形	6	
D－8	X261　　、Y89・90	36	32	10.5	円　形	0	
D－9	X260　　、Y89・90	(166)	(50)	(35.5)	不　明	0	
D－10	X260　　、Y89	(215)	(58)	(69.5)	不　明	13	
D－11	X256　　、Y89・90	100	92	45	円　形	8	須恵器坏
P－1	X261　　、Y89	25	25	32	円　形	0	
P－2	X261　　、Y90	25	21	21.5	円　形	0	
P－3	X261　　、Y90	32	28	19	円　形	0	
P－4	X261　　、Y90	22	18	16	円　形	0	
P－5	X261　　、Y90	30	28	25	円　形	0	
P－6	X261　　、Y90	26	24	26	円　形	0	
P－7	X261　　、Y90	38	38	21	円　形	0	
P－8	X261・262、Y89	31	30	13	円　形	0	
P－9	X261　　、Y90	25	24	21	円　形	0	
P－10	X261・262、Y90	37	24	23	不整形	0	

Tab.5　総社甲稲荷塚大道西遺跡A区　出土遺物観察表

番号	遺構 層位	器種	① 口径 ② 器高	① 胎土 ② 焼成 ③ 色調 ④ 遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－1 埋土	高台椀 須恵器	①　11.0 ②　3.8	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：彎曲から外傾した体部より外反する口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	
2	H－1 床直	坏 須恵器	①　10.0 ②　2.5	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部からやや肥厚した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
3	H－3 床直	大　甕 須恵器	①［21.8］ ②（12.7）	①細粒 ②良好 ③灰色 ④－	轆轤整形。口縁・頸部：直立した頸部から外傾し稜を持った口縁部に至る。轆轤撫で。体部：轆轤撫で。内面叩き痕有。底部：欠損。	
4	H－3 埋土	高台椀 須恵器	①　－ ②（4.7）	①細粒 ②良好 ③明黄橙色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：口縁部欠損。彎曲から外傾する体部。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。足高高台に移行する途中の段階。	
5	H－4 床直	坏 土師器	①［10.6］ ②　3.4	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④1/2	口縁部：短く直立、横撫で。底部：中央が平底気味の浅い丸底。外面篦削り。内面撫で。	
6	H－5 床直	高台椀 須恵器	①　16.0 ②（6.0）	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：緩やかに外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。高台部：長く外反、轆轤撫で。椀部との接合点に外面に調整痕が巡る。	足高高台
7	H－5 床直	高台椀 須恵器	①［15.0］ ②　5.8	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反する口縁部に至る。轆轤撫で。口縁部と体部の交換点に一筋の調整痕が巡る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	
8	H－5 床直	ｶﾜﾗｹ 須恵器	①［9.5］ ②　1.9	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反気味の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面中央部が盛り上がり、轆轤撫で。	
9	H－5 床直	鏃 石　製	①最　長 2.2　②最大幅 1.5　③最大厚 0.3 ②重　さ 0.9　⑤遺存度 4/5　⑥石　材 黒曜石			流れ込み
10	H－5 床直	多孔石 石　製	①最　長15.5　②最大幅 14.0　③最大厚 7.8 ③重　さ1,720　⑤遺存度 完形　⑥石　材 軽石		H－5の支脚石として使用されていた。	
11	H－6 床直	ｶﾜﾗｹ 須恵器	①　9.4 ②　2.3	①中粒②良好③明褐灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整、内面轆轤撫で。	
12	H－9 床直	坏 土師器	①［12.6］ ②　3.7	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④1/5	口縁部：短く直立、横撫で。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	
13	H－11 埋土	土　錘 土　製	①最　長 3.6　②最大幅 1.8　③最大厚 1.8 ④重　さ 9.1　⑤遺存度 4/5　⑥石　材 土製			
14	H－11 埋土	勾　玉 土　製	①最　長 3.2　②最大幅 1.8　③最大厚 1.2 ④重　さ 5.0　⑤遺存度 1/2　⑥石　材 土製			
15	H－13 床直	坏 土師器	①　11.0 ②　3.7	①中粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④4/5	口縁部：短く内彎から直立、横撫で。中位に調整痕が巡る。交換点に弱い稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	
16	H－13 床直	坏 土師器	①［11.0］ ②　3.5	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2弱	口縁部：短く直立、横撫で。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で。	
17	H－13 床直	蓋 須恵器	①　9.5 ②（1.9）	①細粒②良好 ③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。体部：緩やかに湾曲し、口縁部内側に返しを持つ。天井部中央に貼付摘み有。宝珠形と推測。そこを中心に何重もの掻き目が円状に有。内面撫で。	
18	H－14 床直	羽　釜 須恵器	①［22.6］ ②　26.6	①中粒 ②良好 ③明黄褐色 ④1/3	轆轤整形。口縁部：内傾、轆轤撫で。鍔部に器最大径を有し、上方から水平方向。胴部：上位に胴部最大径。下位篦削り。底部：篦削り。	
19	H－14 床直	高台椀 須恵器	①［13.8］ ②　4.6	①細粒 ②良好 ③明褐灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から肥厚・外反した口縁部に至る。内面撫で。底部：糸切り付け高台。轆轤撫で。高台部：外面接合痕が巡る。内面撫で。	
20	D－1	ｶﾜﾗｹ 須恵器	①　8.7 ②　1.9	①中粒 ②良好 ③淡黄色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り未調整、やや突出した平底。	
21	D－11	坏 須恵器	①［12.8］ ②　3.7	①中粒 ②良好 ③灰白色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲から外傾した体部からやや外反の口縁部に至る。底部：平底、回転篦切り。	
22	グリッド	高台皿 灰　釉	①［12.4］ ②　2.4	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/3	轆轤整形。皿部：やや彎曲する体部から短く外傾の口縁部に至る。底部：回転糸切り漬け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	漬けがけ

注）①層位は、「床直」：床面より10cm未満の層位からの検出、「埋土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

2　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.16、PL.5）
位置　X266・267、Y136・137グリッド　主軸方向（N－111°－E）　形状等　方形と推定される。東西（3.18）m、南北（2.98）m、壁現高14cmを測る。　面積（6.49）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：（93）×（54）×(19)cm、(円形)）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：50×30×18.5cm、楕円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：36×29×24.5cm、円形）とP－4（長軸×短軸×深さ、形状：42×29×16.5cm、楕円形）の4基を検出した。　竈　調査区南壁土層より東壁にあると推定される。　重複　W－1と重複し、新旧関係は本遺構→W－1の順である。時期　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数38点、土師器片21点、須恵器片14点、灰釉陶器片1点、縄文土器片1点、瓦1点が検出された。

H－2号住居跡（Fig.16）
位置　X269・270、Y137グリッド　主軸方向（N－92°－E）　形状等　方形と推定される。東西（2.92）m、南北（0.40）m、壁現高14cmを測る。　面積（0.84）㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　P－1と重複し、新旧関係は本遺構→P－1の順である。　時期　主軸方向等から、10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数0点。

H－3号住居跡（Fig.16、PL.5）
位置　X270～272、Y136・137グリッド　主軸方向（N－96°－E）　形状等　方形と推定される。東西4.70m、南北（2.75）m、壁現高10cmを測る。　面積（10.89）㎡　床面　部分的に平坦で堅緻な床面。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向がN－90°－Eであり、全長94cm、最大幅106cm、焚口部幅40cmを測る。　重複　D－11・12、P－4・5・6・7・8と重複し、新旧関係は本遺構→D－11・12、P－4・5・6・7・8の順である。時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数61点、土師器片15点、須恵器片24点、縄文土器片1点、石田川式土器片24点が検出された。

H－4号住居跡（Fig.17、PL.5・6）
位置　X274・275、Y132・133グリッド　主軸方向（N－108°－E）　形状等　方形と推定される。東西（1.65）m、南北（2.16）m、壁現高21cmを測る。　面積（2.77）㎡　床面　ほぼ平坦で堅緻な床面。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方位N－112°－Eであり、全長126cm、最大幅61cm、焚口部幅46cmを測る。　重複　O－1と重複し、新旧関係は本遺構→O－1の順である。時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数41点、土師器片6点、須恵器片34点、灰釉陶器片1点が検出された。そのうち土器3点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.17、PL.6）
位置　X280～282、Y136・137グリッド　主軸方向（N－92°－E）　形状等　方形と推定できる。東西5.22m、南北（4.50）m、壁現高37cmを測る。　面積（18.82㎡）

床面　部分的に平坦で堅緻な床面。重複している部分の床の貼りは確認できなかった。竈　（東壁）より検出され、主軸方位N－96°－Eであり、全長95㎝、最大幅58㎝、焚口部幅40㎝を測る。　重複　H－5、H－7と重複し、新旧関係はH－7→H－5→本遺構の順である。時期　埋土や出土遺物から5世紀後半頃と考えられる。　出土遺物　総数582点、土師器片279点、須恵器片275点、灰釉陶器片16点、縄文土器片5点、鉄器1点、鉄滓1点、管玉1点、自然石4点が検出された。そのうち石製品1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.17、PL.6）
位置　X280～282、Y136・137グリッド　主軸方向（N－108°－E）　形状等　正方形。東西5.99m、南北（1.97）m、壁現高52㎝を測る。　面積　6.20㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　H－5とH－7と重複しており、新旧関係はH－7→H－5→本遺構の順である。時期　埋土や出土遺物から、10世紀末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数44点、土師器片29点、須恵器片12点、灰釉陶器片2点、鉄器片1点が検出された。

H－7号住居跡（Fig.18、PL.6）
位置　X280～282、Y136・137グリッド　主軸方向（N－40°－E）　形状等　不整長方形。東西5.34m、南北5.26m、壁現高59㎝を測る。　面積（19.10）㎡　床面　竈周辺が高くなっていて、竈周辺が堅緻な床面。周溝有。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：41×40×72㎝、円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：43×37×58.5㎝、円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：46×38×57㎝、円形）とD－1（長軸×短軸×深さ、形状：63×54×58.5㎝、長方形）の4基を検出した。　竈　北壁中央やや西寄りより検出され、主軸方向がN－40°－Wであり、全長164㎝、最大幅86㎝、焚口部幅50㎝を測る。　重複　H－6と重複し、新旧関係は本遺構→H－6の順である。　時期　埋土や出土遺物から5世紀後半と考えられる。出土遺物　総数287点、土師器片226点、須恵器片58点、灰釉陶器片2点、自然石1点が検出された。そのうち土器6点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.17、PL.6）
位置　X281、Y137グリッド　主軸方向（N－88°－E）　形状等　方形と推定される。東西3.35m、南北（2.96）m、壁現高24㎝を測る。　面積（8.54）㎡　床面　セクションでの確認のため、平坦で堅緻な床面と推測される。　竈　調査区外　重複　H－5、H－7と重複し、新旧関係はH－7→H－5→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数168点、土師器片107点、須恵器片53点、灰釉陶器片4点、鉄器片1点、石製品片1点、瓦片2点が検出された。そのうち土器1点、鉄製品1点、石製品1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.19、PL.6）
位置　X282・283、Y137グリッド　主軸方向（N－65°－E）　形状等　方形と推測される。東西（2.84）m、南北（1.46）m、壁現高36㎝を測る。　面積（2.15）㎡　床面　平坦な床面、総社砂層を掘り込んで構築されており、直接床面となっている。　竈　部分的な検出のため、不明。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：35×24×13.5㎝、楕円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：36×36×76㎝、円形）の2基を検出した。重複　H－10と重複し、新旧関係は本遺構→H－10の順である。　時期　埋土や出土遺物

から５世紀後半頃と考えられる。　出土遺物　総数87点、土師器片66点、須恵器片17点、灰釉陶器片２点、縄文土器片２点が検出された。

H－10号住居跡（Fig.19、PL.6）
位置　X283・284、Y136・137グリッド　主軸方向（N－27°－W）　形状等　方形と推測される。東西（5.31）m、南北（4.21）m、壁現高54㎝を測る。　面積（15.04）㎡　床面　平坦な床面、総社砂層を掘り込んで構築されており、直接床面となっている。竈　（北壁）より検出され、主軸方向がN－26°－Wであり、全長174㎝、最大幅104㎝、焚口部幅38㎝を測る。Ｐ－１（長軸×短軸×深さ、形状：76×76×58㎝、円形）とＤ－１（長軸×短軸×深さ、形状：68×54×83㎝、方形）の２基を検出した。　重複　H－９と重複し、新旧関係はH－10→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から５世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数524点、土師器片488点、須恵器片34点、灰釉陶器片１点、瓦片１点が検出された。そのうち土器７点を図示した。

（２）　溝　　跡

W－１号溝跡（Fig.16）
位置　X267、Y136・137グリッド　方位　N－177°－E　形状等　断面はU字形を呈し、上幅56～35㎝、下幅34～18㎝、深さ22.5～12.5㎝、長さ4.50ｍを測る。　重複　H－１と重複し、新旧関係はH－１→本遺構の順である。　時期　埋土から近世の溝跡と考えられる。　出土遺物　総数０点

W－２号溝跡（Fig.20）
位置　X268・269、Y136・137グリッド　方位　北壁よりN－44°－Eの方向で南へ1.7m進み、そこからN－４°－Eの方向で南へ3.0m進み、南壁にぶつかる。　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅158～62㎝、下幅82～30㎝、深さ29～11㎝、長さ4.70ｍを測る。　時期　埋土に多量のHr-FP軽石が混入していることから、６世紀中葉以前に存在していた溝跡と推定される。　出土遺物　総数０点

（３）　土　　坑・柱　　穴

Tab. ９　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　土坑等計測表を参照のこと。

（４）　落ち込み

O－１号落ち込み
位置　X273～278、Y133～137グリッド　形状等　平面形状は方形と推定される。長軸20.6m、短軸（18.2）m、深さ75㎝を測る。　重複　H－４、D－17～19、P－14～80と重複し、新旧関係はH－４、D－17～19、P－14～80→本遺構の順である。　時期　埋土と遺物から近世の落ち込みと考えられる。　出土遺物　総数５点、土師器片２点、須恵器片１点、鉄滓２点、その他近世の瓦等が多く検出された。

（5）　グリッド等出土遺物

総数1,086点、縄文土器３点、石田川式土器片７点、埴輪片２点、土師器片730片、須恵器片275点、灰釉陶器片24点、緑釉陶器片１点、陶磁器片６点、瓦片８点、羽口片４点、鉄器片７点、鉄滓17点、自然石２点が検出された。そのうち土器３点を図示した。

Tab.6　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			面積 (m^2)	主軸方向	竈	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高			位　置	土師器	須恵器	その他
H－1	X266･267、Y136･137	(3.18)	(2.98)	0.14	(6.49)	(N－111°－E)	—			
H－2	X269･270、Y137	(2.92)	(0.40)	0.14	(0.84)	(N－92°－E)	—			
H－3	X270～272、Y136･137	4.70	(2.75)	0.10	(10.89)	(N－96°－E)	(東壁南寄り)			
H－4	X274･275、Y132･133	(1.65)	(2.16)	0.21	(2.77)	(N－108°－E)	(東壁南寄り)		羽釜	
H－5	X280～282、Y136･137	5.22	(4.50)	0.37	(18.82)	(N－92°－E)	(東壁)	坏	羽釜	管玉
H－6	X280～282、Y136･137	5.99	(1.97)	0.52	(6.20)	(N－108°－E)	—			
H－7	X280～282、Y136･137	5.34	5.26	0.59	(19.10)	(N－40°－W)	西壁中央やや西より	高坏、坏		
H－8	X281　、Y137	3.35	(2.96)	0.24	(8.54)	(N－88°－E)	—	坏		刃子、石鏃
H－9	X282･283、Y137	(2.84)	(1.46)	0.36	(2.15)	(N－65°－E)	—			
H－10	X283･284、Y136･137	(5.31)	(4.21)	0.54	(15.04)	(N－27°－E)	(北西壁)	甕、坏		

Tab.7　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長（cm）	最大幅（cm）	焚口部幅（cm）	備考（構築材等）
H－3	N－90°－E	94	106	40	
H－4	N－112°－E	126	61	46	
H－5	N－96°－E	95	58	40	
H－7	N－40°－W	164	86	50	支脚石
H－10	N－26°－W	174	104	38	天井石、支脚石、袖石

Tab.8　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ(cm)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		方、位	形状	備考
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			埋土・遺物
W－1	X267　、Y136･137	4.50	22.5	12.5	56	35	34	18	N－177°－E	U字形	
W－2	X268･269、Y136･137	4.70	29	11	158	62	82	30	注1)	逆台形	

注）—は、トレンチ調査のため、計測しなかったり、できなかったりした溝跡。

注１）北壁より1.7mは、N－44°－E。そこからN－4°－Eの方位で3.0m進み南壁にぶつかる。

Tab.9　総社閼泉明神北Ⅱ遺跡　土坑等計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な遺物
D－1	X268　、Y137	74	52	19	楕円形	3	須恵器カワラケ
D－2	X268　、Y137	74	54	8	楕円形	0	
D－3	X269　、Y137	126	114	22.5	円　形	0	
D－4	X269　、Y136･137	118	103	22.5	円　形	0	
D－5	X269　、Y136	(90)	(48)	(28.5)	(円形)	0	
D－6	X270　、Y136	(126)	(36)	(21)	(円形)	0	
D－7	X270　、Y137	63	54	34	円　形	0	
D－8	X270　、Y137	70	50	29	楕円形	2	
D－9	X270　、Y137	98	86	36	長方形	0	
D－10	X270･271、Y137	(74)	52	(38)	[楕円形]	0	
D－11	X270･271、Y136･137	106	100	16.5	円　形	14	
D－12	X271　、Y137	(238)	158	(31.5)	[楕円形]	66	土製紡錘車
D－13	X272　、Y136	104	96	26	円　形	0	
D－14	X272　、Y137	170	94	26	長方形	4	
D－15	X272･273、Y137	163	85	27	長方形	18	
D－16	X272･273、Y137	116	88	51	楕円形	6	
D－17	X275　、Y136･137	270	108	38	長方形	31	
D－18	X278　、Y137	172	171	55	正方形	0	
D－19	X278　、Y137	(106)	78	(33.5)	(長方形)	1	
D－20	X278　、Y137	158	(127)	(32.5)	(長方形)	9	
D－21	X278　、Y136	(102)	99	(15.5)	(長方形)	4	
D－22	X278･279、Y136･137	190	156	77	長方形	25	須恵器カワラケ
D－23	X279　、Y136･137	85	70	—	長方形	0	
D－24	X279　、Y137	86	84	41.5	円　形	12	
D－25	X279　、Y137	98	81	40	円　形	36	
D－26	X279　、Y136	99	(84)	(29)	(長方形)	19	
D－27	X279　、Y137	136	100	45.5	楕円形	21	
D－28	X279･280、Y137	118	[102]	47.5	円　形	21	
D－29	X280　、Y137	175	124	58	長方形	31	
P－1	X269　、Y137	38	(14)	(17)	(円形)	0	
P－2	X270　、Y137	97	(86)	(76)	(円形)	2	
P－3	X270　、Y137	27	25	20	円　形	0	
P－4	X270　、Y136	(95)	80	(71)	(楕円形)	0	
P－5	X270　、Y136	30	30	21	円　形	0	
P－6	X271　、Y136	130	(88)	(61)	不　明	9	
P－7	X271　、Y136	54	46	15.5	楕円形	19	
P－8	X271･272、Y136･137	32	24	27.5	楕円形	0	
P－9	X271･272、Y137	47	40	36.5	円　形	1	鉄製品釘

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な遺物
P−10	X272　、Y137	40	30	26	楕円形	0	
P−11	X272　、Y137	26	24	16.5	円　形	0	
P−12	X272・273、Y136	57	54	22.5	円　形	0	
P−13	X273　、Y137	40	30	58	楕円形	0	
P−14	X275　、Y133	32	22	43.5	楕円形	0	
P−15	X274・275、Y133	43	41	55	円　形	0	
P−16	X274　、Y134	25	21	53	円　形	0	
P−17	X274・275、Y134	26	23	65	円　形	0	
P−18	X275　、Y134	26	19	39	楕円形	0	
P−19	X275　、Y134	37	24	28	楕円形	0	
P−20	X275　、Y133	32	27	18	円　形	0	
P−21	X275　、Y133・134	30	28	50	円　形	0	
P−22	X275　、Y133・134	27	25	48	円　形	0	
P−23	X275　、Y134	45	43	30	円　形	0	
P−24	X275　、Y134	36	30	36	円　形	0	
P−25	X275　、Y134	33	30	34	(円形)	0	
P−26	X275　、Y134	25	16	43	楕円形	0	
P−27	X275　、Y134	[26]	22	54	長方形	0	
P−28	X275　、Y134	32	[32]	72	正方形	0	
P−29	X274・275、Y134	46	30	55	楕円形	0	
P−30	X275　、Y134	31	29	52.5	円　形	0	
P−31	X275　、Y134	22	20	14	正方形	0	
P−32	X275　、Y134	34	25	37	楕円形	0	
P−33	X275　、Y134	41	30	23.5	楕円形	0	
P−34	X275　、Y134	50	47	30	円　形	0	
P−35	X275　、Y134	35	21	39	楕円形	0	
P−36	X275　、Y134・135	32	30	34	正方形	0	
P−37	X275　、Y135	40	26	49	長方形	0	
P−38	X274・275、Y135	28	15	53	楕円形	0	
P−39	X274・275、Y135	45	32	(16)	(楕円形)	0	
P−40	X275　、Y135	34	25	29	楕円形	0	
P−41	X274・275、Y135	32	26	49.5	長方形	0	
P−42	X274・275、Y135	72	(50)	(17)	(楕円形)	0	
P−43	X275　、Y135	22	21	17	正方形	0	
P−44	X275　、Y135	20	19	30	円　形	0	
P−45	X275　、Y135	27	26	34	円　形	0	
P−46	X275　、Y135	27	24	32	円　形	0	
P−47	X275　、Y135	30	24	40	円　形	0	

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な遺物
P−48	X275　、Y135	24	20	34	円　形	0	
P−49	X275　、Y135	24	20	37	円　形	0	
P−50	X275　、Y135	(52)	(40)	(48)	(楕円形)	0	
P−51	X275　、Y135	31	24	30	楕円形	0	
P−52	X275　、Y135	(30)	22	(35)	(楕円形)	0	
P−53	X275　、Y135	22	22	37	正方形	0	
P−54	X275　、Y135	43	40	30	円　形	0	
P−55	X275　、Y135	25	20	42	長方形	0	
P−56	X275　、Y135	32	30	29	円　形	0	
P−57	X275　、Y135	32	(22)	(19)	(円 形)	0	
P−58	X275　、Y135･136	22	(16)	(6)	(円 形)	0	
P−59	X275　、Y136	24	18	38	円　形	0	
P−60	X275　、Y136	45	32	29	不整形	0	
P−61	X275　、Y136	23	21	51	円　形	0	
P−62	X275　、Y136	36	26	56	長方形	0	
P−63	X275　、Y136	34	28	34	円　形	0	
P−64	X275　、Y136	27	24	23	円　形	0	
P−65	X275･276、Y136	60	40	23	長方形	0	
P−66	X276　、Y136･137	35	32	24	円　形	0	
P−67	X276　、Y136･137	56	46	50	楕円形	0	
P−68	X275　、Y137	20	18	34.5	正方形	0	
P−69	X275･276、Y137	36	24	25	楕円形	0	
P−70	X276　、Y137	(48)	38	(15)	(楕円形)	0	
P−71	X276　、Y137	25	24	25	正方形	0	
P−72	X276　、Y136	38	26	28	楕円形	0	
P−73	X276　、Y137	20	19	24.5	正方形	0	
P−74	X277　、Y136･137	17	16	15.5	正方形	0	
P−75	X277　、Y137	29	24	16	円　形	0	
P−76	X277　、Y137	28	26	27	円　形	0	
P−77	X276･277、Y137	30	24	32	円　形	0	
P−78	X277　、Y137	30	27	11.5	円　形	0	
P−79	X277　、Y137	40	30	30	楕円形	0	
P−80	X277　、Y136･137	35	26	36.5	不整形	0	
P−81	X278　、Y136	30	29	18	円　形	0	
P−82	X279　、Y137	28	25	23	円　形	0	
P−83	X279　、Y137	21	19	27.5	円　形	0	
P−84	X279　、Y137	26	23	21.5	円　形	0	
P−85	X279　、Y137	[31]	29	51.5	円　形	0	

Tab.10　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　出土遺物観察表

番号	遺構 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H－4 床直	羽釜 須恵器	① [19.0] ② (17.4)	①細粒②良好 ③にぶい黄色④1/8	轆轤整形。口縁部：内傾、鍔部に最大径、上方から水平方向。胴部：上半胴部最大径、中位に縦篦削り。下半、欠損。底部：欠損。	
2	H－4 床直	羽釜 須恵器	① [20.0] ② (21.0)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/5	轆轤整形。口縁部：内傾、鍔部に最大径、上方から水平方向。胴部：上半胴部最大径。中位斜め篦削り。下半、欠損。底部：欠損。	
3	H－4 床直	羽釜 須恵器	① [20.0] ② (12.2)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/8	轆轤整形。口縁部：内傾、鍔部に最大径、やや上向き。胴部：上半胴部最大径。中位斜め篦削り。下半、欠損。底部：欠損	
4	H－5 床直	管玉 石製	①最長 (2.0) ②最大幅 1.0 ③最大厚 1.1 ④重さ 3.6 ⑤遺存度 － ⑥石材 碧玉			雑な作り
5	H－7 埋土	高坏 土師器	① [12.2] ② (5.5)	①中粒②良好 ③橙色④1/4	坏部：丸底から緩やかに外傾し、短く直立からやや外傾する横撫での口縁部に至る。外面横篦削り。内面撫で後、上半に放射線状の篦磨き。台部：欠損。	
6	H－7 床直	坏 土師器	① 12.7 ② (4.3)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：外傾、横撫で。交換点に弱い稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で、指圧痕有。	
7	H－7 床直	坏 土師器	① [13.0] ② (5.7)	①細粒②良好 ③赤褐色④1/2弱	口縁部：直立気味、横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	
8	H－7 床直	坏 土師器	① [13.0] ② 4.9	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：内傾、横撫で。交換点に稜有。底部：外面篦削り。内面撫で。	
9	H－7 埋土	坏 土師器	① [13.2] ② (4.4)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/5	口縁部：外斜口辺、横撫で。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。	暗文土器
10	H－7 埋土	坏 土師器	① [12.2] ② 5.7	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁部：外斜口辺、横撫で。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で後、斜め上半放射線状の篦磨き。	暗文土器
11	H－8 床直	羽釜 須恵器	① [24.0] ② (11.8)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④－	轆轤整形。口縁部：弱い内傾。鍔部に最大径。口唇部平坦で水平。胴部：上半胴部最大径。中位縦篦削り。下半、欠損。底部：欠損。	
12	H－8 埋土	刀子 鉄製品	①最長 (5.8) ②最大幅 1.2 ③最大厚 0.2 ④遺存度 1/3		茎部、刃部欠損。	
13	H－8 埋土	鏃 石製	①最長 2.4 ②最大幅 1.3 ③最大厚 0.3 ④重さ 0.6 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 硬質頁岩			流れ込み
14	H－10 埋土	甕 土師器	① 14.5 ② 23.3	①中粒②良好 ③にぶい橙色④4/5	口縁部：短く外反、横撫で。胴部：中位に器最大径。外面、上半縦篦削り、下半斜め篦削り。内面撫で。	
15	H－10 竈、埋土	甕 土師器	① [22.0] ② (28.0)	①中粒②不良 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：短く外反、横撫で。胴部：中位に器最大径。外面、縦篦削り、下半斜め篦削り。内面撫で。底部：欠損。	
16	H－10 竈、埋土	坏 土師器	① [14.4] ② 5.8	①中粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：外傾、横撫で。内面上半に放射線状に篦磨き。交換点に稜有。底部：浅い底部。外面篦削り。内面撫で。	黒色土器
17	H－10 床直	坏 土師器	① 13.2 ② 5.0	①細粒②良好 ③赤色④5/6	口縁部：外反から端部直立、横撫で。内面に放射線状に篦磨き。交換点に弱い稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	黒色土器
18	H－10 床直	坏 土師器	① 12.8 ② 5.1	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：外傾、横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	黒色土器
19	H－10 床直	坏 土師器	① [12.0] ② 4.7	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：外傾、横撫で後、篦磨き。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で後、篦磨き。	
20	H－10 床直	坏 土師器	① [12.0] ② (3.5)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	口縁部：外傾、横撫で。底部：平底、外面篦削り。内面撫で。	
21	D－1 埋土	カワラケ 須恵器	① [10.0] ② (2.0)	①細粒②良好 ③橙色④1/3	轆轤整形。杯形。口縁・体部：緩やかな外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：突出した底部。回転糸切り未調整。	
22	D－12 床直	紡錘車 土製	①最長 (4.0) ②最大幅 (4.2) ③最大厚 0.7 ④重さ 14.4 ⑤遺存度 －		糸切り痕有。	土器を転用
23	D－22 埋土	カワラケ 須恵器	① 7.9 ② 2.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り周辺部篦調整。	
24	P－9 埋土	釘 鉄製品	①最長 (12.2) ②最大幅 0.7 ③最大厚 0.6 ④遺存度 ほぼ完形			瓦釘か
25	グリッド 埋土	高台椀 灰釉	① [15.4] ② 4.5	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：緩やかに外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台：短く外傾。	漬けがけ
26	グリッド 埋土	坏 土師器	① 11.0 ② 3.3	①細粒②良好 ③赤灰色④完形	口縁部：短く直立、横撫で。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	
27	グリッド 埋土	カワラケ 須恵器	① [9.0] ② 2.2	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

3　総社甲稲荷塚大道西遺跡　B区

（1）竪穴住居跡

H－15号住居跡（Fig.23、PL.7）

位置　X258・259、Y39・40グリッド　主軸方向（N－87°－E）　形状等　方形と推定される。東西4.16m、南北（4.66）m、壁現高39cmを測る。　面積（17.48）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。総社砂層まで掘り込まれている。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：32×28×23cm、円形）の1基を検出した。周溝有。　竈（東壁南寄り）と推定され、主軸方向がN－89°－Eであり、全長72cm、最大幅40cm、焚口部幅22cmを測る。構築材として、袖石を使用している。　重複　H－16と重複し、新旧関係はH－16→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数135点、土師器片65点、須恵器片51点、灰釉陶器片4点、陶磁器片3点、瓦片8点、鉄器片4点が検出された。

H－16号住居跡（Fig.23、PL.7）

位置　X259・260、Y39グリッド　主軸方向（N－102°－E）　形状等　方形と推定される。東西2.80m、南北（2.16）m、壁現高31cmを測る。　面積（4.87）㎡　床面　平坦な床面。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向がN－107°－Eであり、全長64cm、最大幅60cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、支脚石を使用している。　重複　H－15と重複し、新旧関係は本遺構→H－15の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数56点、土師器片34点、須恵器片15点、灰釉陶器片2点、陶磁器片2点、縄文土器片2点、瓦片1点が検出された。

H－17号住居跡（Fig.24、PL.7）

位置　X257・258、Y39グリッド　主軸方向（N－93°－E）　形状等　方形と推定される。東西4.40m、南北（3.48）m、壁現高43cmを測る。　面積（12.99）㎡　床面　平坦な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：96×78×40cm、楕円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：74×62×26cm、円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：（116）×102×（79）cm、（楕円形））の3基を検出した。　竈（東壁南寄り）より検出され、主軸方向がN－90°－Eであり、全長86cm、最大幅70cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、袖石を使用している。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数328点、土師器片201点、須恵器片107点、灰釉陶器片18点、陶磁器片1点、瓦片1点が検出された。

（2）溝　　跡

W－7号溝跡（Fig.23、PL.7）

位置　X256～260、Y39～42グリッド　方位　北壁よりN－35°－Eの方向で南西へ9.5m進み、そこからN－47°－Eの方向で南西へ8.7m進む。　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅137～76cm、下幅107～64cm、深さ39.5～3cm、長さ18.20mを測る。重複　H－15・16とW－11と重複し、新旧関係はH－15・16→W－11→本遺構の順である。　時期　埋土と重複関係から、近世の溝跡と思われる。　出土遺物　総数0点

W－８号溝跡（Fig.24、PL.7）
位置　X256・257、Y40グリッド　方位　西壁よりN－80°－Eの方向で東へ（4.30）m進み、その後検出できず。　形状等　断面は（U字形）を呈し、上幅180～160cm、下幅45～20cm、深さ（50）cm、長さ（4.30）mを測る。　重複　W－10と重複し、新旧関係はW－10→本遺構の順である。　時期　埋土と重複関係から、近世の溝跡と思われる。　出土遺物　総数０点

W－９号溝跡（Fig.24、PL.7）
位置　X256～258、Y41～43グリッド　方位　西壁よりN－69°－Eの方向で東へ進み、東壁にぶつかる。　形状等　断面は浅い逆台形を呈し、上幅580～270cm、下幅（248）cm、深さ（17）cm、長さ5.40mを測る。　時期　埋土と重複関係から、近世の溝跡と思われる。出土遺物　総数０点

W－10号溝跡（Fig.24、PL.7）
位置　X257・258、Y40グリッド　方位　西壁よりN－78°－Eの方向で東へ（4.20）m進み、その後検出できず。　形状等　断面は（U字形）を呈し、上幅170～140cm、下幅（30）～（５）cm、深さ6.5～32cm、長さ（51）mを測る。　時期　埋土と重複関係から、近世の溝跡と思われる。　出土遺物　総数０点

W－11号溝跡（Fig.24、PL.7）
位置　X256～263、Y39～43グリッド　方位　西壁よりN－81°－Eの方向で東へ進み、東壁にぶつかる。　形状等　断面は（逆台形）を呈し、上幅1,110～1,090cm、深さ（110）～（98）cm、長さ26.0mを測る。　時期　埋土と出土遺物から、As-B降下後、埋没したの溝跡と思われる。　出土遺物　総数１点、鉄器片１点が検出された。

（３）グリッド等出土遺物

総数305点、土師器片195点、須恵器片91点、灰釉陶器片13点、緑釉陶器片１点、瓦片２点、石製品片３点が検出された。

4　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.25、PL.8）
位置　X256～268、Y43～45グリッド　主軸方向　N－114°－E　形状等　正方形。東西4.02m、南北4.44m、壁現高40cmを測る。　面積（15.40）㎡　床面　ほぼ平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：（80）×70×（60.5）cm、（楕円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：80×（70）×（16）cm、（長方形））とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：63×50×26.5cm、楕円形）とP－4（長軸×短軸×深さ、形状：76×70×41.5cm、長方形）の4基を検出した。　竈　東壁中央南寄りより検出され、主軸方位N－113°－Eであり、全長118cm、最大幅92cm、焚口部幅58cmを測る。構築材として、凝灰岩の両袖石、天井石を使用している。　重複　H－2・3、W－1、D－3・4と重複し、新旧関係はH－2→H－3→本遺構→D－3・4の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数2,763点、土師器片2,124点、須恵器片527点、灰釉陶器片98点、緑釉陶器片4点、鉄器片5点、鉄滓5点が検出された。そのうち土器10点、鉄製品1点を図示した。

H－2号住居跡（Fig.25）
位置　X257・258、Y43・44グリッド　主軸方向（N－19°－E）　形状等　方形と推定される。東西（0.96）m、南北（3.02）m、壁現高21cmを測る。　面積（1.36）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈　調査区外　重複　H－1・2・4と重複し、新旧関係はH－2→本遺構→H－1・4の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。　出土遺物　総数37点、土師器片26点、須恵器片11点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig.25）
位置　X257・258、Y43・44グリッド　主軸方向（N－113°－E）　形状等　方形と推測される。東西（3.94）m、南北（3.22）m、壁現高33cmを測る。　面積（7.33）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈　H－4の床下に竈の痕跡があり、北竈かと思われる。重複　H－1・2・4と重複しており、H－2→本遺構→H－1・4の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数201点、土師器片113点、須恵器片81点、灰釉陶器片5点、瓦片1点、鉄滓1点が検出された。そのうち土器2点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.25）
位置　X257・258、Y43グリッド　主軸方向（N－85°－E）　形状等　方形と推測される。東西（3.60）m、南北（2.32）m、壁現高20cmを測る。　面積（6.99）㎡　床面　ほぼ平坦で堅緻な床面。　P－1（長軸×短軸×深さ、形状：56×54×38.5cm、円形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：72×66×46.5cm、円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：75×62×56.5cm、楕円形）とP－4（長軸×短軸×深さ、形状：112×94×16.5cm、楕円形）の4基を検出した。　竈　調査区東壁より焼土粒、灰が多く検出され、東壁南寄りの東竈と推定される。　重複　H－3、W－9・11と重複し、H－

3→本遺構→W－11→W－9の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀終末から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数60点、土師器片21点、須恵器片32点、灰釉陶器片4点、緑釉陶器片2点、瓦片1点が検出された。そのうち土器9点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.26、PL.8・9）
位置　X257、Y46・47グリッド　主軸方向［N－103°－E］　形状等　ゆがんだ長方形。東西2.40m、南北［3.90］m、壁現高19cmを測る。　面積［7.52］㎡　床面　平坦な床面。　竈　東壁南寄りより検出され、主軸方位N－88°－Eであり、全長60cm、最大幅42cm、焚口部幅24cmを測る。　重複　H－6、W－2と重複しており、新旧関係は本遺構→H－6→W－2の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数189点、土師器片111点、須恵器片67点、灰釉陶器片10点、鉄滓1点が検出された。そのうち土器2点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.26）
位置　X256・257、Y46・47グリッド　主軸方向（N－161°－E）　形状等　方形と推定される。東西（3.35）m、南北3.12m、壁現高13cmを測る。　面積（7.95）㎡　床面　平坦な床面。　竈（南壁）より検出され、主軸方向がN－145°－Eであり、全長70cm、最大幅42cm、焚口部幅21cmを測る。構築材として、瓦、凝灰岩を使用している。　重複　H－5、T－1、W－2、I－1と重複しており、H－5・T－1→本遺構→W－2・I－1の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数178点、土師器片102点、須恵器片62点、灰釉陶器片7点、瓦片1点、鉄器片4点、鉄滓2点が検出された。そのうち土器2点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.26、PL.9）
位置　X256・257、Y48・49グリッド　主軸方向（N－20°－E）　形状等　方形と推定される。東西（1.86）m、南北2.80m、壁現高21cmを測る。　面積（3.94）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈　H－8に切られているが、東壁南寄り埋土より焼土粒や灰が検出され、東壁南寄りと推定される。　重複　H－8、D－13と重複し、新旧関係は本遺構→H－8・D－13の順である。　時期　埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数29点、土師器片15点、須恵器片14点が検出された。そのうち土器3点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.27、PL.9）
位置　X257、Y48・49グリッド　主軸方向［N－106°－E］　形状等　正方形。東西3.36m、南北4.14m、壁現高36cmを測る。　面積　12.62㎡　床面　平坦な床面。総社砂層を直接床面としていた。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：38×26×53.5cm、楕円形）とD－1（長軸×短軸×深さ、形状：140×126×65cm、円形）の2基を検出した。　竈　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－114°－Eであり、全長62cm、最大幅56cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、両袖石、支脚石を使用している。　重複　H－7・9・10・11、P－3～7・9と重複し、新旧関係はH－7→本遺構→P－3～7・9、H－9→H－11→H－12→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から11世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数508点、土師器片363点、須恵器片112点、灰釉陶器片18点、瓦片7点、鉄器片4点、鉄滓1点、石製品片1点が検出された。そのうち土器4点、

紡錘車１点を図示した。

Ｈ－９号住居跡（Fig.27、PL.9）
位置　Ｘ257・258、Ｙ48・49グリッド　主軸方向（Ｎ－16°－Ｅ）　形状等　部分的な検出のため、不明。東西（1.48）ｍ、南北（3.30）ｍ、壁現高13㎝を測る。　面積（2.84）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈　調査区外　重複　Ｈ－８・11と重複し、新旧関係はＨ－11→本遺構→Ｈ－８の順である。　時期　埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数53点、土師器片18点、須恵器片28点、緑釉陶器片１点、陶磁器片３点、瓦片３点が検出された。そのうち土器３点を図示した。

Ｈ－10号住居跡（Fig.27、PL.9）
位置　Ｘ256・257、Ｙ49・50グリッド　主軸方向（Ｎ－92°－Ｅ）　形状等　方形と推定される。東西（2.05）ｍ、南北［2.89］ｍ、壁現高26㎝を測る。　面積（5.82）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈［東壁南寄り］より検出され、主軸方向がＮ－96°－Ｅであり、全長146㎝、最大幅50㎝、焚口部幅34㎝を測る。　重複　Ｈ－８・11・13、Ｔ－２と重複し、Ｈ－13→Ｔ－２→Ｈ－11→本遺構→Ｈ－８の順である。　時期埋土や出土遺物から６世紀前半と考えられる。　出土遺物　総数257点、土師器片174点、須恵器片45点、灰釉陶器片14点、瓦片22点、鉄器片１点、鉄滓１点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

Ｈ－11号住居跡（Fig.27、PL.9）
位置　Ｘ257・258、Ｙ49・50グリッド　主軸方向（Ｎ－95°－Ｅ）　形状等　不明。東西（3.66）ｍ、南北（3.08）ｍ、壁現高20㎝を測る。　面積（8.93）㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　Ｈ－８・９・10・12・13、Ｔ－２、Ｐ－８・11と重複し、Ｈ－９→本遺構→Ｈ－10→Ｈ－８、Ｈ－13→Ｔ－２→本遺構→Ｐ－８・11、Ｈ－12→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数24点、土師器片11点、須恵器片４点、灰釉陶器片１点、瓦片８点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

Ｈ－12号住居跡（Fig.28）
位置　Ｘ257・258、Ｙ50・51グリッド　主軸方向（Ｎ－14°－Ｅ）　形状等　方形と推測される。東西（1.14）ｍ、南北（2.50）ｍ、壁現高29㎝を測る。　面積（1.67）㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　Ｈ－11・12・13、Ｐ－18と重複し、新旧関係はＨ－13→本遺構→Ｈ－11→Ｐ－18の順である。　時期　埋土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。出土遺物　総数113点、土師器片101点、須恵器片10点、灰釉陶器片２点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

Ｈ－13号住居跡（Fig.28、PL.10）
位置　Ｘ257・258、Ｙ49～51グリッド　主軸方向（Ｎ－12°－Ｗ）　形状等　方形と推定される。東西（3.93）ｍ、南北4.67ｍ、壁現高55㎝を測る。　面積（16.36)㎡　床面　平坦で堅緻な床面。周溝有。間仕切り溝有。Ｐ－１（長軸×短軸×深さ、形状：45×38×54㎝、円形）とＰ－２（長軸×短軸×深さ、形状：46×36×54㎝、楕円形）とＰ－３（長軸×短軸×深さ、形状：28×21×14㎝、円形）とＰ－４（長軸×短軸×深

さ、形状：28×27×11cm、円形）とP－5（長軸×短軸×深さ、形状：22×20×61cm、円形）とP－6（長軸×短軸×深さ、形状：（72）×（14）×（29）、（楕円形））の6基を検出した。　竈（北壁）より検出され、主軸方向がN－10°－Wであり、全長114cm、最大幅75cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、きれいに裁断された凝灰岩の天井石、両袖石、支脚石を使用している。　重複　H－10・11・12、T－2、P－8・10・11・15～20と重複し、新旧関係は本遺構→H－12・T－2→H－11→H－10→P－8・10・11・15～20の順である。　時期　埋土や出土遺物から6世紀初頭と考えられる。　出土遺物　総数729点、土師器片712点、須恵器片11点、灰釉陶器片1点、緑釉陶器片1点、縄文土器片1点、石製品片3点が検出された。そのうち土器20点、銅製品1点、石製品3点を図示した。

H－14号住居跡（Fig.29、PL.10）
位置　X256・257、Y50・51グリッド　主軸方向（N－105°－E）　形状等　方形と推定される。東西（2.83）m、南北［3.03］m、壁現高12cmを測る。　面積（6.88）㎡　床面　ほぼ平坦で堅緻な床面。　竈［東壁南寄り］より検出され、主軸方位N－110°－Eであり、全長62cm、最大幅54cm、焚口部幅22cmを測る。　重複　P－13・22～25と重複し、新旧関係は本遺構→P－13・22～25の順である。　時期　不明　出土遺物　総数15点、土師器片14点、灰釉陶器片1点が検出された。

H－15号住居跡（Fig.29）
位置　X257・258、Y51・52グリッド　主軸方向（N－10°－E）　形状等　方形と推測される。東西（2.00）m、南北（2.92）m、壁現高17cmを測る。　面積（4.85）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：28×24×19cm、円形）の1基を検出した。　竈　調査区外　重複　D－18・19、P－29と重複し、新旧関係はD－18→D－19→本遺構→P－29の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。　出土遺物　総数9点、土師器片1点、須恵器片8点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－16号住居跡（Fig.29）
位置　X257・258、Y52・53グリッド　主軸方向（N－2°－E）　形状等　不整形。東西（3.18）m、南北（4.70）m、壁現高31cmを測る。　面積（12.07）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：58×（42）×（5.5)cm、(長方形)）の1基を検出した。　竈　調査区外　重複　D－20・21・22、P－30・32・33と重複しており、本遺構→D－20・21・22、P－30・32・33の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数60点、土師器片12点、須恵器片48点が検出された。そのうち土器4点を図示した。

H－17号住居跡（Fig.30）
位置　X256・257、Y53・54グリッド　主軸方向（N－104°－E）　形状等　長方形。東西［1.78］m、南北［3.04］m、壁現高48cmを測る。　面積［5.43］㎡　床面　平坦な床面。　竈［東壁中央］より検出され、主軸方向がN－104°－Eであり、全長166cm、最大幅81cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、支脚石を使用している。重複　H－18と重複し、新旧関係はH－17→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物

から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数1,229点、土師器片821点、須恵器片332点、灰釉陶器片48点、緑釉陶器片４点、陶磁器片３点、瓦片６点、羽口片１点、鉄器片８点、鉄滓５点が検出された。そのうち土器３点を図示した。

H－18号住居跡（Fig.30、PL.10）
位置　X256・257、Y53・54グリッド　主軸方向（N－99°－E）　形状等　正方形。東西2.77m、南北3.23m、壁現高67cmを測る。　面積　8.20㎡　床面　平坦な床面。　竈　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－114°－Eであり、全長57cm、最大幅49cm、焚口部幅32cmを測る。　重複　H－17と重複し、新旧関係は本遺構→H－17の順である。　時期　埋土や出土遺物から10紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数98点、土師器片82点、須恵器片11点、灰釉陶器片２点、縄文土器片１点、鉄滓１点、石製品１点が検出された。そのうち土器２点、石製品１点を図示した。

H－19号住居跡（Fig.30、PL.11）
位置　X258・259、Y54・55グリッド　主軸方向（N－112°－E）　形状等　方形と推定される。東西（3.78）m、南北（4.18）m、壁現高41cmを測る。　面積（11.67）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：41×30×22cm、楕円形）とD－1（長軸×短軸×深さ、形状：80×18×28cm、円形）の２基を検出した。竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－107°－Eであり、全長58cm、最大幅70cm、焚口部幅48cmを測る。構築材として、きれいに裁断された凝灰岩の天井石、両袖石、瓦を使用していた。　重複　H－22・23と重複し、新旧関係はH－22・23→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数1,133点、土師器片794点、須恵器片230点、灰釉陶器片71点、緑釉陶器片４点、陶磁器片１点、縄文土器片１点、瓦片18点、鉄器片３点、鉄滓11点が検出された。そのうち土器８点を図示した。

H－20号住居跡（Fig.30、PL.11）
位置　X258・259、Y53グリッド　主軸方向（N－112°－E）　形状等　方形と推定される。東西（2.98）m、南北（1.54）m、壁現高30cmを測る。　面積（2.60）㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　H－21と重複し、H－21→本遺構の順である。時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数148点、土師器片107点、須恵器片33点、灰釉陶器片５点、瓦片１点、鉄器片１点、鉄滓１点検出された。

H－21号住居跡（Fig.30、PL.11）
位置　X258・259、Y53・54グリッド　主軸方向（N－95°－E）　形状等　方形と推定される。東西5.18m、南北（2.50）m、壁現高17cmを測る。　面積（11.52）㎡　床面　ほぼ平坦な床面。　竈（東壁）より検出され、主軸方位N－101°－Eであり、全長54cm、最大幅63cm、焚口部幅41cmを測る。構築材として、袖石、支脚石を使用している。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数313点、土師器片203点、須恵器片87点、灰釉陶器片15点、瓦片６点、鉄器片２点が検出された。そのうち土器６点、鉄製品２点を図示した。

H－22号住居跡（Fig.31、PL.11）
位置　X258・259、Y54グリッド　主軸方向（N－105°－E）　形状等　正方形。東西3.20m、南北［3.30］m、壁現高26cmを測る。　面積［8.63］㎡　床面　平坦な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：31×28×17cm、円形）の1基を検出した。竈［東壁南寄り］より検出され、主軸方位N－109°－Eであり、全長88cm、最大幅74cm、焚口部幅40cmを測る。　重複　H－19・21・24・25、D－23と重複し、新旧関係はH－19・21・25→本遺構→H－25・D－23の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数207点、土師器片135点、須恵器片66点、灰釉陶器片4点、縄文土器片1点、石製品片1点が検出された。そのうち土器3点、石製品1点を図示した。

H－23号住居跡（Fig.31、PL.11）
位置　X258・259、Y54・55グリッド　主軸方向（N－116°－E）　形状等　正方形と推定される。東西2.37m、南北（2.64）m、壁現高41cmを測る。　面積（4.83）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：（34）×（16）×（7）cm、不明）とD－1（長軸×短軸×深さ、形状：74×47×26cm、円形）の2基を検出した。　竈［東壁中央］より検出され、主軸方向がN－111°－Eであり、全長106cm、最大幅52cm、焚口部幅43cmを測る。構築材として、凝灰岩の天井石、袖石、支脚石を使用している。　重複　H－19・24、P－24と重複しており、H－24→本遺構→H－19→P－24の順である。　時期　埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数244点、土師器片153点、須恵器片76点、灰釉陶器片7点、緑釉陶器片4点、瓦片1点、鉄滓3点が検出された。そのうち土器2点を図示したい。

H－24号住居跡（Fig.32、PL.12）
位置　X259・260、Y54・55グリッド　主軸方向（N－110°－E）　形状等　方形と推測される。東西（3.34）m、南北（2.76）m、壁現高30cmを測る。　面積（6.58）㎡　床面　平坦な床面。　竈　調査区外　重複　H－23・25と重複し、H－25→本遺構→H－23の順である。　時期　埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数116点、土師器片98点、須恵器片11点、灰釉陶器片1点、緑釉陶器片1点、鉄器片4点、鉄滓1点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－25号住居跡（Fig.32、PL.12）
位置　X259・260、Y54・55グリッド　主軸方向（N－62°－E）　形状等　方形と推測される。東西4.30m、南北（3.74）m、壁現高8cmを測る。　面積（12.67）㎡　床面　総社砂層を直接床面とした、平坦な床面。周溝有。P－1（長軸×短軸×深さ、形状：28×25×71cm、正方形）とP－2（長軸×短軸×深さ、形状：28×26×13cm、円形）とP－3（長軸×短軸×深さ、形状：30×28×11cm、円形）とP－4（長軸×短軸×深さ、形状：33×29×69cm、円形）の4基を検出した。　竈　調査区外　時期　埋土や出土遺物から6世紀前半と考えられる。　出土遺物　総数46点、土師器片36点、須恵器片9点、縄文土器片1点が検出された。そのうち土器1点を図示した。

H－26号住居跡（Fig.32、PL.12）
位置　X260、Y54・55グリッド　主軸方向（N－172°－E）　形状等　方形と推測

される。東西（1.57）m、南北（2.95）m、壁現高９㎝を測る。　面積（3.02）㎡　床面　総社砂層を直接床面としている。Ｐ－１（長軸×短軸×深さ、形状：42×36×27㎝、円形）とＤ－１（長軸×短軸×深さ、形状：（83）×（73）×（24.5）㎝、不整形）の２基を検出した。　竈　調査区外　重複　Ｈ－25・27・28と重複しており、Ｈ－25→本遺構→Ｈ－27→Ｈ－28の順である。時期　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。　出土遺物　総数９点、須恵器片６点、灰釉陶器片３点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

Ｈ－27号住居跡（Fig.32、PL.12）
位置　Ｘ260、Ｙ55グリッド　主軸方向（Ｎ－43°－Ｅ）　形状等　方形と推測される。東西（1.50）m、南北（1.62）m、壁現高10㎝を測る。　面積（1.13）㎡　床面　総社砂層を直接床面としている。　竈　調査区外　重複　Ｈ－25・26・28と重複し、新旧関係はＨ－25→Ｈ－26→本遺構→Ｈ－28の順である。　時期　不明　出土遺物　総数95点、土師器片68点、須恵器片26点、鉄滓１点が検出された。

Ｈ－28号住居跡（Fig.32）
位置　Ｘ260、Ｙ54・55グリッド　主軸方向　セクションだけによる検出のため、不明。形状等　不明。南北（2.63）m、壁現高２㎝を測る。　面積　不明　床面　セクションより平坦で堅緻な床面と推測される。　竈　調査区外　重複　Ｈ－26・27と重複し、新旧関係はＨ－27→Ｈ－26→本遺構の順である。　時期　不明　出土遺物　総数０点。

Ｈ－29号住居跡（Fig.33、PL.12）
位置　Ｘ262、Ｙ53・54グリッド　主軸方向（Ｎ－121°－Ｅ）　形状等　不整方形と推測される。東西（2.37）m、南北（3.16）m、壁現高15㎝を測る。　面積（5.10）㎡　床面　平坦で堅緻な床面。Ｐ－１（長軸×短軸×深さ、形状：24×23×15㎝、円形）の１基を検出した。　竈　東壁中央より検出され、主軸方向Ｎ－123°－Ｅであり、全長52㎝、最大幅48㎝、焚口部幅28㎝を測る。構築材として、瓦を使用している。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　総数23点、土師器片８点、須恵器片11点、瓦片１点、鉄器片３点が検出された。そのうち土器１点を図示した。

（２）　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.26、PL.12）
位置　Ｘ257、Ｙ47・48グリッド　主軸方向（Ｎ－172°－Ｅ）　形状等　長方形。東西2.21m、南北2.96m、壁現高21㎝を測る。　面積　5.71㎡　床面　平坦な床面。　重複　Ｈ－６、Ｗ－２、Ｄ－12と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－６、本遺構→Ｗ－２→Ｄ－12の順である。　時期　不明　出土遺物　総数61点、土師器片41点、須恵器片14点、瓦片６点が検出された。

Ｔ－２号竪穴状遺構（PL.12）
位置　Ｘ257、Ｙ50グリッド　主軸方向（Ｎ－３°－Ｅ）　形状等　長方形。東西2.74m、南北3.32m、壁現高10㎝を測る。　面積　7.90㎡　床面　平坦で堅緻な床面。　竈　東壁中央より検出され、主軸方向Ｎ－67°－Ｅであり、全長39㎝、最大幅57㎝、焚口部

幅54㎝を測る。　重複　H－11・13、P－11・14・15、D－17と重複し、新旧関係はH－13→本遺構→H－11→P－11・14・15・D－17の順である。　時期　不明　出土遺物総数36点、土師器片30点、須恵器片６点が検出された。

（3）溝　跡

W－１号溝跡

位置　X257・258、Y44グリッド　方位　東壁よりN－80°－Eの方向で西へ進む。形状等　断面はU字形を呈し、上幅70～52㎝、下幅37～24㎝、深さ14～3.5㎝、長さ4.92mを測る。　時期　埋土から、近世の溝跡と思われる。　出土遺物　総数５点、土師器片４点、須恵器片１点が検出された。

W－２号溝跡（Fig.33、PL.12）

位置　X257・258、Y46～48グリッド　方位　東壁よりN－92°－Eの方向で西へ1.72m進み、そこからN－５°－Eの方向で南へ7.55m進み、D－12にぶつかり、消滅する。　形状等　断面はU字形を呈し、上幅34～19㎝、下幅21～９㎝、深さ20～13㎝、長さ（9.27）mを測る。　重複　H－５・６、T－１、D－９・12と重複し、H－５・T－１→H－６→本遺構→D－９・12の順である。　時期　埋土にAS-B軽石が多量に含まれていることから、AS-B軽石降下後はやい時期に埋没した溝跡と考えられる。　出土遺物　総数51点、土師器片36点、須恵器片15点が検出された。

4　土　坑・柱　穴・井戸跡

Tab.15　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　土坑等計測表を参照のこと。

5　グリッド等出土遺物

総数1,192点、土師器片732点、須恵器片381点、灰釉陶器片52点、陶磁器片８点、瓦片８点、縄文土器片６点、鉄器片２点、鉄滓３点が検出された。

Tab.11　総社甲稲荷塚大道西遺跡B区　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			面積	主軸方向	竈	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高	(㎡)		位置	土師器	須恵器	その他
H－15	X258・259、Y39・40	4.16	(4.66)	0.39	(17.48)	(N－87°－E)	[東壁南寄り]	甕	坏	
H－16	X259・260、Y39	2.80	(2.16)	0.31	(4.87)	(N－102°－E)	[東壁南寄り]			
H－17	X257・258、Y39	4.40	(3.48)	0.43	(12.99)	(N－93°－E)	[東壁南寄り]		高台椀	

Tab.12　総社甲稲荷塚大道西遺跡B区　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	備考(構築材等)
H－15	N－89°－E	72	40	22	袖石
H－16	N－107°－E	64	60	40	支脚石
H－17	N－90°－E	86	70	38	袖石

Tab.13　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	備考(構築材等)
H－1	N－113°－E	118	92	58	天井石、支脚石、両袖石
H－5	N－88°－E	60	42	24	
H－6	N－145°－E	70	42	21	瓦、凝灰岩
H－8	N－114°－E	62	56	36	支脚石、両袖石
H－10	N－96°－E	146	50	34	
H－13	N－10°－W	114	75	35	天井石、支脚石、両袖石
H－14	N－110°－E	62	54	22	
H－17	N－104°－E	166	81	40	支脚石
H－18	N－114°－E	57	49	32	
H－19	N－107°－E	58	70	48	天井石、両袖石、瓦
H－21	N－101°－E	54	63	41	支脚石、袖石
H－22	N－109°－E	88	74	40	
H－23	N－111°－E	106	52	43	天井石、支脚石、袖石
H－29	N－123°－E	52	48	28	袖石

Tab.14　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積	主軸方向	竈	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高	(㎡)		位置	土師器	須恵器	その他
H－1	X256~268、Y43~45	4.02	4.44	0.40	(15.40)	N－114°－E	東壁中央南寄り		羽釜、高台椀、坏	高台椀 釘
H－2	X257・258、Y43・44	(0.96)	(3.02)	0.21	(1.36)	(N－19°－E)	—		高台椀	
H－3	X257・258、Y43・44	(3.94)	(3.22)	0.33	(7.33)	(N－113°－E)	—		高台椀	椀
H－4	X257・258、Y43	(3.60)	(2.32)	0.20	(6.99)	(N－85°－E)	—		羽釜、高台椀、坏	椀、皿
H－5	X257　、Y46・47	2.40	[3.90]	0.19	[7.52]	[N－103°－E]	東壁南寄り		坏	長頸壺
H－6	X256・257、Y46・47	(3.35)	3.12	0.13	(7.95)	(N－161°－E)	(南壁)		坏	
H－7	X256・257、Y48・49	(1.86)	2.80	0.21	(3.94)	(N－20°－E)	—		高台椀	
H－8	X257　、Y48・49	3.36	4.14	0.36	12.62	N－106°－E	東壁南東隅	甕、壺	羽釜、高台椀	紡錘車
H－9	X257・258、Y48・49	(1.48)	(3.30)	0.13	(2.84)	(N－16°－E)	—		坏	
H－10	X256・257、Y49・50	(2.05)	[2.89]	0.26	(5.82)	(N－92°－E)	[東壁南寄り]		坏	
H－11	X257・258、Y49・50	(3.66)	(3.08)	0.20	(8.93)	(N－95°－E)	—		椀	
H－12	X257・258、Y50・51	(1.14)	(2.50)	0.29	(1.67)	(N－14°－E)	—	坏		
H－13	X257・258、Y49~51	(3.93)	4.67	0.55	(16.36)	(N－12°－W)	(北壁)	ｺﾂﾈ、壺、甕、高坏、坏、ﾐﾆﾁｭｱ		
H－14	X256・257、Y50・51	(2.83)	[3.03]	0.12	(6.88)	(N－105°－E)	[東壁南寄り]			
H－15	X257・258、Y51・52	(2.00)	(2.92)	0.17	(4.85)	(N－10°－E)	—		坏	
H－16	X257・258、Y52・53	(3.18)	(4.70)	0.31	(12.07)	(N－2°－E)	—		坏、カワラケ	
H－17	X256・257、Y53・54	[1.78]	[3.04]	[0.48]	[5.43]	(N－104°－E)	[東壁中央]		椀、坏	
H－18	X256・257、Y53・54	2.77	3.23	0.67	8.20	(N－99°－E)	東壁南東隅		高台椀	砥石
H－19	X258・259、Y54・55	(3.78)	(4.18)	0.41	(11.67)	(N－112°－E)	東壁南寄り	ミニチュア	羽釜、壺、高台椀、椀、坏、高台皿	
H－20	X258・259、Y53	(2.98)	(1.54)	0.30	(2.60)	(N－112°－E)	—		高台椀	
H－21	X258・259、Y53・54	5.18	(2.50)	0.17	(11.52)	(N－95°－E)	(東壁)		椀、坏	釘
H－22	X258・259、Y54	3.20	[3.30]	0.26	[8.63]	(N－105°－E)	[東壁南寄り]		高台椀	椀、皿、紡錘車
H－23	X258・259、Y54・55	2.37	(2.64)	0.41	(4.83)	(N－116°－E)	[東壁中央]		坏	椀
H－24	X259・260、Y54・55	(3.34)	(2.76)	0.30	(6.58)	(N－110°－E)	—		坏	
H－25	X259・260、Y54・55	4.30	(3.74)	0.08	(12.67)	(N－62°－E)	—			
H－26	X260　、Y54・55	(1.57)	(2.95)	0.09	(3.02)	(N－172°－E)	—			皿
H－27	X260　、Y55	(1.50)	(1.62)	0.10	(1.13)	(N－43°－E)	—			
H－28	X260　、Y54・55	—	(2.63)	0.02	—	—	—			
H－29	X262　、Y53・54	(2.37)	(3.16)	0.15	(5.10)	(N－121°－E)	東壁中央		坏	

Tab.15　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　土坑等計測表

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な出土遺物
D－1	X258　、Y45	50	(26)	(13)	(楕円形)	0	
D－2	X257・258、Y45	42	30	12	楕円形	0	
D－3	X257　、Y45	64	55	6	円　形	0	
D－4	X257　、Y45	69	59	11	円　形	0	
D－5	X257　、Y45	57	55	9	円　形	4	
D－6	X256・257、Y45	(88)	(43)	(9)	(円形)	0	
D－7	X258　、Y45	(44)	(39)	(16.5)	(楕円形)	0	
D－8	X258　、Y45・46	49	35	10.5	楕円形	0	
D－9	X257・258、Y46	95	87	28.5	円　形	2	
D－10	X257・258、Y47・48	92	82	18	円　形	2	
D－11	X256　、Y48	(67)	(26)	(40.5)	(楕円形)	0	
D－12	X257　、Y48	114	104	17.5	円　形	5	
D－13	X256　、Y48	(82)	(25)	(44)	(楕円形)	6	
D－14	X257　、Y49	87	50	13.5	楕円形	0	
D－15	X256・257、Y50	(188)	(170)	(65)	(長方形)	2	銅製平鉢
D－16	X256　、Y50	(107)	(30)	(27)	不　明	0	
D－17	X257　、Y50	100	95	16	円　形	18	
D－18	X257　、Y51	96	[94]	54	円　形	57	
D－19	X257　、Y51	120	115	48.5	円　形	75	
D－20	X257　、Y52	90	85	25.5	円　形	0	
D－21	X257　、Y52	94	90	28	円　形	23	
D－22	X257・258、Y52	91	89	26	円　形	27	
D－23	X259　、Y54	64	54	28	円　形	1	
P－1	X258　、Y44・45	24	21	11.5	長方形	0	
P－2	X257　、Y46	35	28	16.5	楕円形	0	
P－3	X257　、Y48	33	30	21	円　形	0	
P－4	X257　、Y48	31	29	10.5	円　形	0	
P－5	X257　、Y49	37	35	6	円　形	0	
P－6	X257　、Y49	46	43	22	円　形	0	

Tab.15　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　土坑等計測表

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物総数	主な出土遺物
P－7	X257　、Y49	32	27	24．5	円　形	0	
P－8	X257　、Y49	20	17	12	長方形	0	
P－9	X257　、Y49	23	22	10	円　形	0	
P－10	X257　、Y49・50	25	20	17	円　形	0	
P－11	X257　、Y50	32	28	31	円　形	0	
P－12	X256　、Y50	34	(30)	(33.5)	(円　形)	0	
P－13	X256　、Y50	(46)	44	(11.5)	(楕円形)	0	
P－14	X257　、Y50	41	35	32．5	円　形	1	
P－15	X257　、Y50	28	27	17	円　形	0	
P－16	X257　、Y50	29	28	9．5	円　形	0	
P－17	X257　、Y50	23	14	5．5	長方形	0	
P－18	X257　、Y50	27	22	13	円　形	0	
P－19	X257　、Y50・51	42	41	14．5	円　形	0	
P－20	X257　、Y50	31	30	21	円　形	24	
P－21	X257　、Y51	31	26	15．5	円　形	2	
P－22	X257　、Y51	36	35	20	円　形	1	
P－23	X257　、Y51	27	24	22	円　形	0	
P－24	X257　、Y51	44	31	15	楕円形	0	
P－25	X257　、Y51	28	24	30．5	円　形	1	
P－26	X257　、Y51	33	26	7	円　形	0	
P－27	X257　、Y51	37	34	6	円　形	5	
P－28	X257　、Y51	46	39	24	円　形	3	
P－29	X257　、Y51	46	33	46	楕円形	0	
P－30	X257　、Y52	34	28	35	円　形	0	
P－31	X257　、Y52	23	17	4	円　形	0	
P－32	X257　、Y52	46	35	8	台　形	3	
P－33	X257　、Y52・53	33	25	14	長方形	0	
P－34	X259　、Y55	33	27	10．5	円　形	0	
I－1	X256・257、Y47	165	(132)	(120.5)	(円　形)	0	(土) 坏 (他) 鎌

Tab.16　総社甲稲荷塚大道西遺跡B区・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡　出土遺物観察表

番号	遺構 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
総社甲稲荷塚大道西遺跡　B区						
1	H−15 床直	甕 床直	① [24.0] ②（4.5）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④−	口縁部：外反、横撫で。端部に沈線が巡る。頸部に輪積み痕有。胴・底部：欠損。	
2	H−15 床直	坏 須恵器	① [13.0] ② 3.5	①細粒②良好 ③赤灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾で口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転篦切り。	
3	H−17 床直	高台椀 須恵器	① 11.0 ③ 4.5	①細粒②良好③にぶい褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部からやや肥厚した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く三角形。轆轤撫で。	内黒土器
4	H−17 埋土	高台椀 須恵器	① [14.8] ②（5.1）	①細粒②良好 ③明褐灰色④1/5	轆轤整形。体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	内黒土器 内面に漆
5	グリッド 埋土	臼玉 石製品	①直 径 0.6 ②最大厚（0.4） ③重 さ 0.2 ④石 材 滑石		小さく、雑な作り。	
6	グリッド 埋土	臼玉 石製品	①直 径 0.7 ②最大厚（0.2） ③重 さ 0.2 ③石 材 滑石		小さく、雑な作り。	
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡						
1	H−1 竈、床直	羽釜 須恵器	① [25.2] ②（16.5）	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④−	轆轤整形。口縁部：直立、轆轤撫で。先端部が肥厚し巡る。鍔部に器最大径。胴部：上位に胴最大径、轆轤撫で。下半ほぼ欠損。縦篦削り。底部：欠損。	
2	H−1 竈、床直	高台椀 須恵器	① 15.0 ②（5.1）	①中粒②良好 ③にぶい褐色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：ほぼ欠損。	
3	H−1 埋土	高台椀 須恵器	① 12.8 ②（4.0）	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾した体部からわずかに外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：欠損。	内黒土器
4	H−1 竈、床直	高台椀 須恵器	① 12.0 ② 4.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外傾、轆轤撫で。	
5	H−1 床直	高台椀 須恵器	① 11.2 ② 4.0	①中粒②良好 ③橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。部：回転糸切り付け高台。高台部：轆轤撫で。	内黒土器
6	H−1 竈、埋土	高台椀 須恵器	① [12.2] ② 6.0	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から短く外反する口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外傾し、轆轤撫で。	
7	H−1 埋土	高台椀 灰 釉	① [11.2] ② 4.5	①細粒②極良③明オリーブ灰色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：欠損。高台部：やや外傾、轆轤撫で。	刷毛塗り
8	H−1 竈、床直	坏 須恵器	① 12.2 ② 3.8	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から短く外反した口縁部に至る。底部：内側に出っ張っている平底、回転糸切り未調整。	
9	H−1 埋土	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.5	①中粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から肥厚した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
10	H−1 床直	坏 須恵器	① [13.2] ② 4.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り周辺部篦調整。	
11	H−1 (P-1)	紡錘車 鉄製品	①最 長（29.5） ②最大幅 0.6 ③最大厚 0.6 ④遺存度 1/2		紡錘車の軸になると思われる。	
12	H−2 床直	高台椀 須恵器	① [15.2] ② 5.6	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した肥厚な口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外傾、轆轤撫で。	
13	H−3 床直	高台椀 須恵器	① 12.0 ② 4.5	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	
14	H−3 床直	高台椀 灰 釉	① [13.6] ② 3.7	①細粒②極良 ③灰白色④1/6	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から剣先形の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	刷毛塗り
15	H−4 埋土	羽釜 須恵器	① [24.4] ② (10.5)	①中粒②良好 ③灰黄色④−	轆轤整形。口縁部：内傾、轆轤撫で。鍔部に器最大径、上方から水平方向。胴部：上半轆轤撫で。下半欠損。底部：欠損。	
16	H−4 床直	高台椀 須恵器	① [14.0] ② 5.5	①中粒②良好 ③浅黄色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや長く外傾、轆轤撫で。	
17	H−4 床直	高台椀 須恵器	① [11.4] ② 5.7	①中粒②良好 ③明赤褐色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外傾の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	
18	H−4 竈、埋土	高台椀 灰 釉	① [15.2] ② 4.9	①細粒②極良 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から短く外反する口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	刷毛塗り
19	H−4 埋土	高台椀 灰 釉	① [12.4] ② 4.0	①細粒②極良 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：内彎気味の体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	刷毛塗り
20	H−4 床直	坏 須恵器	① [11.8] ② 3.4	①細粒②良好 ③灰白色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
21	H−4 床直	坏 須恵器	① [12.0] ② 3.8	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外傾した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
22	H−4 竈、埋土	坏 須恵器	① 11.8 ③ 3.7	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部からやや内彎気味の剣先形の口縁部に至る。底部：回転糸切り未調整。	雑な作り
23	H−4 床直	高台皿 灰 釉	① 12.6 ② 2.5	①細粒②極良 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から短く外反する口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	刷毛塗り

Tab.16　総社甲稲荷塚大道西遺跡B区・総社甲稲荷塚大道西II遺跡　出土遺物観察表

番号	遺構 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
24	H－5 床直	長頸壺 灰釉	①　－ ②（8.5）	①細粒②極良③明オリーブ灰色④－	轆轤整形。口縁部：欠損。頸部：直立からやや外傾気味、轆轤撫で。体・底部：欠損。	
25	H－5 床直	坏 須恵器	①　12.0 ②　4.3	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。指圧痕多数有。底部：篦切り。	
26	H－6 床直	坏 須恵器	①［12.8］ ②　4.7	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
27	H－6 埋土	坏 須恵器	①［12.8］ ②　4.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
28	H－7 埋土	高台椀 須恵器	①［13.2］ ②　5.7	①中粒②良好③明オリーブ灰色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から短く外反気味の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く直立。	
29	H－7 床直	高台椀 須恵器	①［13.6］ ②　5.1	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から短く外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く直立。	
30	H－7 床直	高台椀 須恵器	①［13.2］ ②　5.4	①中粒②良好③明オリーブ灰色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部からやや外反した肥厚の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く直立。	
31	H－8 埋土	甕 土師器	①　25.4 ②（7.0）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④－	口縁部：外反気味に広く開く、撫で。外面篦削り痕有。胴部・底部：欠損。	
32	H－8 竈、床直	羽釜 須恵器	①［28.0］ ②（22.0）	①細粒②良好③にぶい褐色④－	轆轤整形。口縁部：内傾、轆轤撫で。鍔部に器最大径、体部との接合痕が内側に有。体部：上半に胴部最大径、外面篦削り。内面篦撫で。底部：欠損。	
33	H－8 竈、床直	土釜 土師器	①［18.8］ ②　14.7	①中粒②良好③にぶい橙色④1/2弱	口縁部：短く外反、撫で。内側に体部との接合痕有。体部：上位に器最大径。外面篦削り、輪積み痕有。内面篦撫で。底部：平底、篦削り。	
34	H－8 埋土	高台椀 須恵器	①　15.8 ②　6.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	
35	H－8 埋土	紡錘車 石製品	①最　長（3.0）　②最大幅 4.7　③最大厚 1.6 ④重　さ 33.8　⑤遺存度 1/2強　⑥石　材 頁岩		断面台形状。上径・下径面ともに平坦。側面は滑らか。	
36	H－8 床直	丸　瓦	①胎　土 細粒　②焼　成 良好　③色　調 灰黄色　④厚　さ 1.6 ⑤外　面 縄叩き後撫で　⑥内　面 布目痕　⑦遺存度 2/3			
37	H－8 床直	平　瓦	①胎　土 細粒　②焼　成 良好　③色　調 灰褐色　④厚　さ 2.2 ⑤外　面 布目痕　⑥内　面 縄叩き　⑦遺存度 1/2			
38	H－9 埋土	坏 須恵器	①　15.0 ②　4.5	①細粒②良好 ③にぶい橙色④7/8	轆轤整形。口縁・体部：二段気味に外傾した体部からやや外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
39	H－9 埋土	坏 須恵器	①　12.6 ②　3.8	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：二段気味に外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
40	H－9 埋土	坏 須恵器	①　15.0 ②　4.4	①中粒②良好 ③明黄褐色④5/6	轆轤整形。口縁・体部：二段気味に外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
41	H－9	平　瓦	①胎　土 中粒　②焼　成 良好　③色　調 緑灰色　④最大厚 1.8 ⑤外　面 布目痕　⑥内　面 撫で　⑦遺存度 1/2		『大』篦書き。	
42	H－10 埋土	坏 土師器	①［14.0］ ②（5.5）	①細粒②良好 ③橙色④1/8	口縁部：直立。横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で。	
43	欠　番					
44	欠　番					
45	H－11 埋土	高台椀 須恵器	①　12.2 ②　4.5	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反気味の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	
46	H－12 埋土	坏 土師器	①［13.2］ ②　5.6	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁部：直立、横撫で。交換点に弱い稜有。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で。	
47	H－13 床直	甕 土師器	①［25.0］ ②　24.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：外傾、横撫で。胴部：上位に胴部最大径、外面篦削り。内面撫で。底部：突出底、篦削り。	
48	H－13 床直	甑 土師器	①　21.6 ②　25.5	①細粒②良好 ③赤橙色④7/8	口縁部：外傾、横撫で。胴部：中位に胴部最大径、外面上位縦篦削り、下半斜篦削り、穿孔付近横篦削り。内面上半横篦削り、下半放射線状篦磨き。	甕形 煤付着
49	H－13 床直	甑 土師器	①　13.8 ②　12.1	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	口縁部：やや外傾、横撫で。体部：外面篦削り、交換点に指圧痕有。内面撫 で。	壺形
50	H－13 竈、埋土	甑 土師器	①　15.4 ②　6.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：外斜口辺、横撫で。体部：丸底、内面撫で後、上半放射線状篦磨き。外面篦削り。	坏を転用 暗文土器
51	H－13 床直	壺 土師器	①　12.2 ②（13.6）	①中粒②不良 ③橙色④7/8	口縁部：短く外傾、横撫で。交換点に輪積み痕有。体部：上半に器最大径、縦篦削り。内面撫で。底部：平底、外面篦削り。内面撫で。	
52	H－13 床直	壺 土師器	①［ 7.8］ ②　9.1	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：短く直立、横撫で。体部：中位に器最大径、外面篦磨き。内面撫で。底部：平底、外面篦削り。内面撫で。	
53	H－13 床直	高　坏 土師器	①　20.6 ②　12.6	①細粒②良好 ③橙色④3/4	坏部：外傾した体部から口縁部に至る。外面篦削り。内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。台部：外反気味に広がる。外面縦篦磨き。内面篦撫で。	暗文土器
54	H－13 竈、床直	高　坏 土師器	①　14.4 ②　8.8	①粗粒②不良 ③黄橙色④3/4	坏部：内彎した体部から短く外斜口辺の口縁部に至る。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後上半放射線状篦磨き。台部：大きく開く、外面縦篦磨き。接合部に調整痕が巡る。内面篦削り。	暗文土器

番号	遺構層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
55	H−13 床直	高坏 土師器	① 12.0 ② 9.0	①中粒②不良 ③橙色④4/5	坏部：内彎した体部から内彎気味の口縁部に至る。口縁部横撫で。体部外面横篦削り、内面撫で後上半放射線状篦磨き。台部：撫で。	暗文土器
56	H−13 竈、床直	高坏 土師器	① 12.0 ② (6.8)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	坏部：内彎した体部から口縁部に至る。外面篦削り。内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。台部：ほぼ欠損。	暗文土器
57	H−13 床直	坏 須恵器	① − ② (9.5)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	坏部：ほぼ欠損。台部：外面縦篦削り、内面篦撫で。裾部横撫で。	
58	H−13 竈、床直	壺 土師器	① 10.6 ② 6.9	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：短く内彎、横撫で。体部：外面篦削り。内面撫で。底部：平底、外面篦削り。内面撫で。	
59	H−13 埋土	坏 土師器	① 15.4 ② 6.8	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁部：外斜口辺、内面篦調整。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で後、上半部分的に放射線状篦磨き残る。	暗文土器
60	H−13 床直	坏 土師器	① 15.0 ② 8.6	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：外斜口辺、内面篦調整。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で、上半篦磨き。	暗文土器
61	H−13 埋土	坏 土師器	① 12.0 ② 6.9	①中粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：外斜口辺、横撫で。底部：丸底、内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。外面篦削り、上位に篦磨き。内面撫で後、上半放射線状に篦磨き	暗文土器 煤付着
62	H−13 床直	坏 土師器	① [13.4] ② 7.1	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：直立、横撫で。交換点に稜有。底部：外面篦削り、内面撫で。	
63	H−13 床直	坏 土師器	① [12.8] ② (6.0)	①細粒②良好 ③橙色④2/5	口縁部：外傾、横撫で。底部：交換点に稜有。外面篦削り。内面撫で。	
64	H−13 埋土	坏 土師器	① [13.0] ② 5.2	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/5	口縁部：わずかに外傾、横撫で。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で。	
65	H−13 床直	坏 土師器	① 10.4 ② (4.5)	①細粒②良好 ③赤橙色④2/3	口縁部：直立、横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、外面篦削り。内面撫で。	小形
66	H−13 床直	手捏ね 土師器	① [9.0] ② 6.2	①中粒②不良 ③浅黄色④1/2	口縁部：直立、撫で。体部：外面篦削り。内面撫で。底部：突出底、篦削り。	
67	H−13 床直	管玉 石製品	①最長 1.8 ②最大幅 0.6 ③最大厚 0.5 ④重さ 1.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 碧玉			
68	H−13 床直	管玉 石製品	①最長 2.7 ②最大幅 0.7 ③最大厚 0.6 ④重さ 2.2 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 碧玉			
69	H−13 床直	管玉 石製品	①最長 1.7 ②最大幅 0.7 ③最大厚 0.6 ④重さ 1.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 碧玉			
70	H−15 埋土	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.5	①中粒②良好 ③淡黄色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。交換点に調整痕が巡る。底部：回転糸切り未調整、内面轆轤調整痕有。	
71	H−16 床直	坏 須恵器	① 10.4 ② 3.5	①細粒②良好 ③明褐灰色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外傾の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
72	H−16 埋土	坏 須恵器	① [11.4] ② 3.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。交換点に調整痕が巡る。底部：回転糸切り未調整。	
73	H−16 埋土	坏 須恵器	① [19.6] ② 3.3	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：内彎の体部から短く外傾する口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
74	H−16 埋土	ｶﾜﾗｹ 須恵器	① 9.8 ② 2.6	①細粒②良好 ③淡赤橙色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
75	H−17 床直	高台椀 須恵器	① [9.8] ② 4.3	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。椀部：彎曲した体部から外傾の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。接合点に調整痕残る。	
76	H−17 埋土	坏 須恵器	① 9.6 ② 2.8	①中粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外傾の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	小形
77	H−17 埋土	坏 須恵器	① 10.4 ② 2.3	①細粒②良好 ③黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反気味の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面中央が膨らみ雑な作り。	
78	H−17 埋土	平瓦	①胎土 中粒 ②焼成 良好 ③色調 青灰色 ④厚さ 1.6 ⑤外面 布目痕 ⑥内面 撫で ⑦遺存度 −		『艮』篦書き。	
79	H−18 埋土	羽釜 須恵器	①[20.6] ② (10.8)	①細粒②良好③明オリーブ灰色④−	轆轤整形。口縁部：短く内傾、轆轤撫で。鍔部器最大径。胴部：上位胴部最大径。轆轤撫で。	わずかに遺存
80	H−18 床直	高台椀 須恵器	① 13.0 ② 4.8	①中粒②良好 ③灰褐色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	
81	H−18 床直	砥石 石製品	①最長 12.9 ②最大幅 4.6 ③最大厚 3.1 ④重さ 260.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 粘板岩			
82	H−19 床直	甕 須恵器	① 19.6 ② (12.8)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	轆轤整形。口縁部：短く外傾、轆轤撫で。胴部：下半欠損。上半胴部最大径、轆轤撫で。	
83	H−19 竈、床直	壺 須恵器	① 12.0 ② 12.3	①細粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。口縁部：外傾、轆轤撫で。胴部：中位に器最大径、外面轆轤撫で。内面撫で。底部：回転糸切り未調整。	
84	H−19 床直	高台椀 須恵器	① 15.0 ② (5.8)	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲から外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：ほぼ欠損、外傾と推測、轆轤撫で。	

番号	遺構 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
85	H－19 埋土	高台椀 灰釉	① [11.7] ② 4.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。椀部：彎曲して立ち上がり外傾する体部からやや肥厚した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。ほぼ欠損。	
86	H－19 埋土	坏 須恵器	① 10.8 ② 2.3	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面中央が膨らみ雑な作り。	小形
87	H－19 埋土	坏 須恵器	① 11.4 ② 4.4	①細粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外傾の口縁部に至る。轆轤撫で。二段気味で雑な作り。底部：回転糸切り未調整。	
88	H－19 埋土	高台皿 須恵器	① 12.4 ② 3.3	①細粒②良好 ③浅黄橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾、轆轤撫で。	
89	H－19 埋土	ミニチュア 土師器	① 3.4 ② 2.1	①中粒②不良 ③にぶい褐色④完形		
90	H－20 埋土	高台椀 須恵器	① [14.8] ② 6.8	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から肥薄になる口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く、大きく開く。轆轤撫で。	
91	H－21 床直	高台椀 須恵器	① [11.8] ② 4.9	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から肥薄した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	
92	H－21 床直	高台椀 灰釉	① [15.8] ② 5.3	①細粒②極良 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外反、轆轤撫で。接合点に篦調整痕が巡る。	漬けがけ
93	H－21 床直	坏 須恵器	① [17.0] ② 4.8	①中粒②良好 ③灰白色④2/5	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：篦切り。	
94	H－21 床直	坏 須恵器	① [12.0] ② 4.6	①細粒②良好 ③灰白色④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から肥厚した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
95	H－21 床直	坏 須恵器	① 11.2 ② 3.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	小形
96	H－21 床直	鎌 鉄製品	①最 長 (7.3) ②最大幅 2.8 ③最大厚 0.3 ④遺存度 1/3			
97	H－21 床直	平 瓦	①胎 土 中粒 ②焼 成 良好 ③色 調 灰色 ④最大厚 2.2 ⑤外 面 撫で ⑥内 面 撫で ⑦遺存度 －		内面に格子状の叩き痕有。	
98	H－22 埋土	高台椀 須恵器	① [12.4] ② 4.7	①細粒②良好 ③灰白色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：わずかに短く外傾に開く。	
99	H－22 埋土	高台椀 灰釉	① [15.6] ② 5.2	①細粒②極良 ③灰白色④1/6	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から肥薄した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外反、轆轤撫で。	三日月高台
100	H－22 床直	高台皿 灰釉	① [12.4] ② 2.4	①細粒②極良 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く直立。	刷毛塗り
101	H－22 埋土	紡錘車 石製品	①最 長 (3.2) ②最大幅 5.2 ③最大厚 1.3 ④重 さ 14.6 ⑤遺存度 1/2 ⑥石 材 軽石			
102	H－23 埋土	高台椀 灰釉	① [12.6] ② 4.8	①細粒②極良 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、轆轤撫で。	漬けがけ
103	H－24 埋土	坏 須恵器	① [13.0] ② 4.0	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：手持ち篦切り。	
104	H－25 埋土	坏 土師器	① [13.0] ② (5.0)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/8	口縁部：直立、横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、外面篦削り。内面撫で。	
105	H－26 埋土	高台皿 灰釉	① [12.0] ② 2.3	①細粒②極良 ③灰白色④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台、高台部：直立、轆轤撫で。	
106	H－26 埋土	坏 須恵器	① 11.2 ② 3.6	①細粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	漬けがけ
107	H－29 床直	丸 瓦	①胎 土 中粒 ②焼 成 良好 ③色 調 オリーブ灰色 ④厚 さ 1.9 ⑤外 面 撫で ⑥内 面 布目痕 ⑦遺存度 3/4			
108	H－29 床直	丸 瓦	①胎 土 中粒 ②焼 成 良好 ③色 調 浅黄色 ④厚 さ 1.6 ⑤外 面 撫で ⑥内 面 布目痕 ⑦遺存度 1/3			
109	D－15	平 鉢 銅製品	①口径 [32.0] ②器 高 (9.2) ③器肉厚 0.1 ④色調 暗青灰色 ④遺存度 －		口縁部：折り返し有。体部：垂直に立ち上がる。底部：平底と推測される。	
110	I－1 埋土	坏 土師器	① [13.4] ② (4.8)	①細粒②良好 ③にぶい橙色 ④1/8	口縁部：直立、横撫で。内面放射状に篦磨き有。底部：欠損。	流れ込み
111	I－1 埋土	鎌 鉄製品	①最 長 (9.5) ②最大幅 2.5 ③最大厚 0.4 ④遺存度 1/3			

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Ⅵ　考　　察

総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡、総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区と総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡の３つの調査区になる。今までに国府の推定線には諸説あるが、本年度調査を行った調査区はどれも推定線の外側にあたる。また、３遺跡は南北約425m、東西約125mの範囲内にある。調査区ごとの特徴としては、総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区と総社閑泉明神北Ⅱ遺跡の２遺跡は調査区全体や竪穴住居跡の埋土等にAs-B軽石を含む川砂が多量に混じる土層があり、また、10世紀代同時期での竪穴住居跡間の重複が著しいことから、このころ河川の氾濫がしばしば起こり竪穴住居が短い期間で立て替えされていることが分かる。また、この３調査区は竪穴住居跡の検出される密度が濃いことには間違いないが、竪穴住居跡が一軒検出されると重複して同時期の竪穴住居跡が検出されること、検出されないと中世以降の土坑は検出されるが竪穴住居跡が全く検出されないことがある。当時の集落内においても、土地利用の規制があり、定められた範囲の部分での立て替えが繰り返された結果とみるのが妥当であろうと思われる。

その他には特に調査区ごとの特徴は見つからなかったので、すべての調査区を総合的にⅠ期（～７世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～、律令期以後）に分けて、集落を中心に考察する。それは、本遺跡が推定国府域と隣接することから律令制の充実、衰退の時期を考えての分類である。

Ⅰ　期（～７世紀前半）

古墳時代以前については、おもに竪穴住居跡埋土から縄文土器片が検出されたが、縄文時代の遺構の検出がなかったこと、近くを牛池川が流れており過去氾濫したこと、調査区土層に河川の氾濫と思われる川砂を多く含んだ層が厚くあることから、牛池川上流の縄文時代の集落からの流れ込みによるものと考えられる。牛池川上流には上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、清里南部遺跡群、熊野谷遺跡、下東西遺跡、北原遺跡等で縄文時代の遺構が確認されている。また、出土した縄文土器の割れ口の磨滅が激しいことから遠くの集落から流れてきたことや度重なる河川の氾濫が原因として考えられる。

Ⅰ期に属する竪穴住居跡としては、古墳時代中期（５世紀代）の竪穴住居跡４軒、古墳時代後期（６世紀代）の竪穴住居跡４軒の計８軒が検出された。この時期の竪穴住居跡は調査区全体の竪穴住居跡の15％と割合が小さい。(Tab.17) 国府成立前には、この周辺には大きな集落は形成されていなかったか、今回の調査区の周辺に存在したのかと思われる。来年度以降のこの地区での調査の結果が待たれる。

竪穴住居跡の特徴をみてみると、その多くは地山である総社砂層または総社砂層相当層まで掘り込んで構築されており、後世の竪穴住居跡と比較すると整美な形状を示している。調査区が限られており竪穴住居跡の完掘はできていないが事例から四本柱が推測される。規模は、確認できたものは一辺が4.30mから5.34mである。(Tab.18, Fig.7) また、四角に深く掘り込んだ貯蔵穴も検出されている。竈については北竈、西竈、東竈とバラエティーにとんでおり、構築材には白色粘土、黒褐色土、焚口部は正確に裁断された凝灰岩の架構材と袖石が使用されていた。支脚石も使用されていた。(Tab.18) 竪穴住居跡の主軸方向もN-27°-WからN-92°-Eと他の２時期より幅が広い。(Fig.6)

Ⅱ　期（７世紀後半～10世紀初頭）

Ⅱ期の竪穴住居跡としては、古墳時代終末期（７世紀代）の竪穴住居跡はなく、奈良時

代（８世紀代）の竪穴住居跡８軒、平安時代前期（９世紀）の竪穴住居跡４軒が検出される。この時期の竪穴住居跡は全体の23％と、Ⅰ期と比べると割合がやや高くなる。

奈良時代の竪穴住居跡の特徴をみてみると、確認できたもので規模が一辺2.34mから4.16mの間で古墳時代より小型化してきていることが分かる。また、竈については東壁南寄りより検出され、構築材としては黒褐色土、黒褐色土とロームの混土、焚口部は凝灰岩の架構材・袖石が使用されていた。竪穴住居跡の主軸方向はN-74°-EからN-90°-Eと集中する傾向をみせ、古墳時代と違い画一化されてくる様相がみてとれる。

平安時代前半（９世紀後半）の竪穴住居跡の特徴をみてみると、確認できたもので規模が一辺2.37mから2.80mで奈良時代よりさらに小型化・画一化してくることが分かる。また、竈については東竈が定着し、竪穴住居跡の主軸方向はN-110°-EからN-116°-Eとより幅が狭く、より画一化されてくることが分かる。

Ⅲ　期（10世紀前半～）

律令期後の竪穴住居跡としては、平安時代前半（10世紀代）の竪穴住居跡23軒、平安時代後半（10世紀終末以降）の竪穴住居跡10軒が検出された。この時期の竪穴住居跡は全体の62％とその割合が急激に増加し、この遺跡の最盛期を迎える。集落範囲が拡大し急激に人口が増加してくるのは国府の機能が弱まると共に周辺の規制が緩和されてくるためであろうか。

10世紀代の竪穴住居跡の特徴をみてみると、確認できたもので規模が一辺2.80mから5.18mと分散傾向が認められる。これは集落構成に変化が出てきたのか対象軒数が増加したことによるものか明らかにしがたい。また、竈については、一軒を除いてやはり東竈であり、竪穴住居跡の主軸方向はN-95°-EからN-121°-Eの間で、画一化されていることが分かる。

11世紀代の竪穴住居跡の特徴をみてみると、確認できたもので規模が一辺2.40mから5.99mでバラエティーにとむが、主なものは３m台で画一化されており、大型住居跡の特異性が窺える。また、竈については、すべて東竈で、住居跡の主軸方向はN-87°-EからN-122°-Eの間で、画一化されていることが分かる。

本年度調査した調査区に限って考察を行ってきたが、今後、この地区の調査が行われていく計画がある。今後の調査から分かるデータを蓄積していくことによって、この国府推定線の外に位置する地区の歴史が解明されて行くであろう。

Tab.17　時期別の竪穴住居跡軒数

時　期	世紀	総社甲稲荷塚大道西遺跡		総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	合　計		割合
		A区	B区			世紀	時期	(%)
Ⅰ　期	5			4軒		4軒	8軒	15
	6				4軒	4軒		
	7							
Ⅱ　期	8	3軒	1軒		4軒	8軒	12軒	23
	9				4軒	4軒		
Ⅲ　期	10	1軒	2軒	4軒	16軒	23軒	33軒	62
	11	7軒		2軒	1軒	10軒		

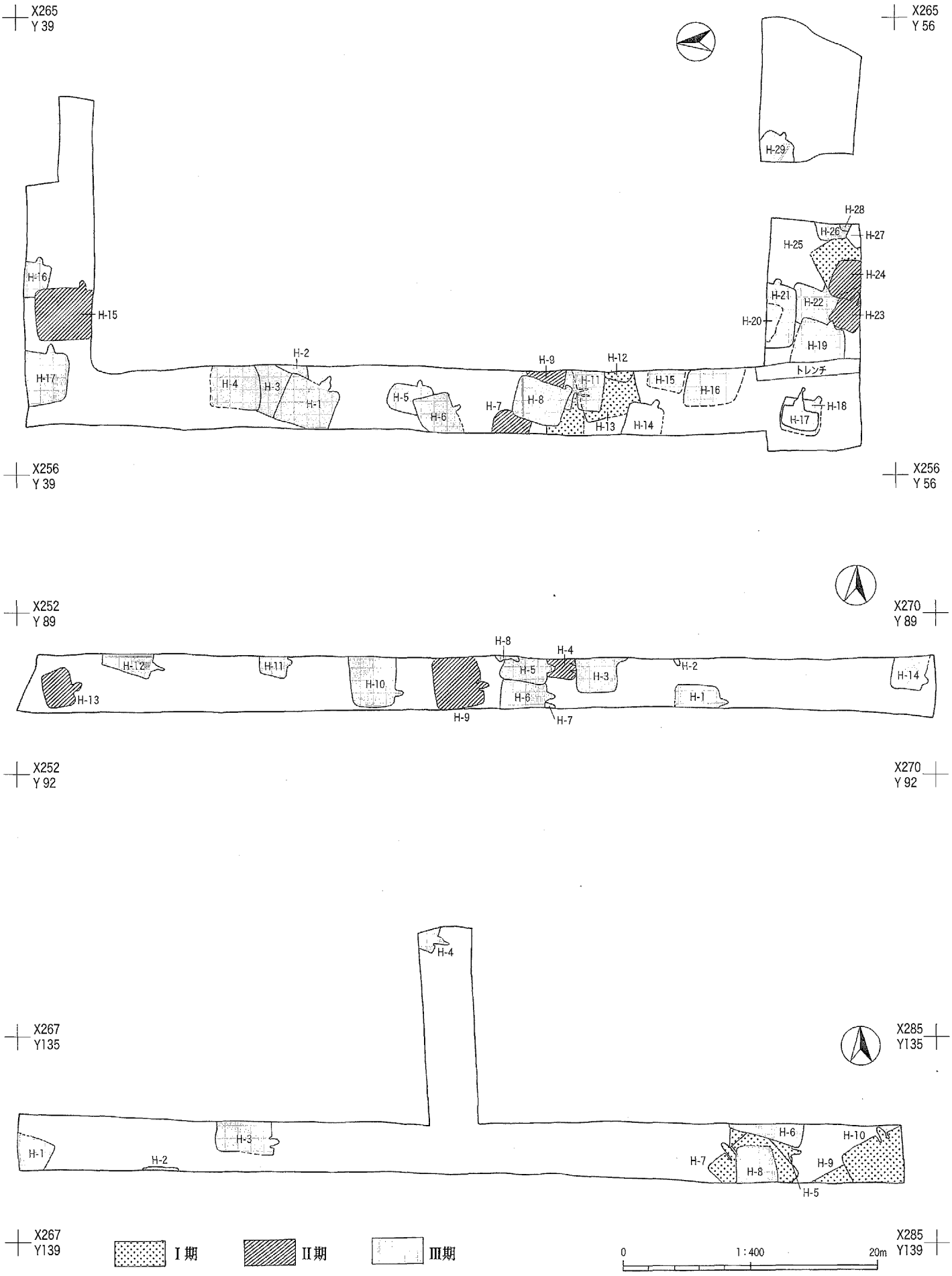


Fig.6　時期別の竪穴住居跡の配置図

Tab.18　時期別の竪穴住居跡の比較

時期	遺跡略称	遺講名	規模(m) 東西	規模(m) 南北	面積 (m^2)	主軸方向	竈 位置	構築材	時期
Ⅰ期	106	H−5	5.22	(4.50)	(18.82)	(N−92°−E)	(東壁中央)		5世紀後半
		H−7	5.34	5.26	(19.10)	(N−40°−E)	西壁中央	支脚石	5世紀後半
		H−9	(2.84)	(1.46)	(2.15)	(N−65°−E)	—		5世紀後半頃
		H−10	(5.31)	(4.21)	(15.04)	(N−27°−W)	北　壁	天井・支脚・両袖石	5世紀後半
	112	H−10	(2.05)	[2.89]	(5.82)	(N−92°−E)	[東壁南寄り]		6世紀前半
		H−12	(1.14)	(2.50)	(1.67)	(N−14°−E)	—		6世紀後半
		H−13	(3.93)	(4.67)	(16.36)	(N−12°−W)	(北　壁)	天井・支脚・両袖石	6世紀初頭
		H−25	4.30	(3.74)	(12.67)	(N−62°−E)	—		6世紀前半
Ⅱ期	105A区	H−4	3.20	(1.76)	(4.58)	(N−90°−E)	(東壁南寄り)		8世紀後半
		H−9	3.76	(3.94)	(13.82)	(N−81°−E)	(東壁南寄り)	天井石・両袖石	8世紀後半
		H−13	[2.48]	2.98	[6.47]	[N−74°−E]	東壁南寄り		8世紀後半
	105B区	H−15	4.16	(4.66)	(17.48)	(N−87°−E)	(東壁南寄り)	袖石	8世紀後半
	112	H−7	(1.86)	2.80	(3.94)	(N−20°−E)	—		9世紀後半
		H−9	(1.48)	(3.30)	(2.84)	(N−16°−E)	—		9世紀後半
		H−23	2.37	(2.64)	(4.83)	(N−116°−E)	東　壁	天井・支脚・両袖石	9世紀後半
		H−24	(3.34)	(2.76)	(6.58)	(N−110°−E)	—		9世紀後半
Ⅲ期	105A区	H−1	3.57	(1.90)	(6.26)	(N−93°−E)	東　壁		10終末から11世紀初頭
		H−3	3.16	(2.84)	(8.55)	(N−87°−E)	東　壁		10終末から11世紀初頭
		H−5	3.67	(2.23)	(6.73)	(N−101°−E)	(東壁やや南寄り)	支脚石	11世紀初頭
		H−6	3.54	(2.52)	(7.77)	(N−97°−E)	東　壁		11世紀代
		H−8	(0.74)	(1.05)	(0.44)	(N−122°−E)	(東壁南東隅寄り)		11世紀初頭頃か
		H−10	3.76	(4.18)	(13.81)	(N−87°−E)	(東壁南寄り)		10終末から11世紀初頭
		H−11	2.40	(1.85)	(3.52)	(N−99°−E)	(東壁南寄り)		11世紀代
		H−12	4.20	(2.13)	(6.17)	(N−108°−E)	東　壁		11世紀代か
		H−14	2.80	(3.05)	(6.90)	(N−99°−E)	(東壁南寄り)		10世紀後半
	106	H−1	(3.18)	(2.98)	(6.49)	(N−111°−E)	—	天井・支脚・両袖石	10世紀終末
		H−2	(2.92)	(0.40)	(0.84)	(N−92°−E)	—		10世紀後半か
		H−3	4.70	(2.75)	(10.89)	(N−96°−E)	(東壁南寄り)		10世紀後半
		H−4	(1.65)	(2.16)	(2.77)	(N−108°−E)	(東壁南寄り)		10世紀中頃
		H−6	5.99	(1.97)	(6.20)	(N−108°−E)	—		10終末から11世紀初頭
		H−8	3.35	(2.96)	(8.54)	(N−88°−E)	—		10終末から11世紀初頭
	105B区	H−16	2.80	(2.16)	(4.87)	(N−102°−E)	(東壁南寄り)	支脚石	10世紀終末
		H−17	4.40	(3.48)	(12.99)	(N−93°−E)	(東壁南寄り)	袖石	10世紀中頃
	112	H−1	4.02	4.44	(15.40)	N−114°−E	東壁中央南寄り		10世紀後半
		H−2	(0.96)	(3.02)	(1.36)	(N−19°−E)	—		10世紀前半
		H−3	(3.94)	(3.22)	(7.33)	(N−113°−E)	—		10世紀中頃
		H−4	(3.60)	(2.32)	(6.99)	(N−85°−E)	—		10終末から11世紀初頭
		H−5	2.40	[3.90]	[7.52]	(N−103°−E)	[東壁南寄り]		10世紀後半
		H−6	(3.35)	3.12	(7.95)	(N−161°−E)	南　壁	瓦、凝灰岩	10世紀終末
		H−8	3.36	4.14	12.62	(N−106°−E)	東壁南東隅	支脚・両袖石	10世紀初頭
		H−11	(3.66)	(3.08)	(8.93)	(N−95°−E)	—		10世紀後半
		H−15	(2.00)	(2.92)	(4.85)	(N−10°−E)	—		10世紀前半
		H−16	(3.18)	(4.70)	(12.07)	(N− 2°−E)	—		10世紀終末
		H−17	[1.78]	[3.04]	[5.43]	(N−104°−E)	[東壁中央北寄り]	支脚石	10世紀中頃
		H−18	2.77	3.23	8.20	(N−99°−E)	東壁南東隅		10世紀中頃
		H−19	(3.78)	(4.18)	(11.67)	(N−112°−E)	東壁中央南寄り	瓦、天井・両袖石	10世紀終末
		H−20	(2.98)	(1.54)	(2.60)	(N−112°−E)	—		10世紀後半
		H−21	5.18	(2.50)	(11.52)	(N−95°−E)	東　壁	支脚・袖石	10世紀中頃
		H−22	3.20	[3.30]	[8.63]	(N−105°−E)	[東壁南寄り]		10世紀中頃
		H−26	(1.57)	(2.95)	(3.02)	(N−172°−E)	—		10世紀後半
		H−29	(2.37)	(3.16)	(5.10)	(N−121°−E)	東壁中央	袖石	10世紀中頃

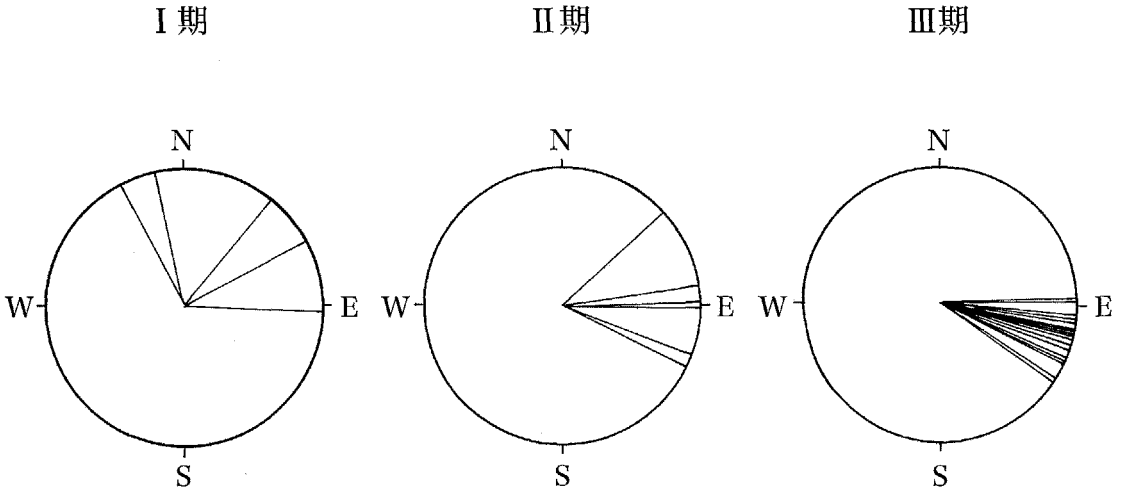


Fig.7　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

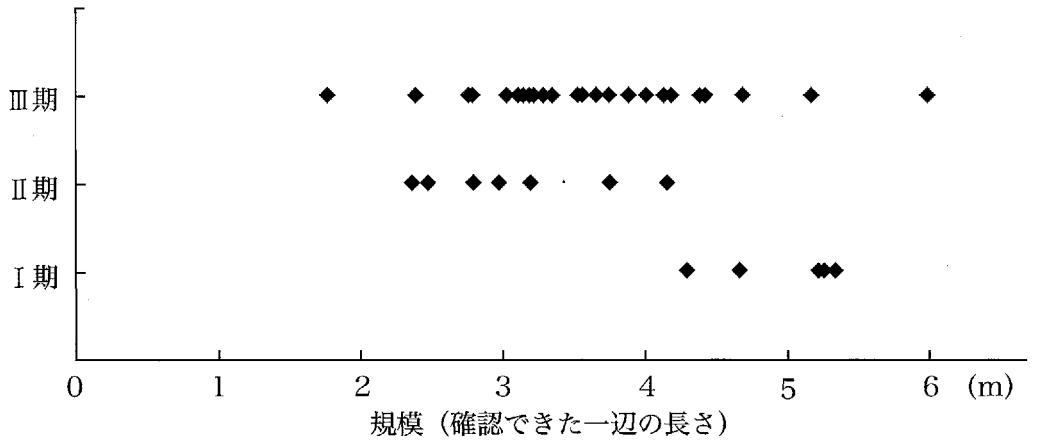
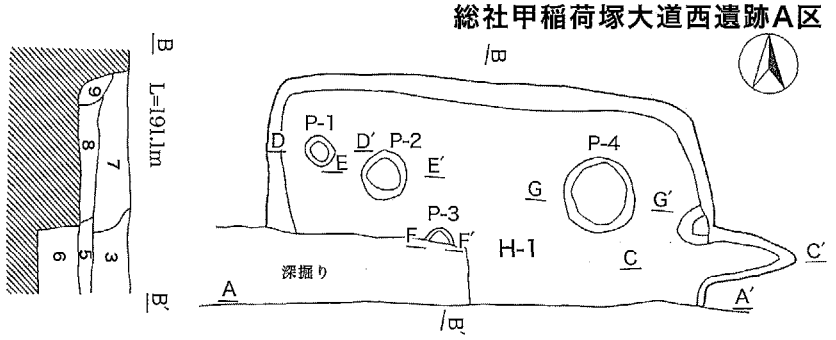


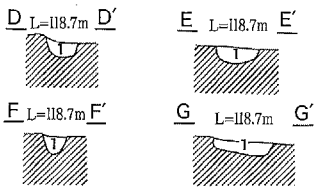
Fig.8　時期別の竪穴住居跡の規模

参考文献

前橋市史	１９７１	前橋市史編さん委員会
元総社明神Ⅰ～ⅩⅢ遺跡	１９８２～１９９７	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	１９８６	群馬県埋蔵文化財調査事業団
閑泉樋南遺跡	１９８６	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
寺田遺跡	１９８６	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県史　通史編２　　原始古代２	１９９１	群馬県史編さん委員会
元総社寺田遺跡Ⅰ	１９９３	群馬県埋蔵文化財調査事業団
上野国分寺参道遺跡	１９９７	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
総社閑泉明神北遺跡	１９９９	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ	２０００	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

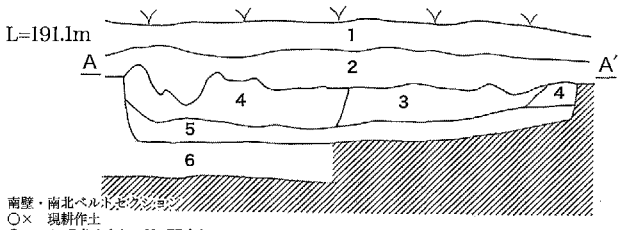
総社甲稲荷塚大道西遺跡A区





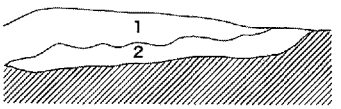
H－1号住居跡　　P－1，2，3号柱穴セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○

H－1号住居跡　　P－4号柱穴セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　焼土つぶ・炭化物含む



H－1号住居跡　　南壁・南北ベルトセクション
1　灰黄褐色粗砂層　○×　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○×　As-B多く含む、Hr-FP含む
3　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む
4　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP３層より多く含む
5　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP３・４層より少なく含む
6　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP５層より少なく含む
7　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP含む
8　黒褐色細砂層　○○　軽石少なく含む
9　黒褐色細砂層　○○　Hr-FPわずかに含む

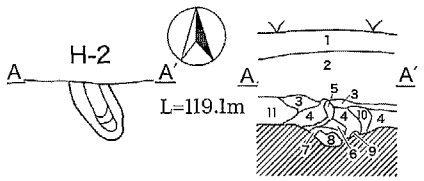
C　L=119.1m　C'

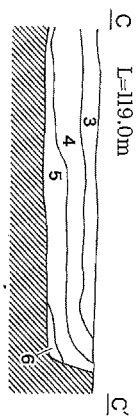


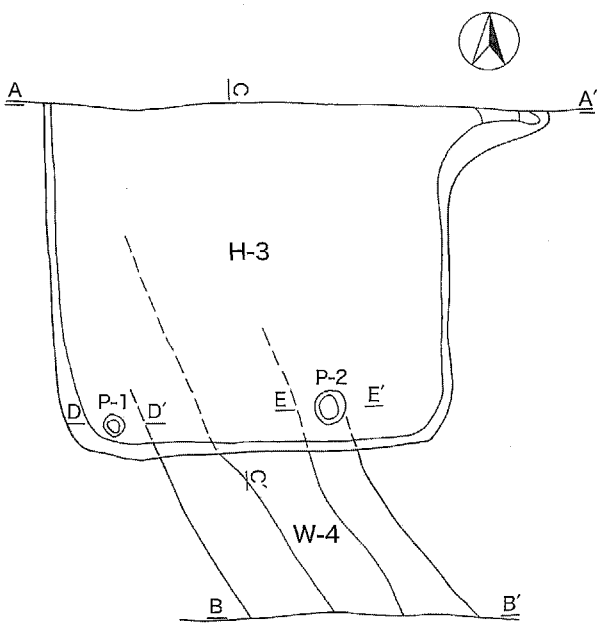
H－1号住居跡　　竈東西ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○×　Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○○　Hr-FPわずかに含む

H－1号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	25	22	16.5	
P－2	円　形	39	35	12.5	
P－3	(円　形)	(24)	(13)	(15.5)	
P－4	円　形	58	55	15	





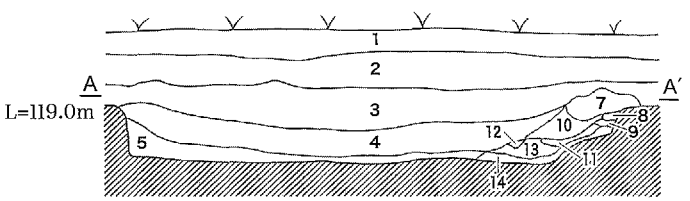


H－２号住居跡　　北壁セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　にぶい黄褐色粗砂層　○×　As-B混土層、白い軽石も含む
3　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP含む
4　黒褐色微砂層　○○　Hr-FP含む、白い軽石わずかに含む
5　黒褐色微砂層　○○　橙色の焼土がうすく全体に入る
6　黒褐色微砂層　○○　５層よりもっとうすく焼土が入る
7　橙色細砂層　○×　部分的に６層が入り込む
8　灰黄褐色細砂層　○○　橙色の焼土がうすく全体に入る
9　黒褐色微砂層　○○　橙色の焼土がうすく全体に入る
10　黒褐色微砂層　○○　砂が混じる
11　黒褐色細砂層　○○　Hr-FPを４層より多く、３層より少なく含む

H－３号住居跡　　北壁・南北ベルトセクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○×　As-B多く含む
3　褐灰色粗砂層　○×　As-B混土層、白い軽石含む
4　黒褐色粗砂層　○×　Hr-FP含む、焼土つぶ含む
5　暗褐色細砂層　○△　Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む、下部に灰層有り
6　暗褐色細砂層　○○　わずかに軽石含む
7　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP・白い軽石含む
8　黒褐色細砂層　○△　橙色の焼土がうすく混じる
9　灰黄褐細砂層　○○　ロームつぶ含む
10　黒褐色細砂層　○○　７層より軽石の混じりが少ない
11　橙色細砂層　○×　焼土
12　黒褐色細砂層　○○　橙色の焼土混じる
13　黒褐色細砂層　○○　焼土つぶ・炭化物含む
14　黒褐色細砂層　○○

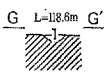
H－３号住居跡　　P－１号柱穴セクション
1　黒褐色微砂層　○○　焼土含む

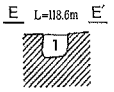
H－３号住居跡　　P－２号柱穴セクション
1　暗褐色微砂層　○○　Hr-FPわずかに含む

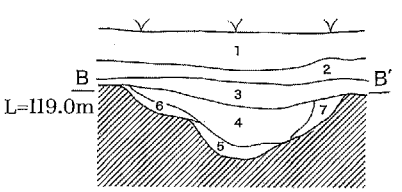


H－３号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	18	17	5	
P－2	円　形	28	23	19	





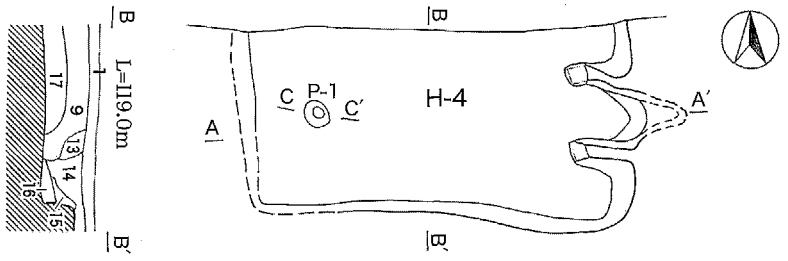


W－４号溝跡　　南壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　軽石含む
3　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPを２層より多く含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPを３層より多く含む
5　暗褐色微砂層　○○　As-Cわずかに含む
6　暗褐色細砂層　○○　As-Cわずかに含む
7　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む

0　1:60　2m

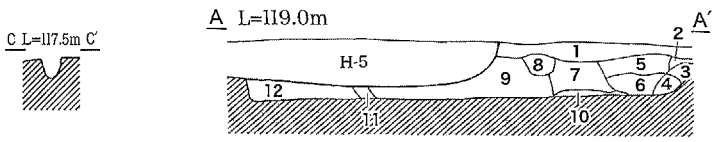
0　1:30　1m

Fig.9　H-1-3号竪穴住居跡、W-4号溝跡



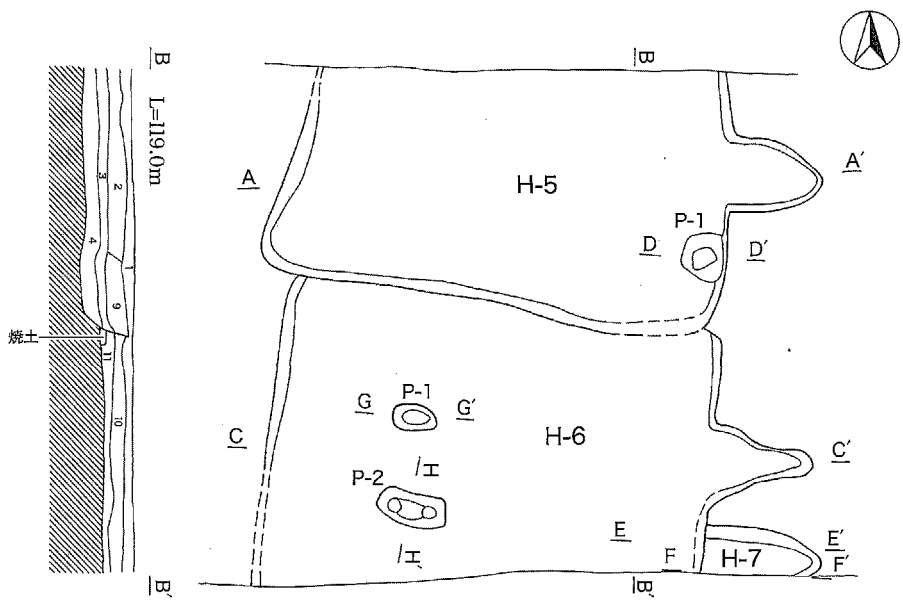
H－4号住居跡　東西・南北ベルトセクション

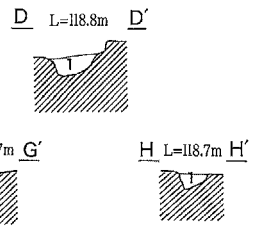
1	灰黄褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B及び白い軽石含む
2	黒褐色粗砂層	○×	軽石多く含む
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・焼土ブロック含む
4	黒褐色細砂層	○○	粘質土、炭化物含む
5	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP多く含む
6	黒褐色細砂層	○○	軽石含む
7	黒褐色粗砂層	○×	軽石多く含む
8	黒褐色粗砂層	○×	7層より大粒の軽石含む
9	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
10	黒褐色細砂層	○○	炭化物・灰含む
11	暗褐色細砂層	○○	軽石わずかに含む
12	暗褐色細砂層	○○	粘質土、軽石ほとんど含まない
13	黒褐色細砂層	○○	As-C含む
14	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む
15	黒褐色細砂層	○○	15層より軽石少なく含む
16	黒褐色細砂層	○○	軽石ほとんど含まない
17	暗褐色細砂層	○○	粘質土、軽石わずかに含む



H－4号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	24	19	16.5	



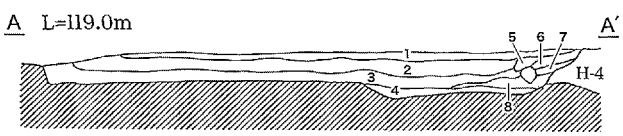


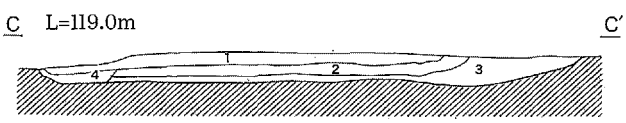
H－5号住居跡　P－1号柱穴セクション

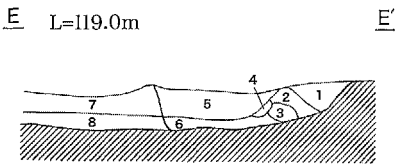
1	暗褐色細砂層	○○	灰混じり、焼土つぶ混じる

H－6号住居跡　P－1、2号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	○○	粘性有り





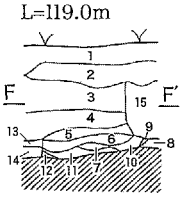


H－7号住居跡　南壁セクション

1	褐灰色粗砂層	○×	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○×	軽石わずかに含む
3	灰黄褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP多く含む
4	にぶい黄褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP多く含む
5	暗褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP3・4層より少なく含む
6	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
7	黒褐色細砂層	○○	焼土つぶの混じりがほとんどない
8	にぶい黄褐色微砂層	○○	地山
9	橙色微砂層	○○	8層の土が焼けた感じ
10	にぶい黄褐色微砂層	○○	焼土・灰が混じっている
11	暗灰色細砂層	○○	灰層、焼土つぶ・焼土ブロック含む
12	にぶい黄褐色細砂層	○○	H－7の貼床
13	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石多く含む、H－6埋土
14	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石含む、炭化物ブロック含む、H－6埋土
15	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・白い軽石多く含む

H－5号住居跡　東西・南北ベルトセクション

1	褐灰色細砂層	○○	白い軽石含む
2	黒褐色細砂層	○○	Hr-FPわずかに含む、白い軽石含む
3	黒褐色細砂層	○○	Hr-FPわずかに含む、白い軽石含む
4	黒褐色細砂層	○○	白い軽石わずかに含む、暗付近の上部で焼土のうすい層有り
5	黒褐色細砂層	○○	白い軽石わずかに含む
6	褐灰色細砂層	○○	焼土つぶ含む
7	黒褐色細砂層	○○	白い軽石含む、焼土つぶ・炭化物ブロック含む
8	黒褐色細砂層	○○	焼土つぶ・灰ブロック含む
9	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石含む
10	灰黄褐色細砂層	○○	9層より多くHr-FP・白い軽石含む、H－6埋土
11	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石含む、炭化物ブロック含む、H－6埋土



H－7号住居跡　竈東西ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○△	白い軽石含む、焼土つぶ含む
2	暗褐色細砂層	○△	部分的にうすく焼土が混じる
3	黒褐色細砂層	△△	焼土ブロック・灰含む
4	橙色細砂層	○×	焼土
5	褐灰色細砂層	○△	Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○○	灰含む
7	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石多く含む、H－6埋土
8	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP・白い軽石含む、炭化物ブロック含む、H－6埋土

H－6号住居跡　東西ベルトセクション

1	褐灰色細砂層	○○	As-B・白い軽石含む
2	黒褐色細砂層	○○	As-B・白い軽石含む、Hr-FPわずかに含む
3	黒褐色細砂層	○○	白い軽石含む、Hr-FPわずかに含む
4	褐灰色細砂層	○○	2層がブロックで入る

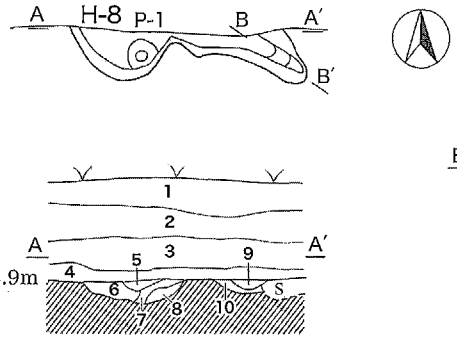
H－5号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	41	38	14.5	

H－6号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	36	20	19	
P－2	楕円形	56	26	13	

Fig.10　H-4-7号竪穴住居跡

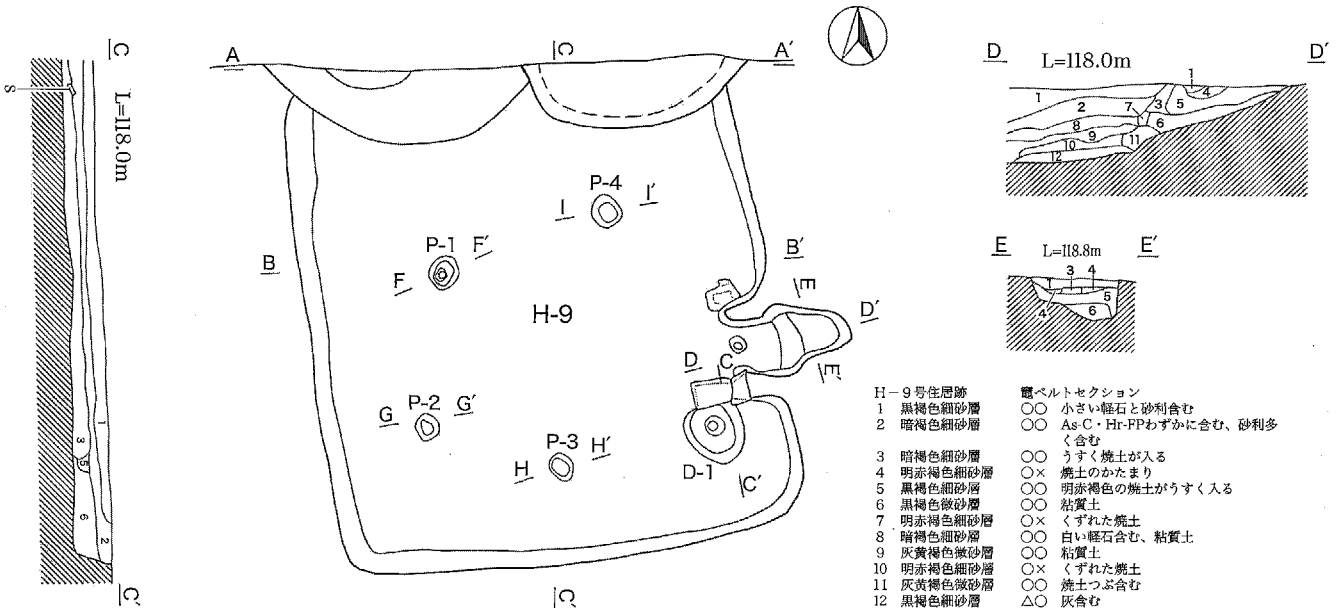


H－８号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	×× 現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○× As-B多く含む
3	褐灰色粗砂層	○× As-B混土層、白い軽石含む
4	黒褐色粗砂層	○× Hr-FP含む、焼土つぶ含む
5	黒褐色細砂層	○○ Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む
6	黒褐色細砂層	○○ 焼土つぶ・炭化物含む（炭化物は５層より少ない）
7	黒褐色細砂層	○○ 炭化物が５層より少ない
8	黒褐色細砂層	○○ 焼土・炭化物わずかに含む
9	黒褐色粗砂層	○× 焼土含む、炭化物わずかに含む
10	黒褐色粗砂層	○× 焼土・炭化物含む
11	黒褐色粗砂層	○×
12	黒褐色粗砂層	○× 焼土多く含む
13	黒褐色粗砂層	○×

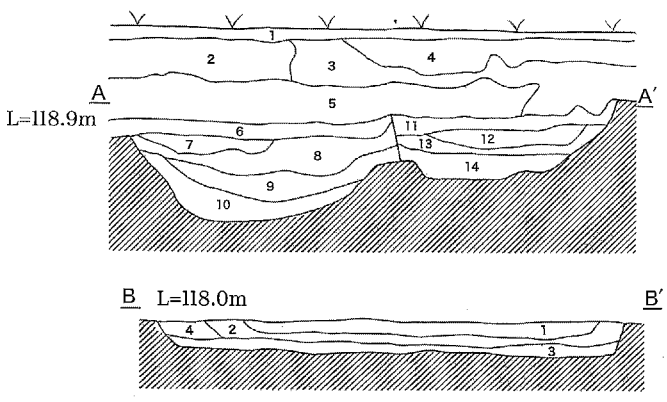
H－８号住居跡柱穴・土抗計測表

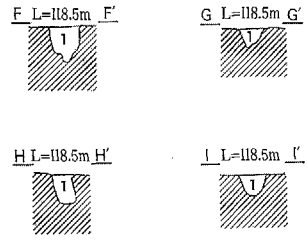
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	25	22	11.5	



H－９号住居跡　壁ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○ 小さい軽石と砂利含む
2	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、砂利多く含む
3	暗褐色細砂層	○○ うすく焼土が入る
4	明赤褐色細砂層	○× 焼土のかたまり
5	黒褐色細砂層	○○ 明赤褐色の焼土がうすく入る
6	黒褐色微砂層	○○ 粘質土
7	明赤褐色細砂層	○× くずれた焼土
8	暗褐色細砂層	○○ 白い軽石含む、粘質土
9	灰黄褐色微砂層	○○ 粘質土
10	明赤褐色細砂層	○× くずれた焼土
11	灰黄褐色微砂層	○○ 焼土つぶ含む
12	黒褐色細砂層	△○ 灰含む





H－９号住居跡　北壁セクション

1	黒褐色細砂層	×× 現耕作土
2	黒褐色細砂層	△× As-B・軽石を１層より多く含む
3	黒褐色細砂層	○× As-B・軽石を１層より多く含む
4	黒褐色細砂層	×× As-B・軽石を１層より多く含む
5	黒褐色粗砂層	○× Hr-FP・As-B・白い軽石を含む
6	黒褐色粗砂層	○× ５層より白い軽石が少なく、Hr-FPわずかに含む
7	黒褐色粗砂層	○× ６層より白い軽石が少ない、黒褐色土ブロック含む、D－10埋土
8	黒褐色細砂層	○○ 軽石・炭化物含む、D－10埋土
9	黒褐色細砂層	○○ 軽石少ない、粘質土、D－10埋土
10	黒褐色細砂層	○○ 褐色土ブロック含む、D－10埋土
11	黒褐色細砂層	×× 白い軽石多く含む、D－９埋土
12	黒褐色細砂層	×△ 白い軽石わずかに含む、D－９埋土
13	暗褐色細砂層	○× 12層より軽石少ない、D－９埋土
14	黒褐色細砂層	○○ 粘質土、D－９埋土

H－９号住居跡　東西・南北ベルトセクション

1	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、砂利多く含む
2	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、砂利多く含む、暗褐色粘土つぶ含む
3	暗褐色微砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
4	にぶい黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP・白い軽石多く含む
5	暗褐色細砂層	○× 白い軽石わずかに含む
6	暗褐色細砂層	○△ As-C・Hr-FP含む、褐色粘質土混じる

H－９号住居跡　P－１，４号柱穴・D－１号土抗セクション

1	黒褐色細砂層	○○

H－９号住居跡　P－２，３号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	○○ 黄褐色粘土ブロック含む

H－９号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	26	25	28.5	
P－2	円　形	23	19	15.5	
P－3	円　形	24	20	22.5	
P－4	円　形	27	26	16.5	
D－1	円　形	48	46	30	貯蔵穴

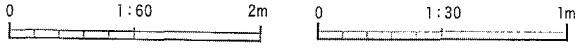
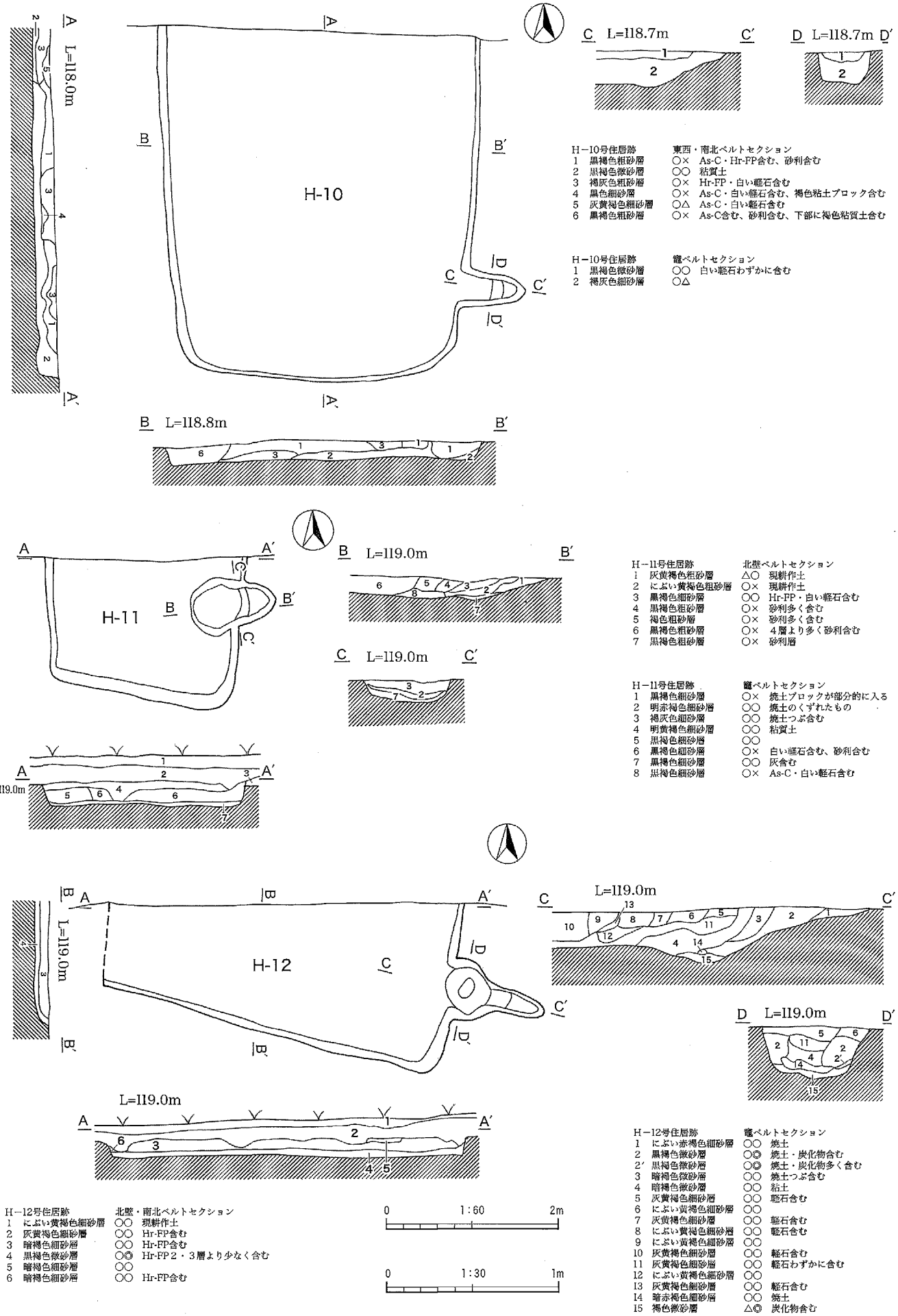


Fig.11　H-8・9号竪穴住居跡、D-9・10号土抗



H－10号住居跡　東西・南北ベルトセクション

1	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、砂利含む
2	黒褐色微砂層	○○ 粘質土
3	褐灰色粗砂層	○× Hr-FP・白い軽石含む
4	黒色細砂層	○× As-C・白い軽石含む、褐色粘土ブロック含む
5	灰黄褐色細砂層	○△ As-C・白い軽石含む
6	黒褐色粗砂層	○× As-C含む、砂利含む、下部に褐色粘質土含む

H－10号住居跡　竈ベルトセクション

1	黒褐色微砂層	○○ 白い軽石わずかに含む
2	褐灰色細砂層	○△

H－11号住居跡　北壁ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	△○ 現耕作土
2	にぶい黄褐色粗砂層	○× 現耕作土
3	黒褐色細砂層	○○ Hr-FP・白い軽石含む
4	黒褐色粗砂層	○× 砂利多く含む
5	褐色粗砂層	○× 砂利多く含む
6	黒褐色粗砂層	○× 4層より多く砂利含む
7	黒褐色粗砂層	○× 砂利層

H－11号住居跡　竈ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○× 焼土ブロックが部分的に入る
2	明赤褐色細砂層	○○ 焼土のくずれたもの
3	褐灰色細砂層	○○ 焼土つぶ含む
4	明黄褐色細砂層	○○ 粘質土
5	黒褐色細砂層	○○
6	黒褐色細砂層	○× 白い軽石含む、砂利含む
7	黒褐色細砂層	○○ 灰含む
8	黒褐色細砂層	○× As-C・白い軽石含む

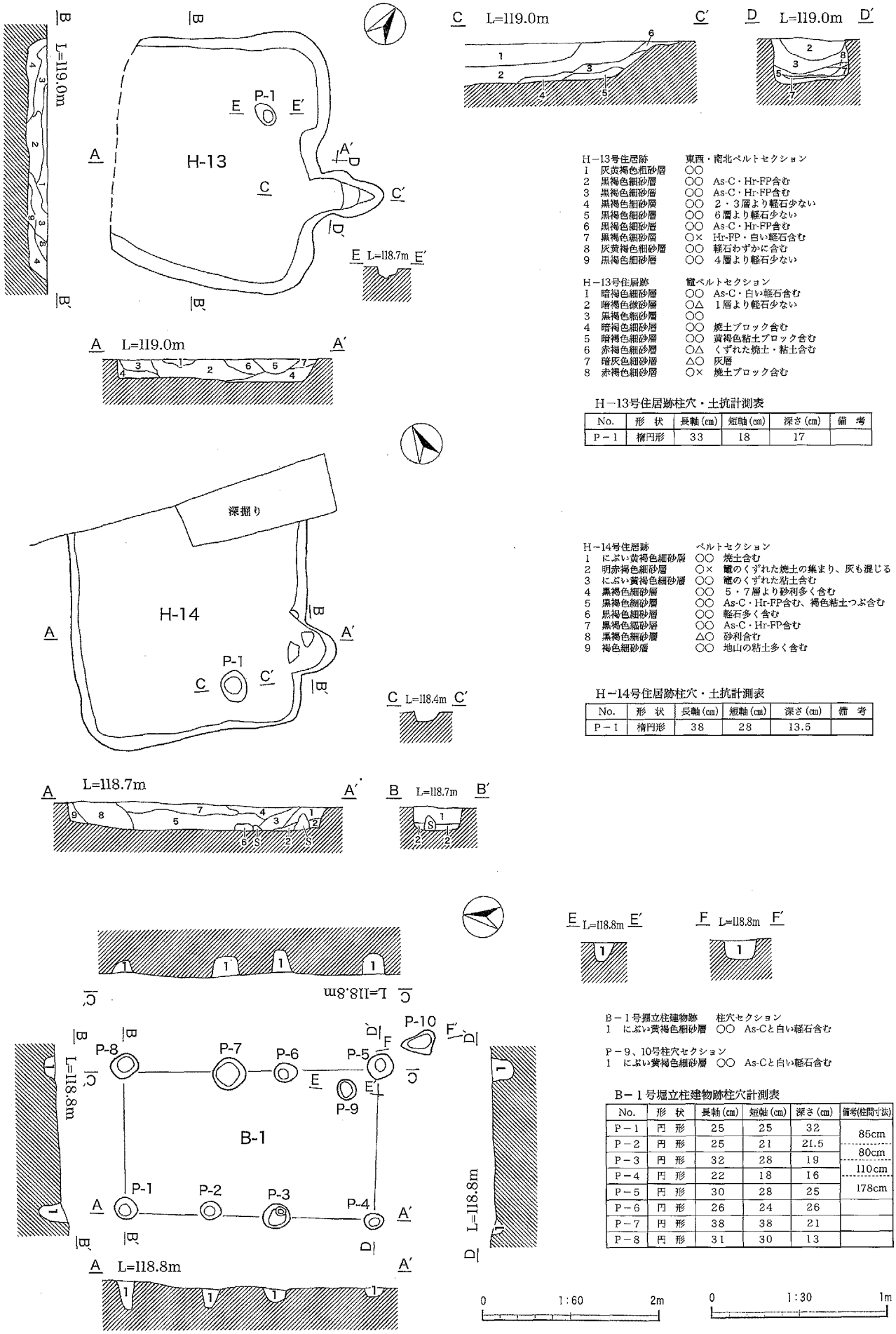
H－12号住居跡　北壁・南北ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○ 現耕作土
2	灰黄褐色細砂層	○○ Hr-FP含む
3	暗褐色細砂層	○○ Hr-FP含む
4	黒褐色微砂層	○◎ Hr-FP２・３層より少なく含む
5	暗褐色細砂層	○○
6	暗褐色細砂層	○○ Hr-FP含む

H－12号住居跡　竈ベルトセクション

1	にぶい赤褐色細砂層	○○ 焼土
2	黒褐色微砂層	○◎ 焼土・炭化物含む
2′	黒褐色微砂層	○◎ 焼土・炭化物多く含む
3	暗褐色微砂層	○○ 焼土つぶ含む
4	暗褐色微砂層	○○ 粘土
5	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石含む
6	にぶい黄褐色細砂層	○○
7	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石含む
8	にぶい黄褐色細砂層	○○ 軽石含む
9	にぶい黄褐色細砂層	○○
10	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石含む
11	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石わずかに含む
12	にぶい黄褐色細砂層	○○
13	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石含む
14	暗赤褐色細砂層	○○ 焼土
15	褐色微砂層	△◎ 炭化物含む

Fig.12　H-10・12号竪穴住居跡



H－13号住居跡　東西・南北ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	○○
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
3	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
4	黒褐色細砂層	○○ 2・3層より軽石少ない
5	黒褐色細砂層	○○ 6層より軽石少ない
6	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
7	黒褐色細砂層	○× Hr-FP・白い軽石含む
8	灰黄褐色細砂層	○○ 軽石わずかに含む
9	黒褐色細砂層	○○ 4層より軽石少ない

H－13号住居跡　竈ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○○ As-C・白い軽石含む
2	暗褐色微砂層	○△ 1層より軽石少ない
3	黒褐色細砂層	○○
4	暗褐色細砂層	○○ 焼土ブロック含む
5	暗褐色細砂層	○○ 黄褐色粘土ブロック含む
6	赤褐色細砂層	○△ くずれた焼土・粘土含む
7	暗灰色細砂層	△○ 灰層
8	赤褐色細砂層	○× 焼土ブロック含む

H－13号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	33	18	17	

H－14号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○ 焼土含む
2	明赤褐色細砂層	○× 竈のくずれた焼土の集まり、灰も混じる
3	にぶい黄褐色細砂層	○○ 竈のくずれた粘土含む
4	黒褐色細砂層	○○ 5・7層より砂利多く含む
5	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、褐色粘土つぶ含む
6	黒褐色細砂層	○○ 軽石多く含む
7	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
8	黒褐色細砂層	△○ 砂利含む
9	褐色細砂層	○○ 地山の粘土多く含む

H－14号住居跡柱穴・土抗計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	38	28	13.5	

B－1号掘立柱建物跡　柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○ As-Cと白い軽石含む

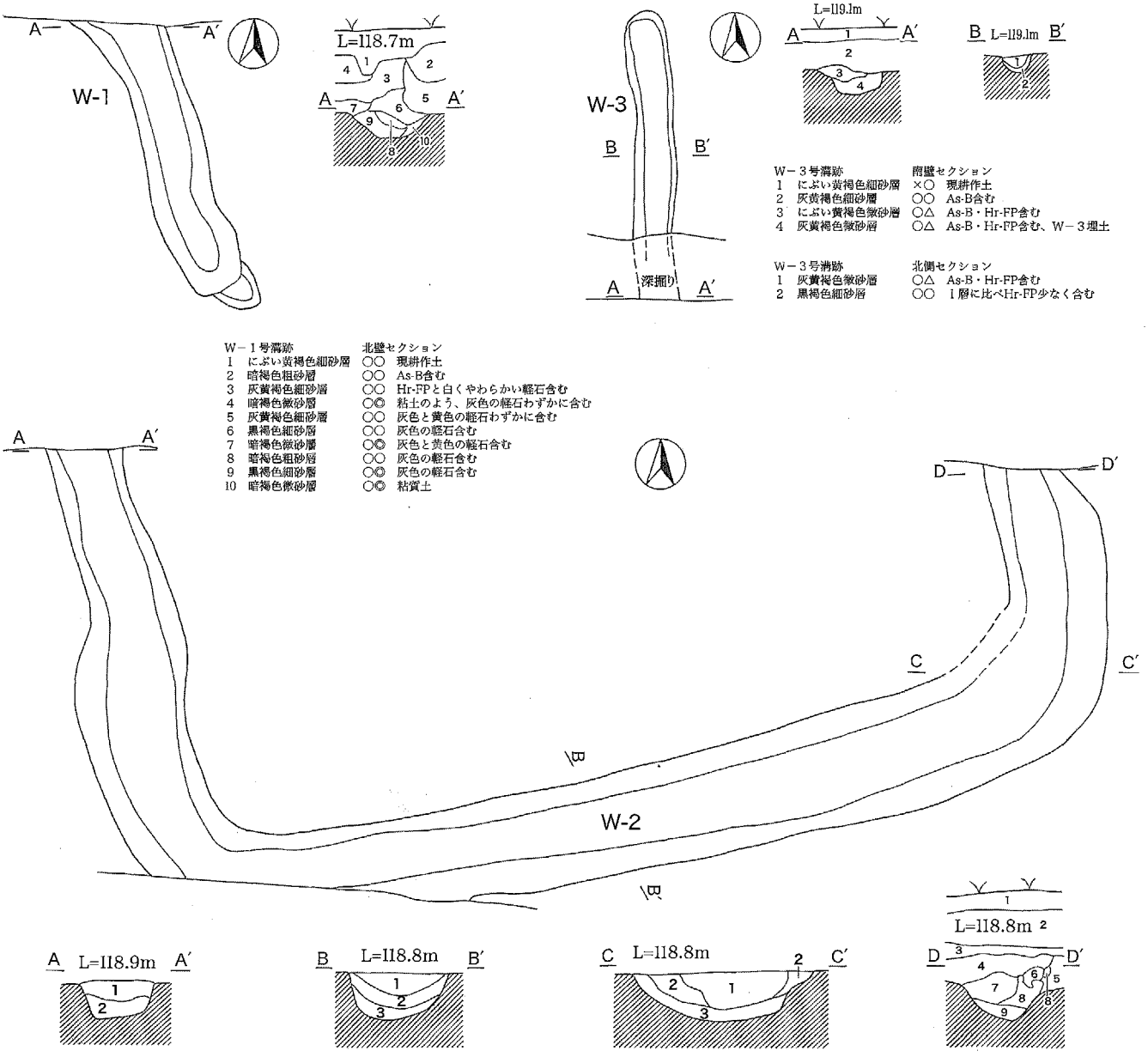
P－9、10号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○ As-Cと白い軽石含む

B－1号堀立柱建物跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考(柱間寸法)
P－1	円　形	25	25	32	85cm
P－2	円　形	25	21	21.5	80cm
P－3	円　形	32	28	19	110cm
P－4	円　形	22	18	16	178cm
P－5	円　形	30	28	25	
P－6	円　形	26	24	26	
P－7	円　形	38	38	21	
P－8	円　形	31	30	13	

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.13　H-13・14号竪穴住居跡、B-1号堀立柱建物跡



W－３号溝跡　南壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　×○　現耕作土
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む
3　にぶい黄褐色微砂層　○△　As-B・Hr-FP含む
4　灰黄褐色微砂層　○△　As-B・Hr-FP含む、W－３埋土

W－３号溝跡　北側セクション
1　灰黄褐色微砂層　○△　As-B・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○○　１層に比べHr-FP少なく含む

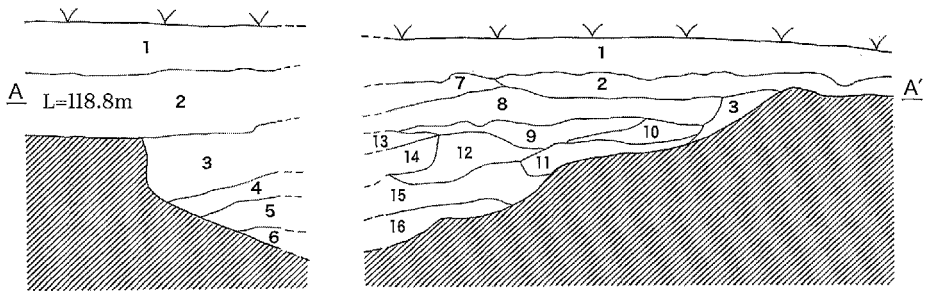
W－１号溝跡　北壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　暗褐色粗砂層　○○　As-B含む
3　灰黄褐色細砂層　○○　Hr-FPと白くやわらかい軽石含む
4　暗褐色微砂層　○◎　粘土のよう、灰色の軽石わずかに含む
5　灰黄褐色細砂層　○○　灰色と黄色の軽石わずかに含む
6　黒褐色細砂層　○○　灰色の軽石含む
7　暗褐色微砂層　○◎　灰色と黄色の軽石含む
8　暗褐色粗砂層　○○　灰色の軽石含む
9　黒褐色細砂層　○◎　灰色の軽石含む
10　暗褐色微砂層　○◎　粘質土

W－２号溝跡　№１セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　大粒のHr-FP多く含む
2　にぶい黄褐色微砂層　○○　Hr-FP含む

W－２号溝跡　№２、№３セクション
1　黒褐色細砂層　○△　Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP少し含む
3　黒褐色細砂層　○○　軽石ほとんどなし

W－２号溝跡　№４セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　にぶい黄褐色粗砂層　○×　As-B混土層、白い軽石も含む
3　にぶい黄橙色粗砂層　○×　Hr-FPと思われる軽石少し含む
4　褐灰色粗砂層　○×　Hr-FP含む、３層と７層の混じり
5　灰黄褐色細砂層　○△　Hr-FP含む
6　橙色細砂層　○△　うすく焼土が入る
7　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP多く含む
8　橙色細砂層　○△　うすく焼土が入る
9　灰黄褐色細砂層　○○

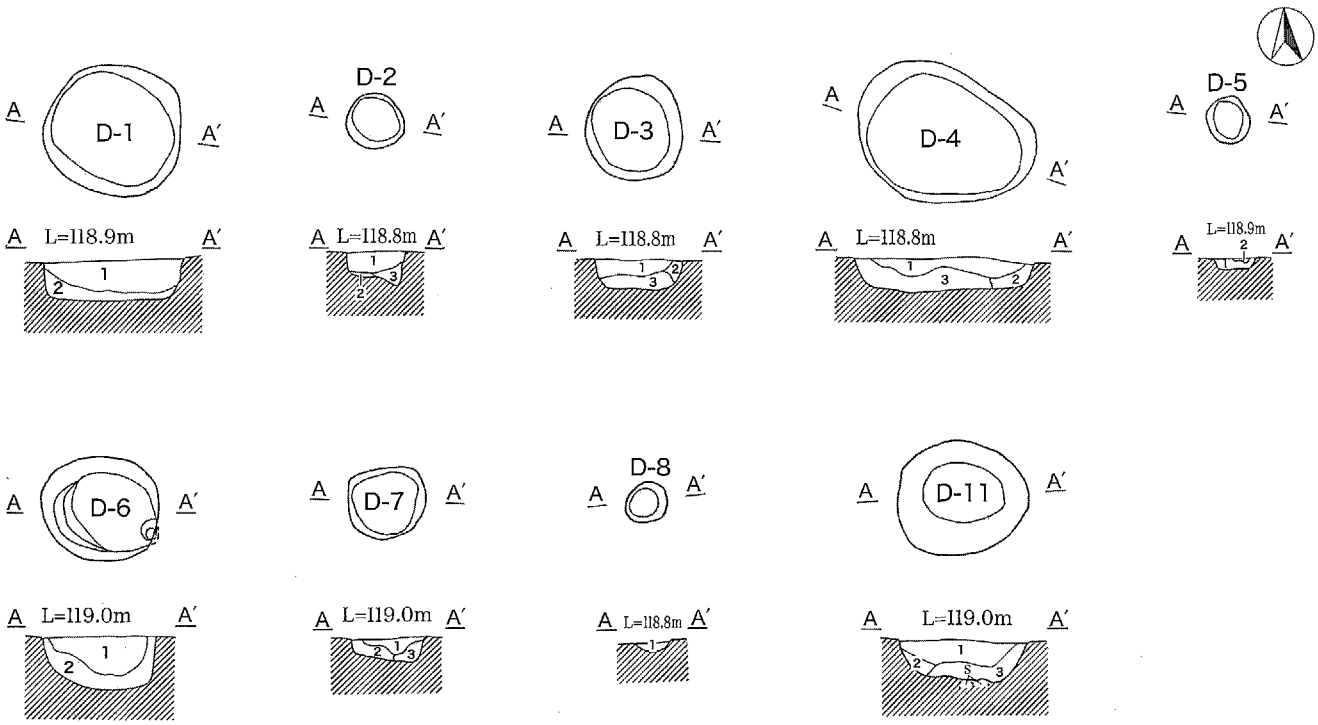
W-5 ※平面図のポイントは全体図にあります。



W－５号溝跡　南壁セクション
1　灰黄褐色粗砂層　○△　現耕作土
2　黒褐色細砂層　○○　砂利含む
3　にぶい黄褐色細砂層　○○
4　褐灰色粗砂層　○×　川砂層
5　灰黄褐色粗砂層　○×　川砂層、大粒の礫含む
6　灰黄褐色粗砂層　○×　川砂層
7　にぶい黄橙色粗砂層　○×
8　にぶい黄橙色粗砂層　○×　砂利多く含む
9　明黄褐色粗砂層　○×　礫含む
10　にぶい黄褐色粗砂層　○×　礫含む
11　にぶい黄橙色粗砂層　○×
12　にぶい黄橙色粗砂層　○×
13　にぶい黄橙色粗砂層　○×
14　明黄褐色粗砂層　○×　大粒の礫含む
15　にぶい黄橙色粗砂層　○×　大粒の礫含む
16　灰黄褐色粗砂層　○×　川砂層

0　1:60　2m

Fig.14　W-1-3・5号溝跡



D－1号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○○　焼土つぶ含む

D－2号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C含む
2　にぶい黄褐色シルト層　○○　地山っぽい
3　黒褐色細砂層　○○　2層の土がブロックで入る

D－3号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　ロームブロックわずかに入る
2　黒褐色細砂層　○○
3　黒褐色細砂層　○○

D－4号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○
2　黒褐色細砂層　○○　ロームブロック混じる
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック混じる

D－5号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○
2　黒褐色細砂層　△△　As-C多く含む

D－6号土坑セクション
1　黒褐色粗砂層　○△　As-B多く含む
2　黒褐色粗砂層　○○　ロームブロック多く含む

D－7号土坑セクション
1　黒褐色粗砂層　○○　Hr-FP多く含む
2　暗褐色微砂層　○○
3　暗褐色微砂層　○○　2層と比べ粒が大きい

D－8号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　白い軽石含む

D－11号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○○　Hr-FP含む
2　暗褐色細砂層　○○
3　黒褐色粗砂層　○○　Hr-FP含む、1cmぐらいの砂利含む

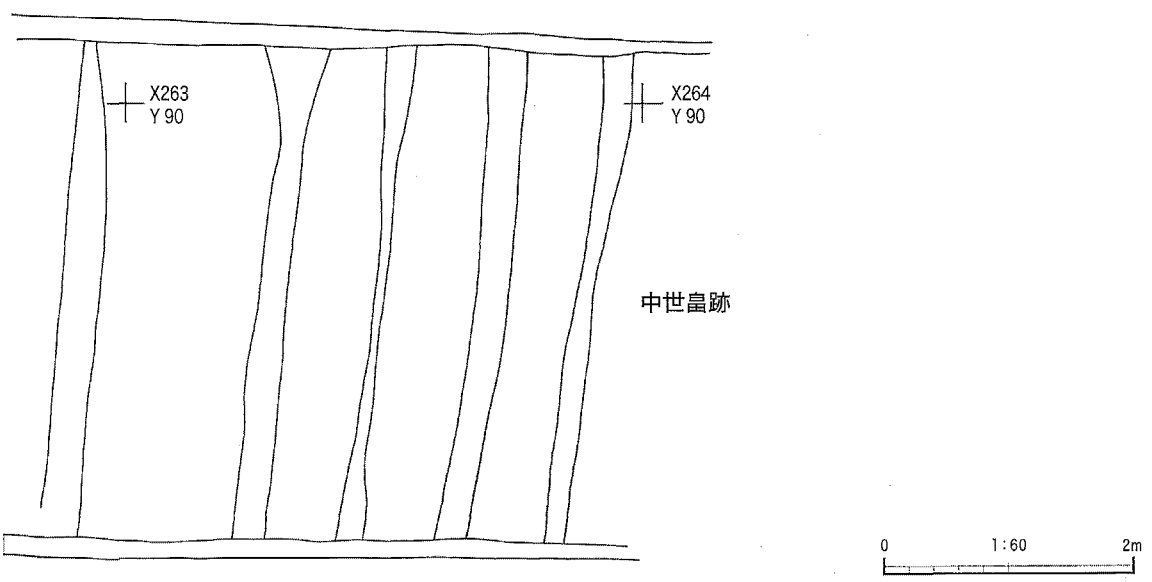
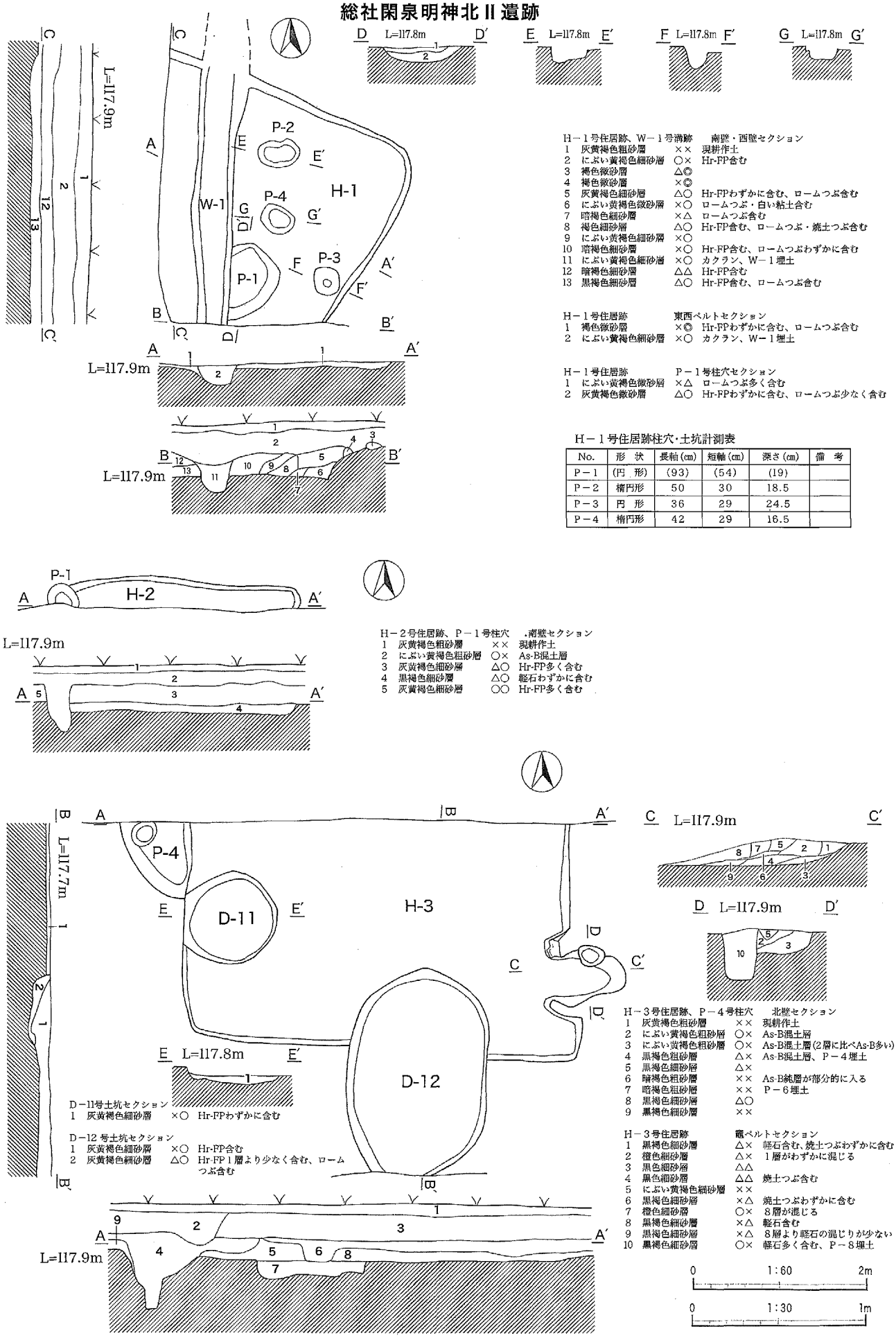


Fig.15　D-1~8・11号土坑、中世畠跡

総社閑泉明神北Ⅱ遺跡



H－1号住居跡、W－1号溝跡　南壁・西壁セクション
1 灰黄褐色粗砂層 ××　現耕作土
2 にぶい黄褐色細砂層 ○×　Hr-FP含む
3 褐色微砂層 △◎
4 褐色微砂層 ×◎
5 灰黄褐色細砂層 △○　Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む
6 にぶい黄褐色微砂層 ×○　ロームつぶ・白い粘土含む
7 暗褐色細砂層 ×△　ロームつぶ含む
8 褐色細砂層 △○　Hr-FP含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
9 にぶい黄褐色細砂層 ×○
10 暗褐色細砂層 ×○　Hr-FP含む、ロームつぶわずかに含む
11 にぶい黄褐色細砂層 ×○　カクラン、W－1埋土
12 暗褐色細砂層 △△　Hr-FP含む
13 黒褐色細砂層 △○　Hr-FP含む、ロームつぶ含む

H－1号住居跡　東西ベルトセクション
1 褐色微砂層 ×◎　Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む
2 にぶい黄褐色細砂層 ×○　カクラン、W－1埋土

H－1号住居跡　P－1号柱穴セクション
1 にぶい黄褐色微砂層 ×△　ロームつぶ多く含む
2 灰黄褐色微砂層 △○　Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ少なく含む

H－1号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	(円　形)	(93)	(54)	(19)	
P－2	楕円形	50	30	18.5	
P－3	円　形	36	29	24.5	
P－4	楕円形	42	29	16.5	

H－2号住居跡、P－1号柱穴　南壁セクション
1 灰黄褐色粗砂層 ××　現耕作土
2 にぶい黄褐色粗砂層 ○×　As-B混土層
3 灰黄褐色細砂層 △○　Hr-FP多く含む
4 黒褐色細砂層 △○　軽石わずかに含む
5 灰黄褐色細砂層 ○○　Hr-FP多く含む

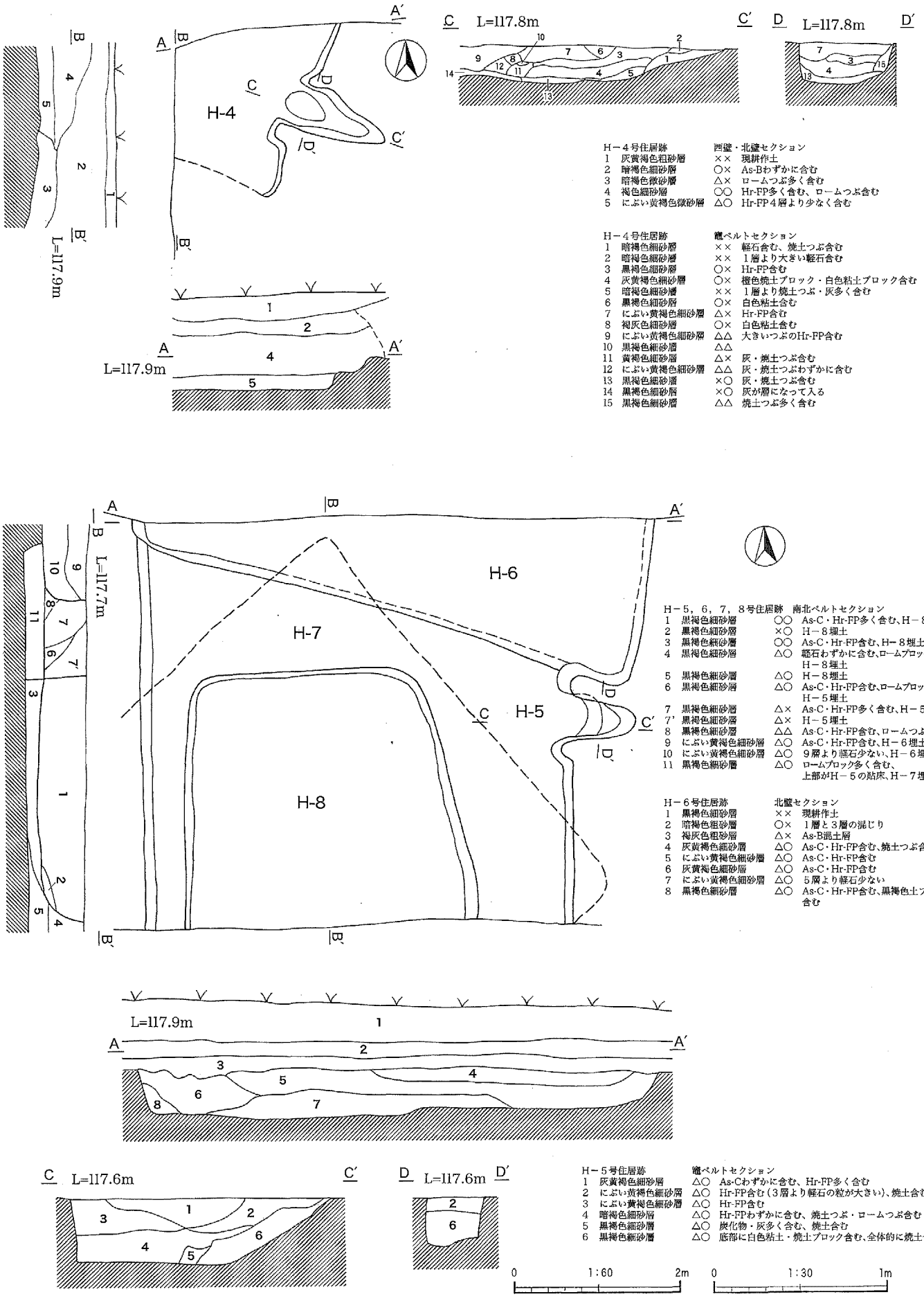
D－11号土坑セクション
1 灰黄褐色細砂層 ×○　Hr-FPわずかに含む

D－12号土坑セクション
1 灰黄褐色細砂層 ×○　Hr-FP含む
2 灰黄褐色細砂層 △○　Hr-FP１層より少なく含む、ロームつぶ含む

H－3号住居跡、P－4号柱穴　北壁セクション
1 灰黄褐色粗砂層 ××　現耕作土
2 にぶい黄褐色粗砂層 ○×　As-B混土層
3 にぶい黄褐色粗砂層 ○×　As-B混土層(2層に比べAs-B多い)
4 黒褐色粗砂層 △×　As-B混土層、P－4埋土
5 黒褐色細砂層 △×
6 暗褐色粗砂層 ××　As-B純層が部分的に入る
7 暗褐色細砂層 ××　P－6埋土
8 黒褐色細砂層 △○
9 黒褐色細砂層 ××

H－3号住居跡　竈ベルトセクション
1 黒褐色細砂層 △×　軽石含む、焼土つぶわずかに含む
2 橙色細砂層 △×　1層がわずかに混じる
3 黒色細砂層 △△
4 黒色細砂層 △△　焼土つぶ含む
5 にぶい黄褐色細砂層 ××
6 黒褐色細砂層 ×△　焼土つぶわずかに含む
7 橙色細砂層 ○×　8層が混じる
8 黒褐色細砂層 ×△　軽石含む
9 黒褐色細砂層 ×△　8層より軽石の混じりが少ない
10 黒褐色細砂層 ○×　軽石多く含む、P－8埋土

Fig.16　H-1~3号竪穴住居跡、W-1号溝跡、D-11~12号土坑、P-1・4号土坑



H－4号住居跡　西壁・北壁セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　暗褐色細砂層　○×　As-Bわずかに含む
3　暗褐色微砂層　△×　ロームつぶ多く含む
4　褐色細砂層　○○　Hr-FP多く含む、ロームつぶ含む
5　にぶい黄褐色微砂層　△○　Hr-FP４層より少なく含む

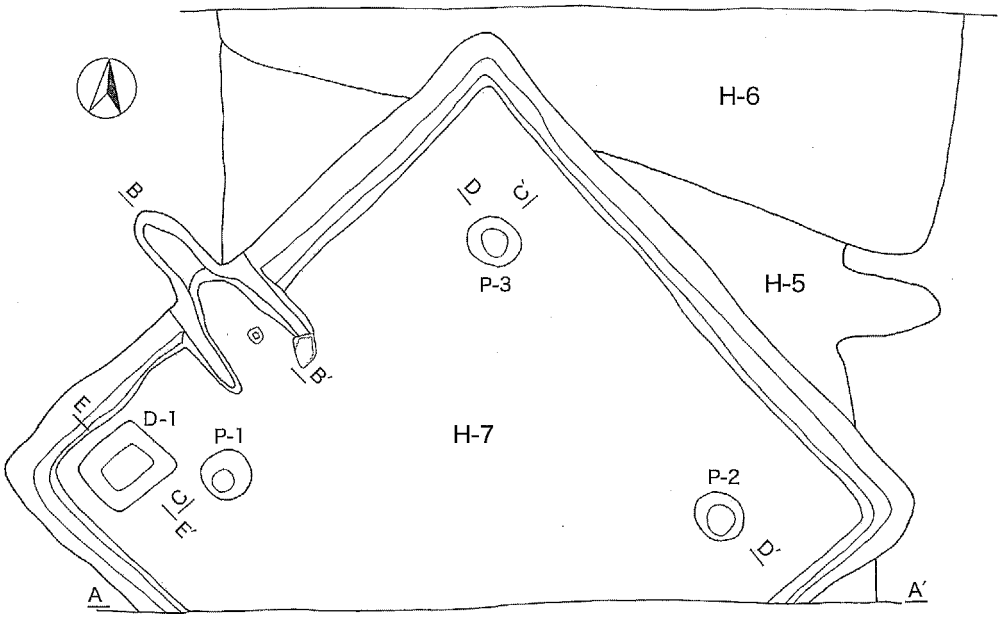
H－4号住居跡　竈ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　××　軽石含む、焼土つぶ含む
2　暗褐色細砂層　××　１層より大きい軽石含む
3　黒褐色細砂層　○×　Hr-FP含む
4　灰黄褐色細砂層　○×　橙色焼土ブロック・白色粘土ブロック含む
5　暗褐色細砂層　××　１層より焼土つぶ・灰多く含む
6　黒褐色細砂層　○×　白色粘土含む
7　にぶい黄褐色細砂層　△×　Hr-FP含む
8　褐灰色細砂層　○×　白色粘土含む
9　にぶい黄褐色細砂層　△△　大きいつぶのHr-FP含む
10　黒褐色細砂層　△△
11　黄褐色細砂層　△×　灰・焼土つぶ含む
12　にぶい黄褐色細砂層　△△　灰・焼土つぶわずかに含む
13　黒褐色細砂層　×○　灰・焼土つぶ含む
14　黒褐色細砂層　×○　灰が層になって入る
15　黒褐色細砂層　△△　焼土つぶ多く含む

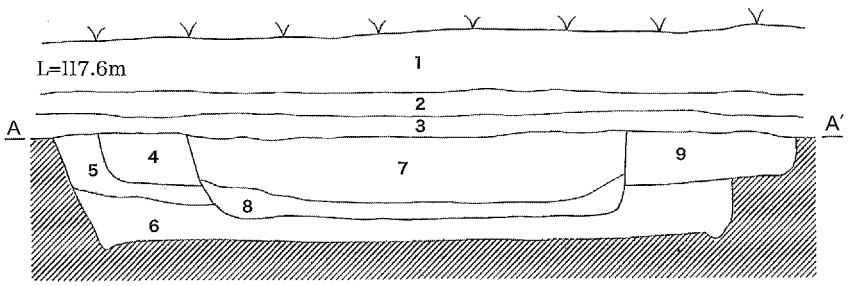
H－５，６，７，８号住居跡　南北ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、H－８埋土
2　黒褐色細砂層　×○　H－８埋土
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、H－８埋土
4　黒褐色細砂層　△○　軽石わずかに含む、ロームブロック含む、H－８埋土
5　黒褐色細砂層　△○　H－８埋土
6　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック含む、H－５埋土
7　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP多く含む、H－５埋土
7'　黒褐色細砂層　△×　H－５埋土
8　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む、ローム つぶ含む
9　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、H－６埋土
10　にぶい黄褐色細砂層　△○　９層より軽石少ない、H－６埋土
11　黒褐色細砂層　△○　ロームブロック多く含む、上部がH－５の貼床、H－７埋土

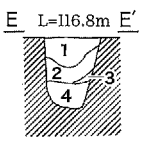
H－６号住居跡　北壁セクション
1　黒褐色細砂層　××　現耕作土
2　暗褐色粗砂層　○×　１層と３層の混じり
3　褐灰色粗砂層　△×　As-B混土層
4　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
5　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
6　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
7　にぶい黄褐色細砂層　△○　５層より軽石少ない
8　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、黒褐色土ブロック含む

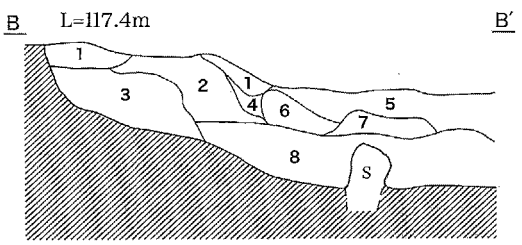
H－５号住居跡　竈ベルトセクション
1　灰黄褐色細砂層　△○　As-Cわずかに含む、Hr-FP多く含む
2　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FP含む（３層より軽石の粒が大きい）、焼土含む
3　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FP含む
4　暗褐色細砂層　△○　Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ・ロームつぶ含む
5　黒褐色細砂層　△○　炭化物・灰多く含む、焼土含む
6　黒褐色細砂層　△○　底部に白色粘土・焼土ブロック含む、全体的に焼土含む

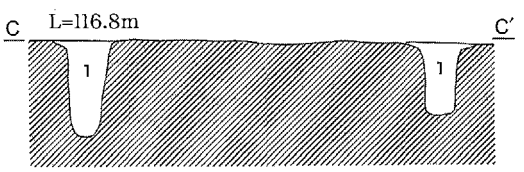
Fig.17　H-4-6・8号竪穴住居跡

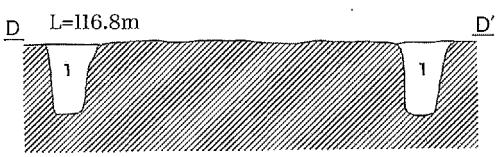












H－7号住居跡　南壁セクション

1	黒褐色細砂層	×× 現耕作土
2	暗褐色粗砂層	○× 1層と3層の混じり
3	褐灰色粗砂層	△× As-B混土層
4	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む、H－5埋土
5	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む、ロームブロック含む
6	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FPが4・5層より少なく含む、ロームつぶ含む
7	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－8埋土
8	黒褐色細砂層	×○ 軽石9層より少なく含む、下部がH－8の貼床
9	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む、炭化物含む、ロームつぶ9層より少なく含む、H－5埋土

H－7号住居跡　竈南北ベルトセクション

1	灰白色細砂層	△×
2	灰白色細砂層	△△ 黒色・にぶいロームつぶ含む
3	褐灰色細砂層	×× 黒色・にぶいロームブロック含む
4	灰黄褐色細砂層	××
5	灰白色細砂層	△△ 白色粘土つぶ含む
6	灰白色細砂層	○△ 黒色・ローム・白色土つぶ含む
7	灰黄褐色細砂層	○△ ロームつぶ含む
8	灰白色細砂層	△△ 灰層

H－7号住居跡　P－1，2，3号柱穴セクション

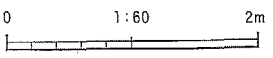
1	褐灰色細砂層	×○

H－7号住居跡　D－1号土坑セクション

1	褐灰色細砂層	×○ ロームブロック含む
2	褐灰色細砂層	×○
3	黄橙色細砂層	×○
4	褐灰色細砂層	×○

H－7号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	41	40	72	
P－2	円　形	43	37	58.5	
P－3	円　形	46	38	57	
D－1	長方形	63	54	58.5	貯蔵穴



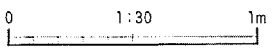
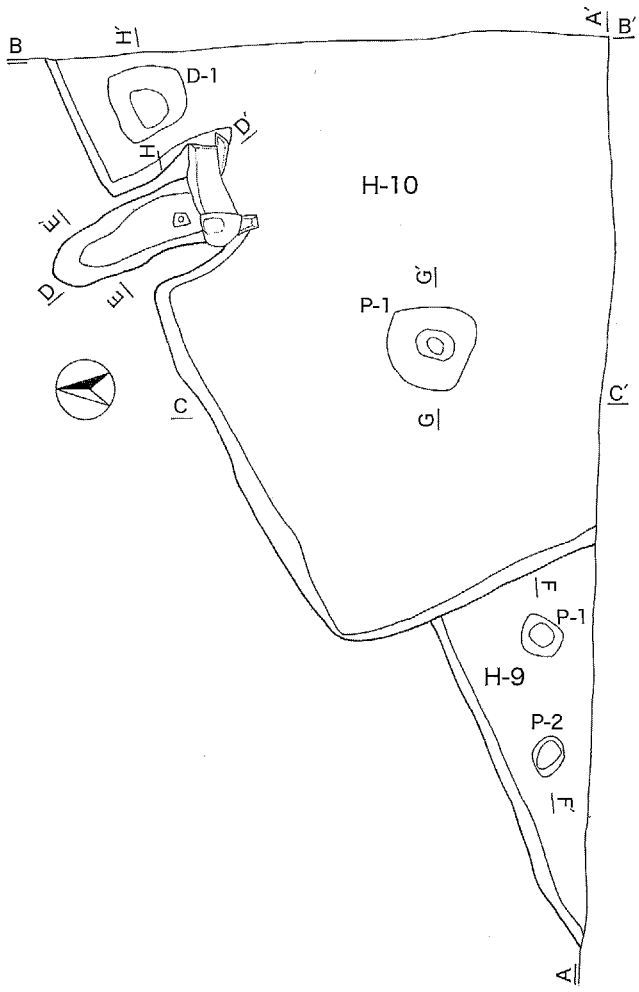
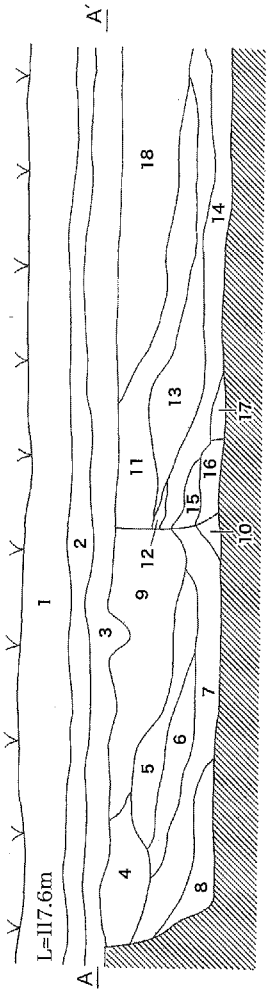
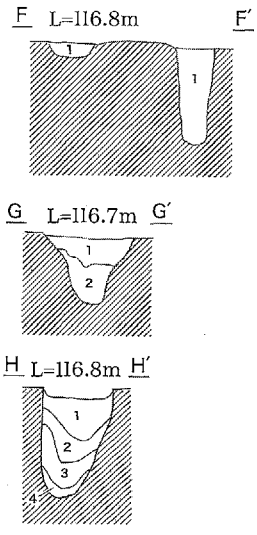


Fig.18　H-7号竪穴住居跡





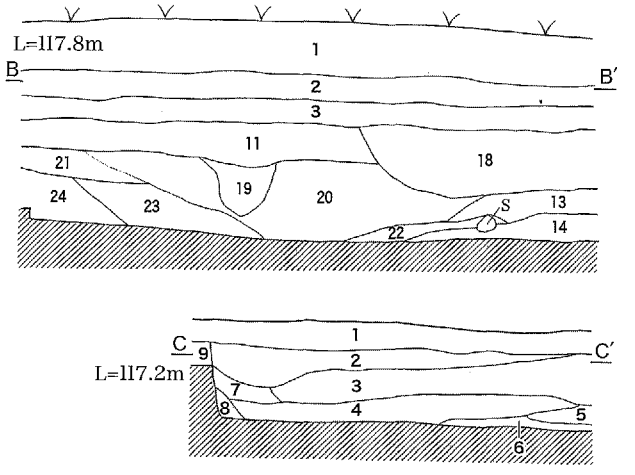


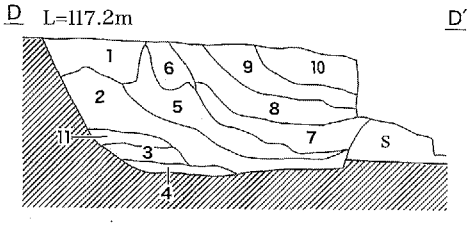
H－９号住居跡　　Ｐ－１号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　　○○　Hr-FP含む、ローム つぶ含む

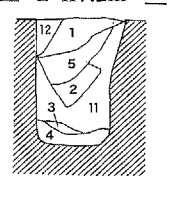
H－９号住居跡　　Ｐ－２号柱穴セクション
I　にぶい黄橙色細砂層　×○

H－10号住居跡　　Ｐ－１号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　×○
2　にぶい黄褐色粗砂層　×△

H－10号住居跡　　Ｄ－１号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　△○　Hr-FP含む、ロームブロック・粘土ブロック含む
2　黒褐色細砂層　×○　ローム つぶ含む
3　褐灰色細砂層　×○
4　黒褐色細砂層　×○







H－９、10号住居跡　　南壁・東壁セクション
1　黒褐色細砂層　××　現耕作土
2　暗褐色粗砂層　○×　1層と3層の混じり
3　褐灰色粗砂層　△×　As-B混土層
4　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、H－９埋土
5　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、白色粘土ブロック含む、H－９埋土
6　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、白色粘土ブロック多く含む、H－９埋土
7　褐灰色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、白色粘土ブロック含む、下部にローム地山ブロック多く含む、H－９埋土
8　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む、白色粘土つぶ・ロームつぶ含む、H－９埋土
9　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、H－９埋土
10　灰黄褐色細砂層　△○　ロームつぶわずかに含む
11　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
12　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
13　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、白色粘土ブロック・ロームブロック含む
14　灰黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む、一カ所ロームブロック含む
15　黒褐色細砂層　△○　軽石わずかに含む、白色粘土つぶ含む
16　褐灰色細砂層　△○　白色粘土つぶ・ロームブロック含む
17　黒褐色細砂層　○○　粘質土
18　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FP含む、ロームブロック含む
19　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP含む
20　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-Cわずかに含む、Hr-FP含む、白色粘土ブロック・ロームブロック含む
21　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
22　黒褐色細砂層　△○　Hr-FP含む、炭化物わずかに含む
23　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック含む
24　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FP含む、焼土つぶ・ロームブロック含む、上部に灰層有り、中央下部に白色粘土のかたまり有り

H－10号住居跡　　南北ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
2　灰黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック含む
3　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック・白色粘土ブロック含む
4　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームブロック含む
5　灰黄褐色細砂層　○△　ロームブロック含む
6　黒褐色細砂層　○○　粘質土
7　にぶい黄褐色細砂層　○△　ローム つぶ含む
8　黒褐色細砂層　△○　灰含む
9　灰黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FPわずかに含む

H－10号住居跡　　竈ベルトセクション
1　灰黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
2　暗青灰色細砂層　×○　焼土つぶ含む
3　橙色微砂層　△○
4　にぶい黄褐色微砂層　△○　灰含む
5　橙色微砂層　△○　竈上部の焼土が落ちたもの
6　灰黄褐色細砂層　△○　軽石わずかに含む
7　にぶい黄褐色微砂層　△○　粘土
8　褐灰色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、粘質土
9　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
10　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
11　褐灰色細砂層　×○　焼土と灰の混じったもの
12　橙色微砂層　○○　焼土

H－９号住居跡柱穴・土坑計測表

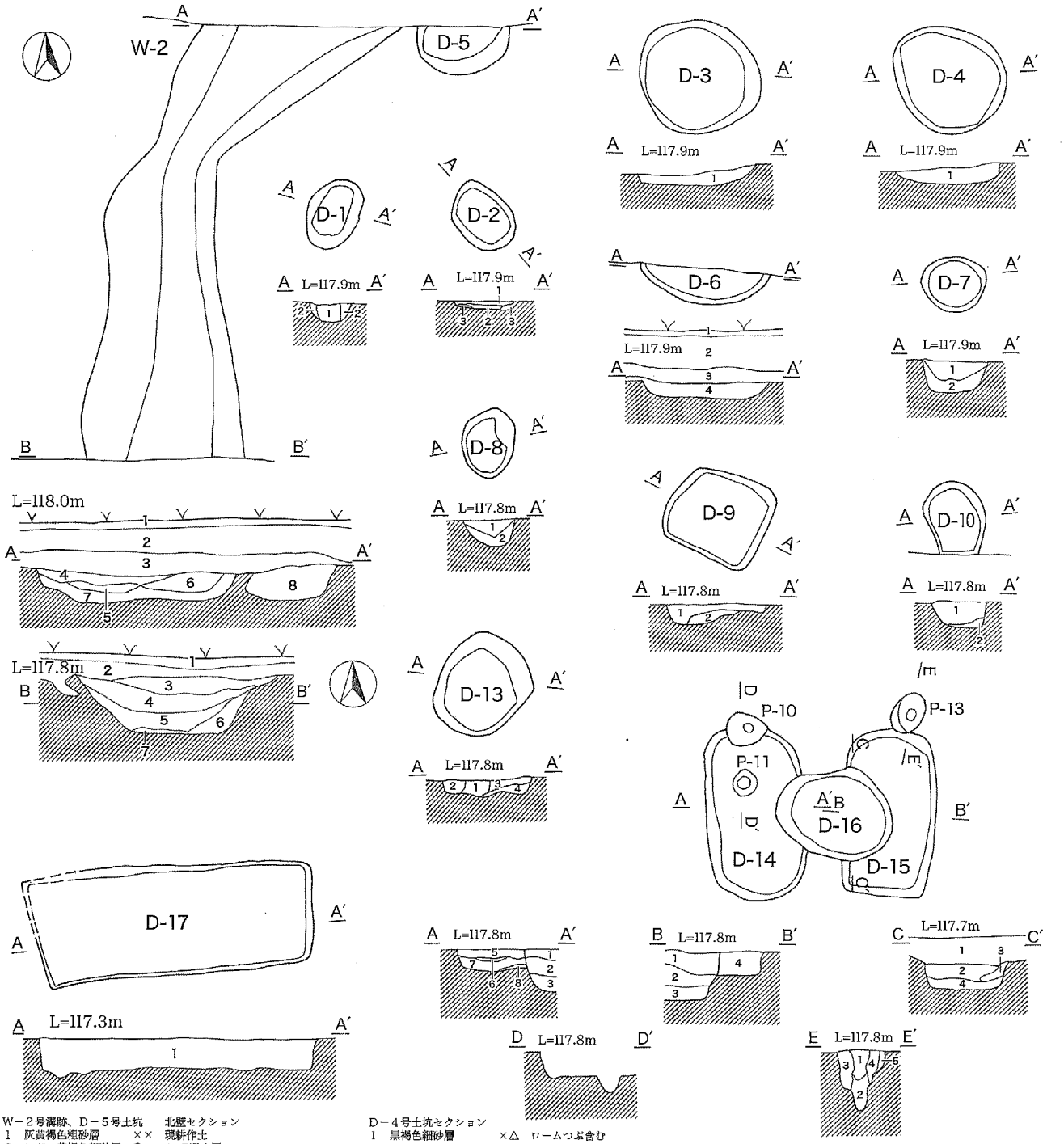
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	35	24	13.5	
P－2	円　形	36	36	76	

H－10号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	76	76	58	
D－1	方　形	68	54	83	貯蔵穴

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.19　H-9・10号竪穴住居跡



W－2号溝跡、D－5号土坑　北壁セクション

1	灰黄褐色粗砂層	××	現耕作土
2	にぶい黄褐色粗砂層	○×	As-B混土層
3	黒褐色細砂層	×○	As-C・Hr-FP含む、ローム つぶ含む
4	黒褐色細砂層	×△	Hr-FP含む
5	黒褐色細砂層	×○	Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	×○	Hr-FP多く含む
7	黒褐色細砂層	×○	ロームブロック含む
8	黒褐色細砂層	×○	Hr-FP多く含む、D－5埋土

W－2号溝跡　南壁セクション

1	灰黄褐色粗砂層	××	現耕作土
2	にぶい黄褐色粗砂層	○×	As-B混土層
3	黒褐色細砂層	××	Hr-FP多く含む
4	黒色粗砂層	××	Hr-FP３・５層より多く含む
5	黒褐色粗砂層	××	４層より粒の小さいHr-FP多く含む
6	黒褐色細砂層	×○	Hr-FP少し含む、ローム つぶ少し含む
7	黒褐色粗砂層	××	ロームブロック含む

D－１号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	△×	ローム つぶ含む
2	黒褐色細砂層	×○	ローム つぶわずかに含む

D－２号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	○×	
2	黒褐色細砂層	○×	ロームブロック含む
3	にぶい黄褐色細砂層	○×	ローム漸移層

D－３号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	×△	ローム つぶ含む

D－４号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	×△	ローム つぶ含む

（D－５はW－２に含む）

D－６号土坑セクション

1	灰黄褐色粗砂層	××	現耕作土
2	にぶい黄褐色粗砂層	○×	As-B混土層
3	黒褐色細砂層	×○	As-C・Hr-FP含む、ローム つぶ含む
4	黒褐色粗砂層	×△	３層より粒の大きい軽石含む、ローム つぶ含む

D－７号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	△○	Hr-FP含む
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP多く含む所あり

D－８号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	×○	Hr-FP含む
2	暗褐色細砂層	○○	ローム つぶ含む

D－９号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	×○	Hr-FP含む
2	にぶい黄褐色微砂層	△○	ローム つぶ含む

D－10号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	×○	Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	△◎	Hr-FPわずかに含む、ローム つぶ含む

D－13号土坑セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	ロームブロック含む
2	黒褐色細砂層	××	
3	黒褐色細砂層	××	
4	褐色細砂層	○△	ローム漸移層

P－13号柱穴セクション

1	褐灰色細砂層	△△	下部にローム つぶわずかに含む
2	褐灰色細砂層	△○	
3	褐灰色細砂層	○○	ローム つぶが層状に入る
4	褐灰色細砂層	○○	ローム つぶが入る
5	灰黄褐色細砂層	○○	

D－14、15 号土坑セクション

1	にぶい黄橙色粗砂層	×○	D－16埋土
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	ローム つぶ多く含む、D－16埋土
3	明黄褐色細砂層	○○	ロームの混じったもの、D－16埋土
4	灰黄褐色粗砂層	△×	As-B混土層
5	灰黄褐色細砂層	△×	As-B混土層
6	黒褐色細砂層	△○	ローム つぶ含む
7	にぶい黄褐色細砂層	○△	ローム漸移層
8	にぶい黄褐色細砂層	×○	

D－16号土坑セクション

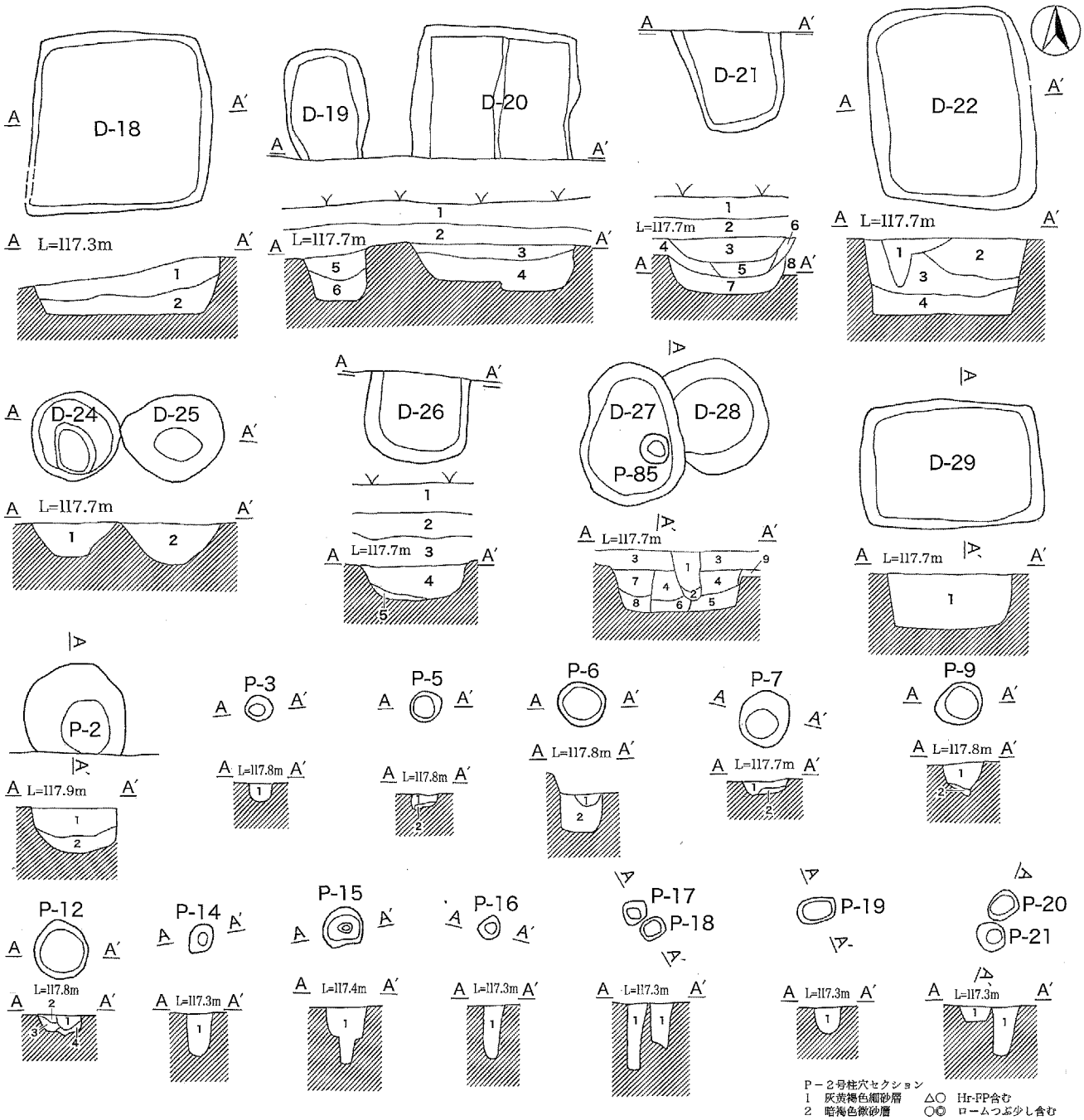
1	にぶい黄橙色粗砂層	×○	
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	ローム つぶ多く含む
3	にぶい黄橙色細砂層	○○	ロームが混じる
4	明黄褐色細砂層	○○	ロームの混じったもの

D－17号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	△○	ロームブロック含む

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.20　W-2号溝跡、D-1~10・13~17号土坑、P-10~11・13号柱穴



D－18 号土坑セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 △○ Hr-FPわずかに含む、ロームブロック含む
2 灰黄褐色細砂層 ○○ Hr-FP１層より多く含む、ロームつぶ１層より多く含む

D－19、20号土坑セクション
1 黒褐色粗砂層 △× 現耕作土
2 褐灰色粗砂層 ×△ As-B混土層
3 暗褐色細砂層 △× As-C・Hr-FP含む
4 暗褐色細砂層 △× As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む
5 暗褐色細砂層 ×× ロームつぶ含む
6 暗褐色細砂層 ×△ ロームつぶ含む

D－21号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ×× 現耕作土
2 暗褐色粗砂層 ○×
3 にぶい黄褐色細砂層 ○○ Hr-FP含む、ロームつぶ含む
4 灰黄褐色細砂層 △△ ロームつぶ含む
5 にぶい黄褐色細砂層 ○○ 上部にHr-FP含む、ロームつぶ含む
6 灰黄褐色細砂層 △△
7 黒褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む
8 褐灰色粗砂層 △× As-B混土層

D－22号土坑セクション
1 黒褐色粗砂層 ×× As-B混土層
2 にぶい黄褐色細砂層 △○ Hr-FPわずかに含む、ロームブロック多く含む
3 灰黄褐色細砂層 △○ Hr-FP含む、ロームつぶ含む
4 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、ロームブロック２層より少なく３層より多く含む、炭化物わずかに含む

D－24、25号土坑セクション
1 褐灰色粗砂層 △× As-B混土層
2 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む

D－26号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ×× 現耕作土
2 暗褐色粗砂層 ○×
3 褐灰色粗砂層 △× As-B混土層
4 灰黄褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP含む
5 褐色微砂層 △○

（D－27，28エレベーションのみ）

D－27、28号土坑P－85 号柱穴セクション
1 灰黄褐色粗砂層 ○× As-B混土層
2 灰黄褐色細砂層 ○△ 下部にAs-B混土層
3 にぶい黄褐色細砂層 ○△ Hr-FP含む、焼土つぶ含む
4 灰黄褐色細砂層 △○ Hr-FP３層より少なく含む
5 黒褐色細砂層 ×○ Hr-FP４層より少なく含む
6 黒褐色細砂層 ○○ 黄橙色・黒色土ブロック含む
7 暗褐色細砂層 ×○ Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物・黄橙色土つぶ含む
8 暗褐色細砂層 ×○ Hr-FPわずかに含む
9 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP含む

D－29 号土坑セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 △○ Hr-FP多く含む、ロームつぶわずかに含む

0 1:60 2m

P－２号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 △○ Hr-FP含む
2 暗褐色微砂層 ○◎ ロームつぶ少し含む

P－３号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ×○ Hr-FP含む

（P－４はH－３に含む）

P－５号柱穴セクション
1 黒褐色細砂層 △× Hr-FPわずかに含む
2 にぶい黄褐色細砂層 ○× ローム漸移層

P－６号柱穴セクション
1 黒灰色細砂層 ×× 灰層、炭化物含む
2 黒褐色細砂層 ×× ロームつぶわずかに含む

P－７号柱穴セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 △×
2 黄褐色細砂層 △○ ローム漸移層

（P－８はH－３に含む）

P－９号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ×△
2 灰黄褐色細砂層 ○△ ロームつぶ含む

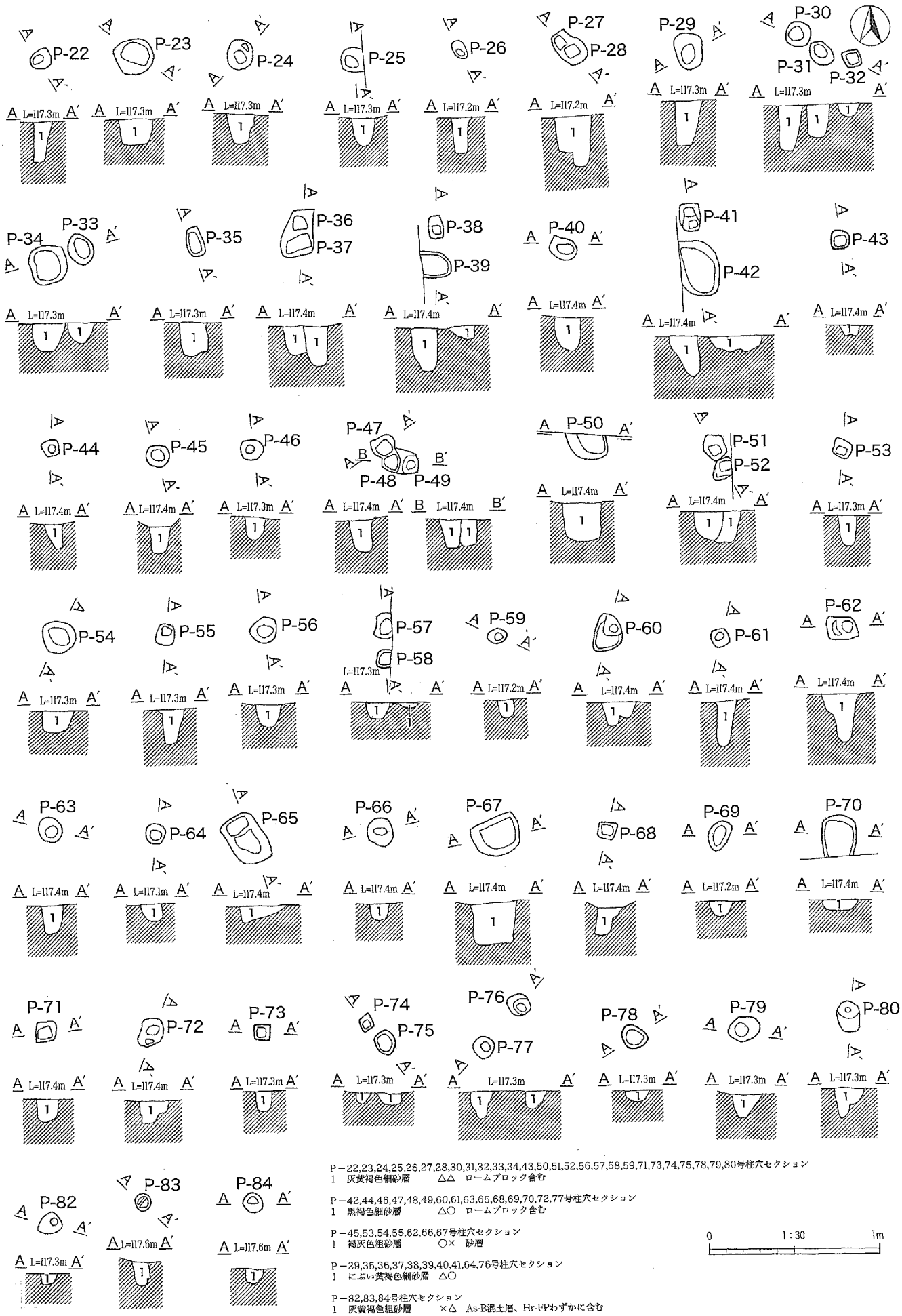
P－12号柱穴セクション
1 暗褐色細砂層 △○
2 黒褐色細砂層 △△
3 灰黄褐色細砂層 ×○ ローム漸移層
4 にぶい黄橙色細砂層 △○ ローム漸移層

P－20、21号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 △△ ロームブロック含む

P－16、17、18、19号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○× 砂層

P－14、15号柱穴セクション
1 黒褐色細砂層 △○ ロームブロック含む

Fig.21 D-18~22・24~29号土坑、P-2・3・5-7・9・12・14~21・85号柱穴



P－22,23,24,25,26,27,28,30,31,32,33,34,43,50,51,52,56,57,58,59,71,73,74,75,78,79,80号柱穴セクション
1　灰黄褐色細砂層　　△△　ロームブロック含む

P－42,44,46,47,48,49,60,61,63,65,68,69,70,72,77号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　　△○　ロームブロック含む

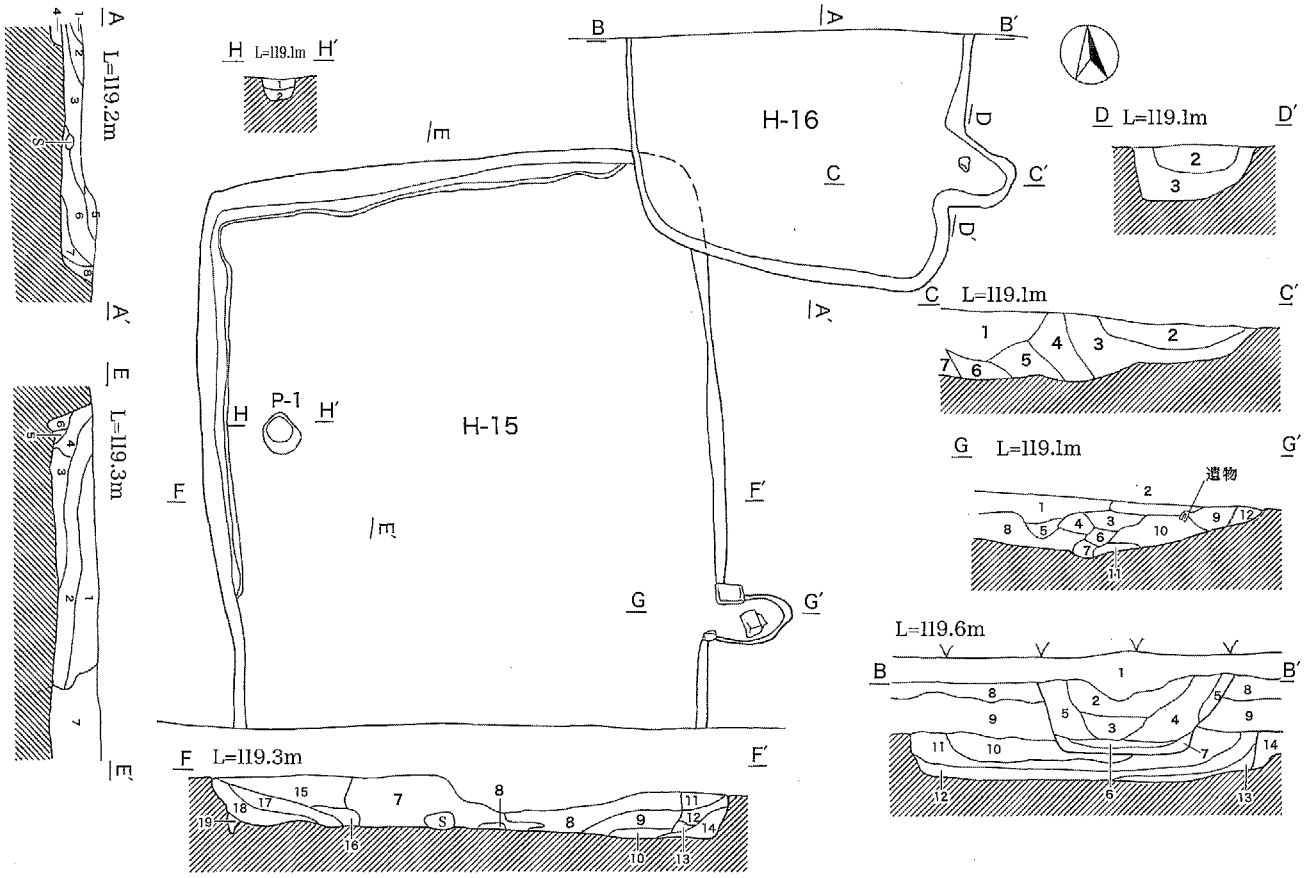
P－45,53,54,55,62,66,67号柱穴セクション
1　褐灰色粗砂層　　○×　砂層

P－29,35,36,37,38,39,40,41,64,76号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　△○

P－82,83,84号柱穴セクション
1　灰黄褐色粗砂層　　×△　As-B混土層、Hr-FPわずかに含む

Fig.22　P-22~80・82~84号柱穴

総社甲稲荷塚大道西遺跡B区

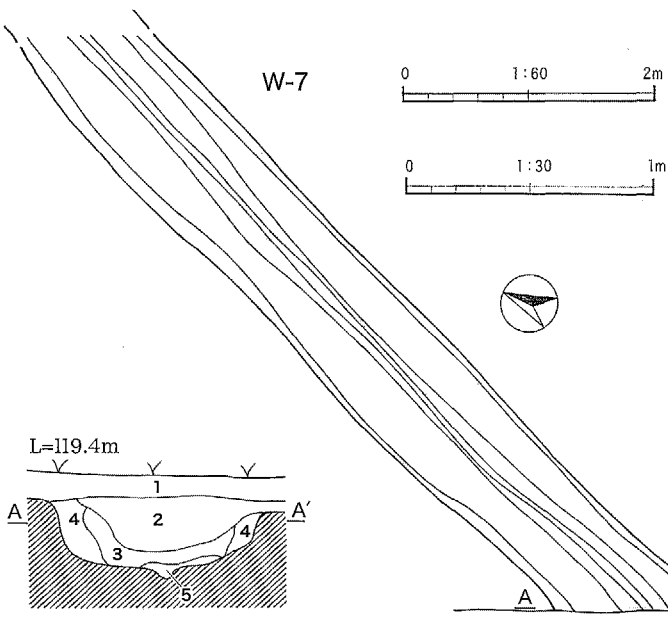


H－15号住居跡　竈東西ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、ロームつぶわずかに含む
2	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、東側に焼土つぶ多く含む
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶ・炭化物含む
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む
5	黒褐色細砂層	○○	As-B含む、砂利含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土・灰わずかに含む
7	灰褐色微砂層	△◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶわずかに含む
8	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームブロック多く含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む
9	灰褐色粗砂層	○○	As-B多く含む
10	黒褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土・炭化物含む
11	黒色微砂層	○◎	灰層、焼土含む
12	にぶい橙色粗砂層	◎△	As-Bと焼土つぶが混じっている

H－15号住居跡　P－1号柱穴セクション

1	灰黄褐色細砂層	△○	As-B含む、ロームつぶ含む
2	黒褐色細砂層	△○	As-B含む、ロームつぶ多く含む



H－16号住居跡、W－7号溝跡　北壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色細砂層	△○	As-B混土層、W－7埋土
3	灰黄褐色細砂層	△○	小石含む、W－7埋土
4	灰黄褐色細砂層	×○	小石含む、5層の土が混ざる、W－7埋土
5	灰黄褐色微砂層	○○	W－7埋土
6	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP含む、砂利含む、W－7埋土
7	褐灰色微砂層	○○	W－7埋土
8	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む
9	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP8層より少なく含む
10	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームつぶ含む、H－16埋土
11	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームブロック多く含む、H－16埋土
12	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームブロック含む、H－16埋土
13	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FPわずかに含む,As-B含む、ロームつぶわずかに含む、H－16埋土
14	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP13層より少なく含む

H－16号住居跡　南北ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームつぶ含む、H－16埋土
2	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームブロック多く含む、H－16埋土
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームブロック含む、H－16埋土
4	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FPわずかに含む,As-B含む、ロームつぶわずかに含む、H－16埋土
5	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶわずかに含む
6	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、ロームブロック多く含む
7	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP16層より少なく含む、As-B含む、ロームつぶ含む
8	灰黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP17層より少なく含む、As-B含む、ロームブロック多く含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む

H－16号住居跡　竈ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、白黄色土ブロック多く含む、ロームつぶ含む
2	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、白黄色土ブロック含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、白黄色土ブロック含む、焼土つぶわずかに含む
4	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、白黄色土ブロック多く含む
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、白黄色土ブロック多く含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、白黄色土つぶ多く含む
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、白黄色土つぶ多く含む

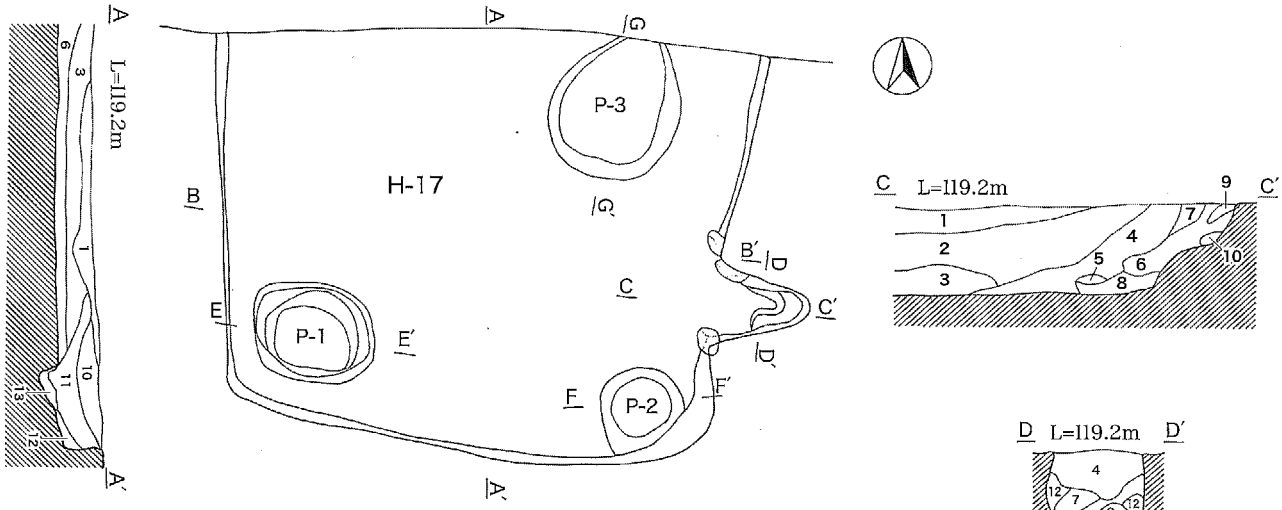
H－15号住居跡柱穴・土坑計測表

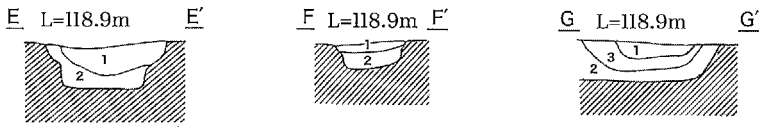
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	32	28	23	

W－7号溝跡　東壁セクション

1	灰黄褐色細砂層	△○	現耕作土
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、焼土つぶ含む
3	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、赤褐色土含む
4	灰黄褐色微砂層	△◎	
5	灰黄褐色細砂層	○○	中央下部に砂利含む、赤褐色土含む

Fig.23　H-15・16号竪穴住居跡、W-7号溝跡





H－17号住居跡　竜ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ローム つぶ含む
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ローム つぶ1層より多く含む、炭化物含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP1・2層より少なく含む、ローム つぶ2層より多く含む、下部に灰層有り
4	黒褐色微砂層	○◎	白色粘土多く含む、焼けた粘土・焼土つぶ含む
5	灰黄褐色微砂層	△◎	焼土つぶ含む
6	灰黄褐色微砂層	△◎	
7	褐色細砂層	○△	
8	黒褐色微砂層	△△	灰層
9	橙色微砂層	◎×	ブロックのように硬い
10	褐色微砂層	○△	
11	にぶい褐色細砂層	○○	灰・焼土つぶ含む
12	にぶい黄褐色微砂層	○◎	灰含む、粘質土
13	灰黄褐色微砂層	○○	灰多く含む
14	にぶい黄橙色微砂層	○◎	焼土・灰含む、粘質土
15	にぶい黄橙色微砂層	◎△	粘土ブロック、上部が焼けている

H－17号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む
2	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP1・2層より少なく含む、As-B含む、ロームつぶ・炭化物含む
4	にぶい黄褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP1・2層より少なく含む、As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物・灰含む
5	にぶい黄褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物含む
6	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームブロック・灰を西側に多く含む
7	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ・白色土含む
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む、白色土ブロック西側に含む
9	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む
10	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ・炭化物含む
11	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP10層より少なく含む、ロームつぶ・炭化物含む
12	灰黄褐色微砂層	△◎	地山の白色土混ざる
13	にぶい黄橙色微砂層	○△	地山

H－17号住居跡　P－1，2，3セクション

1	黒褐色細砂層	△◎	ロームブロックわずかに含む
2	黒褐色微砂層	△◎	ロームブロック多く含む
3	黒褐色微砂層	△◎	ロームブロックわずかに含む、焼土つぶ・灰含む

H－17号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	96	78	40	
P－2	円　形	74	62	26	
P－3	(楕円形)	(116)	102	(79)	

W－8、9、10、11号溝跡　西壁セクション

1	褐灰色粗砂層	○×	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む
3	褐灰色粗砂層	△○	旧耕作土
4	褐灰色細砂層	△○	6層と2層が含まれる
5	明黄褐色細砂層	○○	
6	褐灰色細砂層	△○	旧耕作土、鉄分凝結の明褐色土含む
6′	褐灰色細砂層	△○	W－9埋土
7	明黄褐色細砂層	○○	床土と思われる
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、As-B多く含む
9	褐灰色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む、地山のロームつぶ含む
10	暗褐色粗砂層	○△	
11	灰黄褐色細砂層	○○	10層と13層の中間層
12	褐灰色粗砂層	○×	地山のロームブロック含む
13	灰黄褐色細砂層	△△	地山のロームブロック含む
14	灰黄褐色細砂層	△△	地山のロームブロック13層より少なく含む
15	褐灰色細砂層	△○	
16	褐灰色細砂層	△×	W－10埋土
17	灰黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、W－8埋土
18	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
19	黒褐色細砂層	○○	地山の乳白色土ブロック含む

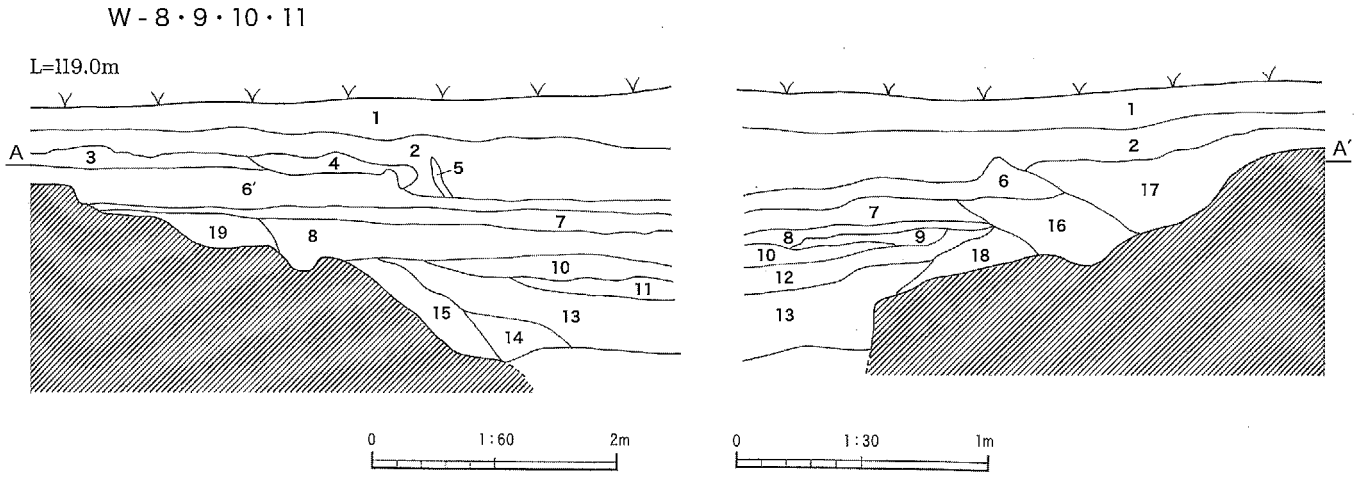
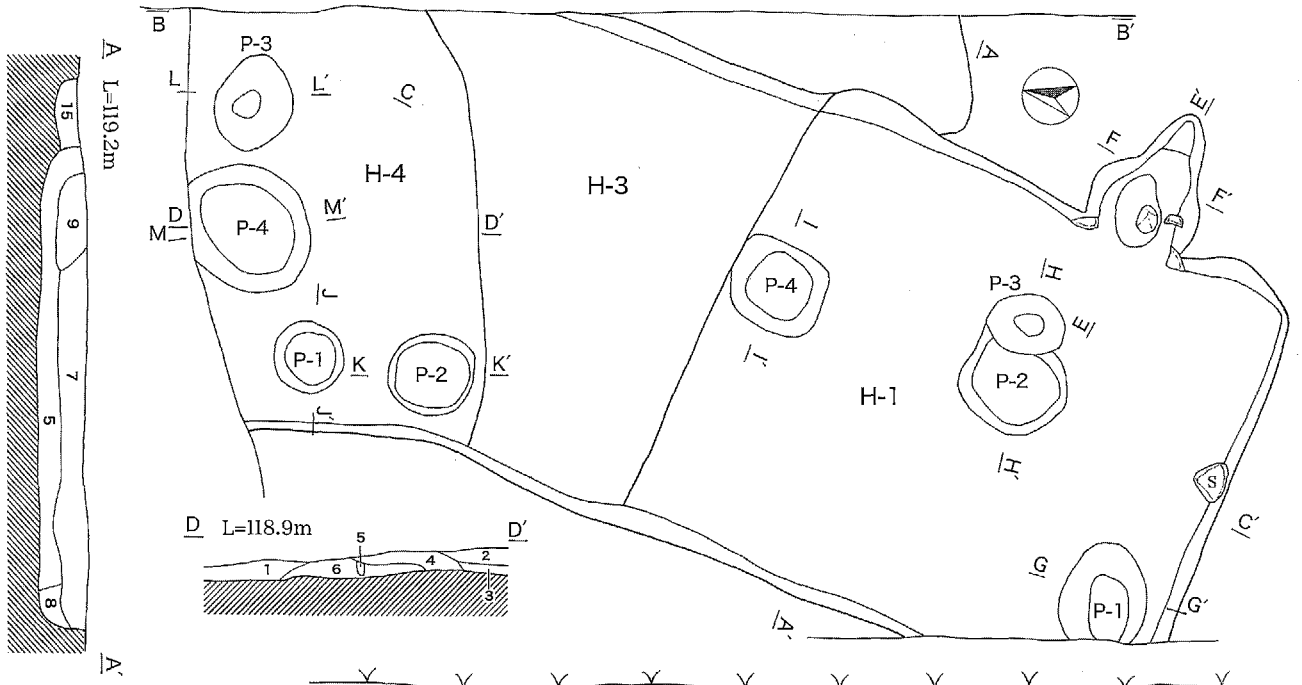
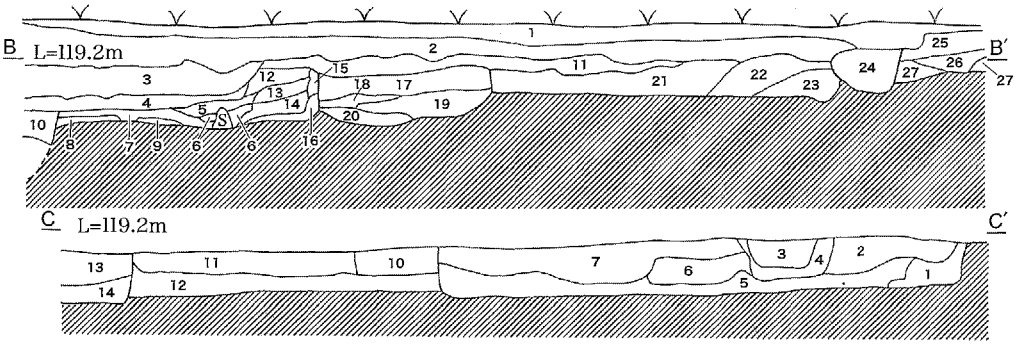


Fig.24　H-17号竪穴住居跡、W-8-11号溝跡





H－1，2，3，4号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色微砂層	○○ As-C含む、焼土つぶ含む、粘質土、H－1埋土
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、H－1埋土
3	にぶい黄橙色細砂層	○○ W－1埋土
4	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、W－1埋土
5	黒褐色微砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、H－1埋土
6	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、H－1埋土
7	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、H－1埋土
8	黒褐色微砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－1埋土
9	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、炭化物含む、H－1埋土
10	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、H－3埋土
11	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－3埋土
12	暗褐色微砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－3埋土
13	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、H－4埋土
14	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－4埋土
15	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、H－2埋土

H－4号住居跡　南北ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームつぶ多く含む
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
3	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP2層より少なく含む、ロームつぶ含む
4	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
5	黒褐色微砂層	△○ 灰層
6	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームつぶ含む

H－1号住居跡　籠ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
3	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、粘土混じる
4	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
5	黒褐色細砂層	○○ にぶい黄橙色粘土つぶ含む、粘質土
6	黒色細砂層	○○ 灰層含む、粘質土
7	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
8	赤褐色細砂層	○× 籠の周りの焼土

H－1号住居跡　P－1号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△◎ As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む、下部に炭化物含む

H－1号住居跡　P－2，3号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△◎ As-B多く含む、ロームつぶ・炭化物・焼土つぶ含む
2	黒褐色細砂層	△◎ As-B多く含む、ロームつぶ・炭化物含む

H－1号住居跡　P－4号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶわずかに含む
2	灰黄褐色微砂層	△◎ 白黄橙色土つぶ多く含む

H－2，3，4号住居跡　東壁セクション

1	灰黄褐色細砂層	○○ 現耕作土
2	灰黄褐色細砂層	○○ 鉄分により全体的に赤味を帯びる、下部に暗褐色砂利層、焼土つぶ・炭化物わずかに含む
3	褐灰色微砂層	○◎ 下部にAs-B純層有り
4	黄褐色細砂層	○◎ Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む、H－4埋土
5	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームブロック・焼土つぶ・炭化物含む、H－4埋土
6	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む,ロームつぶ含む,焼土つぶ・灰多く含む,H－4埋土
7	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、灰含む、炭化物わずかに含む、H－4埋土
8	褐色微砂層	○◎ ロームつぶ多く含む、H－4埋土
9	黒褐色微砂層	△◎ 灰多く含む、焼土つぶ含む、H－4埋土
10	にぶい黄褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームつぶ含む
11	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP少なく含む
12	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、H－4埋土
13	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ多く含む、焼土つぶ・炭化物含む、H－4埋土
14	黒褐色細砂層	○○ 上部にAs-C・Hr-FP含む、下部に灰含む、ロームつぶ含む、H－4埋土
15	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む、H－4埋土
16	褐色微砂層	○○ ロームつぶ多く含む、炭化物わずかに含む、14層下は灰層、H－4埋土
17	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物わずかに含む、H－3埋土
18	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、炭化物・灰含む、H－3埋土
19	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP少なく含む、H－3埋土
20	黒褐色微砂層	△○ 灰層、H－3埋土
21	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、H－2埋土
22	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP少なく含む、白黄色土つぶ・炭化物わずかに含む、H－2埋土
23	にぶい黄褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、白黄色土つぶ含む、H－2埋土
24	にぶい黄褐色微砂層	△◎ W－1埋土
25	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP少なく含む
26	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶわずかに含む
27	黒褐色細砂層	○○ 上部にAs-C・Hr-FP多く含む

H－4号住居跡　P－1号柱穴セクション

1	暗褐色微砂層	○○ 軽石わずかに含む
2	黒褐色微砂層	○◎ 焼土つぶわずかに含む
3	黒褐色細砂層	△◎ As-B多く含む、ロームつぶわずかに含む

H－4号住居跡　P－2号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△◎ As-B多く含む、ロームつぶ含む

H－4号住居跡　P－3号柱穴セクション

1	暗褐色微砂層	△◎ As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ・炭化物含む
2	黒褐色微砂層	×◎ 焼土つぶ・炭化物含む、灰が混ざる
3	暗褐色細砂層	△◎ ロームつぶ・焼土つぶわずかに含む

H－1号住居跡柱穴・土坑計測表

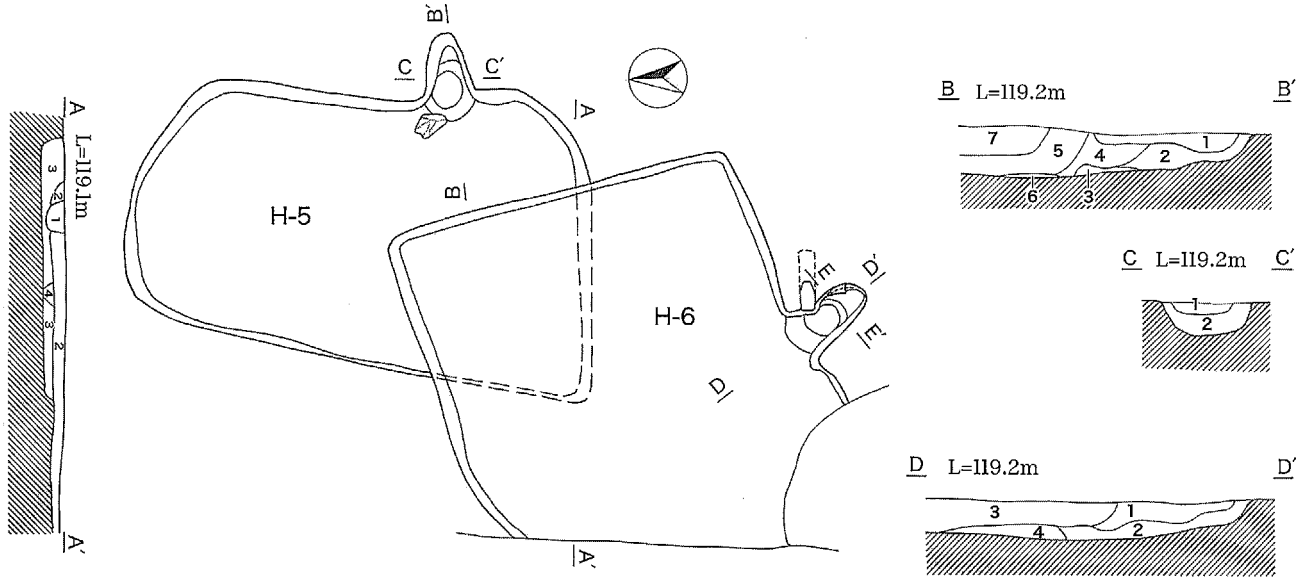
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P－1	(楕円形)	(80)	70	(60.5)	
P－2	(長方形)	80	(70)	(16)	
P－3	楕円形	63	50	26.5	
P－4	長方形	76	70	41.5	

H－4号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P－1	円形	56	54	38.5	
P－2	円形	72	66	46.5	
P－3	楕円形	75	62	56.5	
P－4	楕円形	112	94	16.5	

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

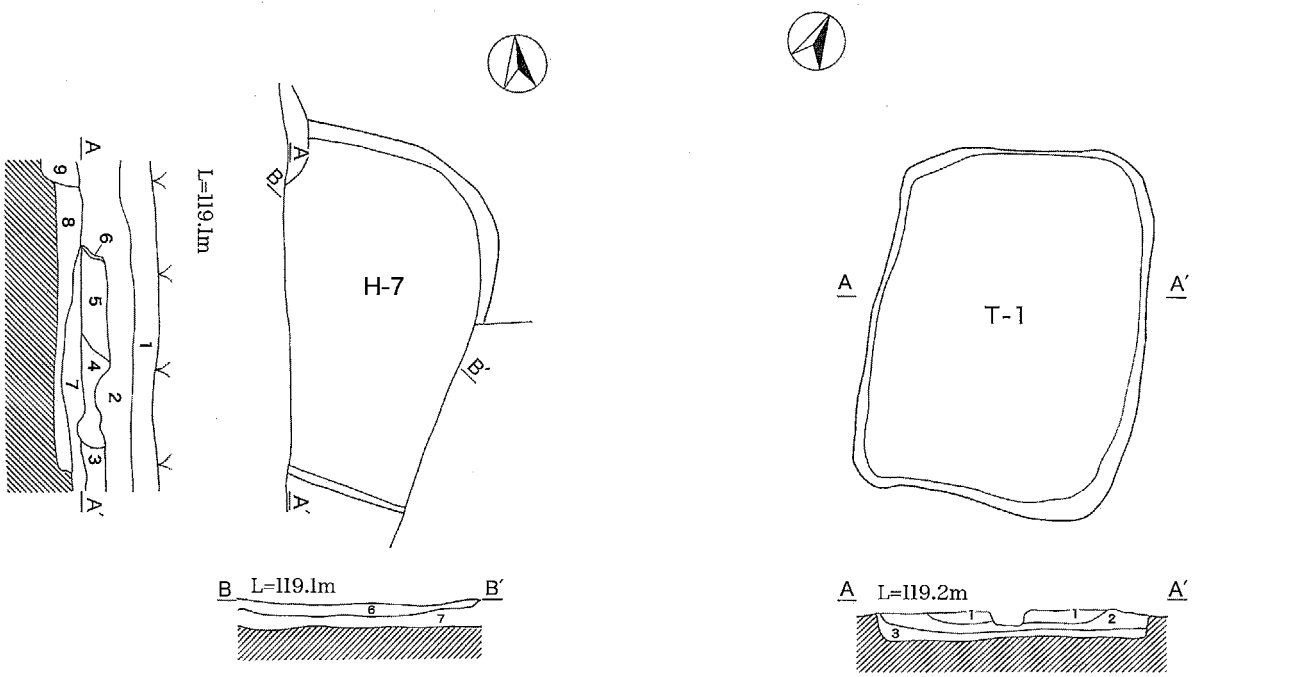
Fig.25　H-1~4号竪穴住居跡



H－5，6号住居跡　東西ベルトセクション
1　灰黄褐色粗砂層　○○　As-B混土層、W－2埋土
2　灰黄褐色微砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、下部がH－6貼床
3　灰黄褐色微砂層　○◎
4　黒褐色微砂層　△◎　As-Cわずかに含む

H－5号住居跡　竈ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
3　暗青灰色微砂層　○○　灰層
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
5　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
6　暗青灰色微砂層　○×　灰層
7　灰黄褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む

H－6号住居跡　竈ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土含む
2　黒褐色細砂層　○○　軽石1層より少なく含む
3　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　○○　焼土・灰含む
5　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
6　黒褐色細砂層　○○　灰含む

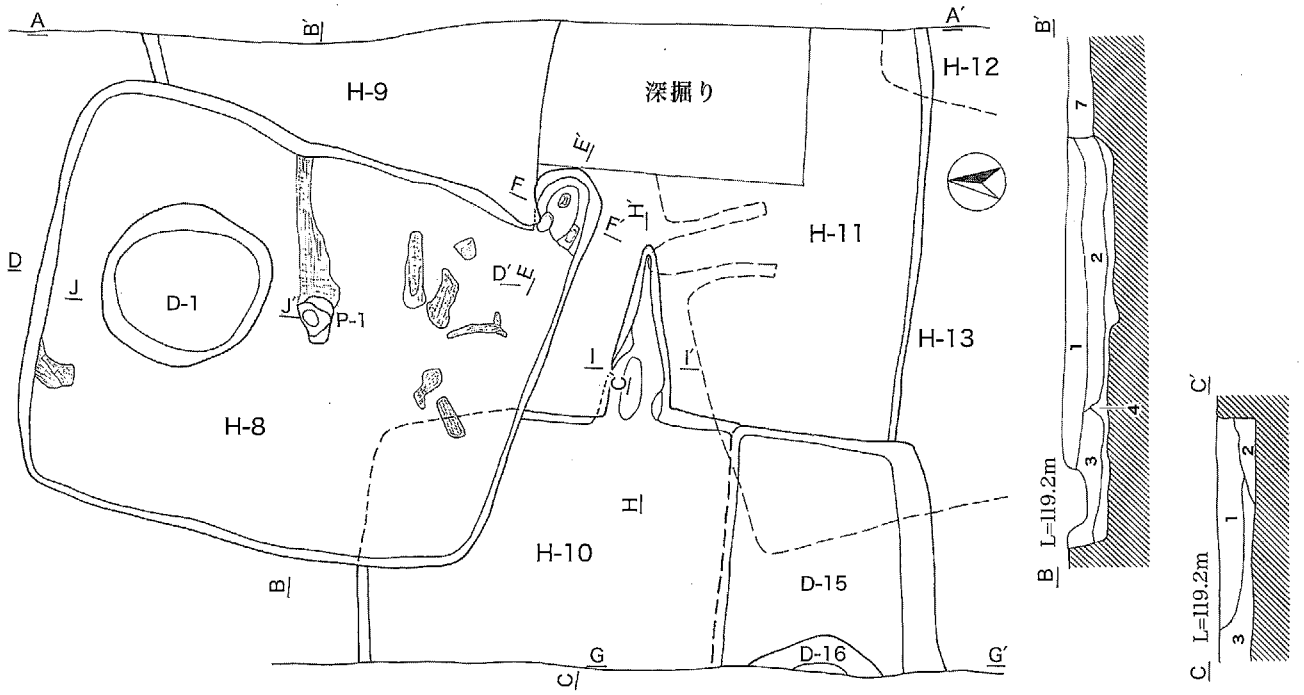


H－7号住居跡　ベルトセクション
1　褐灰色細砂層　△×　現耕作土
2　黒褐色細砂層　△×　旧耕作土
3　褐灰色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
5　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
6　暗褐色細砂層　○○　赤褐色焼土つぶ含む
7　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
8　黒褐色細砂層　○○　軽石7層より少なく含む
9　褐灰色粗砂層　○△　As-B混土層、D－13埋土

T－1号竪穴遺構　東西ベルトセクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、As-Bわずかに含む
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP1層より少なく含む,As-Bわずかに含む,東側に炭化物わずかに含む
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物わずかに含む

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.26　H-5-7号竪穴住居跡、T-1号竪穴状遺構



H－8号住居跡　竈ベルトセクション
1　灰黄褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む
5　橙色細砂層　○○　4層の土が混じる
6　黒褐色細砂層　○○　粘土多く含む

H－8号住居跡　D－1号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ含む、層下部に炭化物の層有り
2　灰黄褐色細砂層　△○　ロームつぶ・炭化物含む、白黄色土つぶわずかに含む
3　にぶい黄褐色細砂層　△◎　ロームつぶ・焼土つぶ含む

H－10号住居跡　竈ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　黒褐色細砂層　○○　焼土つぶ含む
3　黒褐色細砂層　○○　下部に灰層含む

D－16号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　黒色粗砂層　○×　As-B混土層
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、As-Bわずかに含む、焼土つぶ含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、As-Bわずかに含む、焼土つぶ含む
5　黒色微砂層　△○　粘質土
6　にぶい黄褐色微砂層　○○　地山に砂利含む
7　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む
8　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む、炭化物含む

H－9，11号住居跡　東壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B混土層、As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、炭化物多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP２・３層より少なく含む、炭化物わずかに含む、H－９埋土
5　暗褐色微砂層　○◎　As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物わずかに含む
6　黒褐色細砂層　○○　灰層、焼土ブロック含む、H－９埋土
7　灰黄褐色微砂層　○◎　粘土・焼土多く含む、H－９埋土
8　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶわずかに含む、H－11埋土
9　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FPわずかに含む、H－11埋土

H－8、9号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、As-Bわずかに含む
2　黒褐色細砂層　○○　軽石１層より少なく含む、焼土つぶ含む、炭化物わずかに含む
3　黒褐色細砂層　○○　炭化物２層より少なく含む
4　黒褐色細砂層　○○　炭化物多く含む
5　黒色細砂層　××　炭化物含む
6　黒褐色細砂層　○○　竈のくずれた粘土含む
7　黒褐色細砂層　○○　H－９埋土

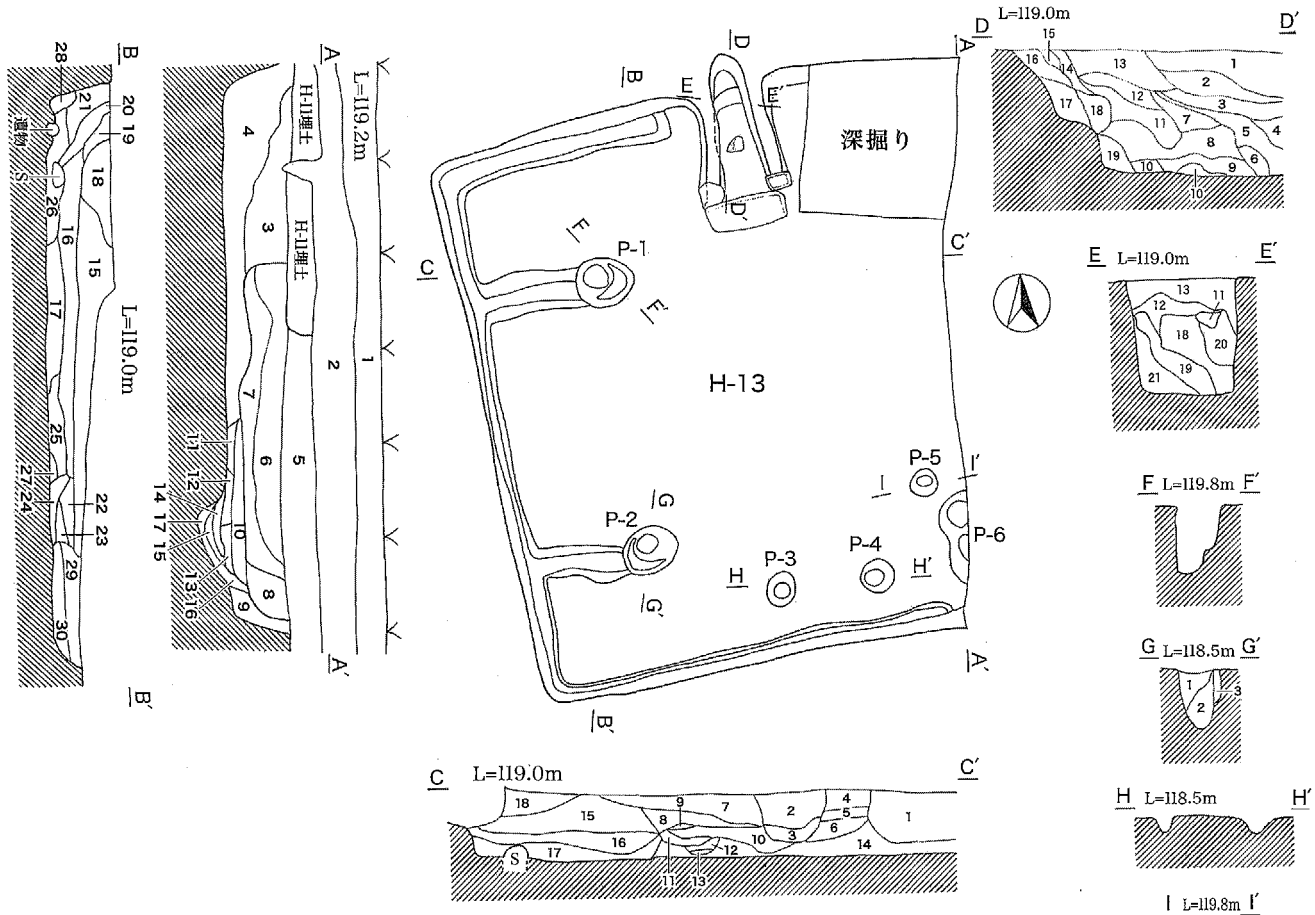
H－10号住居跡　東西ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む、粘土含む
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む

H－８号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	楕円形	38	26	53.5	
D－1	円　形	140	126	65	

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.27　H-8-11号竪穴住居跡、D-15-16号土坑



H－12, 13号住居跡　東壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混土層、As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、焼土の層有り、H－13埋土
4	黒褐色細砂層	○○	As-C含む、Hr-FP多く含む、3層の土を所々に含む、H－13埋土
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物少なく含む、H－12埋土
7	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、白黄色粘土多く含む、H－12埋土
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、炭化物含む、下部に焼土つぶと白黄色粘土含む、H－12埋土
9	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ・炭化物含む、H－13埋土
10	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、褐色粘土ブロック・焼土つぶ含む、H－13埋土
11	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP含む、下部に焼土つぶ・炭化物含む、ロームつぶわずかに含む、H－13埋土
12	にぶい褐色微砂層	△○	灰多く含む、H－13埋土
13	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、灰色粘土ブロック含む、H－13埋土
14	褐灰色微砂層	△○	As-C・Hr-FP含む、灰含む、H－13埋土
15	褐色粗砂層	△○	As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、H－13埋土
16	灰黄褐色微砂層	○◎	H－13埋土
17	黒褐色細砂層	△○	しめった軽石含む、焼土つぶ・炭化物含む、H－13埋土

H－13号住居跡　南北・東西ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、炭化物わずかに含む、H－12埋土
2	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、焼土つぶわずかに含む
3	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FPわずかに含む、灰含む、焼土つぶわずかに含む
4	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ含む
5	暗褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP多く含む、炭化物わずかに含む
6	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物・焼土つぶわずかに含む
7	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、焼土つぶ東側に多く含む
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む
9	暗褐色微砂層	○◎	粘質土
10	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ含む
11	黒褐色細砂層	○○	
12	黒褐色細砂層	○◎	焼土つぶ多く含む、下部に灰層有り
13	暗褐色細砂層	◎△	硬い
14	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ含む
15	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む、炭化物わずかに含む
16	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶわずかに含む
17	黒褐色微砂層	△◎	焼土つぶ含む
18	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む
19	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む
20	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物わずかに含む
21	黒褐色細砂層	○○	下部に焼土含む
22	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP少なく含む、ロームつぶ・焼土つぶわずかに含む
23	暗褐色細砂層	△◎	しめった軽石多く含む
24	暗褐色細砂層	△◎	しめった軽石多く含む、焼土つぶ含む
25	黒褐色細砂層	△○	しめった軽石多く含む、白黄色土つぶ含む
26	黒褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP少なく含む、焼土つぶ含む
27	黒褐色細砂層	△○	しめった軽石多く含む、焼土つぶ多く含む
28	にぶい黄褐色微砂層	○◎	焼土つぶ少なく含む
29	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ・白黄色粘土つぶ含む
30	黒褐色細砂層	○○	しめった軽石多く含む、焼土つぶ含む

H－13号住居跡　I－I′ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ含む
2	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む
4	黒褐色微砂層	○◎	ロームつぶ・焼土つぶ含む
5	暗褐色微砂層	○◎	焼土つぶ・炭化物含む
6	黒褐色細砂層	○◎	焼土つぶ含む
7	暗褐色細砂層	○◎	焼土つぶ含む
8	暗褐色細砂層	○○	焼土多く含む、下部に灰層有り
9	暗褐色微砂層	○◎	焼土つぶ・灰わずかに含む
10	黒褐色微砂層	△○	灰層
11	灰黄褐色細砂層	△○	焼土つぶわずかに含む
12	暗褐色細砂層	○○	Hr-FPわずかに含む、焼土つぶわずかに含む
13	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む
14	黄橙色微砂層	○△	暗褐色土わずかに含む
15	暗褐色細砂層	○○	焼土つぶ含む
16	黒褐色細砂層	○○	焼土つぶ含む
17	暗褐色細砂層	○◎	焼土つぶ含む
18	暗褐色細砂層	△○	焼土多く含む
19	暗褐色微砂層	○◎	焼土つぶ・灰含む
20	黒褐色細砂層	○○	焼土つぶ含む
21	灰黄褐色微砂層	○◎	下部に焼土・灰わずかに含む

H－13号住居跡　P－2号柱穴セクション

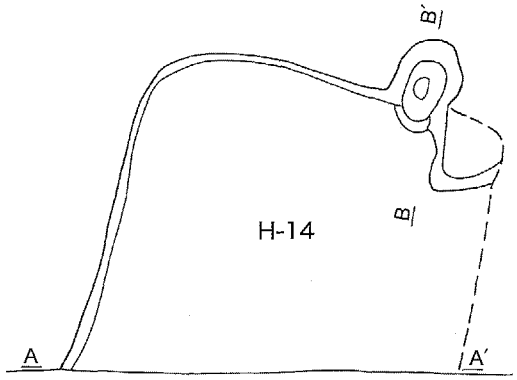
1	灰黄褐色微砂層	△◎	しめったAs-C含む、白黄色粘土つぶ含む、黒褐色土多く含む
2	にぶい黄褐色微砂層	△◎	焼土つぶ・炭化物わずかに含む、白黄色粘土つぶ多く含む
3	にぶい黄褐色微砂層	△◎	焼土つぶ含む

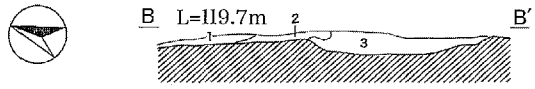
H－13号住居跡柱穴・土坑計測表

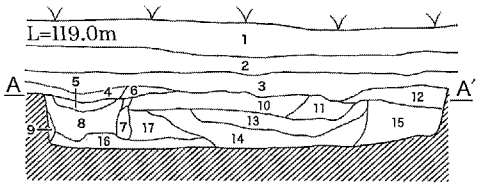
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	45	38	54	
P－2	楕円形	46	36	54	
P－3	円　形	28	21	14	
P－4	円　形	28	27	11	
P－5	円　形	22	20	61	
P－6	(楕円形)	(72)	(14)	(29)	

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.28　H-13号竪穴住居跡





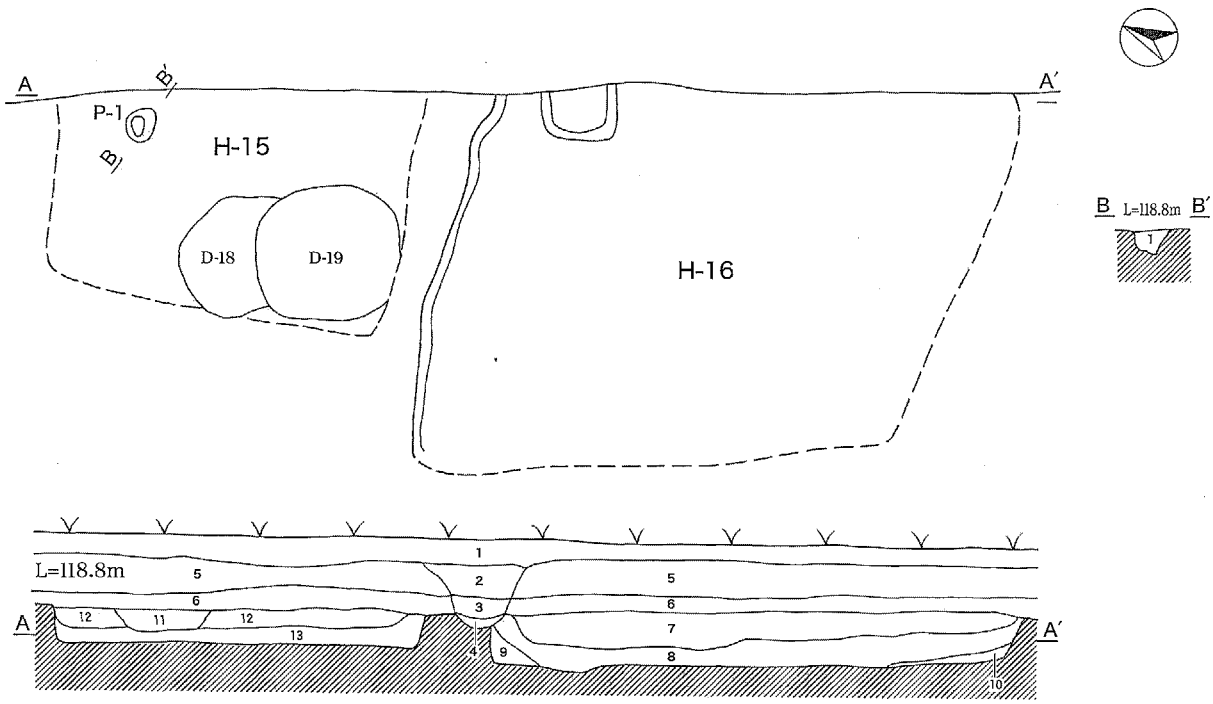


H−14号住居跡　四壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	現耕作土
2	灰黄褐色細砂層	○△	As-B混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、ロームつぶ多く含む
4	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、ロームブロック多く含む
5	黒褐色微砂層	○◎	ロームつぶ・炭化物わずかに含む
6	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、ロームつぶ含む
7	灰黄褐色細砂層	△○	As-B含む、ロームつぶ含む、粘質土
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物わずかに含む
9	暗褐色微砂層	○◎	
10	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、As-B含む、ロームつぶわずかに含む
11	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む
12	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-BII層より多く含む
13	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物わずかに含む
14	黒褐色微砂層	△◎	As-C・Hr-FP少なく含む、As-B含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物わずかに含む
15	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、焼土つぶ・炭化物含む
16	黒褐色微砂層	○◎	ロームつぶ含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む
17	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶ・炭化物含む

H−14号住居跡　竈ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ・炭化物含む
2	暗灰色微砂層	△○	灰層
3	灰黄褐色微砂層	○◎	焼土つぶ・灰混ざる



H−15、16号住居跡　東壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	現耕作土
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む
3	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、As-B多く含む
4	灰黄褐色微砂層	○◎	粘質土
5	灰黄褐色細砂層	○△	As-B混土層、As-C・Hr-FP含む
6	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B含む、焼土つぶ・炭化物含む、ロームつぶわずかに含む
7	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶ・炭化物・ロームつぶわずかに含む、H−16埋土
8	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、炭化物多く含む、焼土つぶ・ロームつぶわずかに含む、H−16埋土
9	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む,As-B含む、炭化物含む,ロームつぶわずかに含む、H−16埋土
10	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、下部に灰多く含む、H−16埋土
11	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B多く含む、焼土つぶ・ロームつぶ・炭化物含む、H−15埋土
12	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶ・ロームつぶ・炭化物少なく含む、H−15埋土
13	黒褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む、焼土つぶ・ロームつぶ・炭化物少なく含む、H−15埋土

H−15号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P−1	円　形	28	24	19	

H−16号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P−1	(長方形)	58	(42)	(5.5)	

H−15号住居跡　P−1号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	○○	

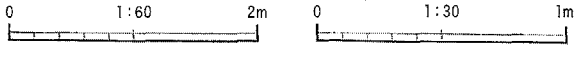
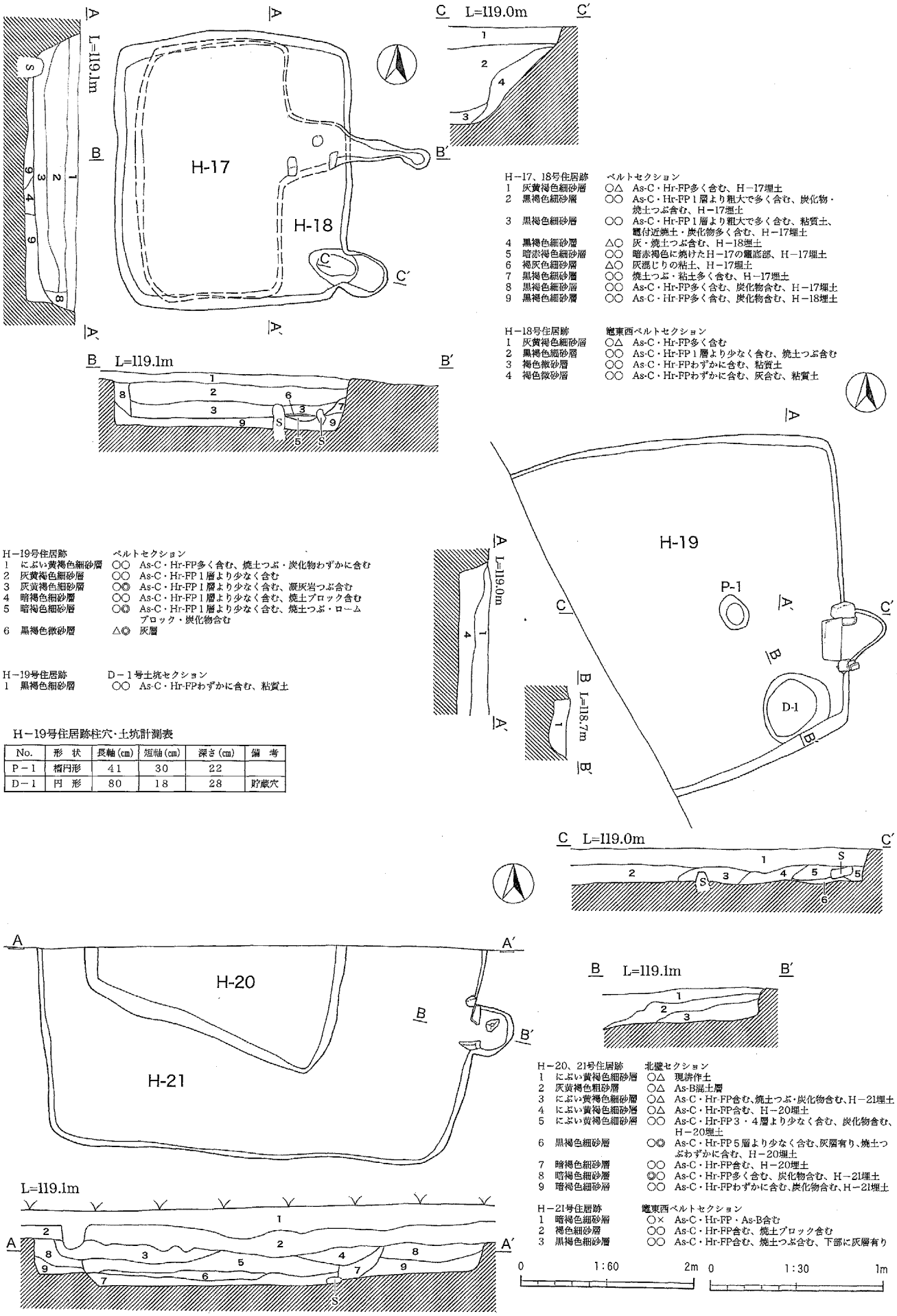


Fig.29　H-14~16号竪穴住居跡



H−17、18号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△　As-C・Hr-FP多く含む、H−17埋土
2	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP１層より粗大で多く含む、炭化物・焼土つぶ含む、H−17埋土
3	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP１層より粗大で多く含む、粘質土、竈付近焼土・炭化物多く含む、H−17埋土
4	黒褐色細砂層	△○　灰・焼土つぶ含む、H−18埋土
5	暗赤褐色細砂層	○○　暗赤褐色に焼けたH−17の竈底部、H−17埋土
6	褐灰色細砂層	△○　灰混じりの粘土、H−17埋土
7	黒褐色細砂層	○○　焼土つぶ・粘土多く含む、H−17埋土
8	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP多く含む、炭化物含む、H−17埋土
9	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP多く含む、炭化物含む、H−18埋土

H−18号住居跡　竈東西ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△　As-C・Hr-FP多く含む
2	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP１層より少なく含む、焼土つぶ含む
3	褐色微砂層	○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、粘質土
4	褐色微砂層	○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、灰含む、粘質土

H−19号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP多く含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む
2	灰黄褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP１層より少なく含む
3	灰黄褐色細砂層	○◎　As-C・Hr-FP１層より少なく含む、凝灰岩つぶ含む
4	暗褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP１層より少なく含む、焼土ブロック含む
5	暗褐色細砂層	○◎　As-C・Hr-FP１層より少なく含む、焼土つぶ・ローム ブロック・炭化物含む
6	黒褐色微砂層	△◎　灰層

H−19号住居跡　D−１号土坑セクション

1	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、粘質土

H−19号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P−1	楕円形	41	30	22	
D−1	円　形	80	18	28	貯蔵穴

H−20、21号住居跡　北壁セクション

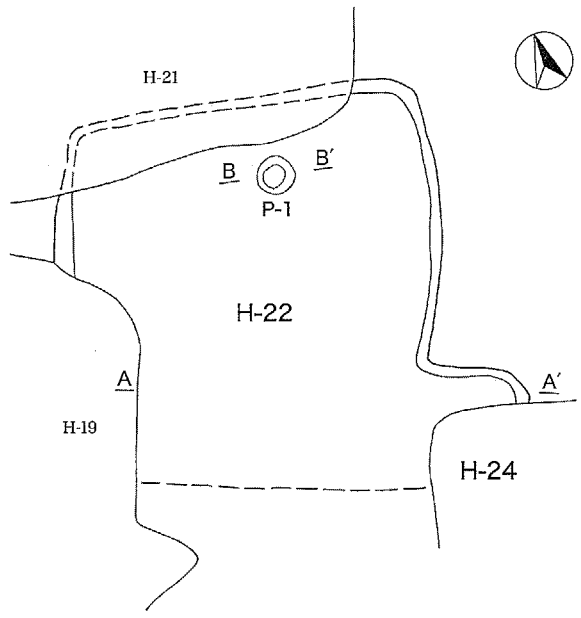
1	にぶい黄褐色細砂層	○△　現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△　As-B混土層
3	にぶい黄褐色細砂層	○△　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む、H−21埋土
4	にぶい黄褐色細砂層	○△　As-C・Hr-FP含む、H−20埋土
5	にぶい黄褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP３・４層より少なく含む、炭化物含む、H−20埋土
6	黒褐色細砂層	○◎　As-C・Hr-FP５層より少なく含む、灰層有り、焼土つぶわずかに含む、H−20埋土
7	暗褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP含む、H−20埋土
8	暗褐色細砂層	◎○　As-C・Hr-FP多く含む、炭化物含む、H−21埋土
9	暗褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物含む、H−21埋土

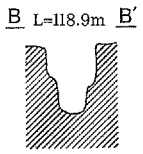
H−21号住居跡　竈東西ベルトセクション

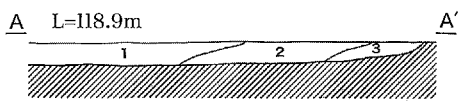
1	暗褐色細砂層	○×　As-C・Hr-FP・As-B含む
2	褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP含む、焼土ブロック含む
3	黒褐色細砂層	○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、下部に灰層有り

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.30　H-17~21号竪穴住居跡





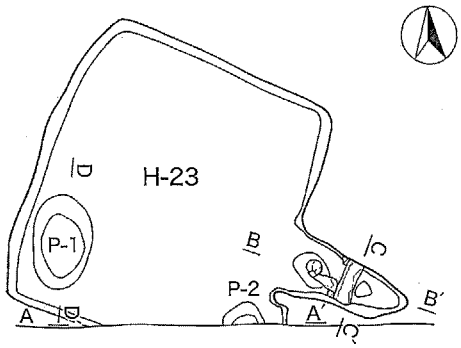


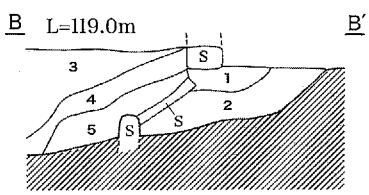
H－21号住居跡　　竈東西ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　　○×　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土ブロック含む
3　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ含む、下部に灰層有り

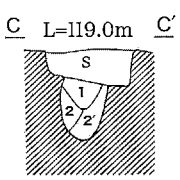
H－22号住居跡　　東西ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP含む、炭化物・焼土つぶ含む
2　黒褐色細砂層　　○○　川砂含む
3　灰黄褐色細砂層　　○△　川砂含む

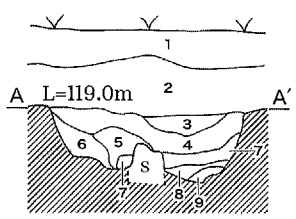
H－22号住居跡柱穴・土坑計測表

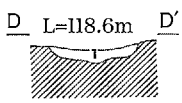
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	31	28	17	











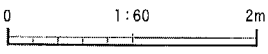
H－23号住居跡　　南壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　　○△　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　　○△　As-B混土層
3　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む
4　黒褐色微砂層　　○◎　As-C・Hr-FP3層より少なく含む、As-B含む、炭化物含む
5　暗褐色微砂層　　○◎　As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、焼土つぶ多く含む
6　暗褐色微砂層　　○◎　As-C・Hr-FP5層より少なく含む、As-B含む、焼土つぶ含む
7　黒褐色微砂層　　△◎　As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶ含む、下部に灰層有り
8　黒色微砂層　　△○　灰層
9　黒褐色微砂層　　△◎　灰が混ざっている

H－23号住居跡　　竈ベルトセクション
1　褐灰色細砂層　　△○　焼土つぶわずかに含む
2　黒褐色細砂層　　△○
2′　黒褐色細砂層　　△○　粘土ブロック含む
3　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶわずかに含む
4　暗褐色細砂層　　△○　3層より大きい焼土つぶわずかに含む
5　暗褐色細砂層　　○○　にぶい黄褐色粘土うすく含む

H－23号住居跡　　P－1号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　　△○　粘質土

H－23号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
D－1	楕円形	74	47	26	
P－1	不　明	(34)	(16)	(7)	



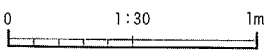
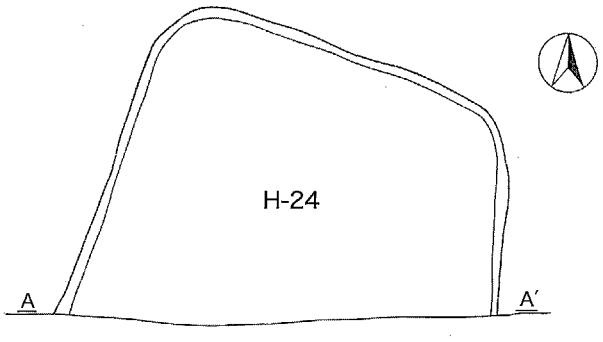
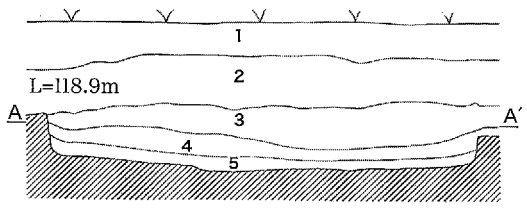


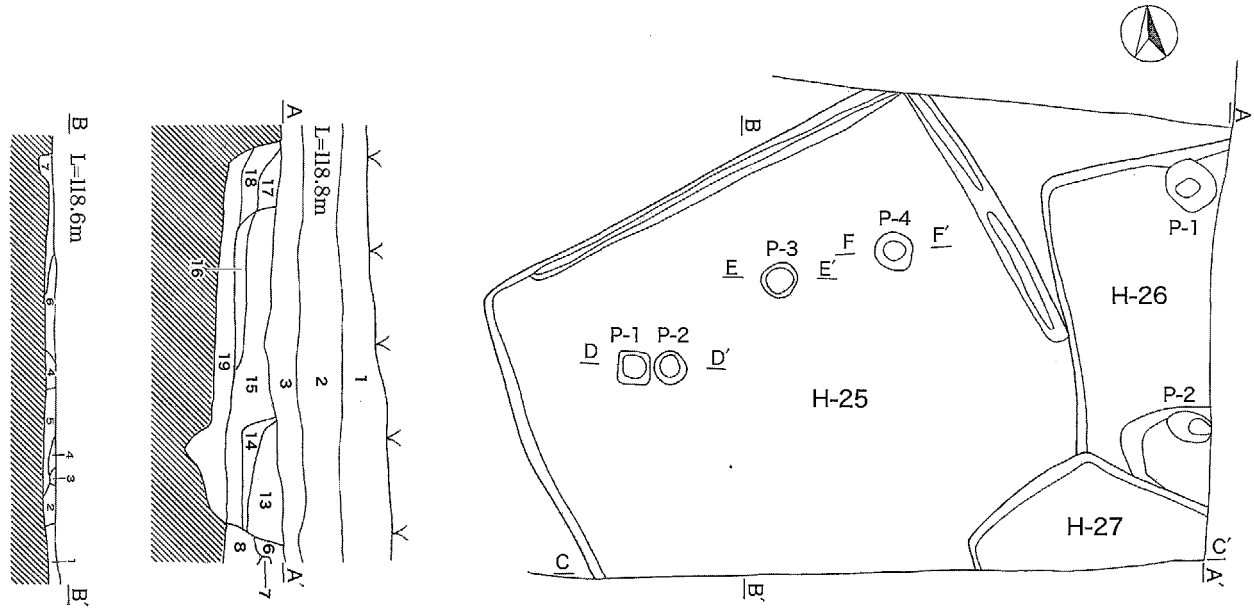
Fig.31　H-22・23号竪穴住居跡

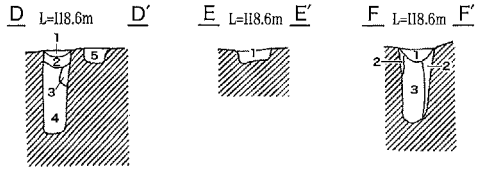


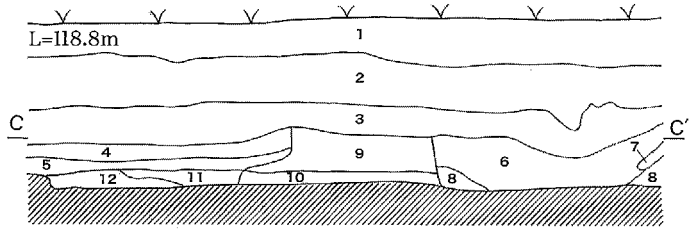


H－24号住居跡　　南壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、焼土つぶわずかに含む
4	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP３層より少なく含む、As-B含む
5	黒褐色微砂層	△◎	As-C・Hr-FPわずかに含む,As-B含む、ロームつぶわずかに含む







H－24、25、26、27、28号住居跡　　南壁・東壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む、焼土つぶわずかに含む
4	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP３層より少なく含む、As-B含む、H－24埋土
5	黒褐色微砂層	△◎	As-C・Hr-FPわずかに含む,As-B含む、ロームつぶわずかに含む、H－24埋土
6	黒褐色細砂層	○◎	As-Cわずかに含む、炭化物含む、焼土つぶわずかに含む、下部にロームつぶ含む、H－27埋土
7	にぶい黄褐色細砂層	○◎	焼土つぶ・炭化物含む、H－27埋土
8	黒褐色細砂層	○◎	ロームつぶ・炭化物含む、H－27埋土
9	暗褐色細砂層	○○	As-C含む、Hr-FP少なく含む、ロームつぶわずかに含む、H－25埋土
10	黒褐色細砂層	○○	As-C含む、ロームつぶ含む、焼土・灰わずかに含む、H－25埋土
11	暗褐色細砂層	○○	As-C含む、ロームつぶ含む、H－25埋土
12	黒褐色細砂層	○◎	下部にAs-C多く含む、H－25埋土
13	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物含む、H－28埋土
14	黒褐色細砂層	△◎	As-C・Hr-FP少なく含む、炭化物多く含む、ロームつぶ・焼土つぶ含む、H－28埋土
15	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物含む、下部に貼床有り、H－28埋土
16	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、灰多く含む、ロームつぶ含む、下部に貼床有り、H－28埋土
17	暗褐色細砂層	○○	As-C含む、Hr-FP多く含む、ロームつぶ・炭化物含む、H－26埋土
18	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、焼土つぶ・炭化物わずかに含む、H－26埋土
19	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ロームつぶ・焼土つぶ・炭化物わずかに含む、H－26埋土

H－25号住居跡　　南北ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○◎	As-C含む
2	黒褐色細砂層	○◎	As-C含む、炭化物含む
3	にぶい黄褐色細砂層	○◎	
4	黒褐色細砂層	○○	白い軽石多く含む
5	灰黄褐色細砂層	○◎	焼土つぶ・炭化物わずかに含む
6	灰黄褐色細砂層	○○	As-C含む、焼土つぶわずかに含む
7	黒褐色細砂層	○◎	As-C含む、ロームつぶわずかに含む、下部に灰と焼土有り

H－25号住居跡　　P－1、2号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP少なく含む、灰多く含む、焼土東側に含む
2	灰黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む
3	黒褐色細砂層	△◎	
4	灰黄褐色微砂層	○◎	
5	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む

H－25号住居跡　　P－3号柱穴セクション

1	灰黄褐色粗砂層	○×	ロームブロックわずかに含む

H－25号住居跡　　P－4号柱穴セクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FPわずかに含む、ローム・炭化物含む
2	灰黄褐色粗砂層	△△	
3	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FPわずかに含む、しめっている

H－25号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	正方形	28	25	71	
P－2	円　形	28	26	13	
P－3	円　形	30	28	11	
P－4	円　形	33	29	69	

H－26号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	42	36	27	
D－1	不整形	(83)	(73)	(24.5)	

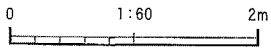
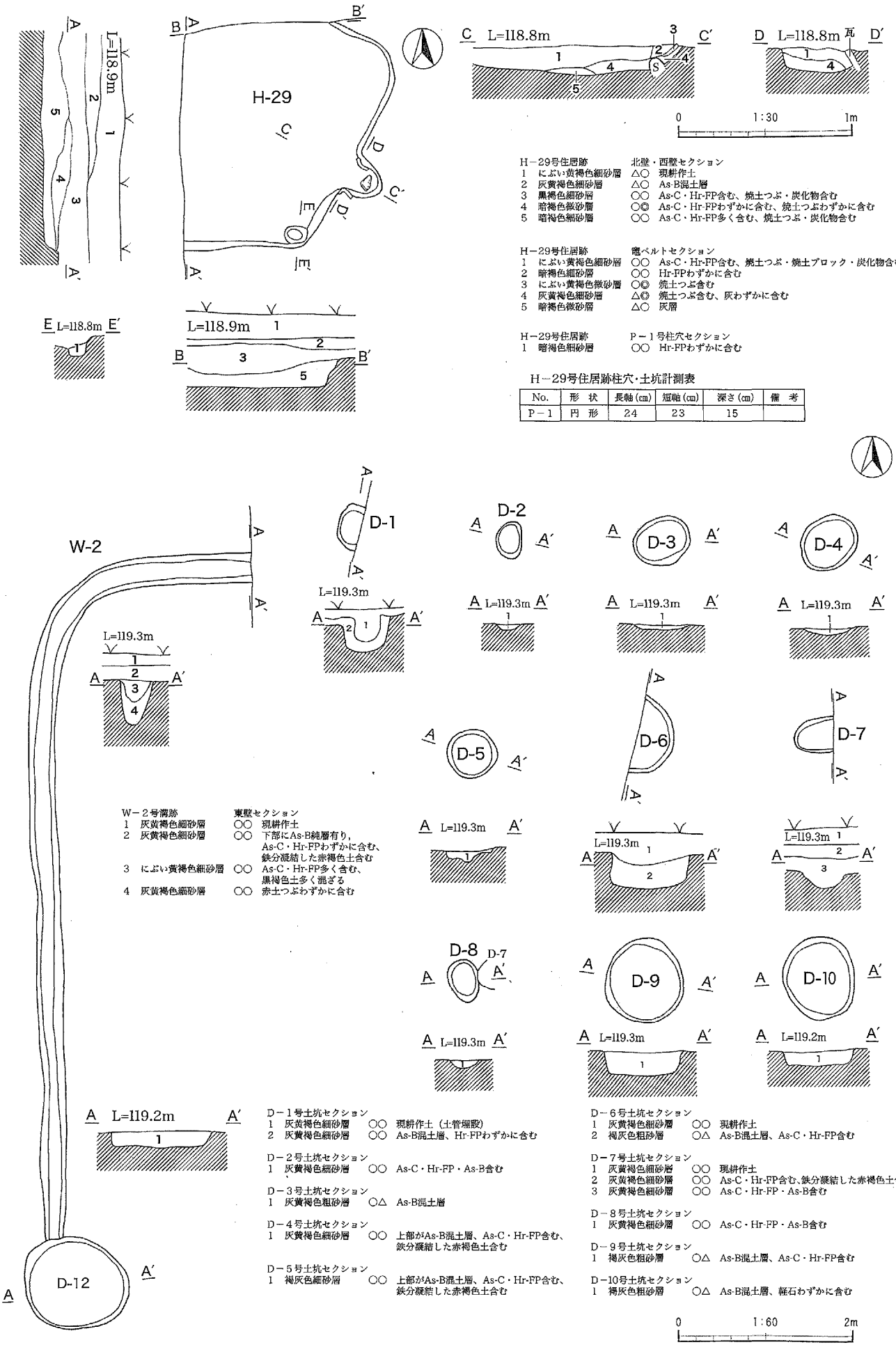


Fig.32　H-24~28号竪穴住居跡



H－29号住居跡　北壁・西壁セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　△○　現耕作土
2　灰黄褐色細砂層　△○　As-B混土層
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・炭化物含む
4　暗褐色微砂層　○◎　As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土つぶわずかに含む
5　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、焼土つぶ・炭化物含む

H－29号住居跡　竈ベルトセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・焼土ブロック・炭化物含む
2　暗褐色細砂層　○○　Hr-FPわずかに含む
3　にぶい黄褐色微砂層　○◎　焼土つぶ含む
4　灰黄褐色細砂層　△◎　焼土つぶ含む、灰わずかに含む
5　暗褐色微砂層　△○　灰層

H－29号住居跡　P－1号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○○　Hr-FPわずかに含む

H－29号住居跡柱穴・土坑計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P－1	円　形	24	23	15	

W－2号溝跡　東壁セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　灰黄褐色細砂層　○○　下部にAs-B純層有り，As-C・Hr-FPわずかに含む、鉄分凝結した赤褐色土含む
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多く含む、黒褐色土多く混ざる
4　灰黄褐色細砂層　○○　赤土つぶわずかに含む

D－1号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　現耕作土（土管埋設）
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-B混土層、Hr-FPわずかに含む

D－2号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む

D－3号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B混土層

D－4号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　上部がAs-B混土層、As-C・Hr-FP含む、鉄分凝結した赤褐色土含む

D－5号土坑セクション
1　褐灰色細砂層　○○　上部がAs-B混土層、As-C・Hr-FP含む、鉄分凝結した赤褐色土含む

D－6号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　褐灰色粗砂層　○△　As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

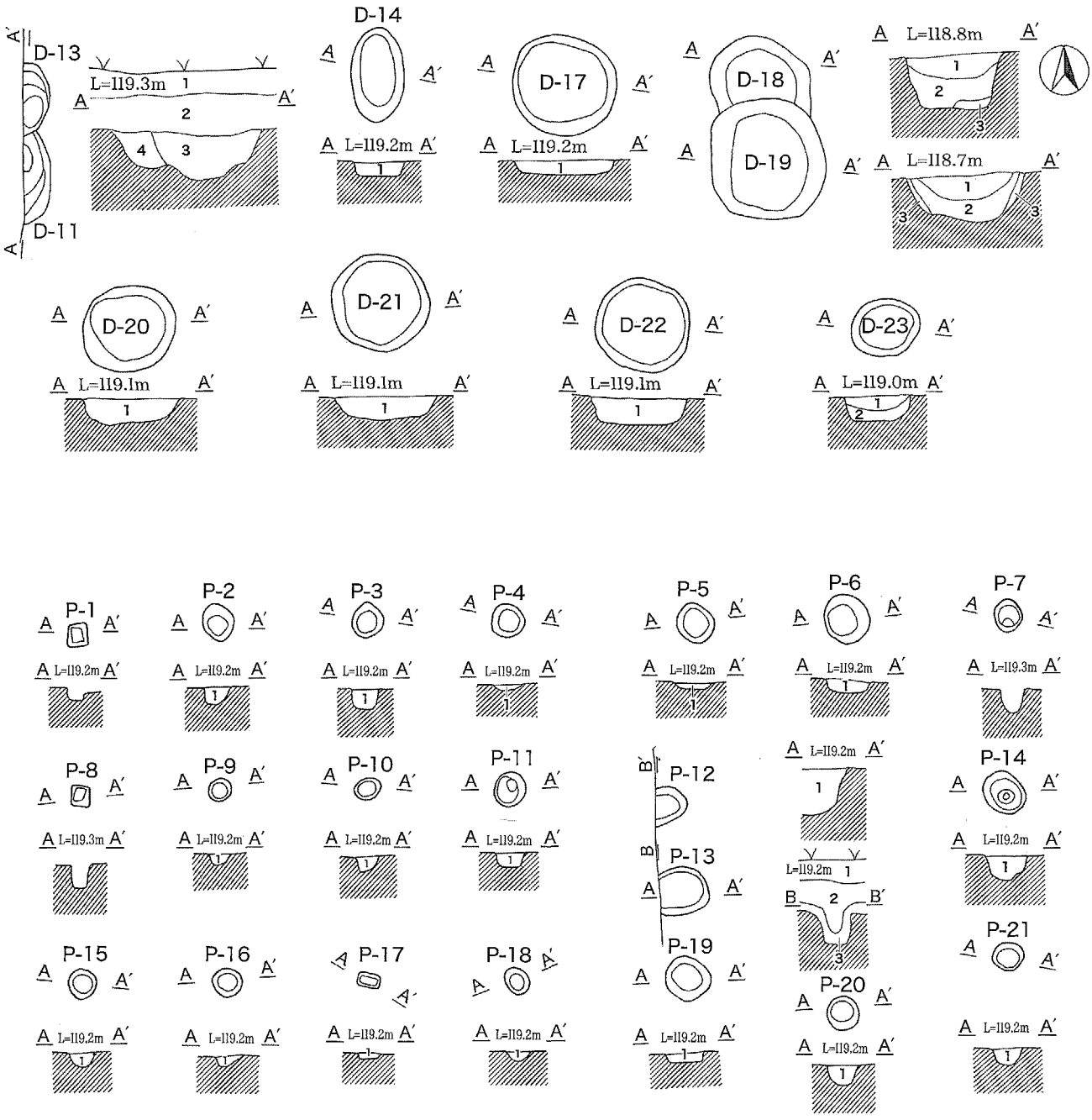
D－7号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　現耕作土
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、鉄分凝結した赤褐色土含む
3　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む

D－8号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B含む

D－9号土坑セクション
1　褐灰色粗砂層　○△　As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

D－10号土坑セクション
1　褐灰色粗砂層　○△　As-B混土層、軽石わずかに含む

Fig.33　H-29号竪穴住居跡、W-2号溝跡、D-1-10・12号土坑



D－11、13号土坑セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ 現耕作土
2 にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む
3 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、D－13埋土
4 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FPわずかに含む、炭化物わずかに含む、D－11埋土

D－14号土坑セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 ○△ As-B混土層

D－17号土坑セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

D－18号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、焼土つぶ・灰含む、下部に炭化物含む
2 黒褐色細砂層 ○○ 炭化物1層より少なく含む
3 灰黄褐色細砂層 ○○ 粘質土

D－19号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP含む、炭化物わずかに含む
2 黒褐色細砂層 △○ 黄橙色粘土つぶ含む
3 暗褐色細砂層 ○○

D－20号土坑セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

D－21号土坑セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

D－22号土坑セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

D－23号土坑セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP多く含む、As-B含む
2 灰黄褐色細砂層 ○○ 軽石1層より少なく含む

P－2号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－3号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層

P－4号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層

P－5号柱穴セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 ○△ As-B混土層

P－6号柱穴セクション
1 にぶい黄褐色細砂層 ○△ As-B混土層

P－9号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－10号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－11号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－12号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 △○ 現耕作土
2 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む
3 黒褐色細砂層 ○◎ As-C・Hr-FP含む、下部に白色粘土つぶ含む

P－13号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む、下部に白色粘土つぶ含む

P－14号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－15号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－16号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－17号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－18号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

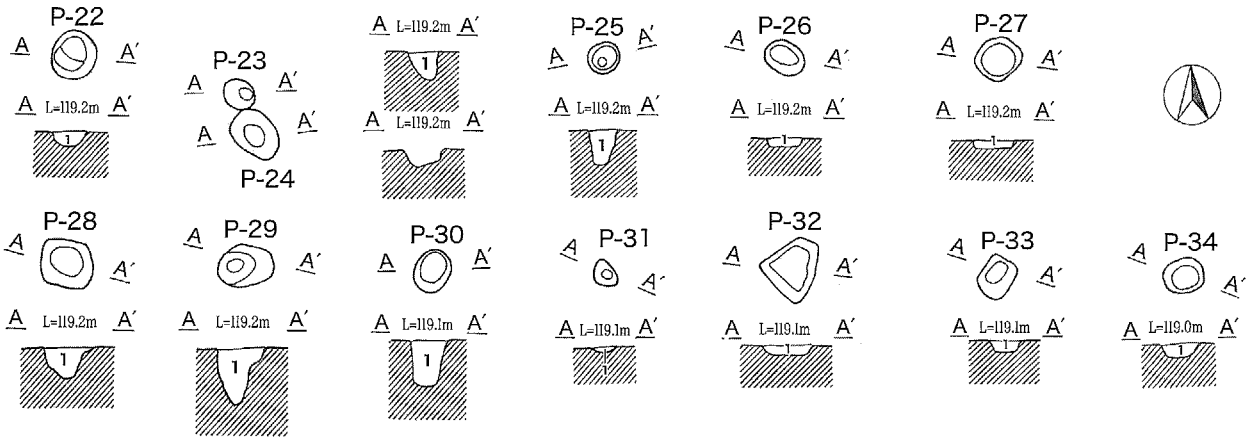
P－19号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－20号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－21号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

0 1:60 2m

Fig.34 D-11・13・14・17-23号土坑、P-1-21号柱穴



P－22 号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－23 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－25 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－26 号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－27 号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－28 号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－29 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

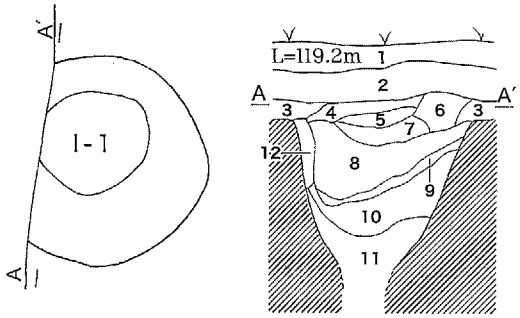
P－30 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－31 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

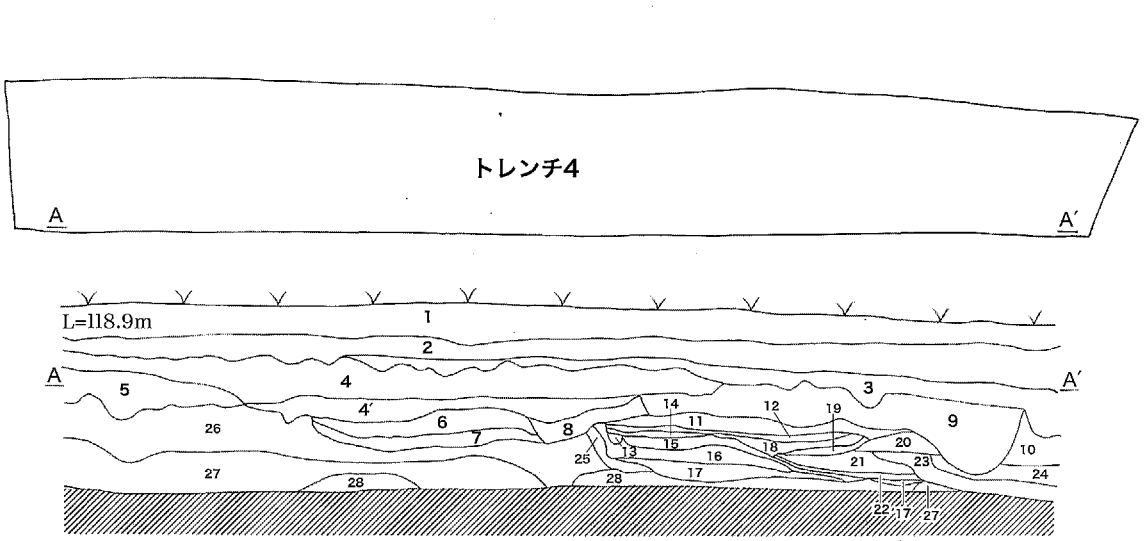
P－32 号柱穴セクション
1 褐灰色粗砂層 ○△ As-B混土層、As-C・Hr-FP含む

P－33 号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む

P－34号柱穴セクション
1 灰黄褐色細砂層 ◎△ As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む



I－1号井戸跡 東壁セクション
1 灰黄褐色細砂層 ○× 現耕作土
2 黒褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP・As-B含む
3 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP・As-B含む（4層よりAs-B少ない）
4 黒褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP・As-B含む（2層よりAs-B多い）
5 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、As-Bわずかに含む
6 黒褐色細砂層 ○△ As-B含む、灰白色軽石ブロック含む
7 黒褐色細砂層 ○△ 上部に灰白色軽石ブロックが帯状に入り、下部に灰が帯状に入る
8 黒褐色粗砂層 △○ As-B多く含む
9 暗灰色細砂層 ×△ 灰が帯状に入る
10 褐灰色粗砂層 ○× As-B純層に近い
11 褐灰色粗砂層 ○× にぶい黄橙色粘土ブロック含む



トレンチ3セクション
1 褐灰色粗砂層 ○× カクラン混じりの現耕作土
2 黒褐色粗砂層 ○× As-B混土層、白い軽石含む
3 褐灰色粗砂層 ○× As-B純層、赤灰色灰混じる
4 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む
4′ 黒褐色細砂層 ○○ 軽石4層より少なく含む
5 黒褐色細砂層 △○ 地山の黒色土と4層の混じり
6 褐灰色細砂層 ○○ Hr-FPわずかに含む、炭化物わずかに含む
7 褐灰色微砂層 △○ 地山（総社砂層）と思われる、ロームつぶの砂含む
8 褐灰色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、炭化物含む
9 褐灰色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP多く含む
10 褐灰色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP少なく含む
11 褐灰色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む
12 褐灰色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、明黄褐色粗砂含む
13 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP含む、ロームつぶ含む
14 褐灰色細砂層 ○○
15 褐灰色細砂層 ○○ Hr-FP層が0.5cmぐらいの厚さで堆積
16 褐灰色細砂層 ○△
17 褐灰色細砂層 ○○ 鉄分凝結した黄橙色土含む
18 灰黄褐色細砂層 ○○ As-C含む
19 褐灰色細砂層 ○×
20 褐灰色細砂層 ○×
21 灰黄褐色細砂層 ○× 鉄分凝結した黄橙色土含む
22 褐灰色細砂層 ○△ 鉄分凝結した黄橙色土含む
23 褐灰色細砂層 ○○
24 褐灰色細砂層 ○△
25 黒褐色細砂層 ○○ 地山
26 黄褐色粗砂層 ○× 砂層、地山
27 灰黄褐色粗砂層 ○× 砂層、地山
28 にぶい黄褐色粗砂層 ○× 礫層、地山

Fig.35 P-22-34号柱穴、I-1号井戸跡、トレンチ3セクション

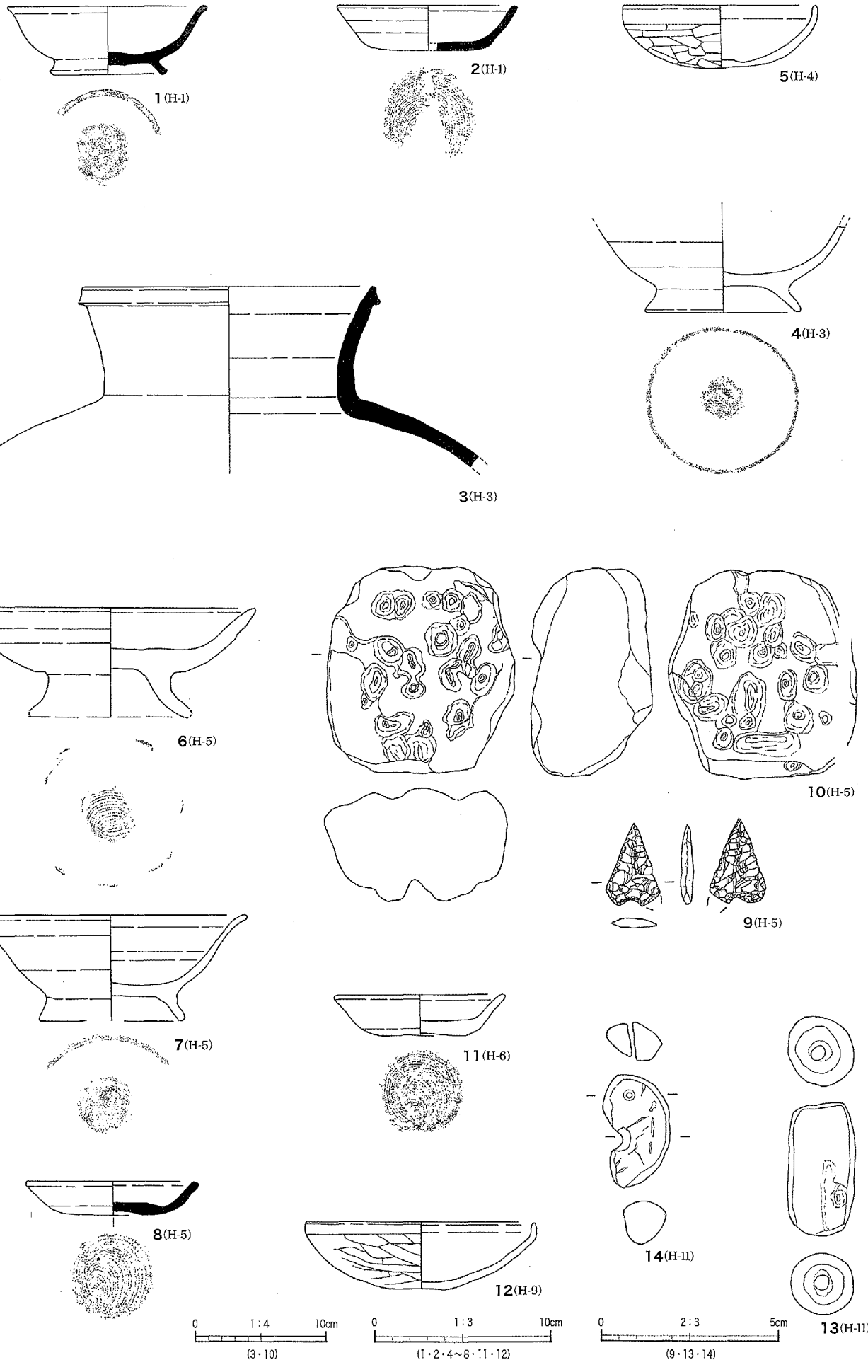


Fig.36 H-1・3~6・9・11号竪穴住居跡出土遺物

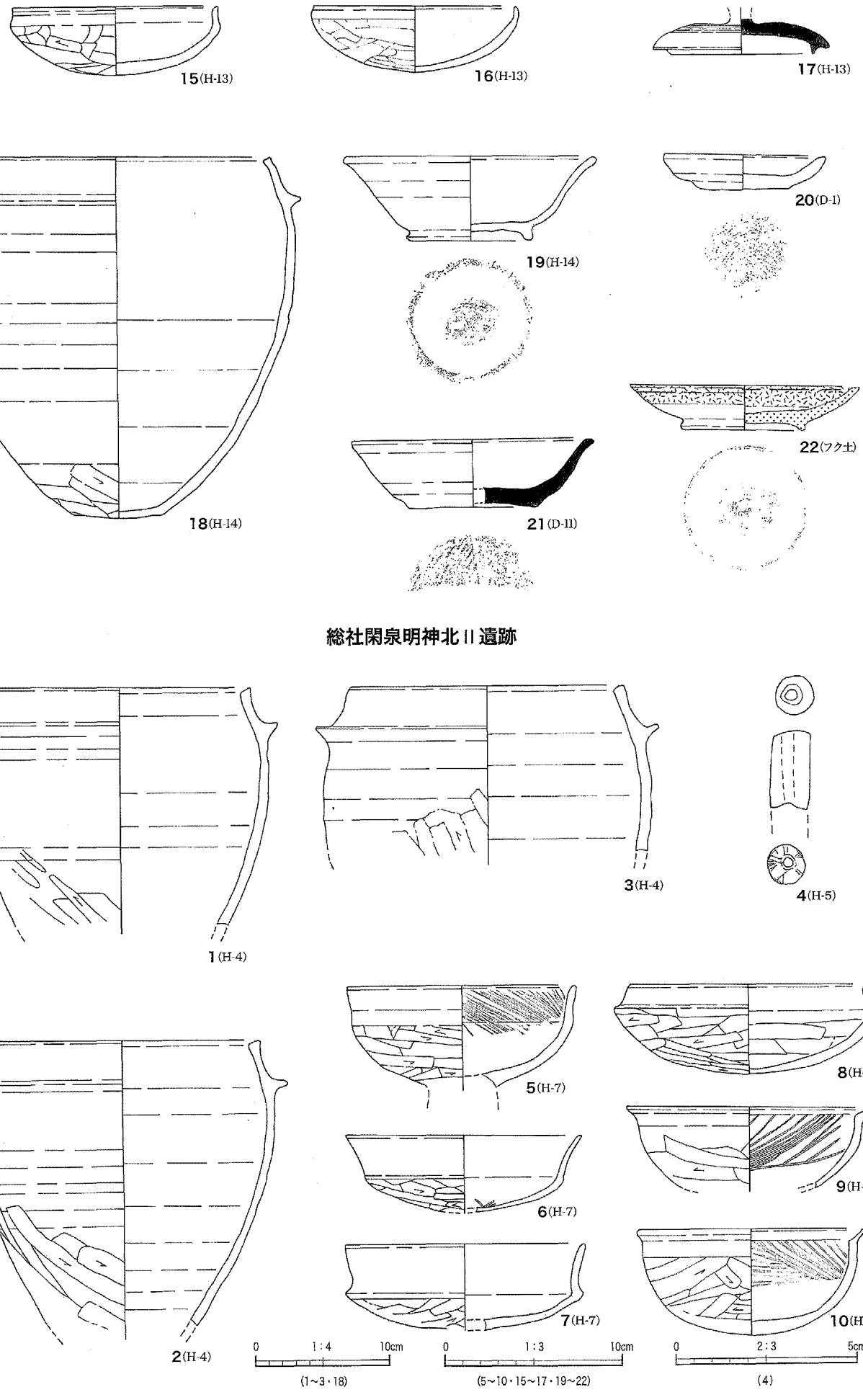


Fig.37　H-13・14号竪穴住居跡・D-1・II号土坑・フク土　出土遺物
H-4・5・7号竪穴住居跡出土遺物

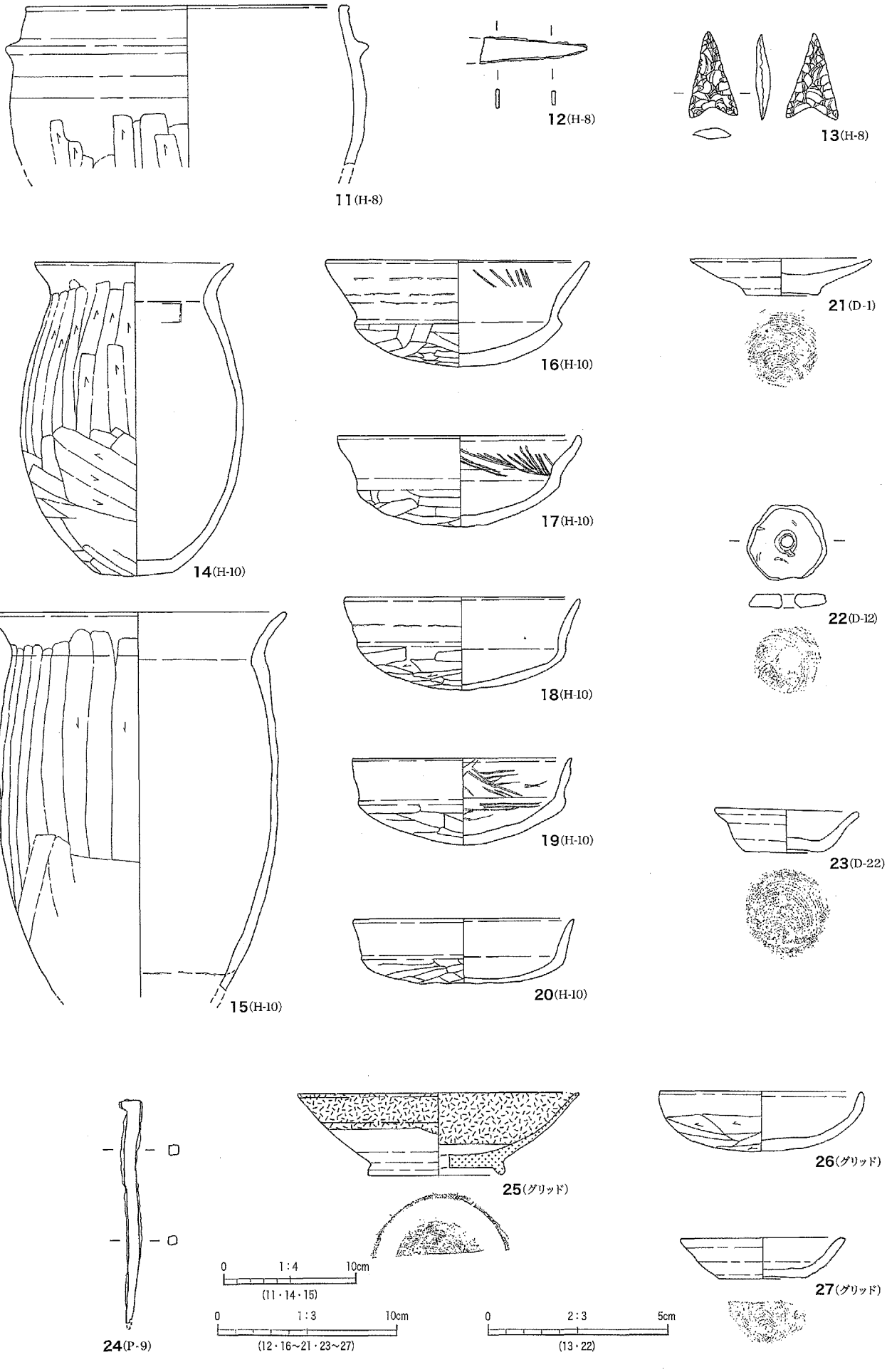
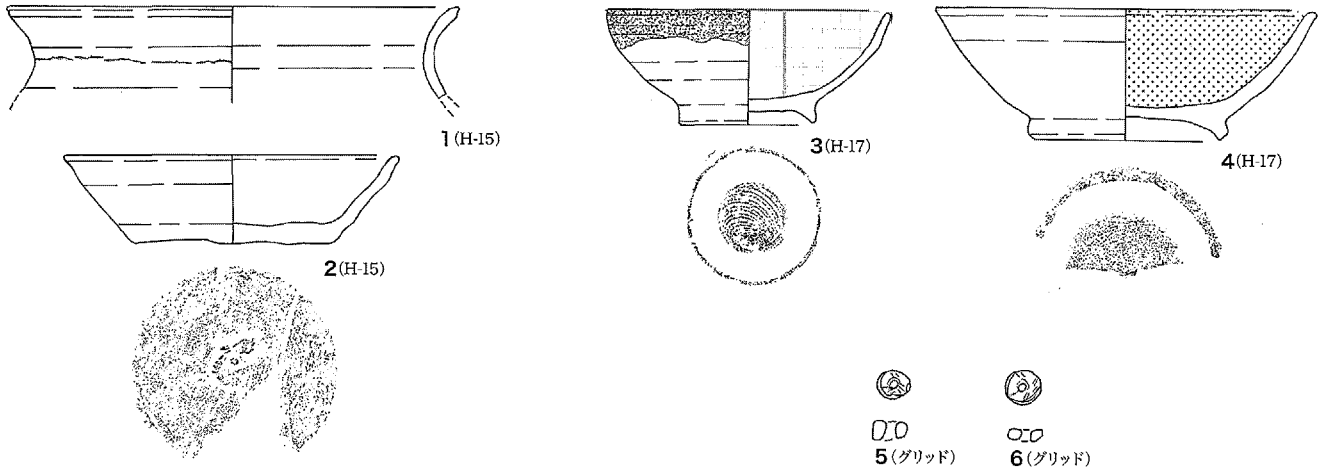


Fig.38　H-8・10号竪穴住居跡・D-1・12・22号土坑・P-9号柱穴・グリッド　出土遺物

総社甲稲荷塚大道西遺跡B区



総社甲稲荷塚大道西II遺跡

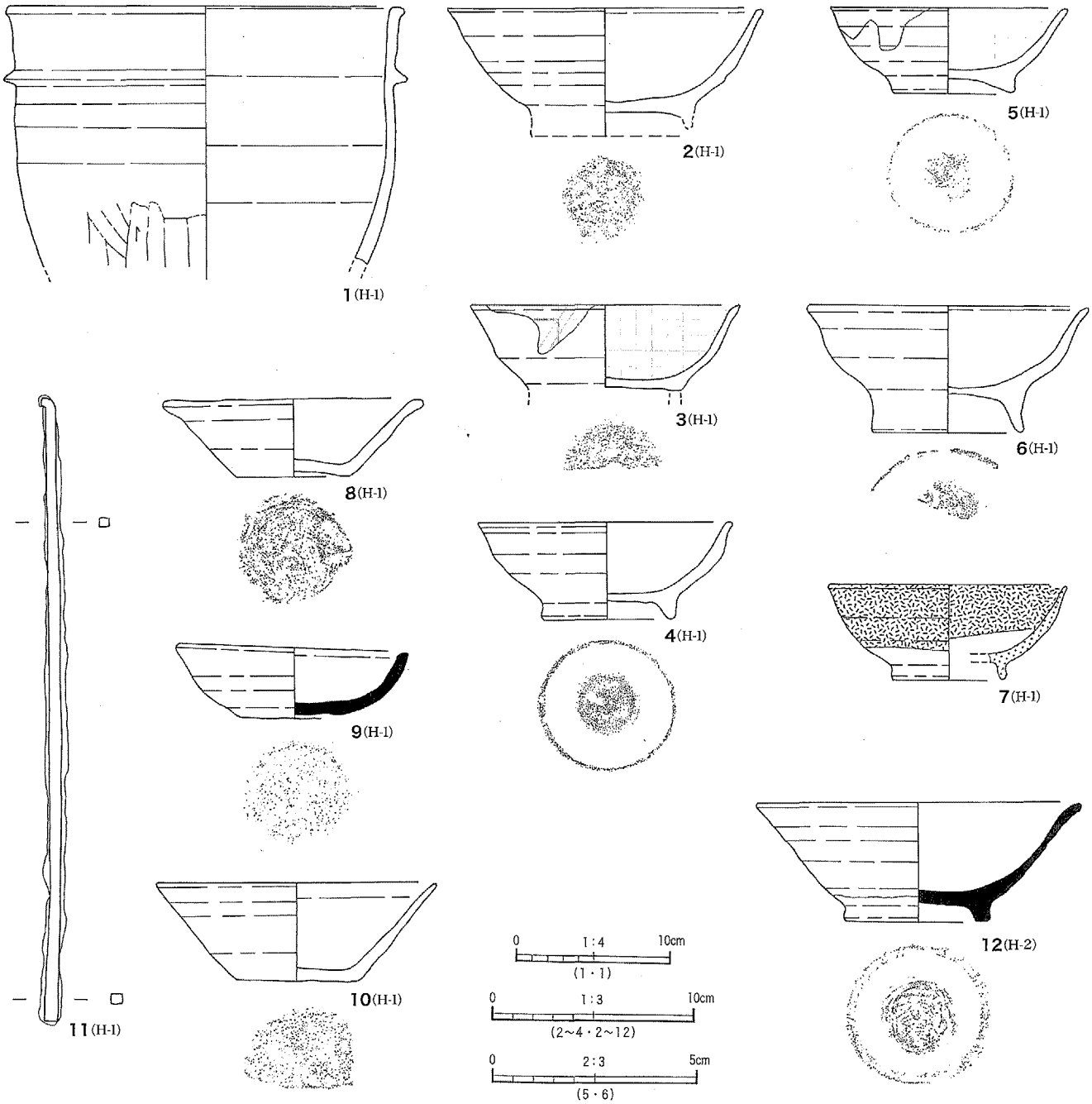


Fig.39 H-15・17号竪穴住居跡・グリッド出土遺物
H-1・2号竪穴住居跡出土遺物

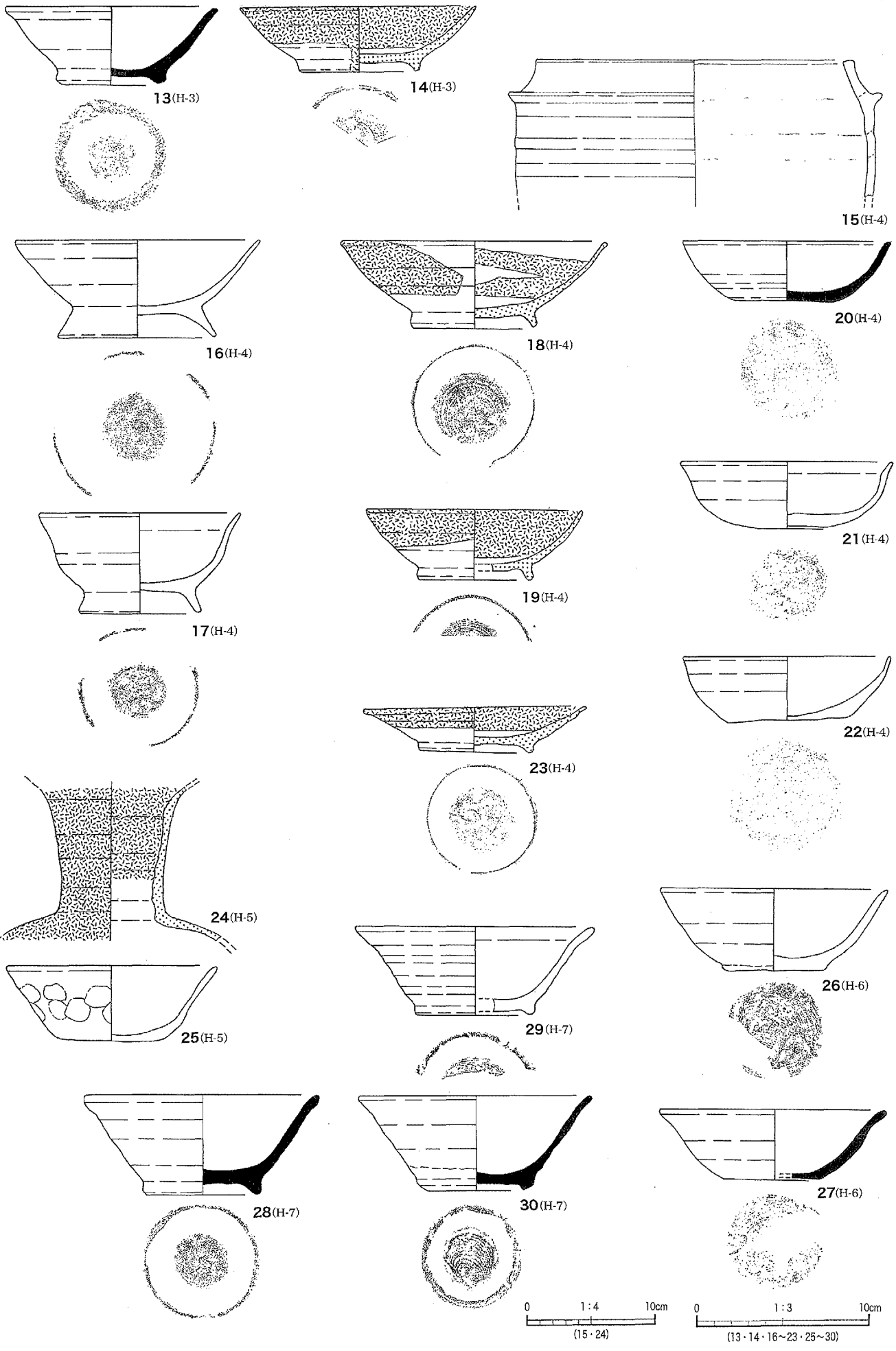


Fig.40 H-3~7号竪穴住居跡 出土遺物

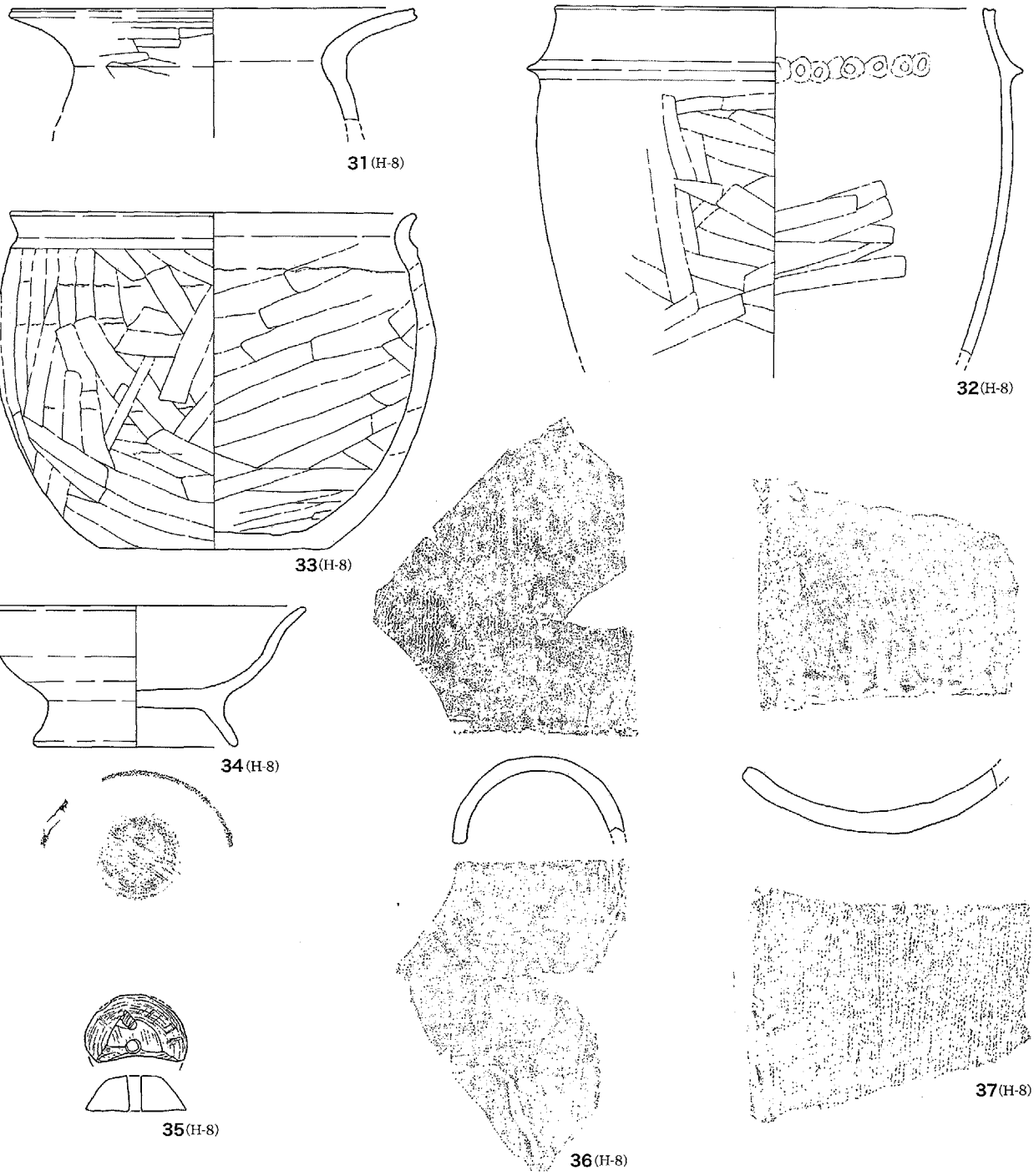


Fig.41 H-8・9号竪穴住居跡 出土遺物

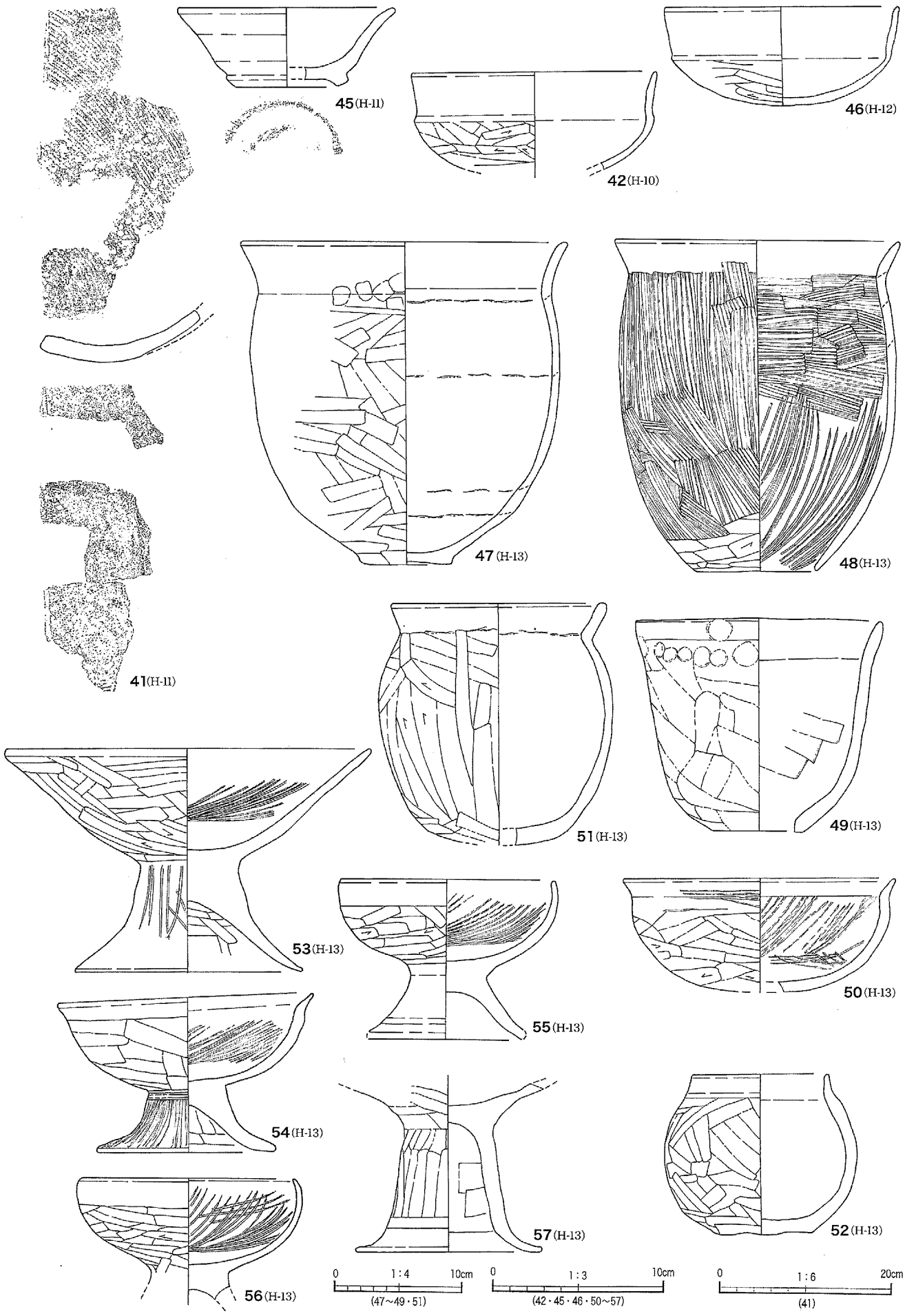


Fig.42　H-10～13号竪穴住居跡　出土遺物

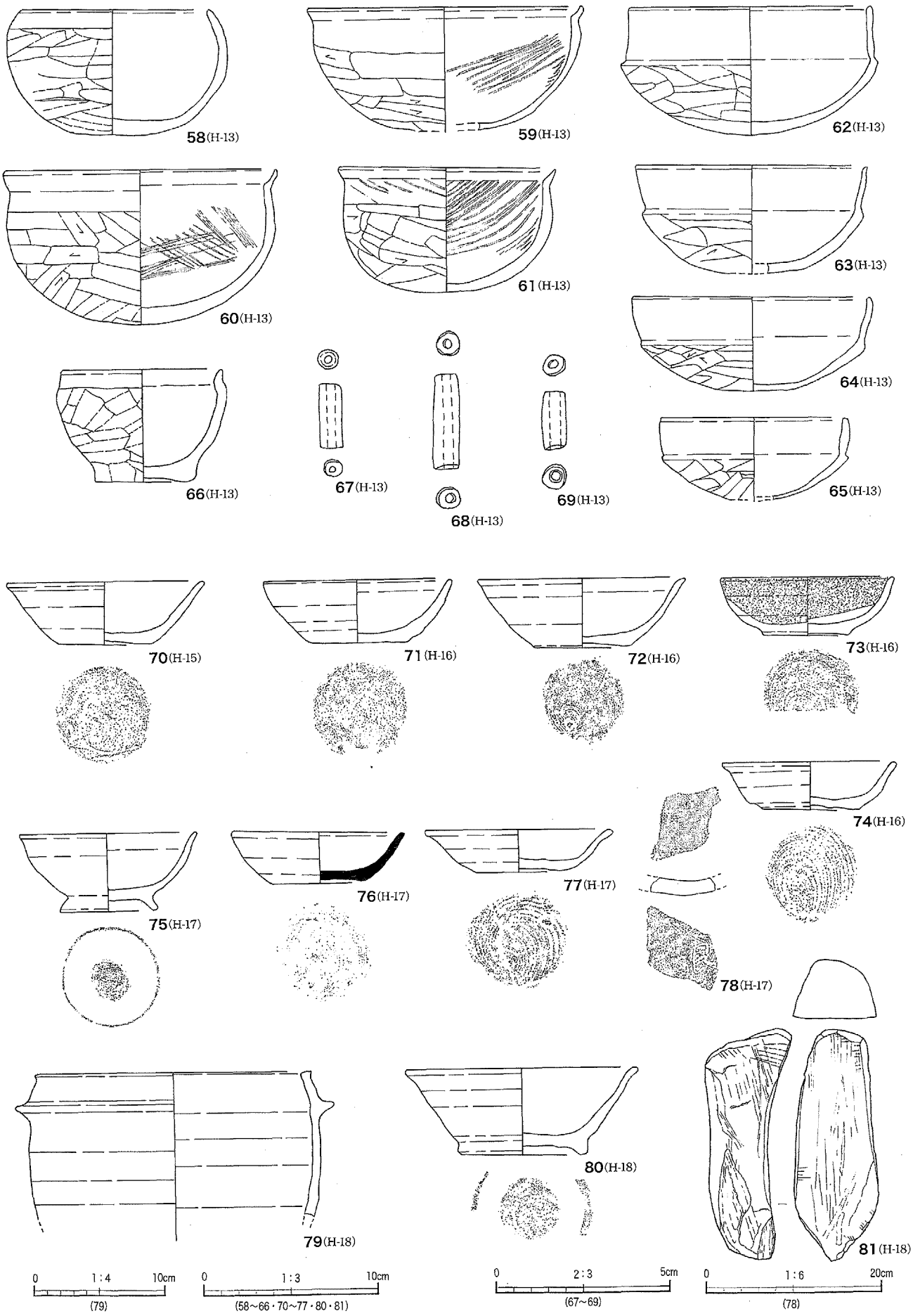


Fig.43　H-13・15～18号竪穴住居跡　出土遺物

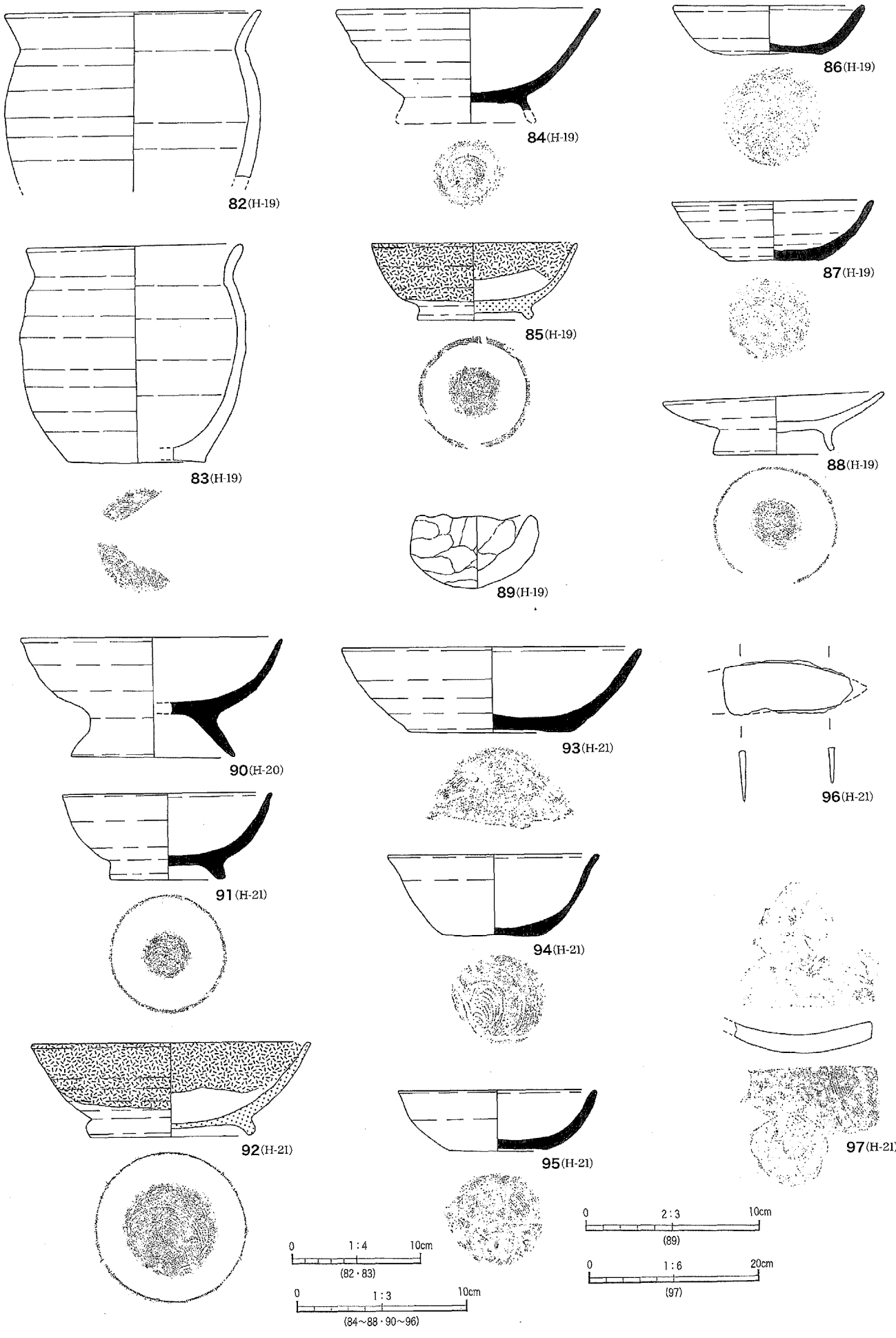


Fig.44　H-19～21号竪穴住居跡　出土遺物

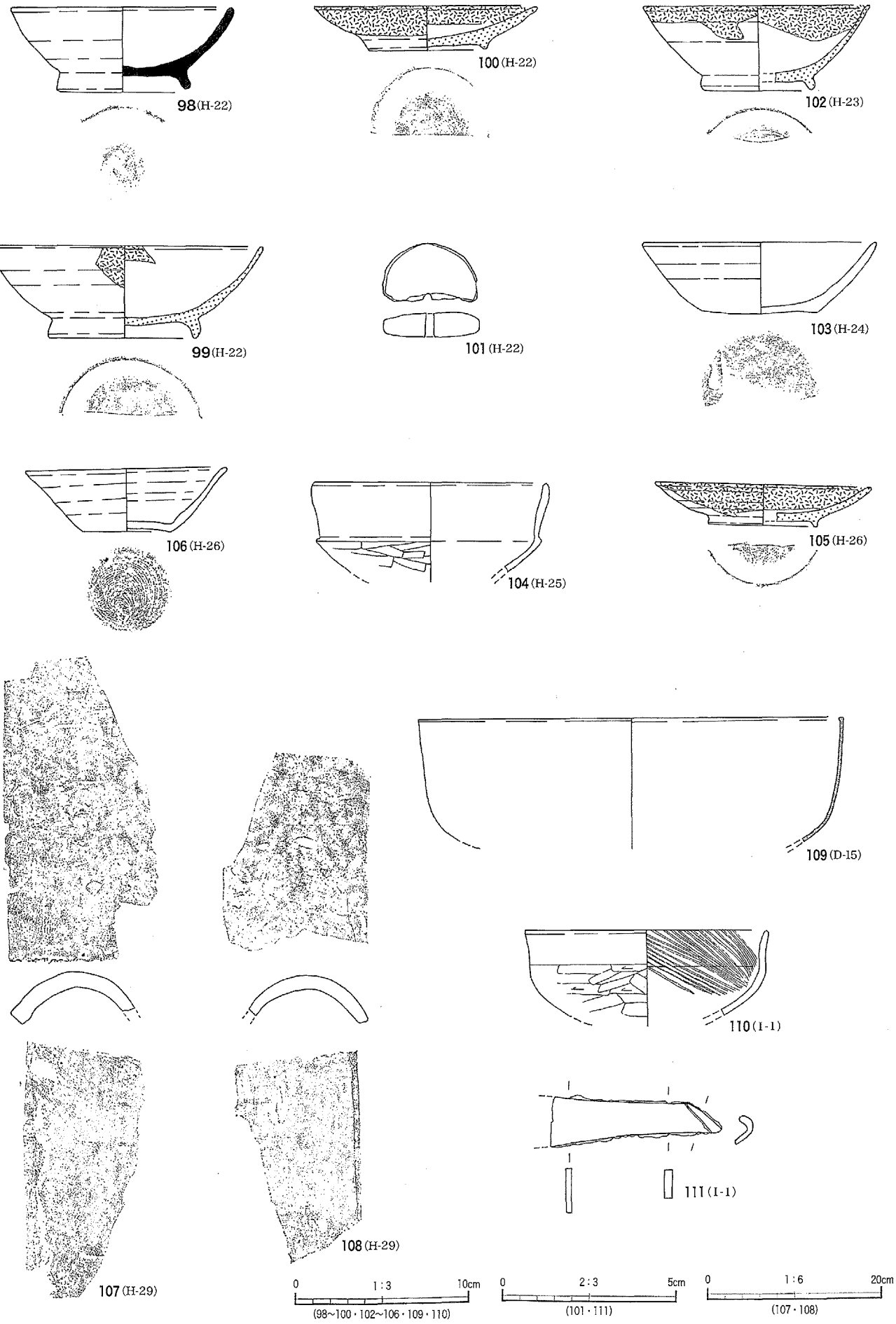
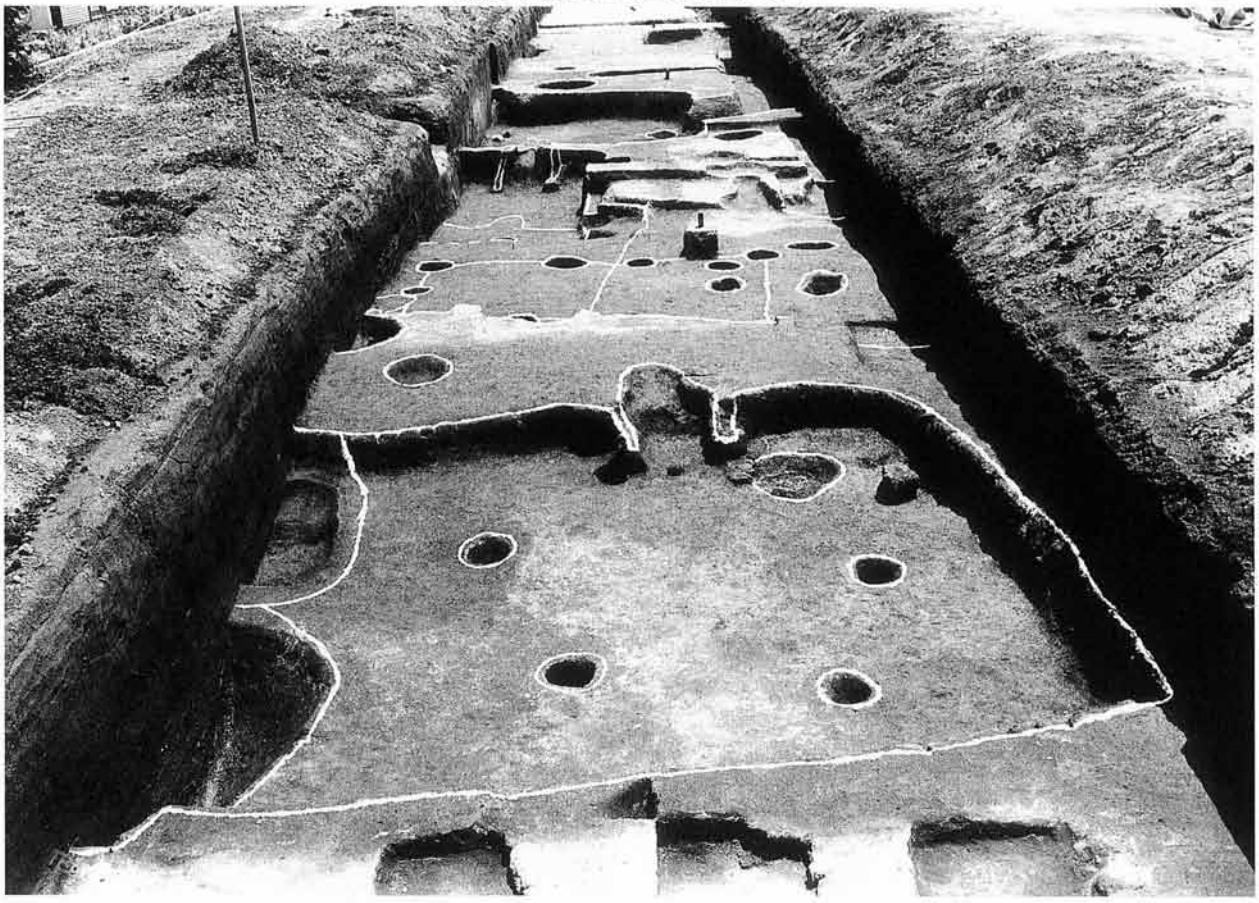


Fig.45　H-22～26・29号竪穴住居跡・D-15号土坑・I-1号井戸跡　出土遺物



調査区中央部全景（西から）

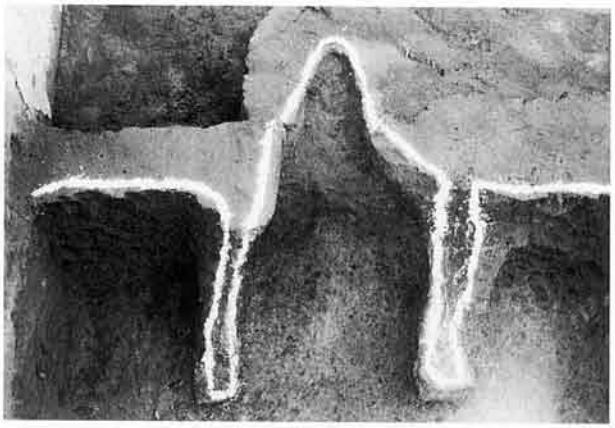
H-1号住居跡全景（西から）

H-1号住居跡竈全景（西から）

H-3号住居跡全景（西から）

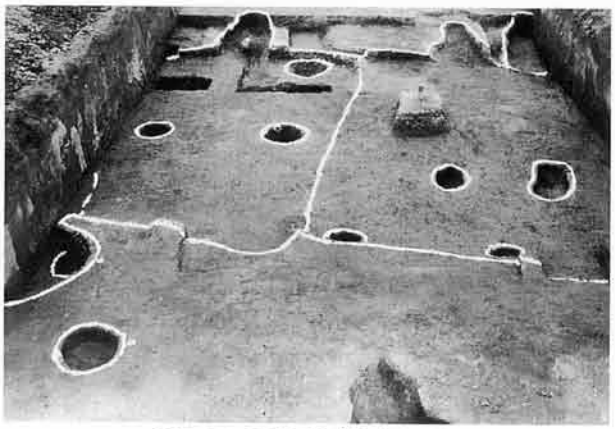
H-4号住居跡全景（西から）

PL. 2

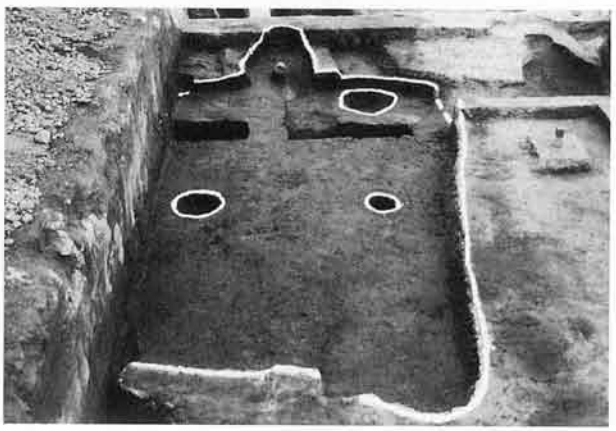


H-4号住居跡竈全景（西から）

H-4号住居跡竈遺物出土状況（西から）



H-5·6·7·8号住居跡全景（西から）



H-5号住居跡全景（西から）

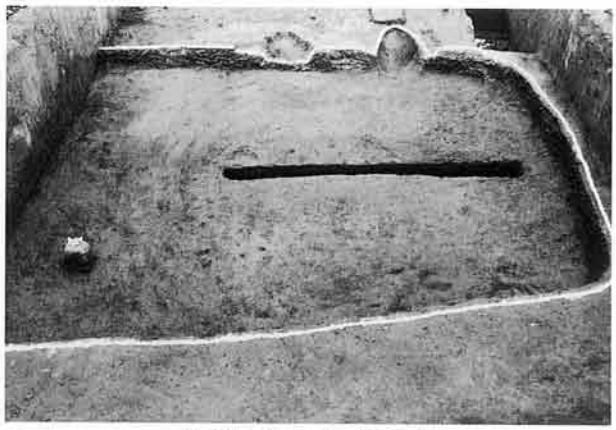
H-5号住居跡竈全景（西から）

H-6·7号住居跡竈全景（西から）

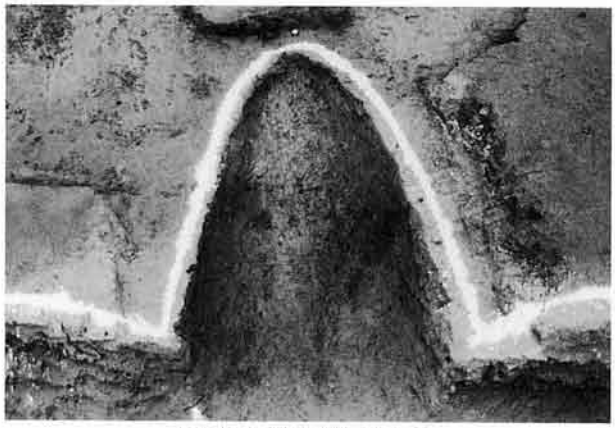
H-8号住居跡全景（北西から）

H-9号住居跡竈全景（西から）

H-9号住居跡 P-5号柱穴(貯蔵穴)全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）

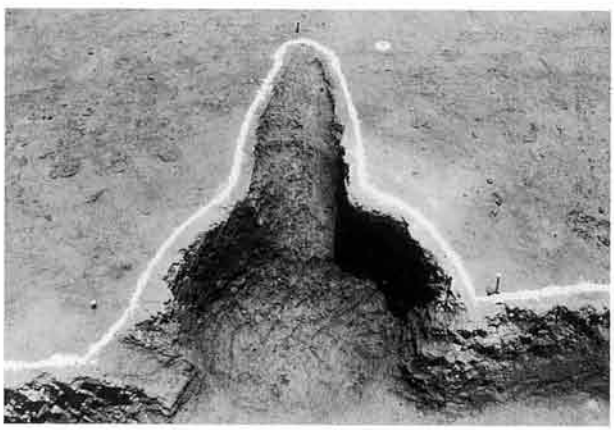


H-10号住居跡竈全景（西から）

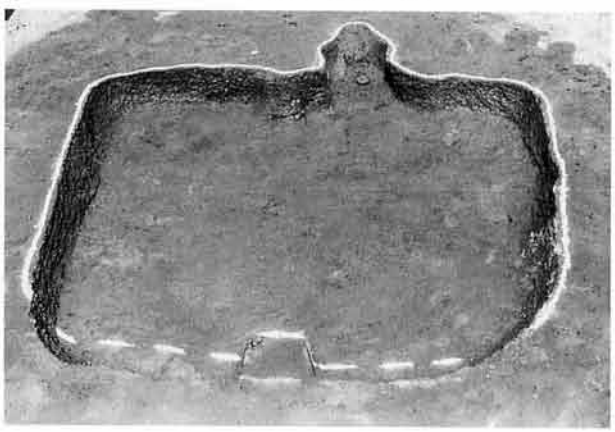
H-11号住居跡全景（西から）

H-11号住居跡竈全景（西から）

H-12号住居跡全景（西から）

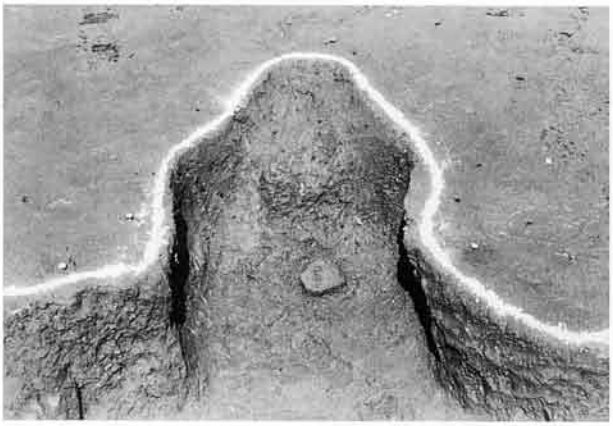


H-12号住居跡竈全景（西から）

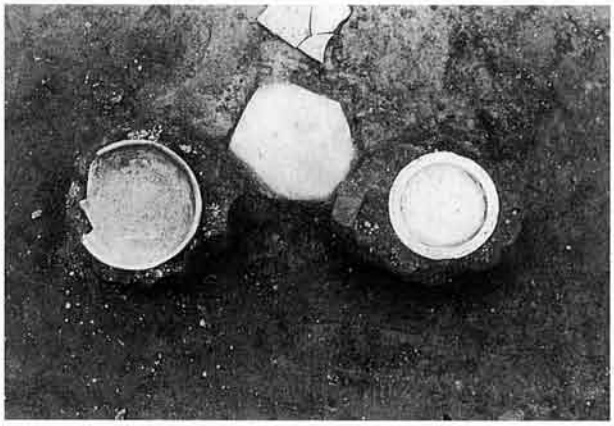


H-13号住居跡全景（西から）

PL.4

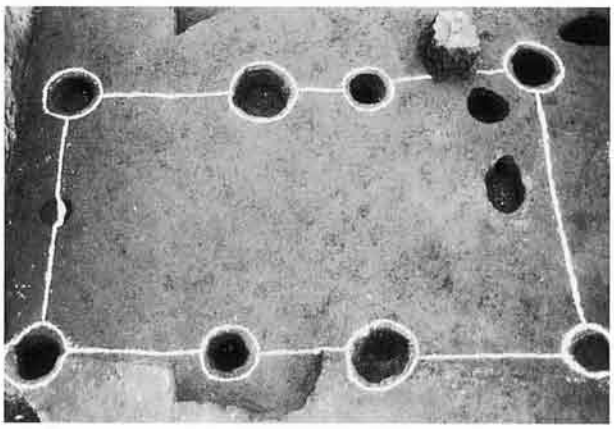


H-13号住居跡竈全景（西から）



H-13号住居跡遺物出土状況（西から）

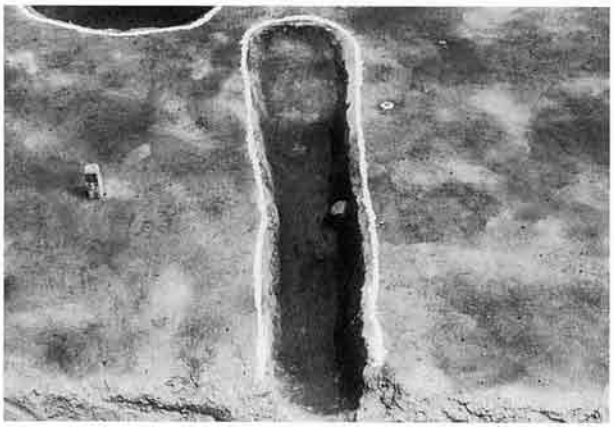
H-14号住居跡全景（西から）



B-1号堀立柱建物跡全景（西から）

D-11号土坑遺物出土状況（西から）

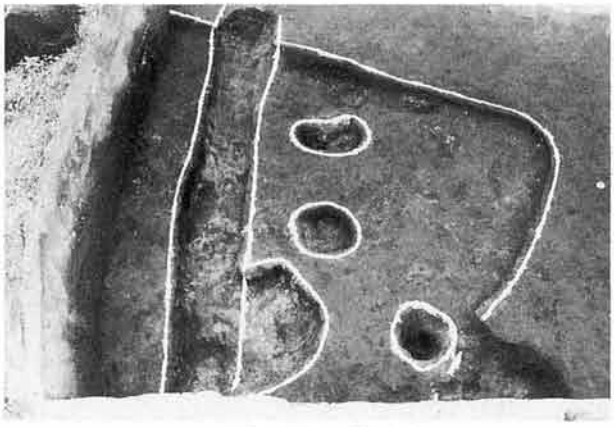
W-2号溝跡全景（西から）



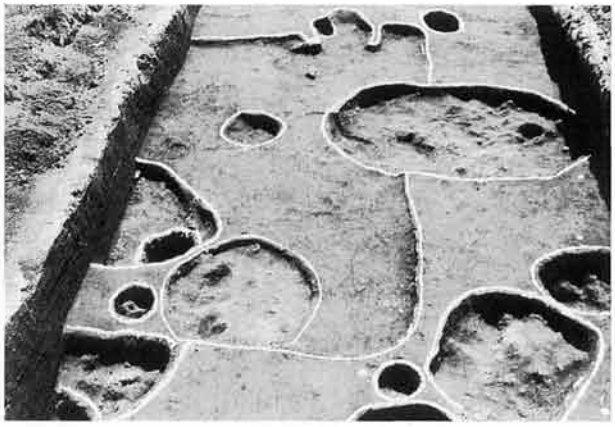
W-3号溝跡全景（南から）

中世畠跡全景（南から）

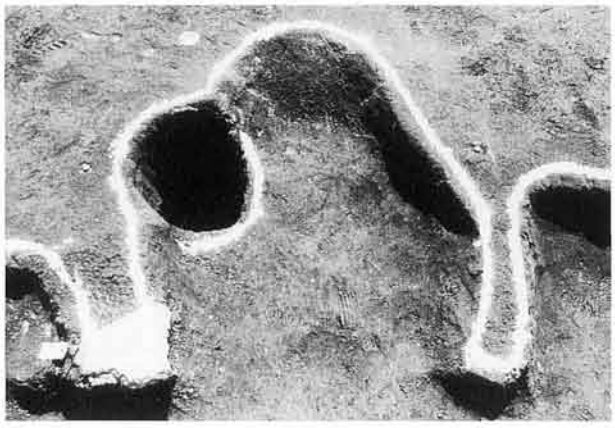
調査区全景（南東から）



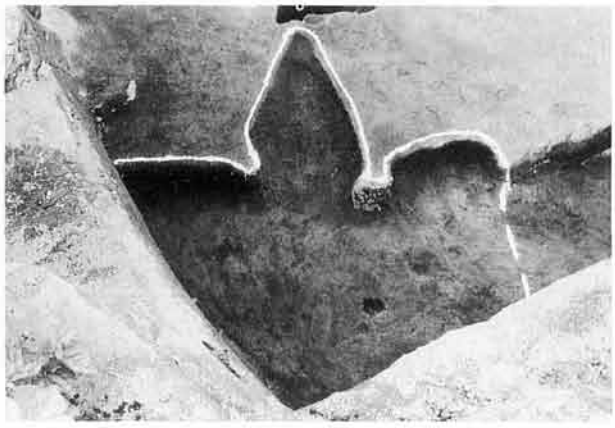
H-1号住居跡全景（南から）



H-3号住居跡全景（西から）



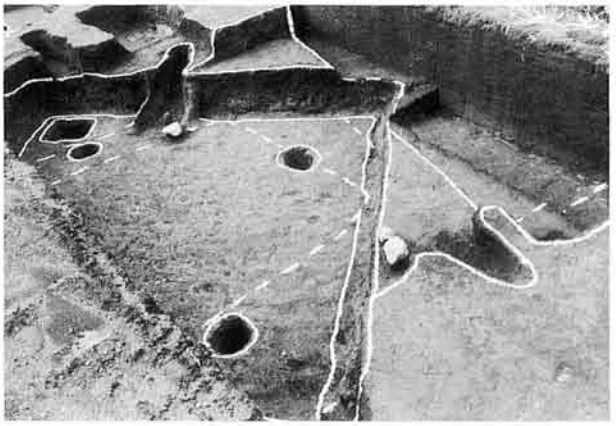
H-3号住居跡竈全景（西から）



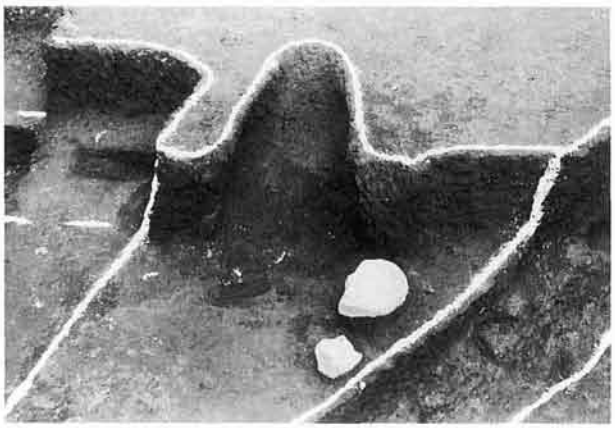
H-4号住居跡全景（西から）

PL.6

H-4号住居跡竈全景（西から）

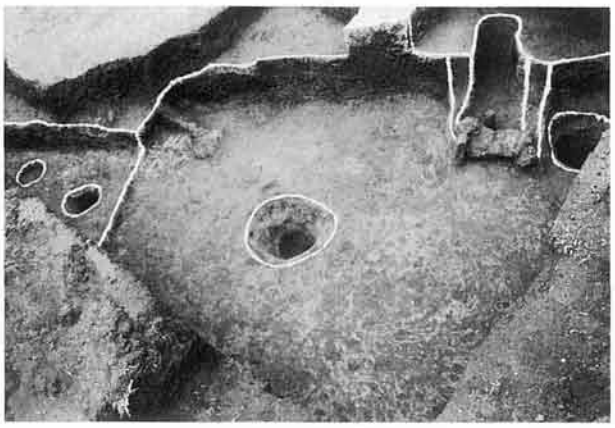


H-5·6·7·8号住居跡全景（南東から）



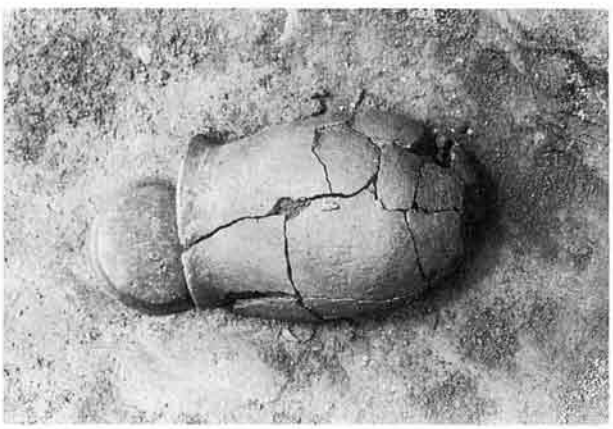
H-5号住居跡竈全景（西から）

H-7号住居跡竈全景（南から）



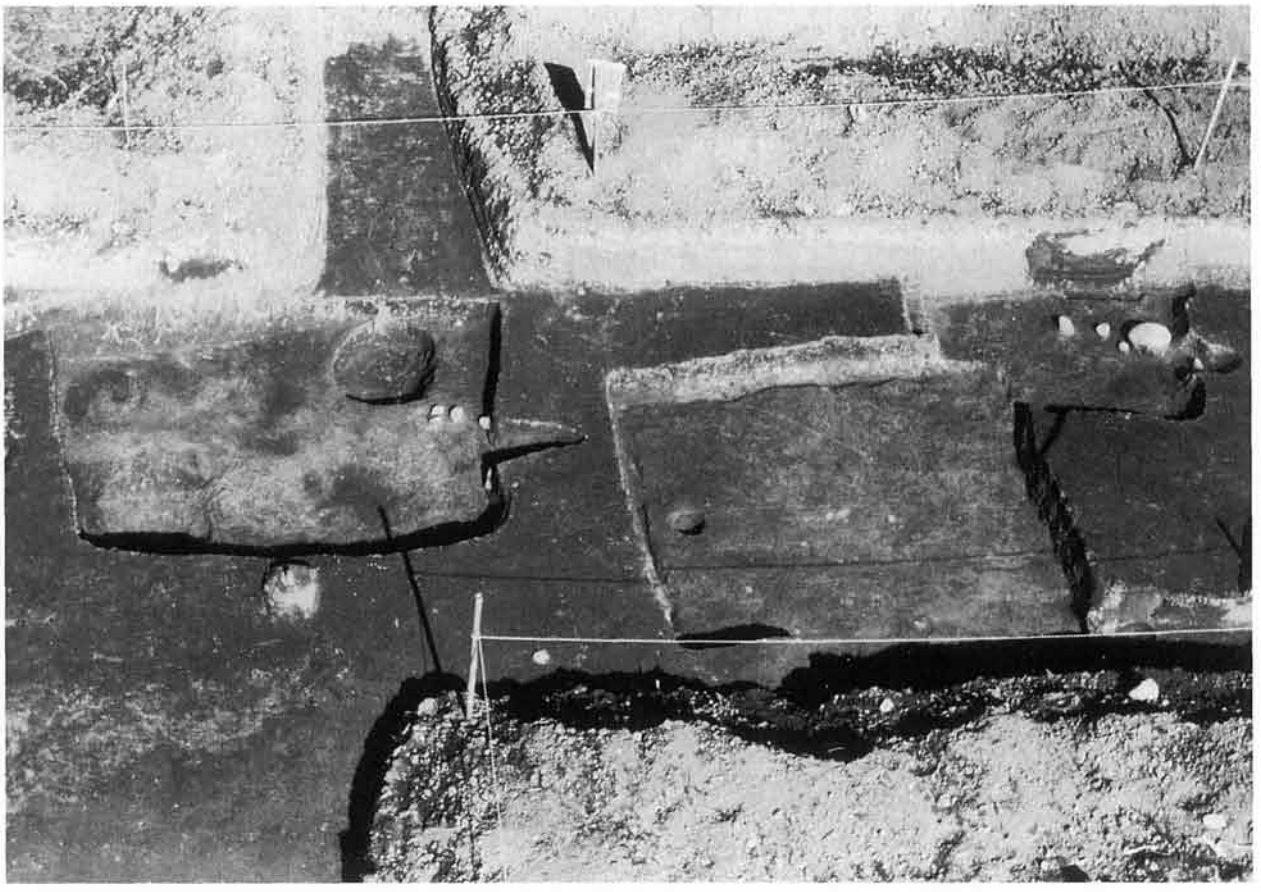
H-9·10号住居跡全景（南東から）

H-10号住居跡竈全景（南東から）

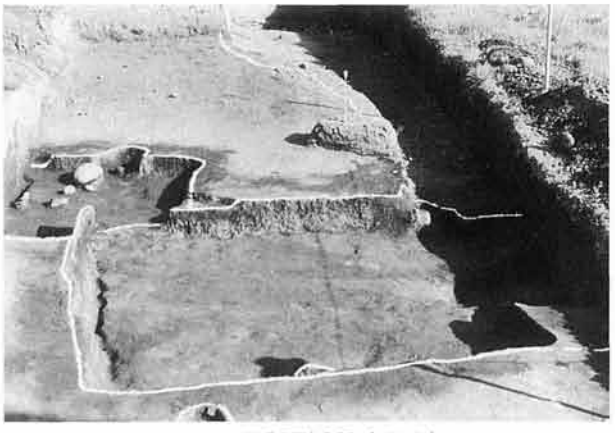


H-10号住居跡遺物出土状況（南から）

調査区北側柱穴群全景（南から）

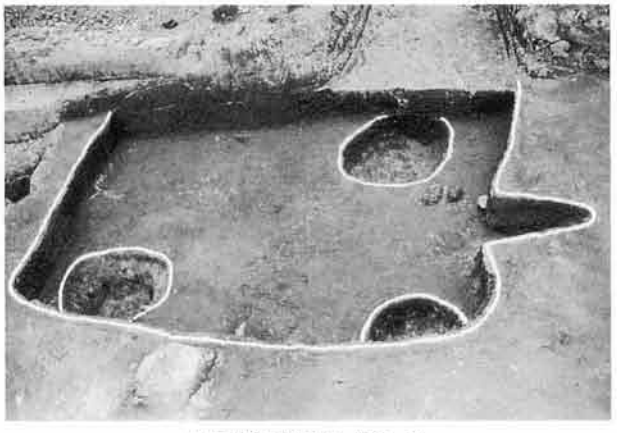


H-15・16・17号住居跡全景（南から）

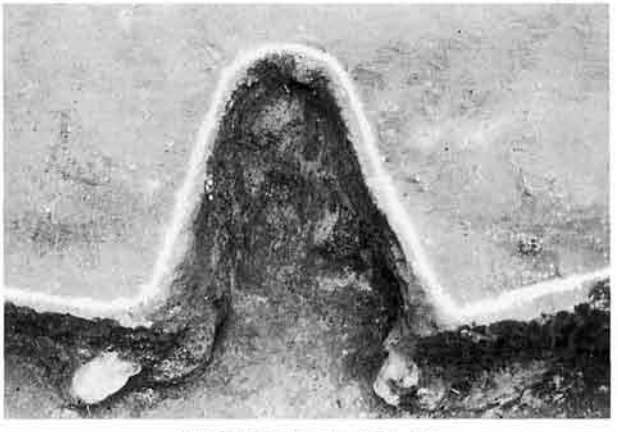


H-15・16号住居跡全景（西から）

H-16号住居跡竈全景（西から）



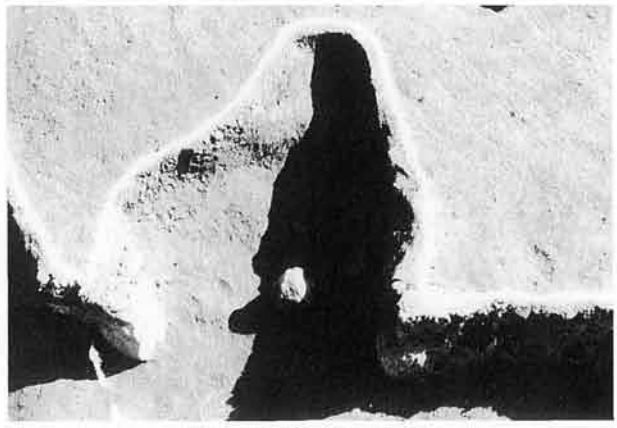
H-17号住居跡全景（南から）



H-17号住居跡竈全景（西から）

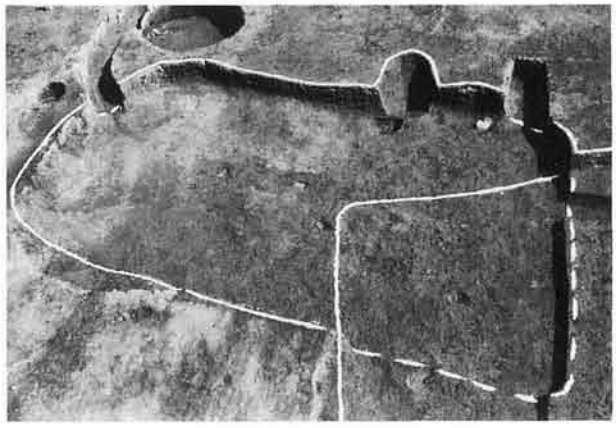
調査区全景（南から）

H-1号住居跡竈天井石崩落状態（西から）

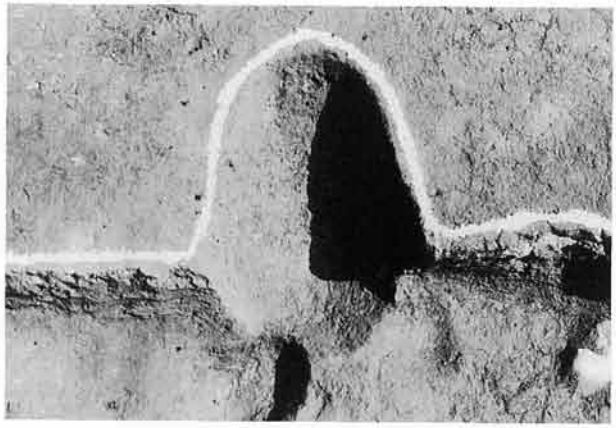


H-1号住居跡竈全景（西から）

H-1号住居跡 P-1号柱穴遺物出土状況（西から）



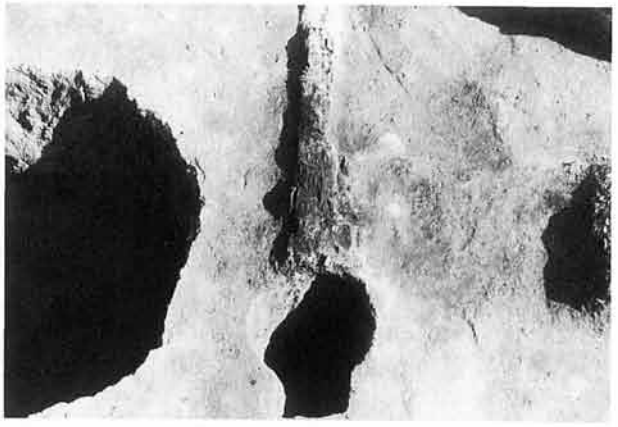
H-5号住居跡全景（西から）



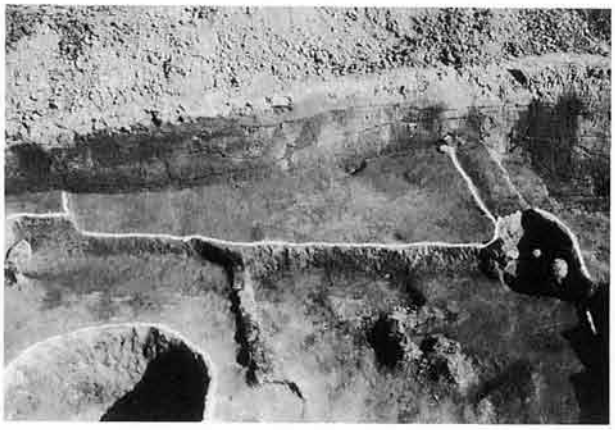
H-5号住居跡竈全景（西から）

H-7号住居跡全景（西から）

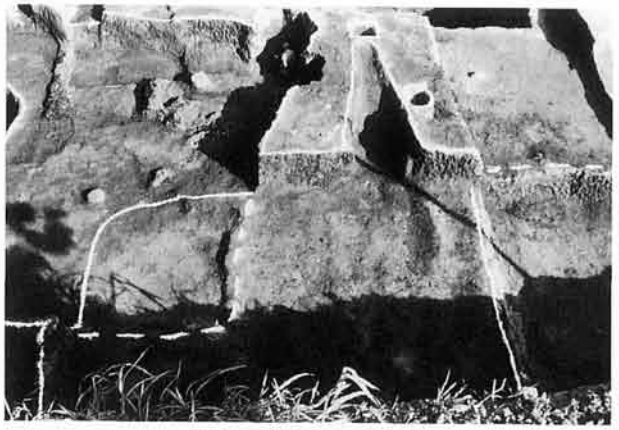
H-8号住居跡竈全景（西から）



H-8号住居跡 P-1柱穴と焼けた柱全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）

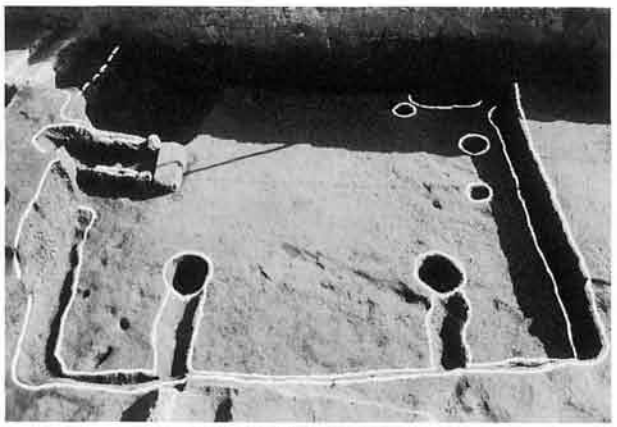


H-10号住居跡全景（西から）

H-10号住居跡竈全景（西から）

H-11号住居跡全景（西から）

PL.10

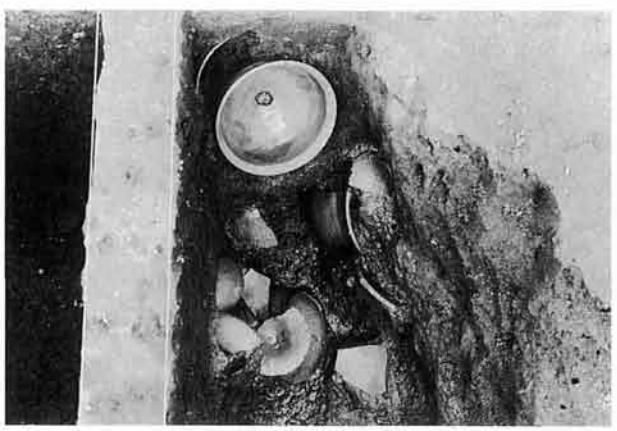


H-13号住居跡全景（西から）

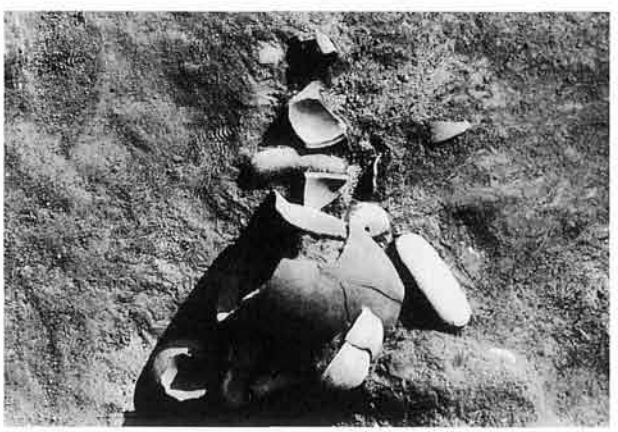
H-13号住居跡竈全景（南から）

H-13号住居跡竈復元全景（南から）

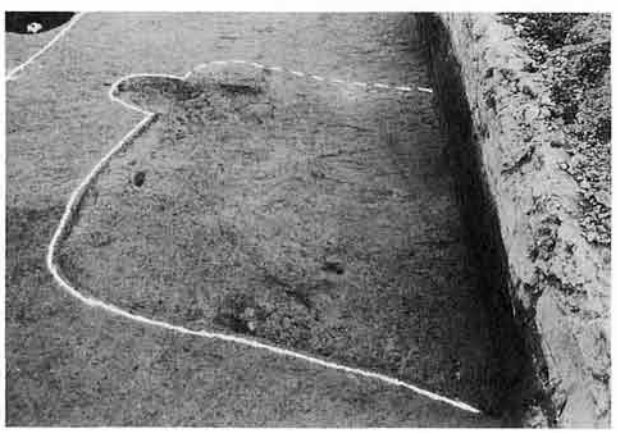
H-13号住居跡復元正面全景（南から）



H-13号住居跡竈遺物出土状況（南から）



H-13号住居跡竈遺物出土状況（北から）



H-14号住居跡全景（北から）

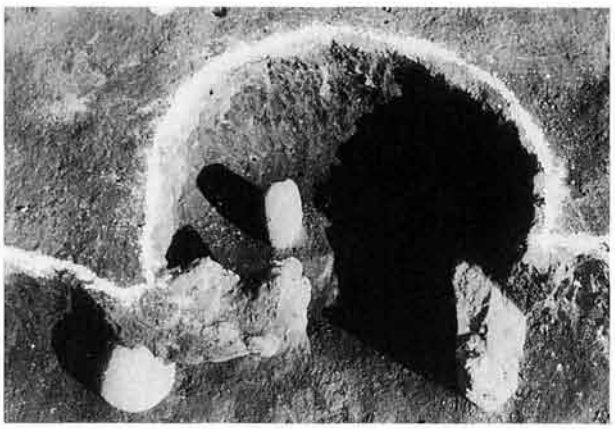
H-18号住居跡全景（西から）

H-19号住居跡全景（西から）

H-19号住居跡竈天井石崩落状態（西から）

H-20号住居跡全景（南から）

H-21号住居跡全景（西から）



H-21号住居跡竈全景（西から）

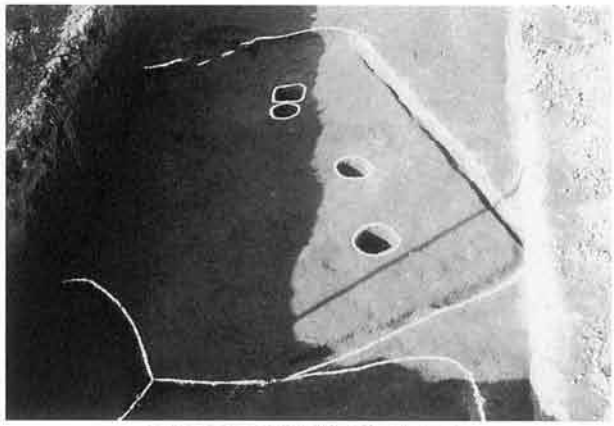
H-22号住居跡全景（西から）

H-23号住居跡全景（西から）

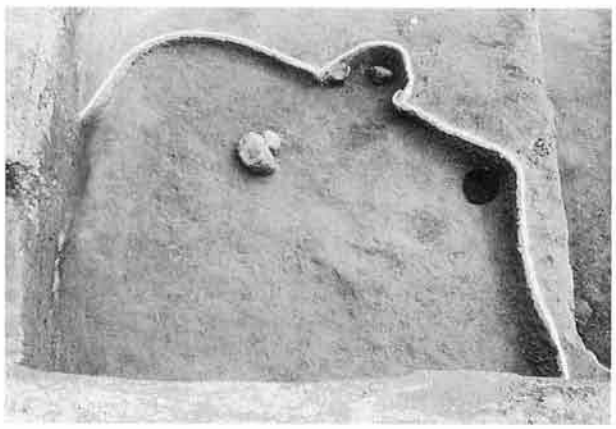
H-23号住居跡竈全景（西から）

PL.12

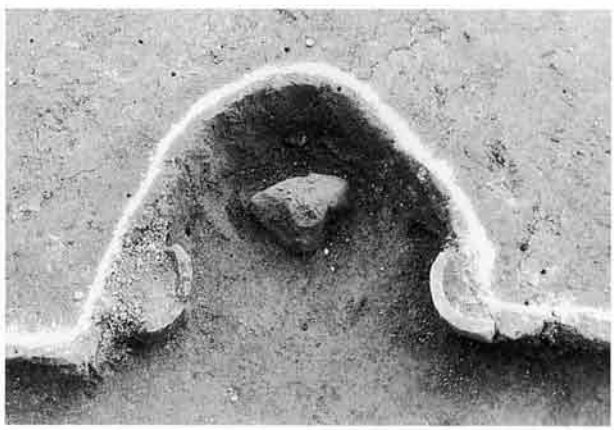
H-24号住居跡全景（北から）



H-25・26・27号住居跡全景（東から）

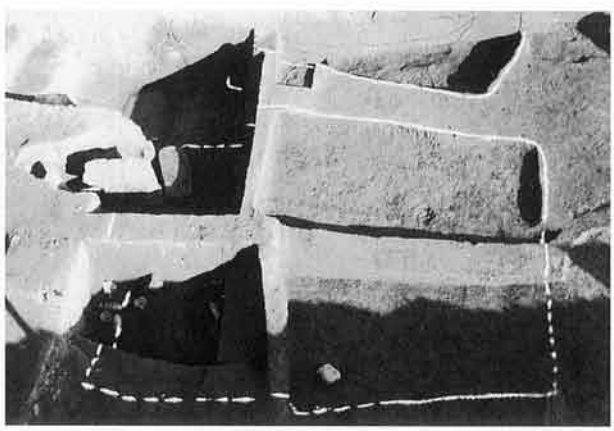


H-29号住居跡全景（西から）



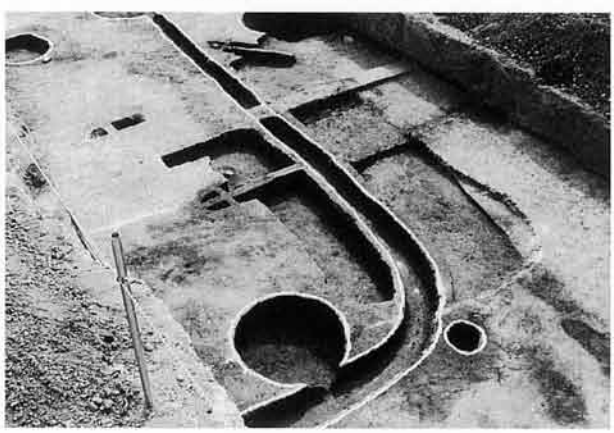
H-29号住居跡竈全景（西から）

T-1号竪穴状遺構全景（西から）



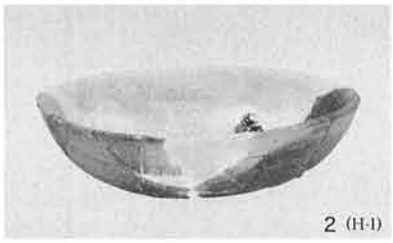
T-2号竪穴状遺構全景（西から）

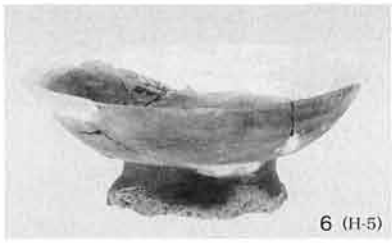
I-1号井戸跡全景（西から）

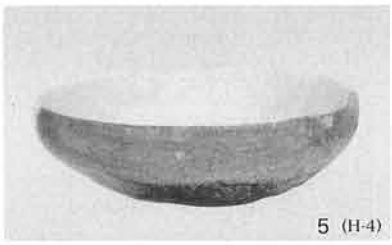


W-2号溝跡全景（北から）

1 (H-1)

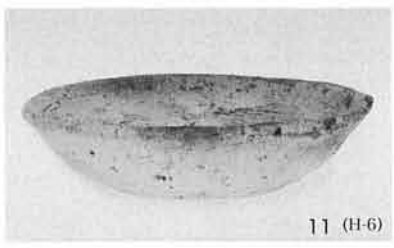

2 (H-1)

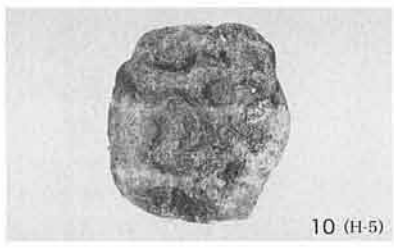

6 (H-5)

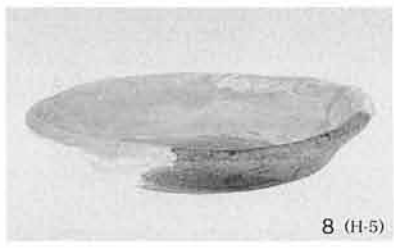

5 (H-4)

9 (H-5)

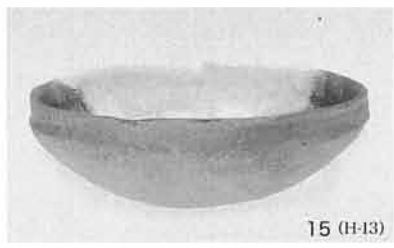
7 (H-5)


11 (H-6)

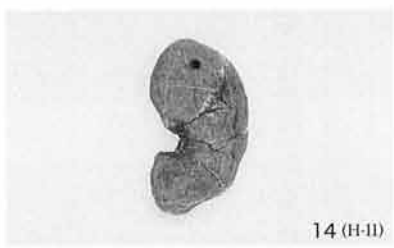

10 (H-5)

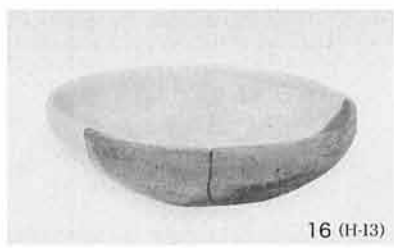

8 (H-5)

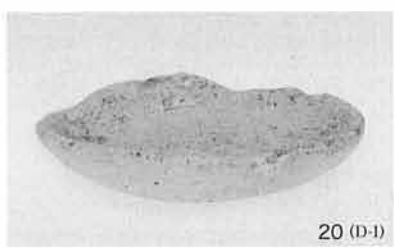
13 (H-11)

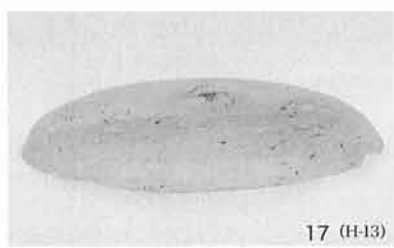

15 (H-13)

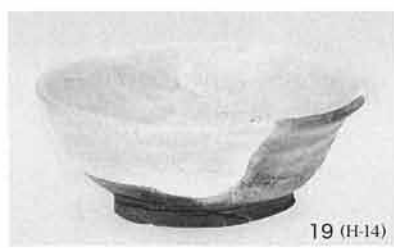
18 (H-14)

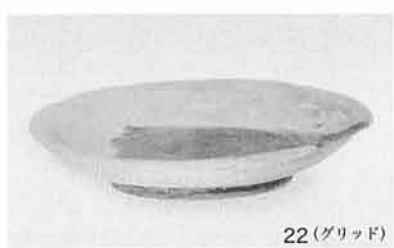

14 (H-11)

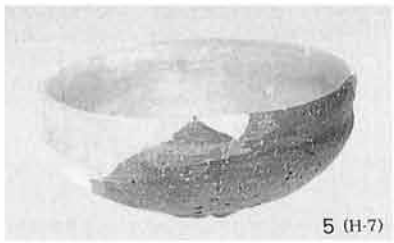

16 (H-13)


20 (D-1)

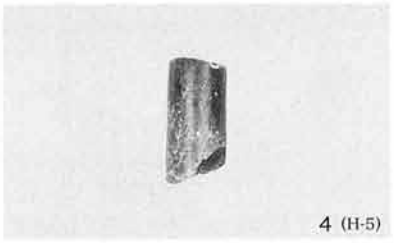

17 (H-13)

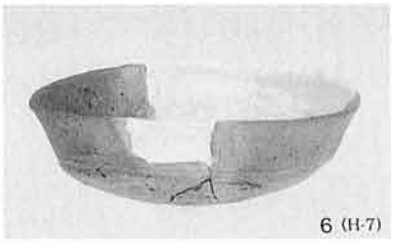

19 (H-14)

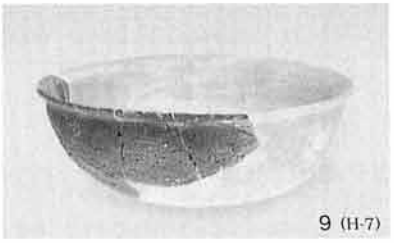

22 (グリッド)

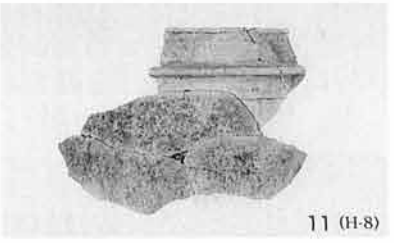

5 (H-7)

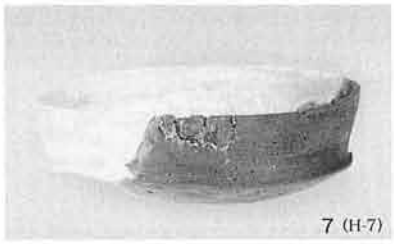
2 (H-4)

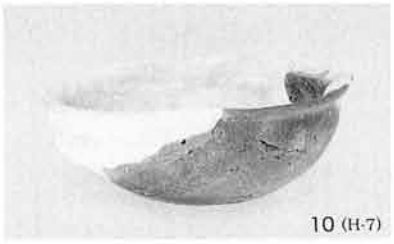

4 (H-5)

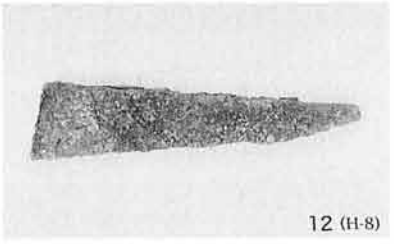

6 (H-7)


9 (H-7)

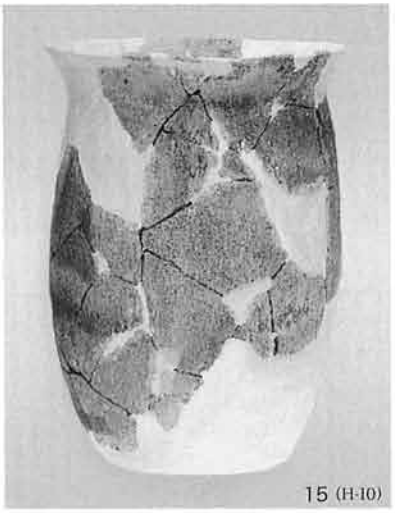

11 (H-8)

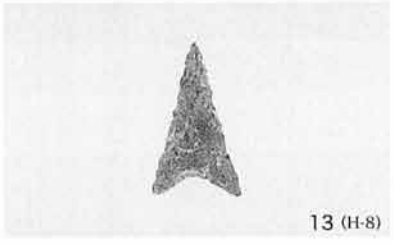

7 (H-7)


10 (H-7)

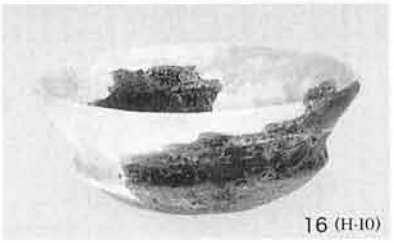

12 (H-8)

14 (H-10)

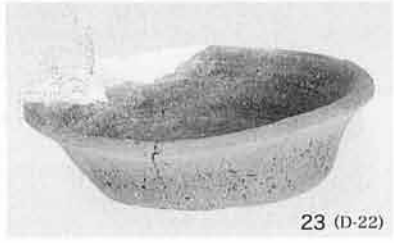

15 (H-10)


13 (H-8)

22 (D-12)

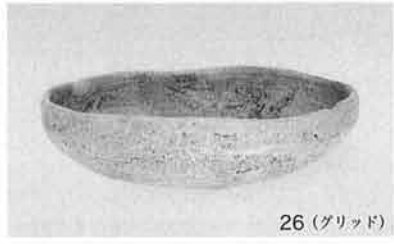

16 (H-10)

18 (H-10)

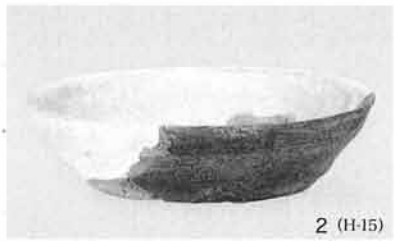

23 (D-22)

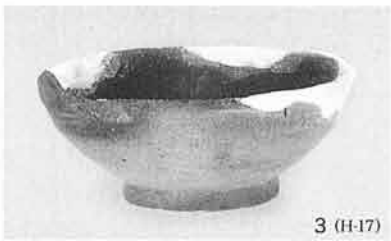
17 (H-10)

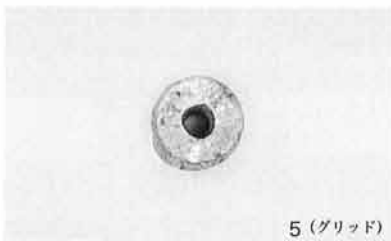
24 (P-9)


26 (グリッド)

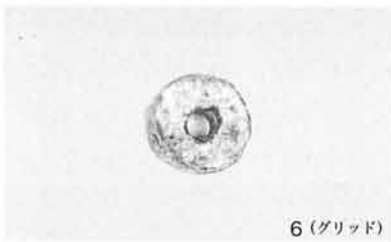
総社甲稲荷塚大道西遺跡B区


2 (H-15)


3 (H-17)

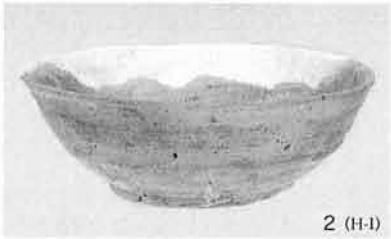

5 (グリッド)

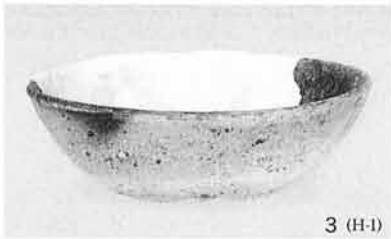
4 (H-17)


6 (グリッド)

総社甲稲荷塚大道西 II 遺跡

1 (H-1)

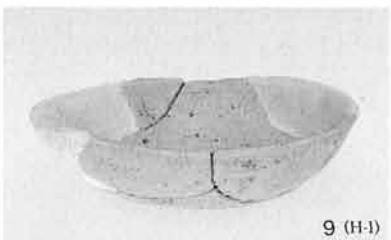

2 (H-1)

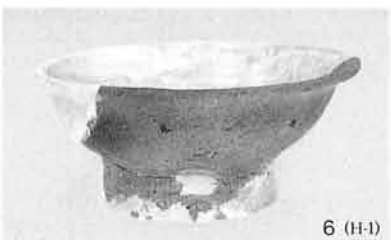

3 (H-1)

8 (H-1)

4 (H-1)

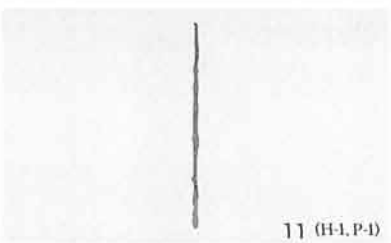
5 (H-1)


9 (H-1)


6 (H-1)

7 (H-1)

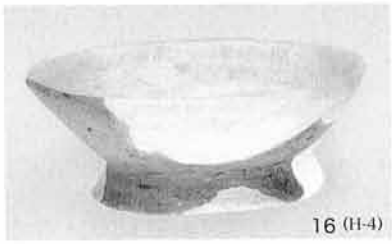
10 (H-1)

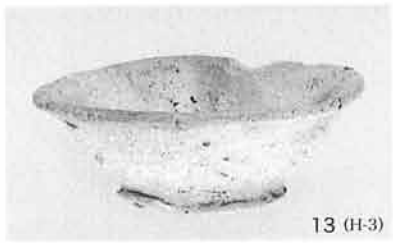

11 (H-1, P-1)

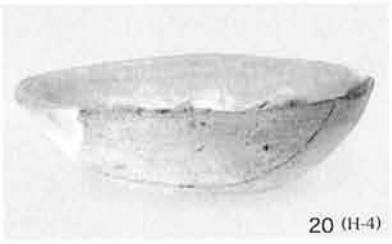
12 (H-2)

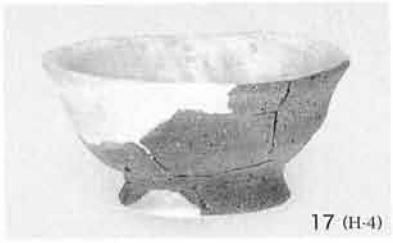
PL.16

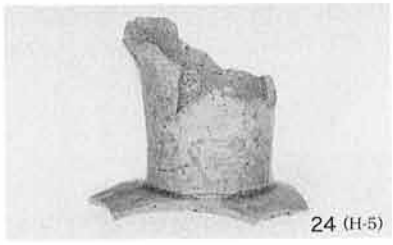
15 (H-4)


16 (H-4)

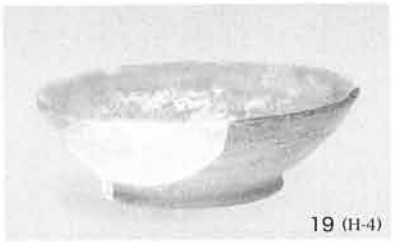

13 (H-3)


20 (H-4)

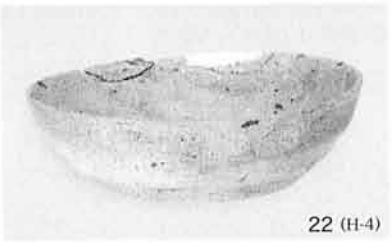

17 (H-4)

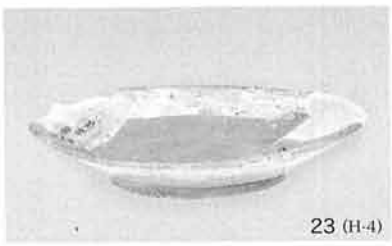

24 (H-5)

21 (H-4)


19 (H-4)

25 (H-5)

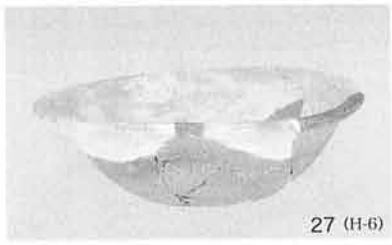

22 (H-4)


23 (H-4)

26 (H-6)

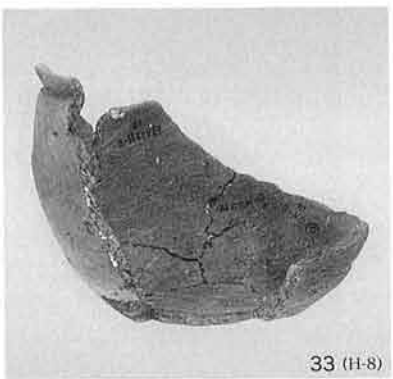
31 (H-8)

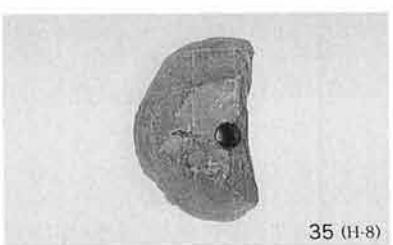
32 (H-8)

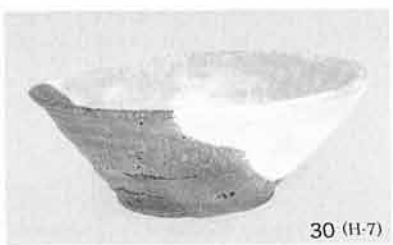

27 (H-6)

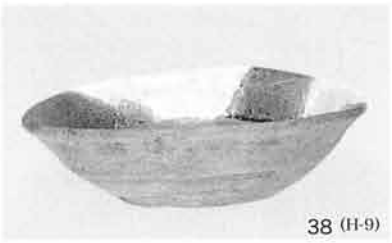
34 (H-8)

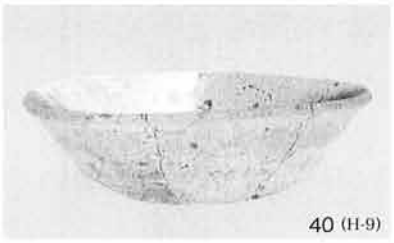
28 (H-7)


33 (H-8)

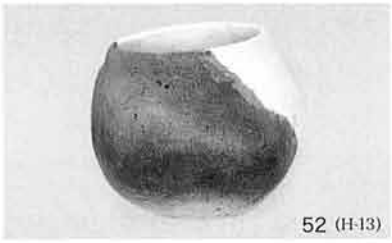

35 (H-8)


30 (H-7)


38 (H-9)

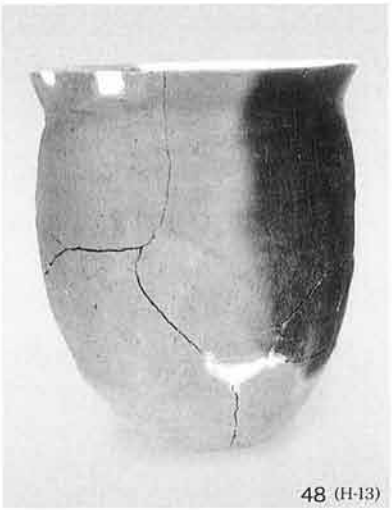

40 (H-9)

41 (H-9)


52 (H-13)

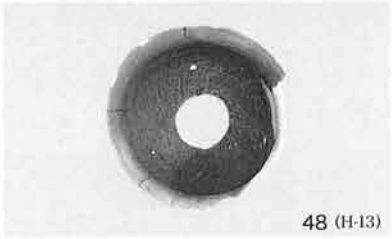
47 (H-13)

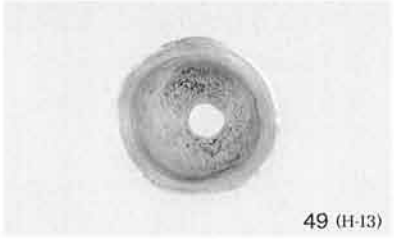
51 (H-13)

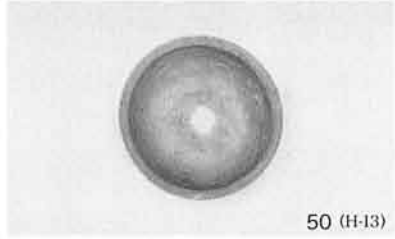

48 (H-13)

49 (H-13)

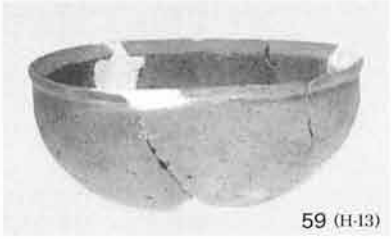
50 (H-13)


48 (H-13)


49 (H-13)

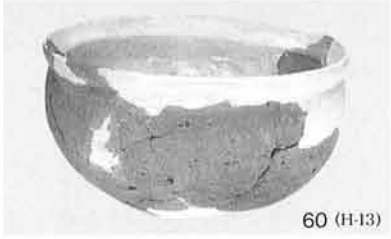

50 (H-13)

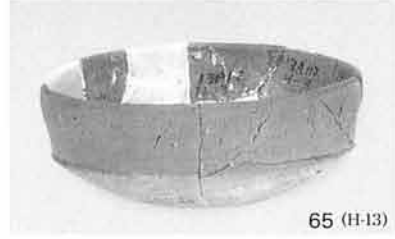
58 (H-13)


59 (H-13)

62 (H-13)

61 (H-13)


60 (H-13)


65 (H-13)

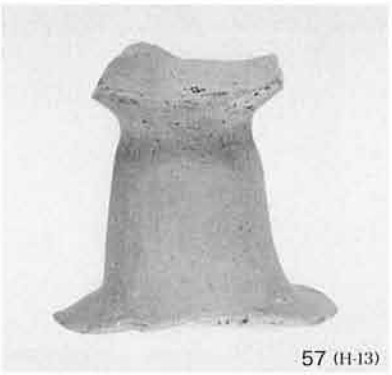
PL.18

53 (H-13)

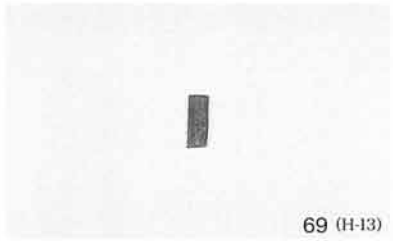
54 (H-13)

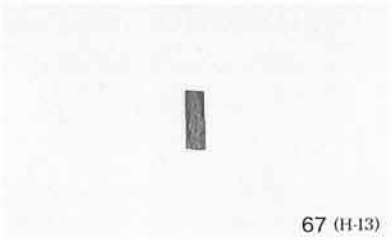
56 (H-13)

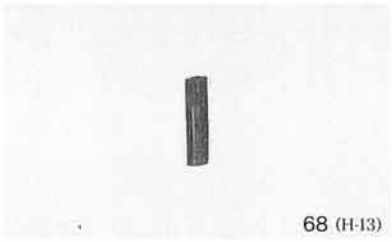
66 (H-13)

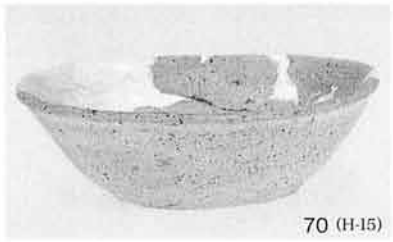

57 (H-13)

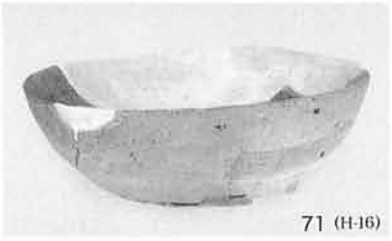
55 (H-13)

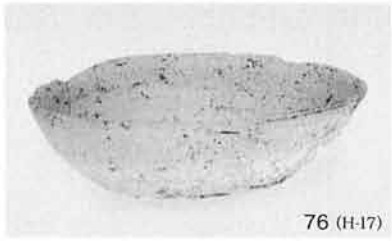

69 (H-13)


67 (H-13)


68 (H-13)

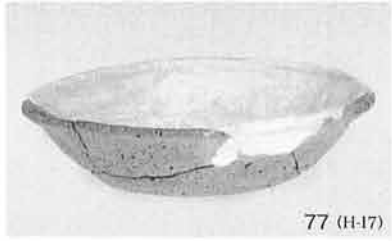

70 (H-15)


71 (H-16)

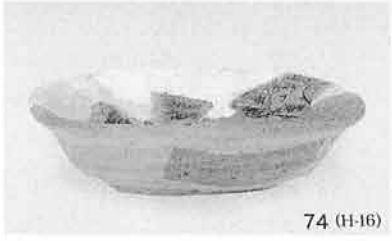

76 (H-17)

79 (H-18)

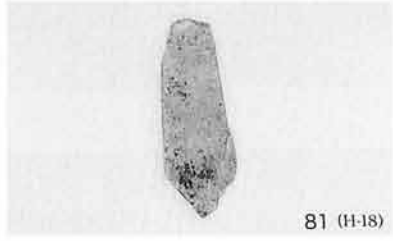
72 (H-16)


77 (H-17)

80 (H-18)

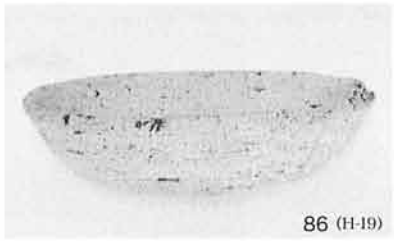

74 (H-16)

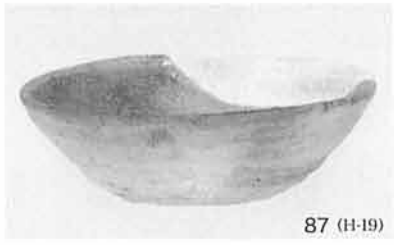
78 (H-17)


81 (H-18)

82 (H-19)

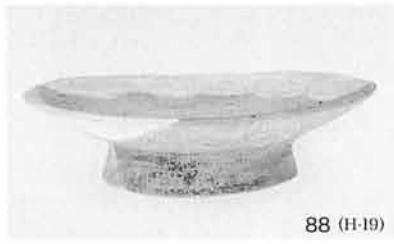
83 (H-19)

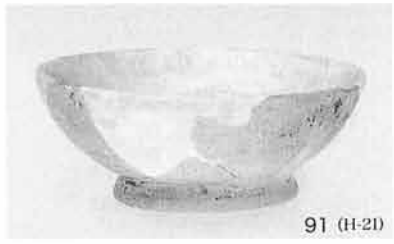

86 (H-19)

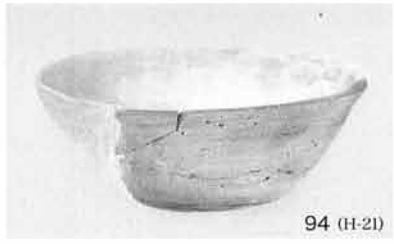

87 (H-19)

84 (H-19)

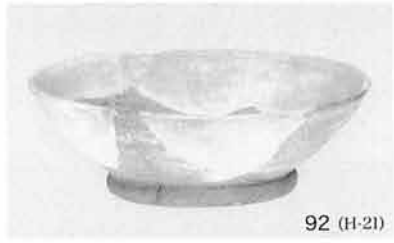
85 (H-19)

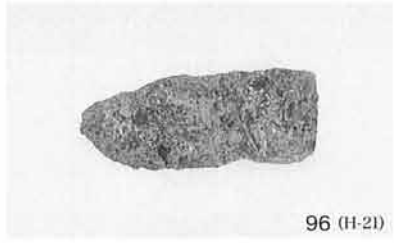

88 (H-19)

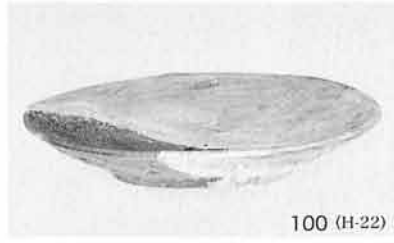

91 (H-21)

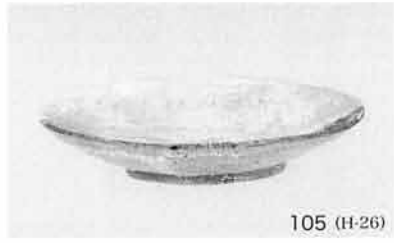

94 (H-21)

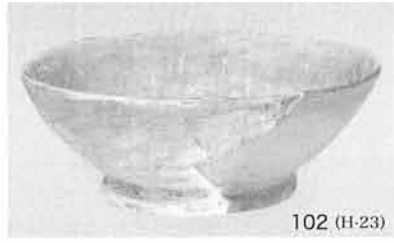
98 (H-22)

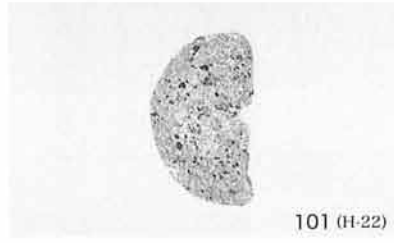

92 (H-21)

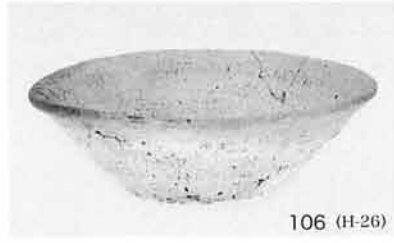

96 (H-21)

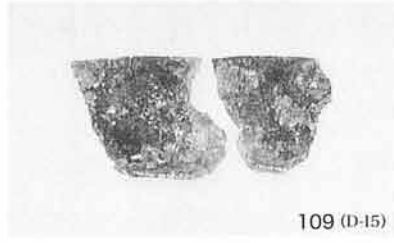

100 (H-22)

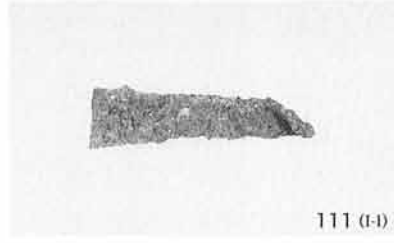

105 (H-26)


102 (H-23)

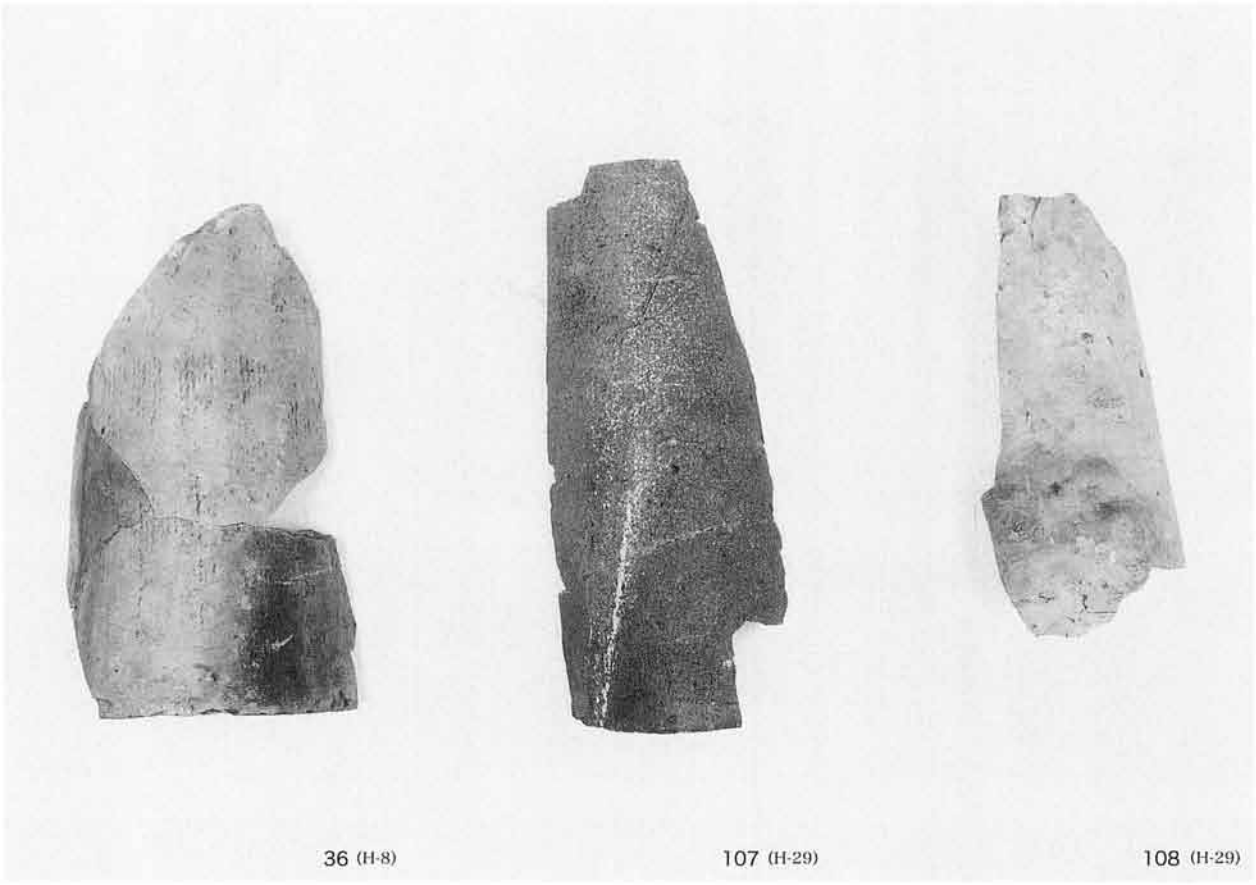

101 (H-22)


106 (H-26)


109 (D-15)

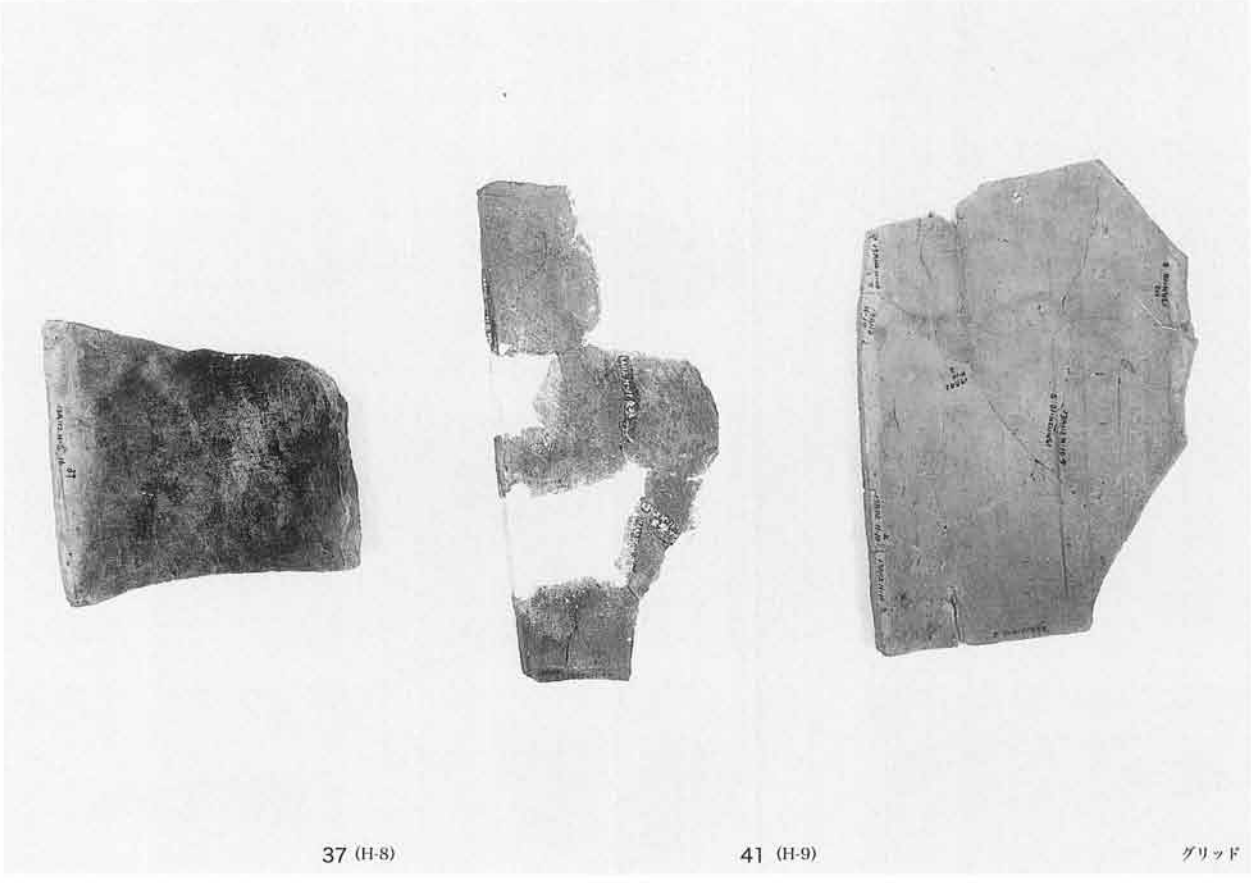

111 (I-1)

PL.20



36 (H-8)　107 (H-29)　108 (H-29)

主な丸瓦



37 (H-8)　41 (H-9)　グリッド

主な平瓦

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン　ソウジャコウトウカヅカオオミチニシイセキ・ソウジャカンセンミョウジンキタニイセキ・ソウジャコウトウカヅカオオミチニシニイセキ
書名	元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	齊木　一敏　・　近藤　雅順
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦2002年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ソウジャコウトウカヅカオオミチニシイセキ 総社甲稲荷塚大道西遺跡	マエバシシソウジャマチ 前橋市総社町総社地内	10201	13A105	36°23′26″	139°02′24″	20010515 20011120	約465m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
ソウジャカンセンミョウジンキタニイセキ 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	マエバシシソウジャマチ 前橋市総社町総社地内	10201	13A106	36°23′20″	139°02′26″	20010629 20010906	約355m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
ソウジャコウトウカヅカオオミチニシニイセキ 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	マエバシシソウジャマチ 前橋市総社町総社地内	10201	13A112	36°23′32″	139°02′23″	20010907 20011120	約420m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
総社甲稲荷塚大道西遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、柱穴	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、溝跡、土坑、柱穴、落ち込み	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、竪穴状遺構、溝跡、土坑、柱穴、井戸跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	

総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡

平成14年3月18日　印　刷
平成14年3月22日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－2
TEL　027-231-9531
印　　刷　前橋市小神明町575－1
上越印刷工業株式会社
TEL　027-234-2212(代)